

# 福島下町・屋敷下遺跡

(国)254号(福島西工区)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業に伴う  
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2022

群 馬 県 富 岡 土 木 事 務 所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第713集

福島下町・屋敷下遺跡

理 藏 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書  
(国)254号(福島西工区)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業に伴う

二〇二二  
群 馬 県 富 岡 土 木 事 務 所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 福島下町・屋敷下遺跡

(国)254号(福島西工区)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業に伴う  
埋 藏 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2022

群馬県富岡土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



福島下町・屋敷下遺跡から望む穀倉地帯



1・2号竪穴建物出土遺物



# 序

国道254号線は、東京都から群馬県の西毛地区を經由して長野県を結ぶ古くからの幹線道路です。この事業は、交通量の増加による安全と市街地における円滑な交通を確保するための交差点改良事業として建設が行われました。

本書で報告します福島下町・屋敷下遺跡は、令和元年から2年にかけて当事業団が発掘調査を実施しました。令和2年から3年にかけては、資料整理を実施し、今回その成果をこの報告書にまとめました。

福島下町・屋敷下遺跡の発掘調査の成果といたしまして、縄文時代から近代までの遺物、弥生時代から近代までの遺構を確認しました。弥生時代では、後期の樽式期に相当する竪穴建物が8棟確認されたほか、古墳時代においても断続的に竪穴建物が構築され、生活が営まれていたことが明らかになりました。近世以降では、下仁田街道「姫街道」の宿場として栄えた「福嶋宿」が本遺跡の周辺に形成されており、町屋の区画溝と思われる遺構などを確認しました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、群馬県県土整備部、群馬県富岡土木事務所、群馬県地域創生部文化財保護課、群馬県教育委員会、甘楽町教育委員会、地元関係者の皆様方の多大なご指導・ご支援とご協力を賜りました。ここに篤く御礼申し上げるとともに、本報告書が地域における歴史解明や文化財保護・活用に広く役立たれることを願いまして、序といたします。

令和4年11月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 向田 忠 正



# 例 言

1. 本書は、(国)254号(福島西工区)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業に伴う福島下町・屋敷下遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 遺跡の所在地は下記の通りである。  
群馬県甘楽郡甘楽町福島字下町108-3、696-2、695-2、695-6、695-7、695-8、698-4、698-5、698-6、699-2、701-3、701-4、702-2、703-2、706-2、714-2、715-5、720-3、721-3、722-3、723-3、707-8、707-9、708-3、709-3、709-4、字屋敷下1176-2、1176-3、1176-5、1177-8、1177-9、1179-2に所在する。
3. 事業主体 群馬県富岡土木事務所
4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 発掘調査の期間と体制は次の通りである。

## 令和2年度

調査期間 令和2年5月1日～平成2年6月30日

(履行期間 令和2年3月31日～平成2年8月31日)

発掘担当者 上席調査研究員 新井 仁 主任調査研究員 本田寛之

遺跡掘削工事請負：高澤考古学研究所

地上測量委託：アコン測量設計

## 令和3年度

調査期間 令和3年9月1日～平成3年10月31日

(履行期間 令和3年9月1日～平成3年12月31日)

発掘担当者 主任調査研究員 田村 真 専門調査役 木村 収

遺跡掘削工事請負：高澤考古学研究所

地上測量委託：アコン測量設計

6. 整理事業の期間と体制は次の通りである。

## 令和3年度

整理期間 令和3年10月1日～令和4年1月31日

(履行期間 令和3年10月1日～令和4年3月31日)

整理担当者 専門員 鈴木佑太郎

遺物写真撮影 専門員 鈴木佑太郎

遺物観察 縄文土器・弥生土器・土師器 専門員 鈴木佑太郎

遺物保存処理 専門員(主任) 板垣泰之

## 令和4年度

整理期間 令和4年4月1日～令和4年9月30日

(履行期間 令和4年4月1日～令和4年11月30日)

整理担当者 専門員 鈴木佑太郎

遺物写真撮影 専門員 鈴木佑太郎(縄文土器・弥生土器・土師器・石器) 専門調査役 岩崎泰一(石製品)

専門調査役 大西雅広(近世・近代遺物)

遺物観察 専門員 鈴木佑太郎(縄文土器・弥生土器・土師器・石器) 専門調査役 岩崎泰一(石器・石製品)

大木神一郎(弥生土器) 神谷佳明(土師器) 大西雅広(近世・近代遺物)

遺物保存処理 専門員(主任) 板垣泰之

7. 本書作成の担当者は次の通りである。

編集・執筆 専門員 鈴木佑太郎

8. 発掘調査に伴う記録保存資料および出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

9. 発掘調査および報告書作成に際しては、下記の方々・機関にご協力・ご指導いただきました。記して感謝いたします。(敬称略・順不同)

群馬県富岡土木事務所、群馬県、群馬県教育委員会、甘楽町教育委員会、岩崎泰一、大木神一郎、大西雅広、神谷佳明

## 凡 例

1. 本文中に使用した座標・方位はすべて国家座標「世界測地系(測地成果2000/平面直角座標第IX系)」である。主軸方位の計測にもこれを用いた。

2. 遺構挿入中に+と数値を併せて座標値を表した。数値は国家座標値X・Y値の下3桁を用いて表記している。

3. 遺構の種類および遺構番号は、混乱を避けるため調査時の番号を踏襲することを原則とした。

4. 遺構断面図に記した数値は、標高(単位:m)を表した。

5. 遺構図・遺物図の縮率は原則として以下の通りとし、各挿入図にスケールを添えた。

遺構図 竪穴建物・竪穴状遺構 1:60 溝 1:80 柱穴列 1:40 1:80 竪 1:30  
土坑・ピット 1:40

遺物図 土器 1:3 (一部 1:4) 金属製品 1:1 1:2  
石器・石製品 1:1 1:2 1:3 1:6

6. 遺物写真は遺物図とおおよそ同縮率となるようにした。

7. 遺構図内で使用したトーンは次のことを示している。

焼土…■

その他、個別図面で使用したトーン・記号については各挿入図内に凡例を加えた。

遺物図内で使用したトーンは次のことを示している。

赤彩…■ 磨り面…□□□

8. 遺構平面図中の遺物記号は、次のことを示している。

土器・陶磁器…● 石器・石製品…▲ 金属製品…+

9. 遺構の主軸方向・走向を示すため、座標北を基準として東に傾いた場合はN-○°-E、西に傾いた場合はN-○°-Wと表記した。

10. 本書で掲載した地図は以下の通りである

第2図 遺跡周辺の地質・地形区分図(甘楽町1979)

第3図 国土地理院1/200,000地勢図「宇都宮」「長野」

第4図 甘楽町都市計画図No.1(昭和49年測図)

第5図 国土地理院電子地図1/25,000「富岡」「上野吉井」(平成14年5月1日発行)

# 目次

口絵	
序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
写真図版目次	
第1章 調査の経過と方法	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 発掘調査の方法	3
第4節 整理作業の経過と方法	5
第2章 遺跡の立地と環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	6
第3節 基本土層	13
第3章 調査された遺構と遺物	18
第1節 遺構・遺物の概要	18
第2節 旧石器時代の調査	19
第3節 縄文時代の遺構と遺物	20
1 遺構外出土遺物	20
第4節 弥生時代の遺構と遺物	21
1 竪穴建物	23
2 竪穴扶遺構	56
3 土坑	56
4 倒木	58
5 遺物包含層	58
6 遺構外出土遺物	58
第5節 古墳時代～平安時代の遺構と遺物	63
1 竪穴建物	64
2 土坑・ピット	68
3 遺構外出土遺物	69
第6節 中世以降の遺構と遺物	71
1 導水管	71
2 溝	72
3 柱穴列	85
4 土坑・ピット	86
5 遺構外出土遺物	137
第4章 調査の成果	141
第1節 総括	141
第2節 弥生時代～古墳時代	142
1 出土土器について	142
2 竪穴建物について	147
3 集落について	147
第3節 近世～近代 遺構・遺物からみる福岡宿	148
1 歴史的背景	148
2 遺構について	148
3 建物について	149
4 まとめ	152
一覧表 遺構一覧表	158
非掲載遺物一覧表	162
遺物観察表	164
写真図版 (カラー)	
付図 (別添) 全体図	
1号柱穴列	

# 挿図目次

第1図	調査区設定図	4	第62図	2号溝出土遺物	75
第2図	道路周辺の地質・地形区分図(甘藷町1979)	7	第63図	4号溝全体図(1)	76
第3図	福島下町・屋敷下道路と群馬県地勢(国土地理院1/200,000地勢図「宇都宮」長野)図解を加工)	8	第64図	4号溝全体図(2)	79
第4図	調査範囲図(甘藷町都市図№1 S49)	9	第65図	4号溝出土遺物(1)	80
第5図	周辺道路地図(国土地理院電子地図1/25,000「富岡」上野吉井)を編集・加工)	11	第66図	4号溝出土遺物(2)	81
第6図	基本土層	13	第67図	4号溝出土遺物(3)	82
第7図	基本土層配置図	14	第68図	5・7・8号溝 5号溝出土遺物	84
第8図	1・2区全体図	15	第69図	2区土坑(1)	90
第9図	3・4区全体図	16	第70図	2区土坑(2)	100
第10図	5・6区全体図	17	第71図	2区土坑(3)	101
第11図	旧石器時代調査坑・土層断面図	19	第72図	2区土坑(4)	102
第12図	縄文時代 遺構外出土遺物	20	第73図	2区土坑(5)・ピット(1)	103
第13図	弥生土層分類凡例	21	第74図	2区ピット(2)	104
第14図	弥生時代 遺構位置図	22	第75図	2区土坑出土遺物	105
第15図	1号壑穴建物遺物出土分布図	24	第76図	2区土坑・ピット出土遺物	106
第16図	1号壑穴建物	25	第77図	3区土坑(1)	113
第17図	1号壑穴建物出土遺物(1)	26	第78図	3区土坑(2)	114
第18図	1号壑穴建物出土遺物(2)	27	第79図	3区ピット	115
第19図	1号壑穴建物出土遺物(3)	28	第80図	3区土坑出土遺物	115
第20図	1号壑穴建物出土遺物(4)	29	第81図	4区土坑	116
第21図	1号壑穴建物出土遺物(5)	30	第82図	5-2区土坑・ピット	117
第22図	1号壑穴建物出土遺物(6)	31	第83図	5-3区土坑	118
第23図	1号壑穴建物出土遺物(7)	32	第84図	5-4区土坑・ピット	119
第24図	1号壑穴建物出土遺物(8)	33	第85図	5-5区土坑(1)	123
第25図	2号壑穴建物遺物出土分布図	35	第86図	5-5区土坑(2)・ピット	124
第26図	2号壑穴建物	36	第87図	5-5区土坑出土遺物	124
第27図	2号壑穴建物計測図	37	第88図	5-6区土坑・ピット	127
第28図	2号壑穴建物出土遺物(1)	37	第89図	6-1区土坑・ピット	131
第29図	2号壑穴建物出土遺物(2)	38	第90図	6-1区土坑出土遺物	132
第30図	2号壑穴建物出土遺物(3)	39	第91図	6-2区土坑・ピット	133
第31図	3号壑穴建物(1)	40	第92図	6-3区土坑・ピット	135
第32図	3号壑穴建物(2)	41	第93図	6-3区土坑出土遺物	135
第33図	3号壑穴建物出土遺物	42	第94図	6-4区土坑・ピット	137
第34図	4号壑穴建物	43	第95図	遺構外出土遺物 陶磁器(1)	138
第35図	4号壑穴建物計測図	44	第96図	遺構外出土遺物 陶磁器(2)	139
第36図	4号壑穴建物出土遺物	44	第97図	遺構外出土遺物 金属製品	140
第37図	5号壑穴建物(1)	46	第98図	福島下町・屋敷下道路 土層変遷図(1/8)	143
第38図	5号壑穴建物(2)	47	第99図	時期別壑穴建物変遷図(1/150)	144
第39図	5号壑穴建物出土遺物(1)	47	第100図	時期別壑穴建物分布図	145
第40図	5号壑穴建物出土遺物(2)	48	第101図	弥生集落消長図(瀬川中流域-下流域)1/65,000	146
第41図	6号壑穴建物	50	第102図	1・2区 近世-近代 遺構分布図	153
第42図	6号壑穴建物出土遺物	51	第103図	3・4区 近世-近代 遺構分布図	154
第43図	7号壑穴建物	53	第104図	5・6区 近世-近代 遺構分布図	155
第44図	7号壑穴建物出土遺物	53	第105図	姫道前庭場地図(甘藷町1979)	156
第45図	8号壑穴建物	55	第106図	群馬県景観使役の福島町店舗位置図(甘藷町1979)	157
第46図	8号壑穴建物出土遺物	55			
第47図	1・3号壑穴状遺構 86号土坑	57			
第48図	例木 遺物包含層	59			
第49図	遺物包含層出土遺物	60			
第50図	遺構外出土遺物(1)	61			
第51図	遺構外出土遺物(2)	62			
第52図	古墳時代～平安時代 遺構位置図	63			
第53図	9号壑穴建物	65			
第54図	9号壑穴建物出土遺物	66			
第55図	10号壑穴建物	67			
第56図	10号壑穴建物出土遺物	67			
第57図	土坑・ピット	70			
第58図	遺構外出土遺物	70			
第59図	1号導水管	71			
第60図	1・3・6号溝 1・6号溝出土遺物	72			
第61図	2号溝	74			

# 目次

第1表	遺構名称新旧対照表	5	第5表	福船館関連の歴史的動向と遺構編年時期	156
第2表	周辺道跡一覧表	12	第6表	遺構一覧表	158
第3表	調査区・時期別遺構表	18	第7表	非掲載遺構一覧表	162
第4表	弥生集落消長図(瀬川中流域～下流域)(大木2020)	75	第8表	遺物根拠表	164

# 写真図版目次

P.L. 1	1区調査区北側全景(南から)	6-4区調査区西側全景2(東から)
	1区調査区南側全景(北から)	6-4区調査区中央西側全景1(東から)
	2区調査区北側全景1(南から)	6-4区調査区中央西側全景2(西から)
	2区調査区北側全景2(西から)	6-4区調査区中央東側全景(西から)
	2区調査区南側全景(北から)	6-4区調査区東側全景(西から)
	1、2、3区調査区遠影(北から)	6-5区調査区西側全景(西から)
	1、2区調査区遠影(北から)	P.L. 10
	1、2区調査区と天王塚古墳、甘菜笹森古墳遠影(北から)	6-5区調査区東側全景(北から)
P.L. 2	3区調査区全景1(北から)	2区調査区西壁基本1層(東から)
	3区調査区全景2(西から)	5-2区調査区基本1層(南から)
	4区調査区全景1(北から)	5-6区調査区基本1層(南から)
	4区調査区全景2(北から)	6-5区調査区基本1層(北から)
	4区調査区全景3(北東から)	5-4区石臼器調査坑1(東から)
	5区調査区西側全景1(東から)	5-4区石臼器調査坑2(西から)
	5区調査区西側全景2(東から)	3区1号竪穴建物土層断面A-A'(西から)
P.L. 3	5区調査区西側全景3(東から)	P.L. 11
	6区調査区西側全景(西から)	3区1号竪穴建物1回目遺物出土状態1(東から)
	5区調査区「城下町小橋入口」信号部分全景1(西から)	3区1号竪穴建物2回目遺物出土状態2(東から)
	5区調査区「城下町小橋入口」信号部分全景2(西から)	3区1号竪穴建物1回目遺物出土状態3(東から)
	5区調査区西側全景5(西から)	3区1号竪穴建物1回目遺物出土状態4(東から)
	5-1区調査区全景(東から)	3区1号竪穴建物1回目遺物出土状態5(東から)
	5-2区調査区全景1(西から)	3区1号竪穴建物1回目遺物出土状態6(東から)
P.L. 4	5-2区調査区全景2(西から)	3区1号竪穴建物2回目遺物出土状態1(東から)
	5-3、4区調査区全景1(西から)	3区1号竪穴建物2回目遺物出土状態4(東から)
	5-3、4区調査区全景2(南から)	3区1号竪穴建物2回目遺物出土状態5(東から)
	5-3、4区調査区全景3(東から)	3区1号竪穴建物2回目遺物出土状態6(北から)
	5-3、4区調査区東側全景(西から)	3区1号竪穴建物2回目遺物出土状態7(東から)
	5-5区調査区全景1(東から)	3区1号竪穴建物全景(東から)
P.L. 5	5-5区調査区全景2(東から)	3区1号竪穴建物全景(西から)
	5-5区調査区全景(西から)	3区1号竪穴建物P1土層断面D-D'(東から)
	5-6区調査区西側全景1(西から)	P.L. 13
	5-6区調査区西側全景2(東から)	3区1号竪穴建物P1(北から)
	5-6区調査区西側全景3(西から)	3区1号竪穴建物P3土層断面F-F'(西から)
P.L. 6	5-6区調査区西側全景4(西から)	3区1号竪穴建物P3(南から)
	5-6区調査区西側全景5(東から)	3区1号竪穴建物P2土層断面E-E'(北から)
	5-6区調査区東側全景(東から)	3区1号竪穴建物P2(東から)
	6区調査区西側全景1(西から)	3区1号竪穴建物土層断面C-C'(南から)
	6区調査区西側全景2(西から)	3区1号竪穴建物軒(西から)
	6区調査区西側全景3(南から)	3区1号竪穴建物扉方(西から)
	6区調査区西側全景4(南から)	P.L. 14
P.L. 7	6区調査区東側全景1(東から)	3区2号竪穴建物土層断面A-A'(南から)
	6区調査区東側全景2(東から)	3区2号竪穴建物土層断面B-B'1(東から)
	6区調査区西側全景(東から)	3区2号竪穴建物土層断面B-B'2(東から)
	6区調査区東側全景3(東から)	3区2号竪穴建物土層断面B-B'3(東から)
	6-1区調査区西側全景1(東から)	3区2号竪穴建物土層断面B-B'4(東から)
	6-1区調査区東側全景1(東から)	3区2号竪穴建物遺物出土状態1(南から)
	6-1区調査区東側全景2(西から)	3区2号竪穴建物遺物出土状態2(南から)
	6-1区調査区東側全景3(西から)	3区2号竪穴建物遺物出土状態3(南から)
P.L. 8	6-1区調査区東側全景4(東から)	3区2号竪穴建物遺物出土状態4(南から)
	6-2区調査区全景1(東から)	3区2号竪穴建物遺物出土状態5(北から)
	6-2区調査区全景2(西から)	3区2号竪穴建物遺物出土状態6(南から)
	6-2区調査区全景3(西から)	3区2号竪穴建物遺物出土状態7(南から)
	6-3区調査区全景1(西から)	3区2号竪穴建物遺物出土状態8(F(西から)
	6-3区調査区全景2(東から)	3区2号竪穴建物P1土層断面F-F'(西から)
P.L. 9	6-3区調査区全景3(東から)	3区2号竪穴建物P1(西から)
	6-4区調査区西側全景1(東から)	3区2号竪穴建物P2土層断面A-A'(西から)
		P.L. 16
		3区2号竪穴建物P2(西から)

	3区2号型穴建物P3上層断面H-H' (西から)	5-5区6号型穴建物遺物出土状態1 (南から)
	3区2号型穴建物P3 (東から)	5-5区6号型穴建物遺物出土状態2 (南から)
	3区2号型穴建物P4上層断面I-I' (東から)	5-5区6号型穴建物遺物出土状態3 (南から)
	3区2号型穴建物P4 (東から)	5-5区6号型穴建物P1上層断面C-C' (南から)
	3区2号型穴建物P5上層断面J-J' (東から)	5-5区6号型穴建物P1 (南から)
	3区2号型穴建物P5 (東から)	P L, 25 5-5区6号型穴建物P2上層断面D-D' (南から)
P L, 17	3区2号型穴建物P6上層断面K-K' (南から)	5-5区6号型穴建物P2 (南から)
	3区2号型穴建物P6 (南から)	5-5区6号型穴建物P3上層断面D-D' (南から)
	3区2号型穴建物P7上層断面L-L' (南から)	5-5区6号型穴建物P3 (南から)
	3区2号型穴建物P7 (南から)	5-5区6号型穴建物貯蔵穴断面D-D' (南から)
	3区2号型穴建物貯上面遺物出土状態 (南から)	5-5区6号型穴建物貯蔵穴遺物出土状態 (南から)
	3区2号型穴建物確認状態 (南から)	5-5区6号型穴建物貯蔵穴 (南から)
	3区2号型穴建物が断面 (西から)	5-5区6号型穴建物 (南から)
	3区2号型穴建物が使用面 (南から)	P L, 26 6-5区7号型穴建物遺物出土状態1 (東から)
	3区2号型穴建物貯石下面 (南から)	6-5区7号型穴建物遺物出土状態2 (北から)
P L, 18	3区2号型穴建物貯石方 (南から)	6-5区7号型穴建物遺物出土状態3 (北から)
	3区2号型穴建物 (南から)	6-5区7号型穴建物 (東から)
	4区3号型穴建物上層断面A-A' (南東から)	6-5区7号型穴建物P1上層断面B-B' (西から)
	4区3号型穴建物上層断面B-B' (北東から)	6-5区7号型穴建物P1 (南から)
	4区3号型穴建物遺物出土状況1 (南から)	6-5区7号型穴建物P2上層断面A-A' (南から)
	4区3号型穴建物遺物出土状況2 (南から)	6-5区7号型穴建物P2 (南から)
	4区3号型穴建物P1上層断面C-C' (東から)	P L, 27 6-5区7号型穴建物貯 (南から)
	4区3号型穴建物P1 (南から)	6-5区7号型穴建物貯上層断面C-C' (西から)
P L, 19	4区3号型穴建物P2上層断面C-C' (東から)	6-5区7号型穴建物貯石下層断面C-C' (西から)
	4区3号型穴建物P2 (東から)	6-1区8号型穴建物上層断面A-A' (南西から)
	4区3号型穴建物P3上層断面F-F' (西から)	6-1区8号型穴建物上層断面B-B' (西から)
	4区3号型穴建物P3 (東から)	6-1区8号型穴建物遺物出土状態1 (南から)
	4区3号型穴建物が確認状況 (南から)	6-1区8号型穴建物遺物出土状態2 (南から)
	4区3号型穴建物が断面 (東から)	6-1区8号型穴建物遺物出土状態3 (南から)
	4区3号型穴建物が使用面 (南から)	P L, 28 6-1区8号型穴建物P1上層断面D-D' 1 (西から)
	4区3号型穴建物 (南から)	6-1区8号型穴建物P1上層断面D-D' 2 (西から)
P L, 20	4区4号型穴建物上層断面A-A' (南東から)	6-1区8号型穴建物P1 (西から)
	4区4号型穴建物上層断面B-B' (北東から)	6-1区8号型穴建物P2上層断面E-E' (南から)
	4区4号型穴建物遺物出土状態1 (南東から)	6-1区8号型穴建物P2 (南から)
	4区4号型穴建物遺物出土状態2 (南東から)	6-1区8号型穴建物P3上層断面F-F' (南から)
	4区4号型穴建物遺物出土状態3 (南東から)	6-1区8号型穴建物P3 (南から)
	4区4号型穴建物P1上層断面C-C' (東から)	6-1区8号型穴建物貯蔵穴断面G-G' (北から)
	4区4号型穴建物P1 (東から)	P L, 29 6-1区8号型穴建物貯蔵穴 (北から)
	4区4号型穴建物P2上層断面C-C' (東から)	6-1区8号型穴建物 (南から)
P L, 21	4区4号型穴建物P2 (東から)	1区1号型穴状遺構上層断面A-A' (東から)
	4区4号型穴建物P3上層断面D-D' (南西から)	1区1号型穴状遺構上層断面B-B' (南から)
	4区4号型穴建物P3 (東から)	1区1号型穴状遺構 (東から)
	4区4号型穴建物貯蔵穴上層断面E-E' (東から)	6-5区3号型穴状遺構上層断面A-A' (南から)
	4区4号型穴建物貯蔵穴 (南東から)	6-5区3号型穴状遺構上層断面B-B' (南から)
	4区5号型穴建物上層断面B-B' (南から)	6-5区3号型穴状遺構 (南から)
	4区5号型穴建物上層断面C-C' (東から)	P L, 30 6-5区3号型穴状遺構 (西から)
	4区5号型穴建物遺物出土状態1 (南から)	6-4区8号土坑上層断面A-A' (南から)
P L, 22	4区5号型穴建物遺物出土状態2 (南から)	6-4区8号土坑 (南から)
	4区5号型穴建物遺物出土状態3 (南から)	6-2区1号側木上層断面A-A' (東から)
	4区5号型穴建物遺物出土状態4 (南から)	6-2区1号側木 (東から)
	4区5号型穴建物 (南から)	6-3区2号側木上層断面A-A' (南から)
	4区5号型穴建物P1 (南から)	6-3区2号側木 (南から)
	4区5号型穴建物P2 (南から)	6-3区9号型穴建物上層断面A-A' 1 (南から)
	4区5号型穴建物P3 (南から)	P L, 31 6-3区9号型穴建物上層断面A-A' 2 (南から)
	4区5号型穴建物P4 (南から)	6-3区9号型穴建物上層断面B-B' (東から)
P L, 23	4区5号型穴建物P5 (南から)	6-3区9号型穴建物遺物出土状態1 (東から)
	4区5号型穴建物P7 (南から)	6-3区9号型穴建物遺物出土状態2 (東から)
	4区5号型穴建物P6、7 ① (南から)	6-3区9号型穴建物遺物出土状態3 (東から)
	4区5号型穴建物P6、7 ② (南から)	6-3区9号型穴建物P1上層断面C-C' (南から)
	4区5号型穴建物貯蔵穴 (南から)	6-3区9号型穴建物P1 (南から)
	4区5号型穴建物掘方上層断面B-B' (南から)	6-3区9号型穴建物P2上層断面C-C' (南から)
	4区5号型穴建物掘方上層断面C-C' (東から)	P L, 32 6-3区9号型穴建物P2 (南から)
	4区5号型穴建物掘方 (南から)	6-3区9号型穴建物 (南から)
P L, 24	5-5区6号型穴建物上層断面A-A' (南から)	6-3区9号型穴建物掘方 (南東から)
	5-5区6号型穴建物上層断面B-B' (東から)	3区10号型穴建物上層断面A-A' (南から)
	5-5区6号型穴建物調査風景 (西から)	3区10号型穴建物上層断面B-B' (西から)

3区10号型穴建物P1上層断面C-C' (南から)  
 3区10号型穴建物P1 (南から)  
 3区10号型穴建物 (南から)  
 P.L. 33 5-3区79号土坑上層断面A-A' (南から)  
 5-3区79号土坑 (南から)  
 5-2区35号ピット (南から)  
 5-2区36号ピット (南から)  
 5-2区36号ピット上層断面A-A' (南から)  
 5-2区37号ピット上層断面A-A' (南から)  
 5-2区37号ピット (南から)  
 5-2区38号ピット上層断面A-A' (南西から)  
 5-2区38号ピット (南西から)  
 5-2区39号ピット上層断面A-A' (南西から)  
 5-2区39号ピット (南西から)  
 5-2区41号ピット上層断面A-A' (東から)  
 5-2区41号ピット (東から)  
 5-2区74号ピット上層断面A-A' (北東から)  
 6-1区74号ピット (北東から)  
 P.L. 34 5-4区1号導水管1 (西から)  
 5-4区1号導水管2 (南から)  
 5-4区1号導水管3 (南から)  
 5-4区1号導水管4 (南から)  
 5-4区1号導水管5 (南から)  
 5-4区1号導水管上層断面A-A' 1 (西から)  
 5-4区1号導水管上層断面A-A' 2 (南西から)  
 5-4区1号導水管6 (南から)  
 P.L. 35 1区1号溝全景 (東から)  
 1区1号溝遺物出土状態 (東から)  
 2区2号溝全景1 (東から)  
 2区2号溝全景2 (西から)  
 2区2号溝上層断面A-A' (西から)  
 2区2号溝上層断面B-B' (東から)  
 2区2号溝遺物出土状態 (南から)  
 P.L. 36 3区3号溝全景 (南から)  
 3区3号溝上層断面A-A' (南から)  
 3区4号溝全景1 (北から)  
 3区4号溝全景2 (北から)  
 3区4号溝全景3 (北から)  
 3区4号溝全景4 (西から)  
 3区4号溝全景5 (北から)  
 3区4号溝全景6 (西から)  
 P.L. 37 3区4号溝全景7 (北から)  
 3区4号溝石積み状態1 (北から)  
 3区4号溝石積み状態2 (北から)  
 3区4号溝石積み状態3 (北から)  
 3区4号溝石積み状態4 (北から)  
 3区4号溝石積み状態5 (北から)  
 3区4号溝石積み状態6 (北から)  
 3区4号溝石積み状態7 (北から)  
 3区4号溝石積み状態8 (北から)  
 3区4号溝石積み状態9 (西から)  
 3区4号溝石積み状態10 (西から)  
 3区4号溝石積み状態11 (西から)  
 3区4号溝石積み状態12 (西から)  
 3区4号溝石積み状態13 (西から)  
 3区4号溝石積み状態14 (西から)  
 3区4号溝石積み状態15 (西から)  
 P.L. 39 3区4号溝石積み状態16 (西から)  
 3区4号溝石積み状態17 (西から)  
 4区4号溝全景1 (南から)  
 4区4号溝全景2 (北から)  
 4区4号溝全景3 (北から)  
 4区4号溝全景4 (北から)  
 4区4号溝全景5 (西から)  
 4区4号溝全景6 (西から)

P.L. 40 4区4号溝全景7 (西から)  
 4区4号溝全景8 (西から)  
 4区4号溝1段目石列の状態1 (東から)  
 4区4号溝1段目石列の状態2 (南から)  
 4区4号溝1段目石列の状態3 (東から)  
 4区4号溝1段目石列の状態4 (東から)  
 3区4号溝遺物出土状態1 (南から)  
 3区4号溝遺物出土状態2 (南から)  
 P.L. 41 3区4号溝遺物出土状態3 (南から)  
 3区4号溝遺物出土状態4 (南から)  
 3区4号溝遺物出土状態5 (西から)  
 3区4号溝遺物出土状態6 (南から)  
 3区4号溝遺物出土状態7 (南東から)  
 3区4号溝遺物出土状態8 (東から)  
 3区4号溝遺物出土状態9 (北から)  
 4区4号溝遺物出土状態1 (西から)  
 4区4号溝遺物出土状態2 (北から)  
 P.L. 42 3区4号溝上層断面F-F' (南から)  
 3区4号溝上層断面E-E' (南から)  
 3区4号溝上層断面D-D' (南から)  
 3区4号溝上層断面C-C' (南から)  
 4区4号溝上層断面A-A' (南から)  
 4区4号溝上層断面B-B' (南から)  
 3区4号溝石積み部掘方 (北から)  
 P.L. 43 4区4号溝石積み部掘方1 (南から)  
 4区4号溝石積み部掘方2 (南から)  
 2区5号溝全景 (北北東から)  
 2区5号溝上層断面B-B' (北東から)  
 2区5号溝上層断面A-A' (北東から)  
 4区6号溝全景 (北東から)  
 4区6号溝上層断面A-A' (北東から)  
 P.L. 44 6-1区8号溝全景1 (北西から)  
 6-1区8号溝全景2 (南東から)  
 6-1区8号溝上層断面A-A' 1 (南から)  
 6-1区8号溝上層断面A-A' 2 (南から)  
 6-1区8号溝上層断面B-B' (西から)  
 6-1区1号柱穴列全景1 (東から)  
 P.L. 45 6-1区1号柱穴列全景2 (東から)  
 6-1区1号柱穴列全景3 (西から)  
 6-1区1号柱穴列全景4 (北から)  
 P.L. 46 6-1区1号柱穴列全景5 (北東から)  
 6-1区1号柱穴列1号ピット上層断面A-A' (南から)  
 6-1区1号柱穴列1号ピット全景 (南から)  
 6-1区1号柱穴列2号ピット上層断面A-A' (南から)  
 6-1区1号柱穴列2号ピット全景 (南から)  
 P.L. 47 6-1区1号柱穴列3号ピット上層断面A-A' (南から)  
 6-1区1号柱穴列3号ピット全景 (南から)  
 6-1区1号柱穴列4号ピット上層断面A-A' (西から)  
 6-1区1号柱穴列4号ピット全景 (西から)  
 6-1区1号柱穴列5号ピット上層断面A-A' (南から)  
 6-1区1号柱穴列8号ピット全景 (南から)  
 6-1区1号柱穴列6号ピット上層断面A-A' (南東から)  
 6-1区1号柱穴列9号ピット全景 (南東から)  
 6-1区1号柱穴列7号ピット上層断面A-A' (南から)  
 6-1区1号柱穴列7号ピット全景 (南から)  
 6-1区1号柱穴列8号ピット上層断面A-A' (南から)  
 6-1区1号柱穴列8号ピット全景 (南から)  
 6-1区1号柱穴列9号ピット上層断面A-A' (東から)  
 6-1区1号柱穴列9号ピット全景 (東から)  
 P.L. 48 2区1号土坑上層断面A-A' (南から)  
 2区1号土坑 (南から)  
 2区2号土坑・6号ピット上層断面A-A' (南から)  
 2区2号土坑・6号ピット (南から)  
 2区3号土坑上層断面A-A' (南から)  
 2区3号土坑 (北から)  
 2区4号土坑上層断面A-A' (南から)

	2区4号土坑 (南から)	P L. 53	2区1号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区5号土坑・12号ピット上層断面A-A' (南から)		2区1号ピット (南から)
	2区5号土坑・12号ピット (南から)		2区2号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区6号土坑上層断面A-A' (南から)		2区2号ピット (南から)
	2区6号土坑 (南から)		2区3号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区7・8号土坑上層断面A-A' 1 (南から)		2区3号ピット (南から)
	2区7・8号土坑上層断面A-A' 2 (南から)		2区4・5号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区7号土坑 (南から)		2区4・5号ピット (南から)
P L. 49	2区8号土坑 (南から)		2区7号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区9号土坑上層断面A-A' (南から)		2区7号ピット (南から)
	2区9号土坑 (南から)		2区8号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区10号土坑上層断面A-A' (南から)		2区8号ピット (南から)
	2区10号土坑 (南から)		2区9号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区11号土坑上層断面A-A' (東から)		2区9号ピット (南から)
	2区11号土坑 (西から)	P L. 54	2区10号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区12号土坑上層断面A-A' (南から)		2区10号ピット (南から)
	2区12号土坑 (南から)		2区11号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区13号土坑上層断面A-A' (東から)		2区11号ピット (南から)
	2区13号土坑 (東から)		2区12号ピット (南から)
	2区14号土坑上層断面A-A' (南から)		2区13号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区15号土坑上層断面A-A' (南から)		2区13号ピット (南から)
	2区14・15号土坑 (南から)		2区14号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区16号土坑上層断面A-A' (西から)		2区14号ピット (南から)
P L. 50	2区17号土坑上層断面A-A' (西から)		2区15号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区16・17号土坑 (南から)		2区15号ピット (南から)
	2区18号土坑上層断面A-A' (東から)		2区16号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区18号土坑 (東から)		2区16号ピット (南から)
	2区19号土坑上層断面A-A' (南から)		2区17号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区19号土坑 (南から)		2区17号ピット (南から)
	2区20号土坑上層断面A-A' (東から)		2区18号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区20号土坑 (東から)	P L. 55	2区18号ピット (南から)
	2区21号土坑上層断面A-A' (東から)		2区19号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区21号土坑 (東から)		2区20号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区22号土坑上層断面A-A' (南から)		2区19・20号ピット (南から)
	2区22号土坑 (南から)		2区21号ピット上層断面A-A' (西から)
	2区23号土坑上層断面A-A' (南から)		2区21号ピット (西から)
	2区23号土坑 (南から)		2区22号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区23号土坑遺物出土状態 (南から)		2区22号ピット (南から)
P L. 51	2区24・29号土坑上層断面A-A' (南から)		2区23号ピット上層断面A-A' (南東から)
	2区24・29号土坑 (南から)		2区23号ピット (南から)
	2区25号土坑上層断面A-A' (南から)		2区23号ピット遺物出土状態 (南から)
	2区26号土坑 (南から)		2区24号ピット上層断面A-A' (南から)
	2区27号土坑上層断面A-A' (南から)		2区24号ピット (南から)
	2区27号土坑 (南から)		2区25号ピット上層断面A-A' (東から)
	2区28号土坑上層断面A-A' (南から)		2区25号ピット (東から)
	2区28号土坑 (南から)	P L. 56	3区32号土坑上層断面A-A' (西から)
	2区30号土坑上層断面A-A' (西から)		3区33号土坑上層断面A-A' (西から)
	2区30号土坑 (西から)		3区34号土坑上層断面A-A' (西から)
	2区31号土坑上層断面A-A' (南から)		3区35号土坑上層断面A-A' (西から)
	2区53号土坑上層断面A-A' (南から)		3区32・33号土坑埋出土状態 (西から)
	2区53号土坑 (南から)		3区32・33号土坑1 (西から)
	2区54号土坑上層断面A-A' (南西から)		3区32・33号土坑2 (西から)
	2区54号土坑 (南西から)		3区34号土坑 (西から)
P L. 52	2区56号土坑上層断面A-A' (南から)		3区35号土坑 (西から)
	2区57号土坑上層断面A-A' (南から)		3区36号土坑上層断面A-A' (東から)
	2区57号土坑 (南から)		3区36号土坑 (西から)
	2区58号土坑上層断面A-A' (南から)		3区37号土坑上層断面A-A' (東から)
	2区58号土坑 (南から)		3区37号土坑 (西から)
	2区59号土坑上層断面A-A' (東から)		3区38号土坑上層断面A-A' (東から)
	2区59号土坑1 (東から)		3区38号土坑 (西から)
	2区59号土坑2 (東から)	P L. 57	3区39号土坑上層断面A-A' (南から)
	2区60号土坑上層断面A-A' (北から)		3区39号土坑 (南から)
	2区61号土坑上層断面A-A' (南から)		3区40号土坑上層断面A-A' (南から)
	2区61号土坑 (南から)		3区40号土坑 (南から)
	2区63号土坑上層断面A-A' (東から)		3区41号土坑上層断面A-A' (南から)
	2区63号土坑 (東から)		3区41号土坑 (北から)

P L. 57	3区41号土坑遺物出土状態1(北から)	5区40号ピット土層断面A-A'(南から)
	3区41号土坑遺物出土状態2(西から)	5区40号ピット(南から)
	3区42号土坑土層断面・1号竪穴建物遺物露呈状況(南から)	5区42号ピット土層断面A-A'(北から)
	3区42号土坑(南から)	5区42号ピット(北から)
	3区43号土坑土層断面A-A'(南から)	5区43号ピット土層断面A-A'(南から)
	3区43号土坑(北から)	5区43号ピット(南から)
	3区44号土坑土層断面A-A'(南から)	5区44号ピット土層断面A-A'(南から)
P L. 58	3区44号土坑(南から)	5区44号ピット(南から)
	3区45号土坑土層断面A-A'(南から)	5区45号ピット土層断面A-A'(南から)
	3区45号土坑(北から)	5区45号ピット(南から)
	3区46号土坑土層断面A-A'(南から)	5区46号ピット土層断面A-A'(北から)
	3区46・47号土坑土層断面A-A'(南から)	5区46号ピット(北から)
	3区46・47号土坑(北から)	5区47号ピット土層断面A-A'(北から)
	3区48号土坑土層断面A-A'(南西から)	5区47号ピット(北から)
	3区49号土坑土層断面A-A'(南西から)	P L. 63
	3区48・49号土坑(南から)	5区46～48号ピット(北から)
	3区50号土坑土層断面A-A'(南東から)	5区48号ピット土層断面A-A'(北から)
	3区51号土坑土層断面A-A'(南から)	5区48号ピット(北から)
	3区50・51号土坑(北から)	5区49号ピット土層断面A-A'(北から)
	3区52号土坑土層断面A-A'(南から)	5区49号ピット(北から)
	3区52号土坑(北から)	5区50号ピット土層断面A-A'(北から)
	3区26号ピット土層断面A-A'(南から)	5区50号ピット(北から)
P L. 59	3区27号ピット土層断面A-A'(南から)	5区50・51号ピット(北から)
	3区27号ピット(西から)	5区51号ピット土層断面A-A'(北から)
	3区28号ピット土層断面A-A'(南から)	5区51号ピット(北から)
	3区28号ピット(西から)	5区52号ピット土層断面A-A'(南から)
	3区30号ピット土層断面A-A'(南から)	5区52号ピット(南から)
	3区30号ピット(南から)	5区53号ピット土層断面A-A'1(北から)
	3区31号ピット土層断面A-A'(南から)	5区53号ピット土層断面A-A'2(北から)
	3区31号ピット(南から)	5区53号ピット(北から)
	3区33号ピット土層断面A-A'(南から)	P L. 64
	3区33号ピット(南から)	5区54号ピット土層断面A-A'(北から)
	3区34号ピット土層断面A-A'(南から)	5区54号ピット(北から)
	4区64号土坑土層断面A-A'(南から)	5区55号ピット土層断面A-A'(南東から)
	4区64号土坑(南から)	5区56号ピット土層断面A-A'(南西から)
	4区65号土坑土層断面A-A'(西から)	5区56号ピット(南西から)
	4区65号土坑(西から)	5区57号ピット土層断面A-A'(南西から)
	5区66号土坑土層断面A-A'(南から)	5区57号ピット(南西から)
	5区66号土坑(南から)	5区58号ピット土層断面A-A'(南西から)
	5区67号土坑土層断面A-A'(南から)	5区58号ピット(南から)
	5区67号土坑(南から)	5区59号ピット土層断面A-A'(北から)
	5区68号土坑土層断面A-A'(北から)	5区59号ピット1(北から)
	5区68号土坑(北から)	5区59号ピット2(北から)
	5区69号土坑土層断面A-A'(南から)	5区60号ピット土層断面A-A'(南から)
	5区69号土坑(南から)	5区60号ピット(南から)
	5区70号土坑土層断面A-A'(南から)	5区61号ピット土層断面A-A'(南から)
	5区70号土坑(南から)	5区61号ピット(南から)
	5区71号土坑土層断面A-A'(南から)	P L. 65
	5区71号土坑(南から)	6区80号土坑土層断面A-A'(南から)
	5区72号土坑As-A露呈状態(東から)	6区80号土坑(南から)
P L. 61	5区72号土坑土層断面A-A'(西から)	6区81号土坑土層断面A-A'(西から)
	5区72号土坑1(西から)	6区81号土坑(西から)
	5区72号土坑2(北から)	6区82号土坑土層断面A-A'(北から)
	5区72号土坑3(東から)	6区82号土坑(北から)
	5区72号土坑4(東から)	6区83号土坑土層断面A-A'(南から)
	5区73号土坑土層断面A-A'(南から)	6区83号土坑遺物出土状態1(南から)
	5区75号土坑土層断面A-A'(南から)	6区83号土坑遺物出土状態2(南から)
	5区75号土坑(南から)	6区83号土坑遺物出土状態3(南から)
	5区76号土坑土層断面A-A'(北から)	6区83号土坑(南から)
	5区77号土坑土層断面A-A'(西から)	6区85号土坑土層断面A-A'(西から)
	5区77号土坑(西から)	6区87号土坑土層断面A-A'(北から)
	5区78号土坑土層断面A-A'(北から)	6区87号土坑(北から)
	5区78号土坑(北から)	6区88号土坑土層断面A-A'(南から)
	5区84号土坑土層断面A-A'(西から)	6区88号土坑(南から)
	5区84号土坑遺物出土状態(西から)	6区89号土坑土層断面A-A'(東から)
P L. 62	5区84号土坑(西から)	6区89号土坑(西から)
		6区90号土坑土層断面A-A'(東から)
		6区90号土坑(東から)
		6区92号ピット土層断面A-A'(南西から)

- 6区62号ビット (南西から)  
 6区63号ビット上層断面A-A' (南西から)  
 6区63号ビット (南西から)  
 6区62・63号ビット (南西から)  
 6区64号ビット上層断面A-A' (西から)  
 6区64号ビット (西から)
- P L. 67 6区64・65号ビット (西から)  
 6区65号ビット上層断面A-A' (西から)  
 6区65号ビット (西から)  
 6区66号ビット上層断面A-A' (南から)  
 6区67号ビット上層断面A-A' (南から)  
 6区67号ビット (南から)  
 6区68号ビット上層断面A-A' (南から)  
 6区68号ビット (南から)  
 6区69号ビット上層断面A-A' (東から)  
 6区69号ビット (東から)  
 6区70号ビット上層断面A-A' (南から)  
 6区70号ビット (南から)  
 6区71号ビット上層断面A-A' (南から)  
 6区71号ビット (南から)  
 6区72号ビット上層断面A-A' (南から)
- P L. 68 6区72号ビット (南から)  
 6区73号ビット上層断面A-A' (南から)  
 6区73号ビット (南から)  
 6区75号ビット上層断面A-A' (南から)  
 6区75号ビット (南から)  
 6区76号ビット上層断面A-A' (南から)  
 6区76号ビット (南から)  
 6区77号ビット上層断面A-A' (南から)  
 6区77号ビット (南から)  
 6区78号ビット上層断面A-A' (南から)  
 6区78号ビット (南から)  
 3区弥生時代北東包舎層 (南から)  
 3区弥生時代北東包舎層遺物出土状態 (南から)
- P L. 69 縄文時代遺構外出土遺物  
 3区1号型穴建物出土遺物 (1)
- P L. 70 3区1号型穴建物出土遺物 (2)
- P L. 71 3区1号型穴建物出土遺物 (3)
- P L. 72 3区1号型穴建物出土遺物 (4)
- P L. 73 3区1号型穴建物出土遺物 (5)
- P L. 74 3区1号型穴建物出土遺物 (6)  
 3区2号型穴建物出土遺物 (1)
- P L. 75 3区2号型穴建物出土遺物 (2)
- P L. 76 3区2号型穴建物出土遺物 (3)  
 4区3号型穴建物出土遺物  
 4区4号型穴建物出土遺物
- P L. 77 4区5号型穴建物出土遺物 (1)
- P L. 78 4区5号型穴建物出土遺物 (2)  
 5-5区6号型穴建物出土遺物  
 6-5区7号型穴建物出土遺物
- P L. 79 6-1区8号型穴建物出土遺物  
 遺物包舎層出土遺物 (1)
- P L. 80 遺物包舎層出土遺物 (2)  
 1~3区遺構外出土遺物
- P L. 81 5・6区遺構外出土遺物  
 6-3区9号型穴建物出土遺物  
 3区10号型穴建物出土遺物  
 遺構外出土遺物
- P L. 82 専水宮
- P L. 83 1・2号溝出土遺物  
 4号溝出土遺物 (1)
- P L. 84 4号溝出土遺物 (2)
- P L. 85 4号溝出土遺物 (3)  
 6号溝出土遺物  
 2区土坑・ビット出土遺物 (1)
- P L. 86 2区土坑・ビット出土遺物 (2)
- 3・5区土坑出土遺物  
 6区土坑出土遺物 (1)  
 P L. 87 6区土坑出土遺物 (2)  
 遺構外出土遺物 (陶磁器類) (1)  
 P L. 88 遺構外出土遺物 (陶磁器類) (2)  
 P L. 89 遺構外出土遺物 (石製品)  
 遺構外出土遺物 (金属製品)

## 第1章 調査の経過と方法

### 第1節 調査に至る経緯

群馬県が策定した「はばたけ群馬・県土整備プラン」は、群馬県が未来に向けて大きくはばたいていくために、道路や河川・砂防施設、県立公園、下水道、県営住宅など、群馬県の社会資本の整備や維持管理を、「どのような考え方で、どのように進めていくか」を示す本県の県土整備分野の最上位計画である。この計画は、県土整備プランに掲げる将来像に向けて、4つの基本目標（元気・安全・魅力・環境）に位置づけた政策を計画的に実施することにより、県民の命と暮らしを守り、活力ある地域経済を支えるとともに、誰もが豊かに暮らせる、緑豊かで自然にあふれた県土作りを目指すものである。この政策の基本的な柱の一つである「政策3.多様な手段の確保一施策2 自動車交通網の整備」として、自動車交通網の円滑化と歩行者や自転車の安全な通行を確保するために国道254号線（福島西）交差点の改良工事が行われることになった。国道254号線の福島西工区は、鏑川右岸河岸段丘の甘楽町市街地に位置する。国道254号線は、東京都から群馬県を經由して長野県を結ぶ古くからの幹線道路で、群馬県内の西毛地域を結ぶ主要な幹線道路でもある。本事業区間は、江戸時代から下仁田街道「姫街道」の「福嶋宿」として宿場機能を果たし、今日まで町屋の区割りを残してきた。

#### 第1項 福島下町・屋敷下遺跡

工事対象地は、奈良、平安時代の散布地として甘楽町遺跡台帳に甘楽町No0079遺跡と登録されている範囲内に当たっている。

対象地における文化財の取り扱いについては、群馬県富岡土木事務所から群馬県教育委員会文化財保護課（当時）に通知があり、令和元年度に1回目の試掘調査が行われた。試掘調査の結果、竪穴建物、土坑などの遺構や遺物が確認された。試掘調査の結果、対象地において本調査が必要と判断されたため、文化財保護課を介して、

群馬県富岡土木事務所から、当事業団へ依頼があり、発掘調査を令和2年5月1日から6月30日まで実施した。

2次調査は、1次調査と同様、群馬県富岡土木事務所から群馬県地域創生部文化財保護課に通知があり、令和2年に試掘調査が行われた。試掘調査の結果、遺構・遺物が確認されたことから、発掘調査が必要と判断された。2次調査は、当事業団が群馬県地域創生部文化財保護課を通して、群馬県富岡土木事務所より委託され、令和3年9月1日から10月31日まで実施した。

### 第2節 調査の経過

以下各年度ごとに示す。

（令和2年度）

令和2年度の調査は、5月1日から6月30日の2ヶ月間に及んで調査が行われた。本調査は、交差点改良に伴う調査であるため、調査面積が狭小であったことから、現場事務所との隣接は困難であった。文化財保護課や富岡土木事務所との協議の結果、近隣の民地を借地して、現場事務所及び作業員休憩棟の設置が決まった。廃土の置き場についても、調査面積が狭小であるため、打手返しにより調査を行った。調査区は1～4区設定し、廃土置き場を考慮して、調査区を同時並行で1区から調査が行われた。調査区は、道路や民地に接していることから、安全柵などを周囲に設けた。

- 5月1日 1区南調査区設定。遺構確認。
- 5月2日 1区南全景写真。2区北遺構確認、掘削作業。
- 5月12日 2区北全景写真。1区北、3区南調査開始。
- 5月14日 1区北1号竪穴遺構、1号溝調査。2区北空掘。
- 5月15日 2区北遺構掘削。3区南遺構確認、掘削作業。
- 5月18日 2区北2号溝全景。3区南遺構掘削作業。
- 5月25日 3区全面遺構確認、掘削作業。
- 5月28日 3区1号竪穴建物調査。
- 6月1日 3区1号竪穴建物、4号溝調査。
- 6月5日 3区2号竪穴建物調査開始。
- 6月9日 3区2号竪穴建物調査。2区南調査開始。

## 第1章 調査の経過と方法

6月16日	4区調査開始。	坑掘削作業。6-4、5区竪穴状遺構掘削、写真撮影。	
6月17日	4区4号溝調査。		
6月18日	4区4、6号溝、3号竪穴建物調査。	9月29日	5-4区旧石器試掘トレンチ。6-1区全景写真。7号溝、土坑掘削作業、写真撮影。6-2、4区遺構確認。
6月23日	4区4号溝、3～6号竪穴建物調査。		
6月24日	4区5号竪穴建物調査。調査区全景写真。	9月30日	5-4区旧石器試掘トレンチ。6-1区倒木掘削。6-2区遺構確認。6-4区調査区全景。
6月25日	調査終了。	10月4日	5-4区、6-2区遺構掘削、写真撮影。
(令和3年度)		10月5日	5-4区旧石器試掘トレンチ、土坑掘削、写真撮影。6-1区土坑、6-2区1号柱穴列掘削写真。全景写真。
令和3年度調査は、令和3年9月1日から令和3年10月31日の2ヶ月間にわたって調査を行った。交差点改良に伴う調査であるため、調査面積が狭小であったことから、現場事務所の隣接は困難であった。文化財保護課や富岡土木事務所との協議の結果、昨年度調査と同様、近隣の民地を借地して、現場事務所、及び作業員休憩棟の設置が決まった。廃土の置き場についても、調査面積が狭小であるため、打手返しにより、県文化財保護課の試掘調査をもとに弥生時代相当の黒褐色土層を遺構確認面として、調査を行った。調査区は西側を5区、東側を6区として設定した。調査区内において、道や埋設物を憂慮して、調査区を1から6に区切って調査を行った。調査区は、道路や民地に接していることから、安全柵などを周囲に設けた。	10月6日	5-4区旧石器試掘トレンチ掘削作業。6-2区1号柱穴列全景写真。	
9月1日	5、6区安全整備作業。	10月7日	5-4区旧石器試掘トレンチ掘削作業。
9月6日	5-1区遺構確認作業。	10月8日	6-3、4区遺構確認作業。
9月7日	5-2区遺構確認作業。	10月11日	6-3区9号竪穴建物、土坑、ピット掘削作業。6-4区遺構掘削作業。
9月8日	5-2区ピット、土坑掘削作業。5-3区遺構確認。5-6区トレンチ掘削。	10月12日	6-3区9号竪穴建物掘削作業。6-4区全景写真。
9月9日	5-2、3区ピット、土坑掘削作業。5-6区遺構確認。	10月14日	5-4区旧石器試掘トレンチ掘削作業。全景写真。6-3区9号竪穴建物掘削作業。ピット、倒木掘削作業。
9月10日	5-2、3、6区全景写真。	10月15日	6-3区9号竪穴建物掘削作業。全景写真。倒木掘削作業。
9月14日	5-3、5、6区遺構掘削作業	10月16日	6-3区9号竪穴建物掘削作業。全景写真。全景撮影。
9月16日	5-3～6区遺構掘削、全景写真。	10月19日	6-3区倒木掘削、全景写真。
9月17日	5-3～6区遺構掘削、全景写真。6区遺構確認。	10月29日	撤収。
9月18日	5-3～6区遺構掘削、全景写真。		
9月21日	6-1区8号竪穴建物、6-5区7号竪穴建物掘削作業。		
9月24日	調査区全景写真。6-1区8号竪穴建物全景。6-4区1号竪穴状遺構掘削、全景写真。		
9月27日	5-4区、6-1区土坑、ピット掘削、写真撮影。		
9月28日	5-4区旧石器試掘トレンチ。6-1区溝、土		

## 第3節 発掘調査の方法

### 第1項 座標の設定

発掘調査に用いた座標は世界測地系（日本測地系2000平面直角座標第IX系）であり、10m×10mを基本とし設定した。遺構図中の座標については、座標値の下3桁を「X軸-Y軸」の順で記し、「X=38300 Y=-85000」の場合、「300-000」のように略記した。

なお調査対象範囲の南端はX=28500、北端はX=28670、東端はY=-81090、西端はY=-81330である。

### 第2項 調査の方法

調査対象地は、南北に細長い道路の路線幅内の調査であった。

福島下町・屋敷下遺跡では、表土下1mでは近現代の表土を確認した。Ⅱ層は50cm程堆積した天明3（1783）年に起こった浅間山大噴火によって降下した火山灰As-Aを含んだ旧表土が堆積しており、バックフォアによって掘削・除去した。Ⅲ層とした黒色土層からは発掘作業員の人力による掘削を行った。Ⅲ層を近世以降の遺構面として調査を行った結果、As-Aの純層が堆積した復旧坑（注1）や溝などが確認された。Ⅲ層の遺構確認終了後、弥生時代面に相当するⅣ層まで人力によって掘削を行い、遺構確認を行った結果、竪穴建物を確認し、平面精査を実施した。

確認された遺構は、順次、埋没土層確認用ベルトを任意に設定するか、あるいは半裁し、発掘作業員が移植鏡等で掘削した後、遺構断面及び平面測量及び写真撮影等を行い、実測図及び写真によって記録した。

遺構確認、遺構掘り下げの指示、土層観察、遺構及び土層断面の写真撮影は調査担当者が行った。また、高い位置からの調査区全景写真の撮影は有資格業者が運転・操作する高所作業車に調査担当者が搭乗して実施した。

各遺構の土層断面図、遺構平面図、遺物出土位置の記録・図化は、調査担当者の指示と立ち合いの下、測量業者に委託して行った。

写真記録の内、デジタルカメラで撮影したものはデジ

タルデータとしてHD及びCD-ROMに記録、保管した。なお、バックアップデータも併せて作成、保管した。また、iso400プロローニー版モノクロフィルムを用いて6×7cm版カメラで撮影した写真は、ネガフィルムの状態で保管し、焼き付け写真を貼付したフィルムの検索台帳を作成した上で保管した。

遺構番号は、今次調査における通し番号とした。また、調査過程において出土した遺物については、出土した遺構ごとに出土地点を記録し、整理・集約した上で、洗浄および出土遺跡・遺構・出土地点等に関するデータを注記する作業を業者委託し、業者から提出を受けた成果品については、発掘調査担当者が逐次、点検・照合し、受領した。

調査終了後の埋め戻しの作業は、基本的にバックフォアを主体とする重機によって行った。

### 第3項 遺構測量

遺構平面実測図の作成に当たっては、指名競争入札によって落札した測量会社にデジタル測量を委託し、データ及び打ち出し図面の提出を受けた。

遺構断面実測図は、原則として発掘現場における発掘作業員によって実測されたものを元に、測量会社にデジタルデータ化を委託し、遺構平面実測図と同様、データ及び打ち出し図面の提出を受けた。

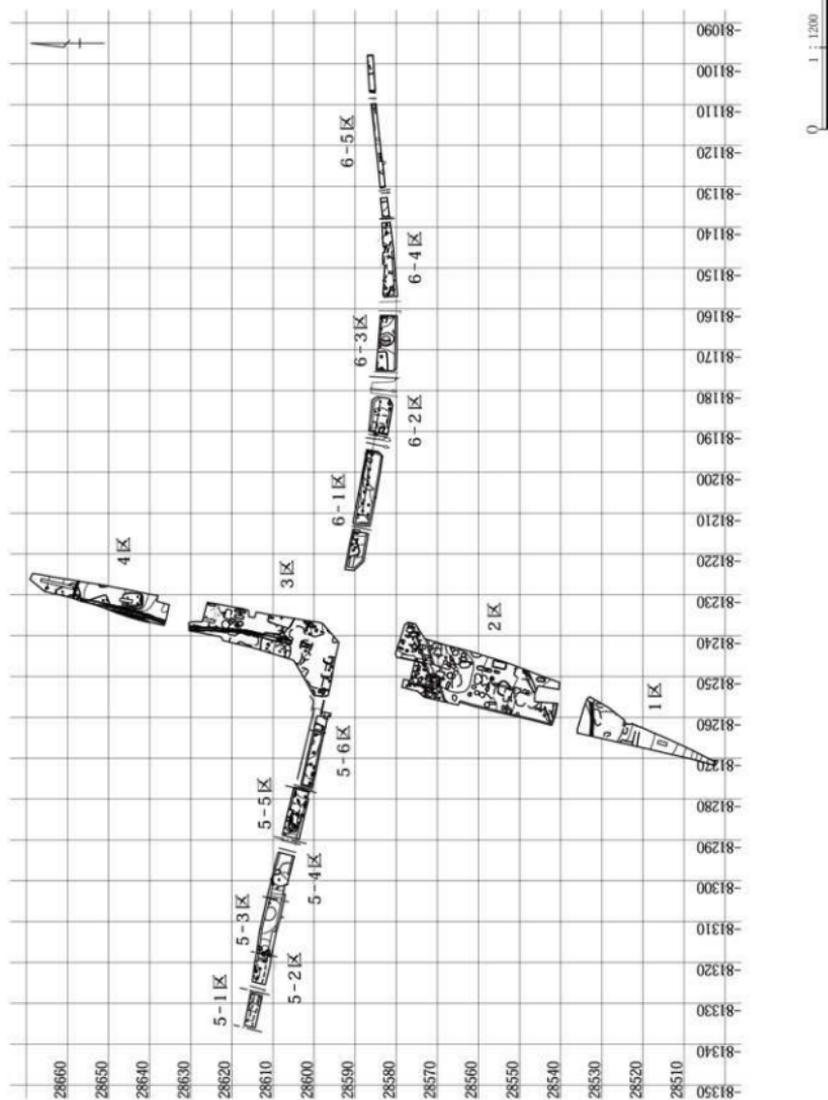
上記、委託先測量会社により作成されたデジタルデータ成果品および実測原因等は、調査記録として保存されている。

遺構図の縮尺は、断面実測図は1/20、平面実測図は1/40を基本とした。

### 第4項 遺構写真撮影

発掘調査において、すべての遺構の写真は発掘調査担当者が撮影した。発掘調査の過程で検出されたすべての遺構及び発掘調査に係る各種作業の進捗状況をデジタルカメラで撮影し、HDにデータを保存、検索用データを作成した。

また、調査記録として、遺構ごとに土層断面、遺物出土状態、遺構全景等の写真撮影を行い、さらに必要に応



第1図 調査区設定図

じて遺構の各部分について微細な抜写を行った。

## 第4節 整理作業の経過と方法

整理作業は、令和3年10月1日から令和4年1月28日の4ヶ月間と令和4年4月1日から令和4年9月30日までの6ヶ月間、群馬県富岡土木事務所の委託を受けて公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。以下では各年度ごとに報告する。

(令和3年度)

まず、調査現場から搬入された出土遺物コンテナ計19箱分の基本的な分類・仕訳と登録、集計作業を実施した後、出土遺物の実測、分類、観察作業を実施した。発掘調査記録については、台帳整備、写真記録のチェックを行い、遺構図と写真記録の照合や誤認・誤記の修正作業を行なった。また、数度に亘って発掘調査担当者からの調査所見や土層注記について聞き取りを行い、遺構遺物についての理解の深化に努めた。

発掘調査時に作成された遺構平面図・断面図の点検、修正・整合・編集を行い、発掘調査報告書に掲載する遺構図版のデジタルデータ化を図った。

出土遺物については、発掘調査時に洗浄・注記をすべて終えていた遺物を選別、接合・復元し、その後、必要に応じて順次、写真撮影、実測及びトレース、採拓等の作業と観察表の作成を実施した。なお金属器については発掘時に別途取り上げを行い、保存処理へ搬入し、随時錆落としと保存処理作業を実施した。その後、X線撮影した写真を参考に実測し、観察表の作成を実施した。

発掘調査時に撮影された各種遺構写真は、発掘調査報告書に掲載するものを選別し、写真図版の編集を行った。

また、これらの作業と並行して、本文原稿・遺物観察表等の執筆を順次進めていった。

遺構図・遺物図・遺構写真・遺物写真・本文原稿・遺物観察表等のレイアウトを作成した後にデジタル編集を行い、本報告書の原稿を作成した。

発掘調査及び整理業務の過程で作成された遺構・遺物にかかる各種図面及び写真等の調査記録資料は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに収納・保管されている。

なお、整理作業の中でいくつかの遺構について名称の変更を行っている。変更した遺構の新旧名称については第1表に提示した。

### 第1章参考文献

- 群馬県2007『はばたけ群馬・県土整備プラン2008～2017』  
 群馬県2011『はばたけ群馬・県土整備プラン2013～2022』  
 群馬県2014『はばたけ群馬プラン・第14次群馬県総合計画・重点プロジェクト（平成26年4月1日改訂）』  
 群馬県2018『はばたけ群馬・県土整備プラン2018～2027』  
 群馬県県土整備部道路整備課（道路企画室）2013『群馬がはばたくための7つの交通軸構想』  
 (公財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『年報』37  
 群馬県統合型地理情報システム「マッピングぐんま」  
<http://mapping-guma.pref-guma.jp/pref-guma/top>

第1表 遺構名称新旧対照表

旧名称	新名称
4号竪穴建物P4	4号竪穴建物貯蔵穴
8号竪穴建物P4	8号竪穴建物貯蔵穴
2号竪穴状遺構	10号竪穴建物
7号溝	8号溝
55号土坑	欠番
62号土坑	7号溝
29号ピット	1号竪穴建物P3
32号ピット	10号竪穴建物P1
68号ピット	1号柱穴列P11
72号ピット	1号柱穴列P10

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

本遺跡の北を流れる利根川支流の鑛川は、水源の上信国境荒船山(海拔1422m)から約50km東流し、関東平野に入った高崎市南部で榛名山西側から南東流してくる鳥川と合流する。さらに約10km東で利根川本流に合流する。

鳥川は他に上信国境の関東山地から流れてくる碓氷川、神流川を併せている。鑛川の流域は、北の碓氷川との間に奇峰妙義山(1104m)から続く比高100m弱の岩野山丘陵にあり、南は神流川との間に赤久縄山(1522m)と西御鉢山(1286m)をピークとする急峻な山脈が走り、その裾には河岸段丘が発達している。両側の山地に挟まれた現在水田になっている平地は南北の幅が1~3km程度と狭いが、鑛川の流れは平地が形成される富岡市南蛇井付近から東は大きな蛇行が少ないため、東西方向は眺望が良く開放的な景観を示す鑛川段丘と呼ばれる河岸段丘が形成されている。

そのため、鑛川流域(古代名は甘棠)全体は、東西走向の回廊地域として認識できる。荒船山は頂上が長く平坦で、航空母艦のような特異な形状をしている。頂上北側の内山峠への断崖を含めて、背後の活火山浅間山(2542m)とともに、広く関東平野北部全体から識別できる。碓氷峠などその他のいくつかの関東山地の峠を越えると、千曲川上流の長野県佐久地方に達する。千曲川は下流では信濃川と呼ばれて新潟県で日本海に注いでいる。すなわち、荒船山周辺は本州の分水嶺にあたるが、前後には通行がそれほど難しくない峠が多い。

また佐久地方から南西には蓼科山塊が広がるが、逸州灘に流れる天竜川源流の諏訪湖に達することはいくつかの峠を経て容易である。このように甘棠回廊は中部山地へ深く入り込んだ関東平野の最西端であると同時に、本州中部山地の末端としても見ることができる。北関東を大きく俯瞰すると甘棠町地勢はこのようになる。

甘棠町は群馬県の西端に位置し、前述のように鑛川は富岡市との北境をほぼ西から東へ向かい南下している。

甘棠町の地形は、第2図のように地形が区分される。

まず鑛川右岸に形成された鑛川段丘、鑛川段丘の南側に舌状に形成された多胡台地、さらに南側には牛伏山地、御荷鉢山地と、山地が迫っている。

福島下町・屋敷下遺跡の位置する鑛川段丘は、上位、下位の2段を伴う河岸段丘で、上位段丘面に遺跡は相当する。上位段丘面は標高143mの平坦面を形成する。上位段丘は畑作、下位段丘は稲作や畑作を中心とした古来から続く農業地帯が営まれてきた。本遺跡の西側約1.5kmには雄川、東側約2kmには天引川が御荷鉢山地を源流として鑛川に注ぐ。上位段丘は比較的平坦な地形を有しており、古くから交通路として利用された。江戸時代には下仁田街道「姫街道」の宿場として機能した福嶋宿が営まれていた。今日まで本遺跡周辺では、福嶋宿として機能した当時の区割りなど面影を残している。

参考文献  
甘棠町史編纂委員会1979『甘棠町史』

### 第2節 歴史的環境

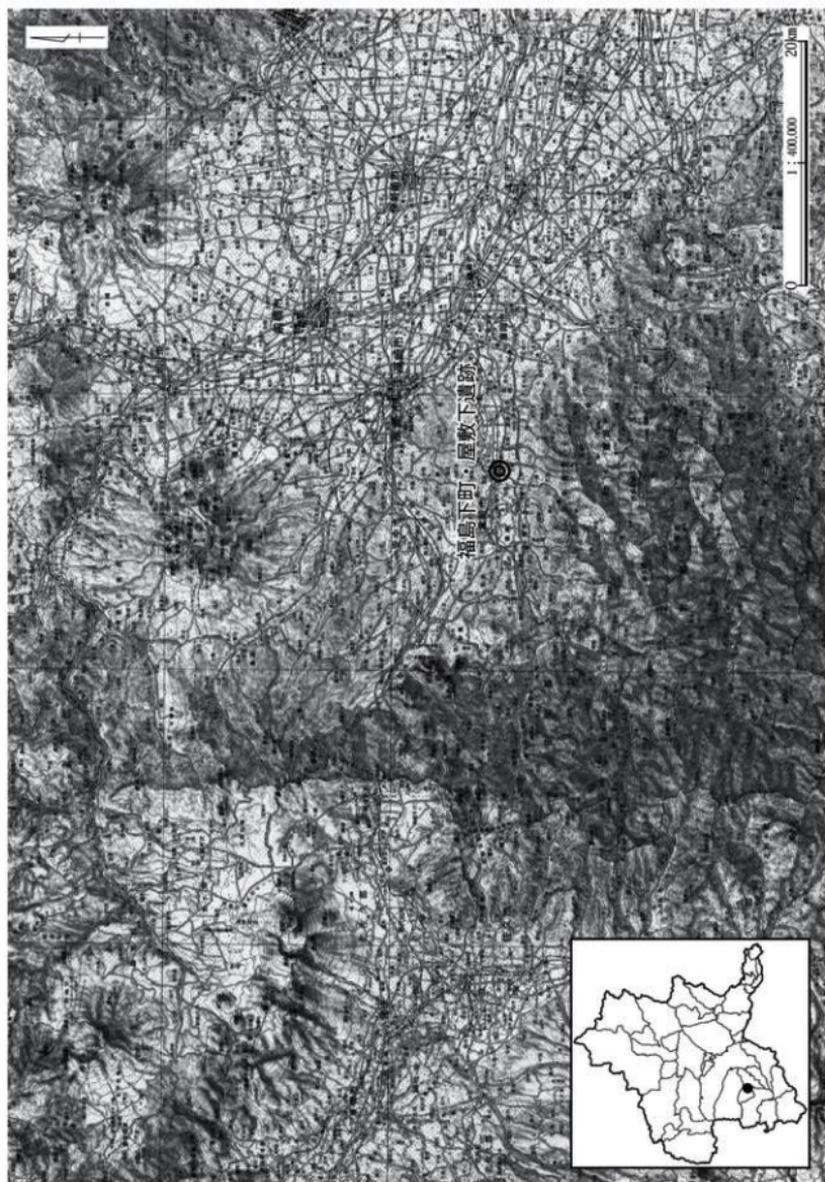
本遺跡周辺では縄文時代から中近世に至るまで多くの遺跡が確認されている。縄文から弥生時代中期に至る遺跡は小幡丘陵部を中心に所在し、弥生時代中・後期・古墳時代集落遺跡は鑛川が緩やかな平野部、中央回廊を中心に選択される。

#### 旧石器時代

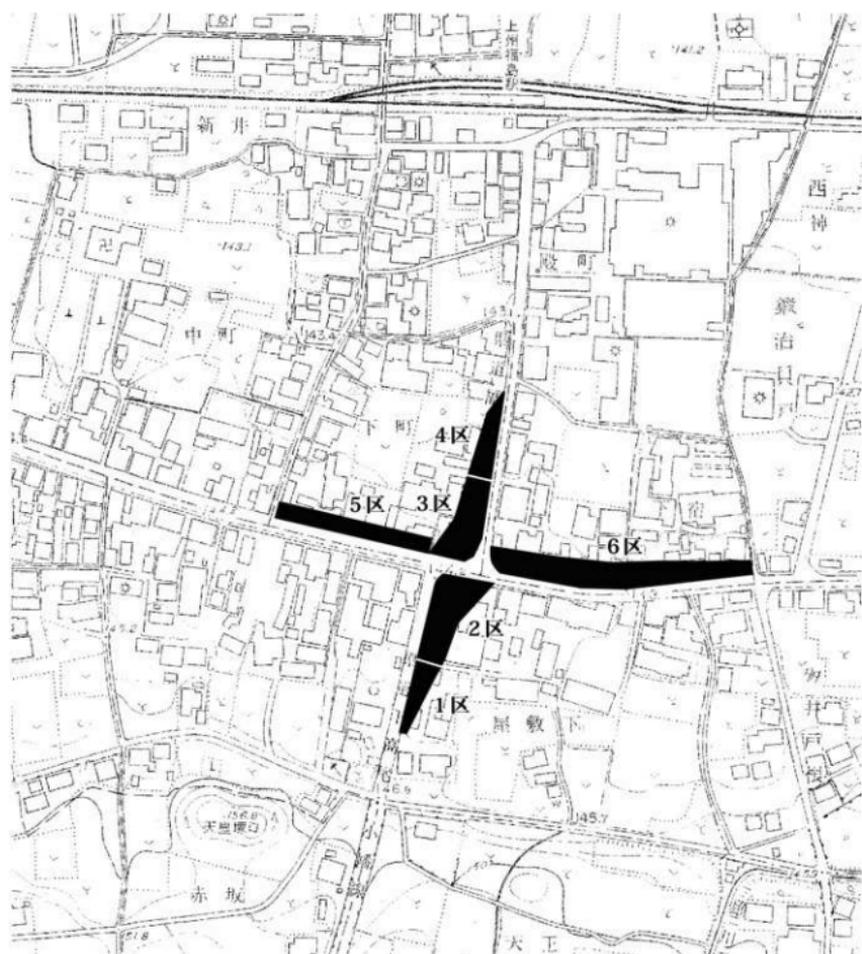
甘棠町内では、台地、丘陵部に立地が限定され、多胡台地上に位置する下高瀬寺山遺跡で尖頭器や細石刃などの石器類が出土した。また同台地上に位置する天引向原、白倉下原遺跡では、環状ブロック群が礫群とともに出土した。富岡市内では、富岡市野上地区に所在する野上堀野人遺跡でAs-MP上層より、スクレイパーが1点出土している。



第2図 遺跡周辺の地質・地形区分図 (甘栗町1979)



第3図 福島下町・屋敷下遺跡と群馬県と群馬県との地勢 (国土地理院1/200,000地形図「宇都宮」「長野」図幅を加工)



0 1:2500 100m

第4図 調査範囲図(甘菜町市図No.1 S49)

## 縄文時代

遺跡の分布は、鍋川上位段丘面と丘陵部にみられる。草創期から前期までは、丘陵部を中心に立地しており、草創期、早期では松葉・慈学寺、内匠日向周地遺跡、下高瀬上之原遺跡、下高瀬山遺跡などで押型文土器等が出土している。また内匠日向周地遺跡では、住居状遺構とされる落ち込みが確認されている。前期では、曾木森裏遺跡、内匠日向周地遺跡、白倉下原遺跡などで遺構・遺物が確認されている。本遺跡付近でも福島条里遺跡で、黒浜式土器が出土している。中期においても丘陵部を中心として、大形の集落が形成されるようになる。善慶寺早道場遺跡では埋設土器や土坑、田籾中原遺跡では中期後葉の集落とともに、環状列石や配石遺構などが確認されている。後期では、上位段丘面においても集落の形成が確認でき、福島鹿嶋下遺跡では、後期後葉の竪穴建物が確認されている。丘陵部でも後期初頭から前葉の柄鏡形敷石建物が白倉下原遺跡や内匠上之宿遺跡において確認されている。鍋川左岸では、後賀中割遺跡で、前期初頭から後期中葉までの遺物と、後期初頭から前葉までの柄鏡形敷石建物が確認されている。

## 弥生時代

弥生時代は中期から確認できる。小塚遺跡では中期後半の環濠集落跡、上人見遺跡では再葬墓が確認されている。阿曾岡・権現堂遺跡では集落跡、南蛇井地区で南蛇井増光寺遺跡が確認され、弥生時代の竪穴建物集落が確認されている。主体は後期樽式土器の集落である。中高瀬観音山遺跡では後期の竪穴建物96棟が確認されている。三笠山岩陰遺跡では三笠山の岩陰から後期の土器、焼人骨、歯が出土している。

南蛇井増光寺遺跡は縄文時代から平安時代までの複合集落で、竪穴建物は全体で800棟に及ぶ。このうち弥生時代後期の竪穴建物は154棟が確認されている。近年調査された白倉上野遺跡でも弥生時代後期の竪穴建物が143棟確認され、古代まで継続して集落が形成されていた。樽式期の集落として他には、笹遺跡や長根安坪遺跡など後期になると遺跡数が増加する傾向にある。

## 古墳時代

古墳時代は鍋川周辺の河岸段丘面に古墳群、集落が大

規模に展開していく。前期古墳は径40mの円墳である北山茶白山古墳、全長2mの前方後方墳の北山茶白山西古墳である。時期は出土遺物より、西古墳が古いと考えられる。前期の竪穴建物は多くなく、内匠日向周地遺跡や中高瀬観音山遺跡、中沢平賀界戸遺跡、下高瀬上野原遺跡等で1～数棟が確認されている。中期の古墳は内匠日影周地遺跡で1基、下高瀬上之原遺跡で7基確認されている。後期になると古墳は富岡市内に広がり、各所に古墳群が構成されるようになる。古墳群は鍋川兩岸の平坦地にあり、主なものは塚原古墳群や上田籾古墳群、善慶寺古墳群、長久保古墳群、桐洲古墳群、横瀬古墳群、芝宮古墳群、七日市古墳群、一ノ宮古墳群等、鍋川北側の丘陵地にも広がる。古墳群に伴い周辺には集落が広がる。集落は鍋川右岸の平坦地、田籾、内匠地区に広がる。古墳群、集落のほかに本宿・郷土遺跡では居宅の周濠が確認されている。本遺跡周辺においても、笹森古墳や天神山古墳などが築造されていた。

## 奈良・平安時代

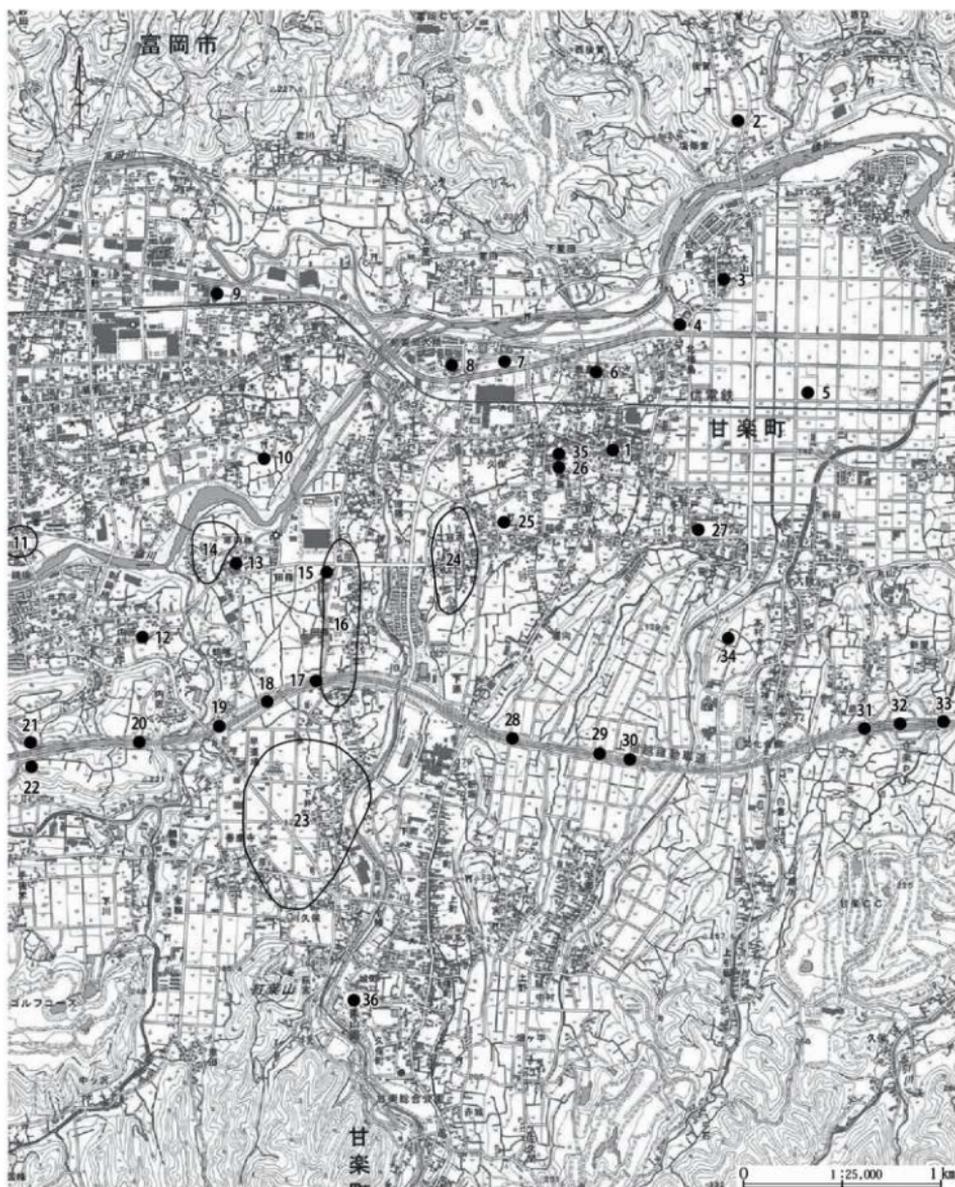
奈良・平安時代の集落跡は基本的には古墳時代後期の集落から続くものが多い。本宿・郷土遺跡では約100棟の竪穴建物が確認され、田籾上平遺跡では竪穴建物50棟、掘立柱建物23棟が確認されている。南蛇井増光寺遺跡では竪穴建物が100棟以上確認されている。内匠日向周地遺跡や南蛇井増光寺遺跡では浅岡B軽石に覆われた水田跡が確認された。近隣の甘葉条里遺跡でも確認されている。

## 中世・近世・近代

中近世の調査をした遺跡はあまり多くない。本宿・郷土遺跡、隣接する稲荷森遺跡では中世の溝、井戸、掘立柱建物、墓塚、土坑等が確認されている。

内匠上之宿遺跡では内匠城の外堀に隣接して整地面上に掘立柱建物、竪穴状遺構、配石遺構の他、井戸、墓塚が検出された。内匠日向周地遺跡では中近世の水田2面、南蛇井増光寺遺跡では中世の掘立柱建物、堀、井戸、土坑が確認されている。城郭は他に下鎌田城、堀ノ入城、内匠城、宇田城、宮崎城などが調査されている。

近世の遺構は内匠諏訪前遺跡では近世の屋敷跡、掘立柱建物、井戸が確認され、田籾上平遺跡では墓塚、下高



第5図 周辺道跡地図(国土地理院電子地図1/25,000「富岡」「上野吉井」を編集・加工)

第2章 遺跡の立地と環境

第2表 周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	所在地	概要	備考
1	福島下町・屋敷下遺跡	甘菜郡甘菜町福島		本報告書
2	後賀中洲遺跡 (T007)	富岡市後賀	古墳7基、竪穴建物1棟、縄文時代5棟、弥生時代3棟、古墳時代方形周溝墓4基。	後賀中洲遺跡(T007遺跡)第608集(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2021
3	大山鬼塚古墳	甘菜郡甘菜町天引	現在は寿形石帽を残すのみ、鏡、石製模造品、馬具等が出土。	「甘菜町史」1979
4	福島椿森遺跡	甘菜郡甘菜町福島字椿森	中世～近世。墓塚3基、土坑6基。	「田塚塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿嶋下遺跡・福島椿森遺跡」第244集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
5	甘菜条里遺跡	甘菜郡甘菜町新屋	古墳前期、B軽石下、A軽石下の水田跡。古墳後期滑石製品1房跡。	「甘菜条里遺跡」甘菜町教育委員会1984
6	福島鹿嶋下遺跡	甘菜郡甘菜町福島字鹿嶋下	縄文～古墳期竪穴建物、配石5基、竪穴建物20棟、縄文土器、土鍋、石棒、滑石模造品、土師器、須恵器。滑石工房跡。	「田塚塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿嶋下遺跡・福島椿森遺跡」第244集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
7	福島駒形遺跡	甘菜郡甘菜町福島字駒形	墓、居住、その他。弥生～古墳。古墳1基、竪穴建物34棟、掘立柱建物11棟。滑石模造品、土師器、須恵器。滑石工房跡。	「田塚塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿嶋下遺跡・福島椿森遺跡」第244集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
8	田塚塚原遺跡	富岡市田塚字塚原	墓、居住、生産、その他。弥生～古墳。方形周溝墓1基、古墳7基、竪穴建物13棟、竪1面。ガラス玉、耳環、鉄鏝、刀装具、弥生土器、土師器、須恵器。	「田塚塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿嶋下遺跡・福島椿森遺跡」第244集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
9	曾木森裏遺跡	富岡市曾木森裏	縄文～平安集落跡。建物跡は縄文前期2棟、奈良1棟、平安1棟。古墳前期方形周溝墓と考えられる溝が確認。	「曾木森裏遺跡」富岡市教育委員会1996
10	久保遺跡	富岡市	古墳時代祭祀遺跡。滑石模造品等多数出土。	「富岡市史」1987
11	芝宮古墳群	富岡市芝宮	瀬川山城最大級の古墳群。100基以上が確認。築造は6～7世紀。	「芝宮古墳群」富岡市教育委員会1992
12	内匠遺跡	富岡市内匠	古墳～平安集落跡。竪穴建物27棟。	「富岡市史」1987
13	原田藤古墳群	富岡市	6世紀からの築造、7基。	「上田藤古墳群・原田藤遺跡」富岡市教育委員会1984
14	布和田古墳群	富岡市田塚字布和田	古墳。墳墓。	上毛古墳総覧福島町第31～37号墳
15	原田藤遺跡	富岡市宇賀川	古墳後期～平安の竪穴建物18棟。鬼高期滑石製品1房跡。	「上田藤古墳群・原田藤古墳群発掘調査報告書」富岡市教育委員会1984
16	上田藤古墳群	富岡市田塚	古墳後期の冢集墳。30数基。	「上田藤古墳群・原田藤古墳群発掘調査報告書」富岡市教育委員会1984
17	田塚上平遺跡	富岡市田塚	古墳3基(1基は周堀のみ)。横穴式両袖型石室。7世紀。奈良・平安の竪穴建物、掘立柱建物。	「田塚上平遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1988
18	田塚中原遺跡	富岡市田塚	縄文中期集落跡。環状列石1基、竪穴建物11棟、竪穴建物2棟。配石遺構3基。	「田塚中原遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990
19	善慶寺早道場遺跡	甘菜郡甘菜町善慶寺	縄文土坑、埋設土器(中期)、古墳後期～奈良・平安期の竪穴建物、掘立柱建物、古墳1基(周堀のみ)。	「善慶寺早道場遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994
20	内匠上之宿遺跡	富岡市内匠	縄文～古墳期竪穴建物。縄文配石遺構5基。埋設土器10基。中世城跡。	「内匠上之宿遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1993
21	内匠日向岡地遺跡	富岡市内匠	縄文～中世。古墳前期～後期期穴建物8棟。水田3面(平安～中世・近世)。古代木柵出土。	「内匠日向岡地遺跡他」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1995
22	内匠日影岡地遺跡	富岡市内匠	縄文～近世。縄文前期期穴建物1棟。弥生期穴建物14棟。古墳期穴建物2棟。方形周溝墓1基。古墳1基。	「内匠日影岡地遺跡他」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1992
23	善慶寺古墳群	甘菜郡甘菜町善慶寺	古墳後期の冢集墳。20基。	「甘菜町史」1979
24	二日市古墳群	甘菜郡甘菜町福島	円墳、20基。	「上毛古墳総覧福島町第2～22号墳」(甘菜町史)1979
25	笹森稲荷塚古墳	甘菜郡甘菜町福島	甘菜地区の最大規模の前方後円墳。横穴式石室。稲荷社と5の五鈴跡。金環、玉類の出土。	「甘菜町史」1979
26	天王塚古墳	甘菜郡甘菜町福島	稲荷塚古墳東方400mに位置。竪穴系の主体部を有する前方後円墳。	「甘菜町史」1979
27	世道跡	甘菜郡甘菜町小川	弥生後期～古墳の集落跡。石製模造品多数出土。	「世道跡」群馬県立博物館1964・1966
28	上野寺古墳遺跡	甘菜郡甘菜町	古墳初～中期の竪穴建物7棟。奈良・平安の竪穴建物23棟。土坑5基。礎土分布地点4ヶ所。掘立柱建物2棟。溝3条。中世の塚1基。縄文包圍舎1ヶ所。	「上野寺古墳遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991
29	上野松葉遺跡	甘菜郡甘菜町	弥生終末期～奈良時代期穴建物82棟。平安時代の竪穴建物1棟。縄文時代期穴状土坑3基。土器・石器が検出、有古矢遺跡出土。	「上野松葉遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991・1992
30	松葉・慈学寺遺跡	甘菜郡甘菜町上野	古墳～平安集落跡。暗文土器多数出土。表塚遺物に縄文土器片(前期～中期)、黒曜石製有古矢遺跡。	「松葉慈学寺遺跡他」甘菜町調査会1994
31	白倉下原遺跡	甘菜郡甘菜町字白倉	旧石器。縄文～平安集落跡。磨製石礫1房跡。方形周溝墓。	「白倉下原・天引向原遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994
32	天引向原遺跡	甘菜郡甘菜町字天引	旧石器。縄文～古墳集落跡。	「白倉下原・天引向原遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994
33	天引狐崎遺跡	甘菜郡甘菜町天引	台地部分と二途川の旧河道調査。A直下の石器群や縄文前期～後期の遺物。弥生時代期穴建物40棟。6世紀後半古墳2基。旧河道から古墳時代中心の木製品。	「天引狐崎遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991
34	白倉上野遺跡	甘菜郡甘菜町字白倉	竪穴建物・弥生時代143棟。古墳時代122棟。奈良・平安時代28棟。	「白倉上野遺跡(下小塚遺跡)」甘菜町教育委員会1999
35	福島金山古窯跡群	甘菜郡甘菜町福島	富岡製糸場建設に伴う瓦、煉瓦製造所。	「甘菜町史」1979
36	薬山園	甘菜郡甘菜町小橋	小橋藩藩田家の庭園。	

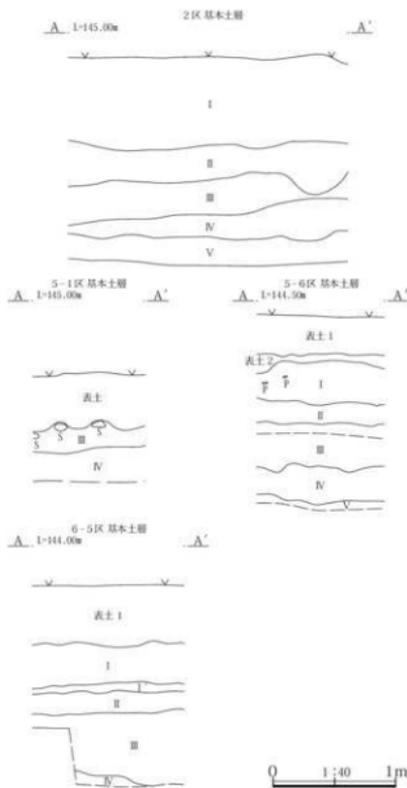
瀬上之原遺跡では墓壇、庚申塔基礎が、中高瀬庚申塔遺跡では配石遺構が確認されている。本遺跡周辺は、小幡藩の領地である福嶋村に位置し、1587年（天正15年）から1601年（慶長6年）の奥平氏の領分を経て、直轄地、1610年（慶長15年）から1615年（元和元年）に移封されるまで井伊氏の領分として支配役所の所在地となった。その後は織田氏が1642年（寛永19年）に小幡陣屋に移るまで陣屋として機能した。この頃には、中山道の裏街道である下仁田街道「姫街道」の宿場町「福嶋宿」として砥石の流通や錦川の水運などで栄えた。陣屋が置かれた場所は、上信電鉄の上州福島駅の南側に殿町という地名が残っており、御殿・陣屋が置かれたものと推察される。1767年（明和4年）に織田氏移封後は、松平氏の支配に変わり、明治に至る。本遺跡周辺では、富岡製糸場建設に伴い、製糸場前方元締格の葦塚直次郎が笹森にレンガや瓦の製造場を設け、製造を行った。瓦は「福島瓦」と呼ばれ、供給された。明治37年発行の「群馬県営業便覧」によれば、宿場町としての名残を残し、商業活動が盛んに行われた。

### 第3節 基本土層

基本土層は、令和2年度に2区で、令和3年度に5-1区、5-6区と6-5区において、記録をとった。

福島下町・屋敷下遺跡では、地表下1mは現表土（令和2年度I層）、または攪乱層（令和3年度 表土1）、が堆積する。下層には、浅間山の噴火によって降下したAs-Aが混在した旧表土が堆積し、（令和2年度II層、令和3年度II層）II層上面には、純層の堆積も確認できた（I'層）。I～II層には近世の遺物が多く、近世あるいは、近代に堆積したと考えられる。本遺跡では、弥生時代の遺構面であるIII層を遺構確認面として調査を行い、弥生時代の遺構の他、近世から近代の遺構・遺物についても確認することができた。

III層の下層には、ローム質のIV層の堆積が確認でき、30cm程堆積していた。IV層の下層には、V層は、河川作用によって堆積した黄色土層を主体とした礫層が堆積する地山層が確認できた。地山層は、令和3年度調査において、III層の下層において、As-YPとみられる軽石の堆積が確認できており、部分的に異なった様相を呈している。



#### 2区 基本土層

- I. 表土
- II. 黒褐色土 粘土質のみ、両りにAs-Aを含む、しりりあり。
- III. 黒褐色土 粘土質のみ、しりりあり。
- IV. 黒褐色土 粘土質のみ、しりりあり。
- V. 褐色土 大小の礫を含む、しりりあり。

#### 5-1区 基本土層

- II. 黒褐色土 ローム質の砂礫層。黒褐色の土中に5～10mmの礫を含む。礫平均径30mm。
- IV. 灰黄褐色土 灰黄褐色の砂礫。粘性はない。

#### 5-6区 基本土層

##### 表土1 現代の堆積。

##### 表土2 I層よりは新しい表土層。

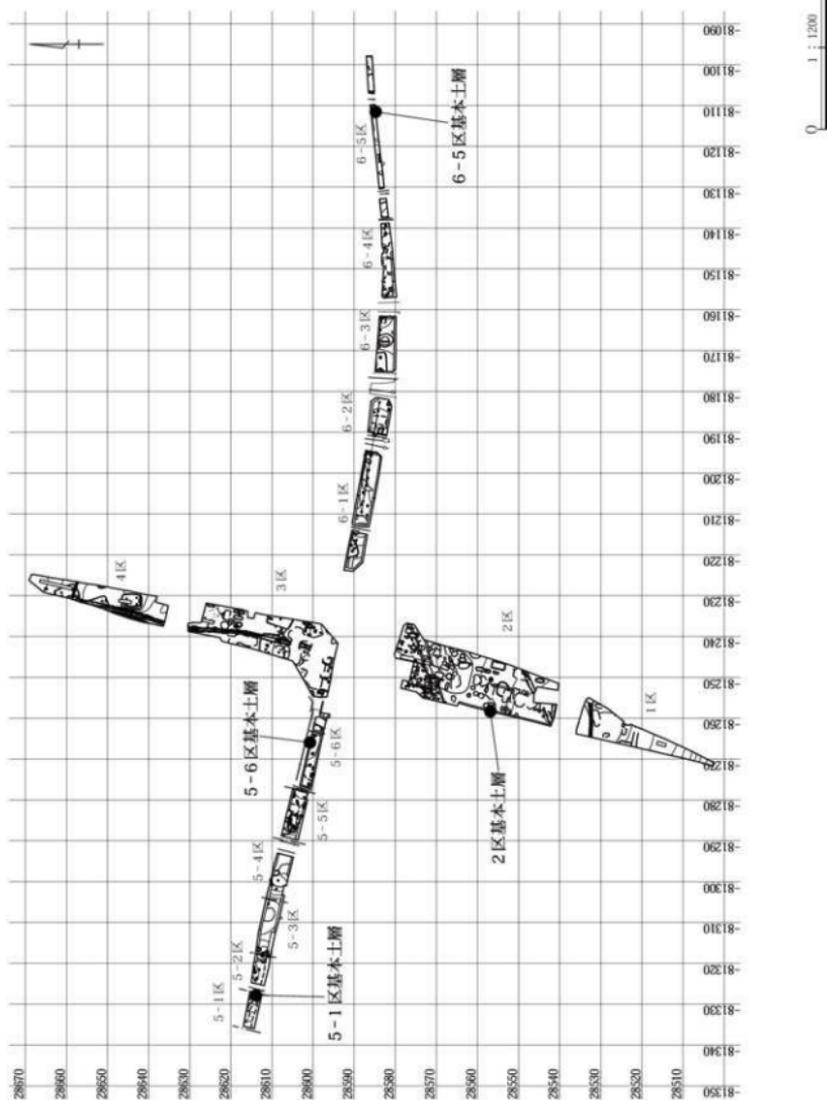
- I. 土にI'層の礫。As-Aを少し含む。近世の遺物も含積。しりりあり。
- II. 黒褐色土 細かな礫を少し含む。粘性無し、少ししりり。
- III. 黒褐色土 両層の少ない、まめ細かな土。しりりあり、粘性無し。
- IV. 褐色土 まめ細かく粘性が少しある。しりりあり。
- V. 黒褐色土 平均5mm最大2cmの黒褐色土を多量に含む。黄色軽石は軽石ある（As-YP）可能性がある。

#### 6-5区 基本土層

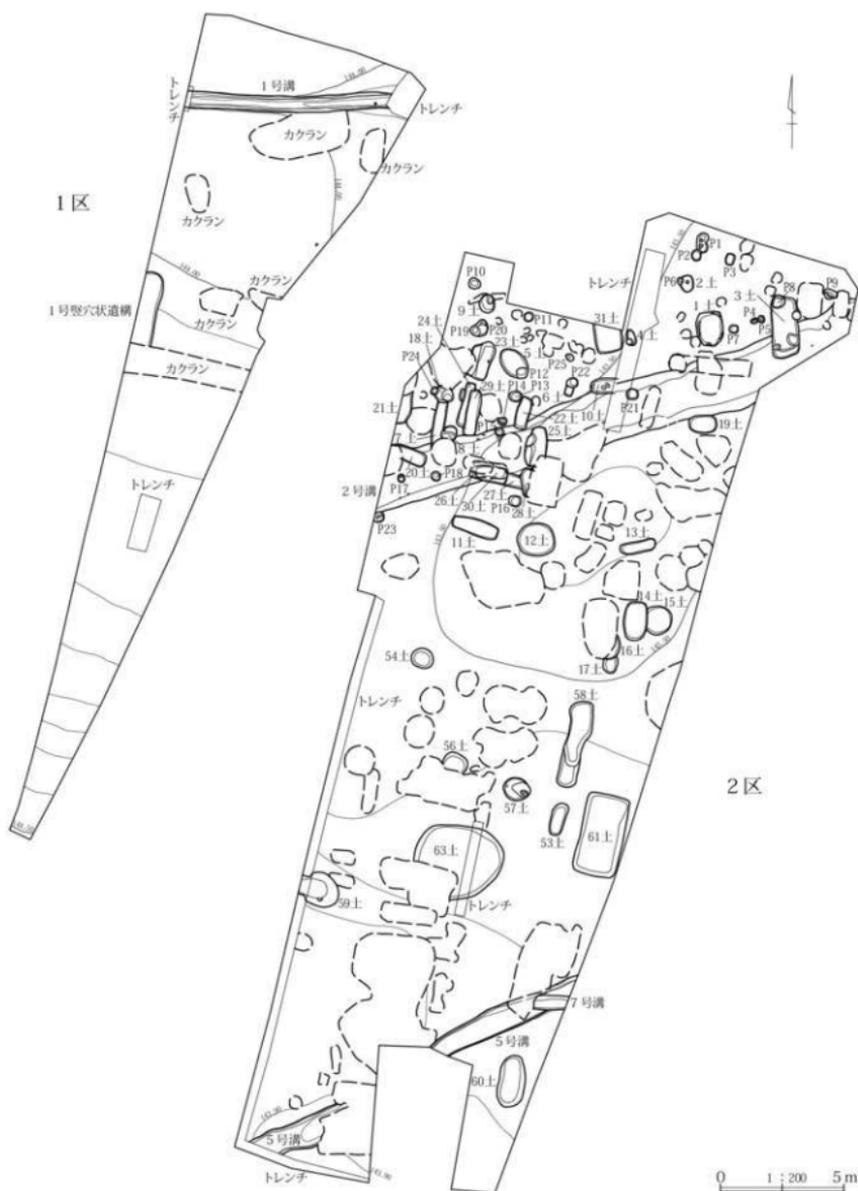
##### 表土1 現代の堆積。

- I. 黒褐色土 As-Aを表面に含んだ土層。湿くしりり粘性は弱い。
- I'. 灰黄褐色土 As-A 3次堆積。礫径5cm。固くしりり。下層の方が粘土が細く、上層の軽石層大径は1cm。
- II. 黒褐色土 黒褐色土中に1～15cmの礫を含む。礫平均径5cm。粘性はないが固くしりり。
- III. 黒褐色土 ローム質の砂礫層。黒褐色の土中に5～10mmの礫を含む。礫平均径30mm。
- IV. 灰黄褐色土 灰黄褐色の砂礫。粘性はない。

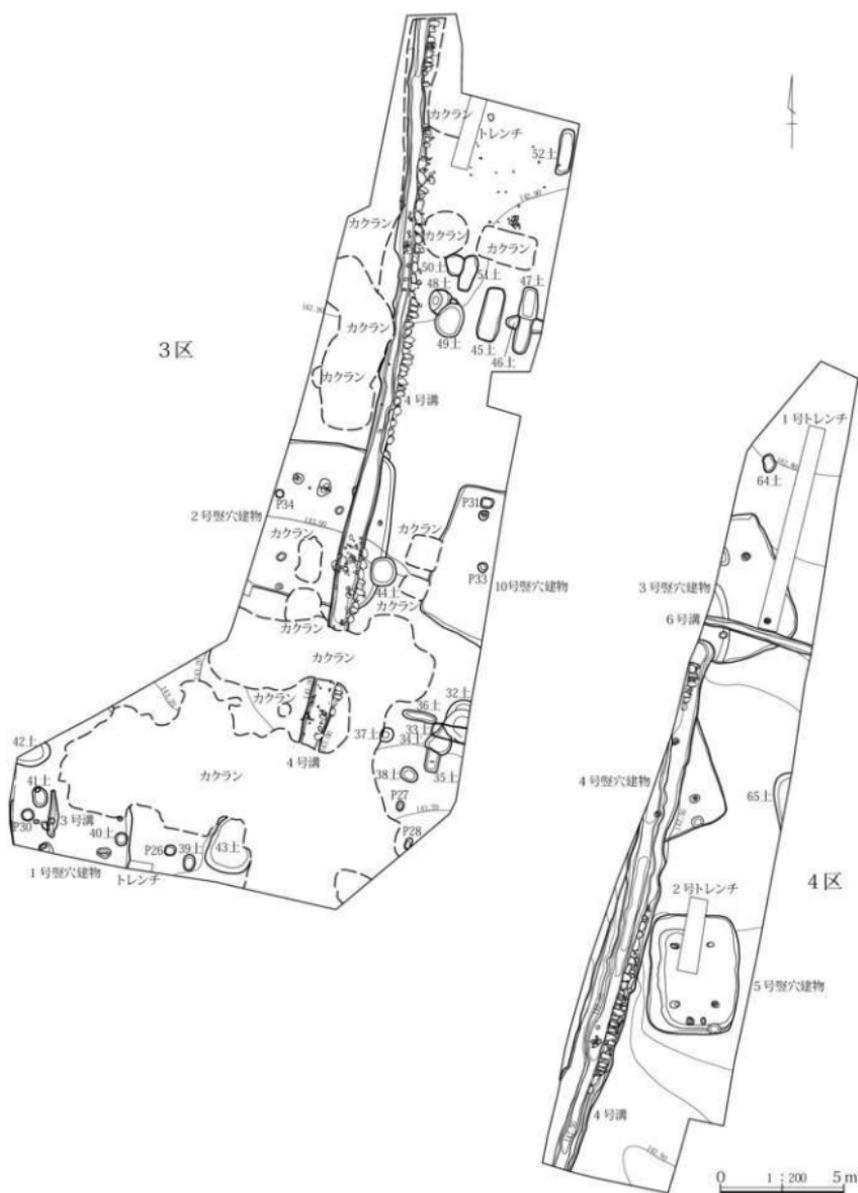
第6図 基本土層



第7図 基本土層配置図



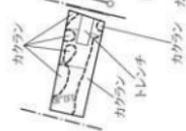
第8図 1・2区全体図



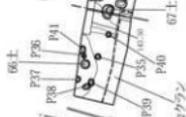
第9図 3・4区全体図

0 1:500 20m

## 5-1区



## 5-2区



## 5-4区



## 5-3区



## 5-6区



## 6号型穴建物

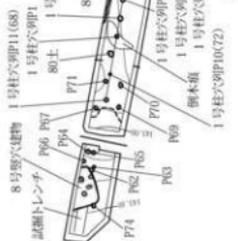


## 5-5区



0 1:400 10m

## 6-1区



## 6-2区



## 6-3区



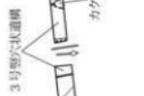
## 6-4区



## 6-5区



## 3号型穴建物



第10図 5・6区全体図

## 第3章 調査された遺構と遺物

### 第1節 遺構・遺物の概要

本遺跡は標高が144.50mから145mと比較的平坦な地形である。南側は、天王塚古墳に向かって緩い傾斜地となっており、付近の4区では、143mを測る。東西軸に位置する、5区と6区では街道筋に位置づけられるほど、平坦な面が広がっており、142～143mを測る。

調査区は十字状を呈し、1区から4区までは172m、5区から6区までは240mを測る。各調査区の幅は、5～27mと現道幅幅に伴う調査のため範囲が狭く、遺構の全容がわかったものについては少ない。そのため、柱穴列や土坑・ピット類の性格が不明瞭な点が多い。

令和2年度、3年度の調査で確認した遺構は、弥生時代の竪穴建物8棟、竪穴状遺構2基、土坑1基、倒木2基、古墳時代の竪穴建物2棟、土坑1基、ピット7基、近世～近代までの導水管1条、溝8条、柱穴1列、土坑86基、ピット67基を確認した（第3表）。本来近世までを調査対象としていたが、表土直下から石製の導水管を確認した。本遺跡の位置する地点は、1707年の奥平小幡藩治世

以降、中山道の裏街道である下仁田街道「姫街道」の宿場「福嶋宿」として栄えていた。近代以降も明治37年発行の『群馬県営業便覧』によれば、商業活動が盛んに行われていたとみられる。確認した導水管も福嶋宿関連の遺構として評価し、掲載した。6号溝については、区割り溝としての機能が想定され、確認できた土坑、ピット、柱穴列も福嶋宿との関連が想定される。弥生時代から古墳時代は、竪穴建物が特に弥生時代後期の樽式期（2期新段階～3期古段階）にかけて確認でき、断続期間をおいて、4世紀と7世紀に竪穴建物が構築される。

遺物は、縄文土器、弥生土器、石器、陶磁器などが出土した。縄文土器は、中期中葉～後葉に限られ、本遺跡で最も多いのは、弥生時代後期の樽式土器である。竪穴建物の継続期間とも一致し、古墳時代前期になると、出土量は少なくなる。次いで多くなるのは、陶磁器類が多くを占め、古くは14世紀の土器がみられ、17世紀から19世紀を中心としていた。次節以降は、各項目ごとに解説を行う。非掲載遺物については点数と重量を一覧表に集計した（第7表）。

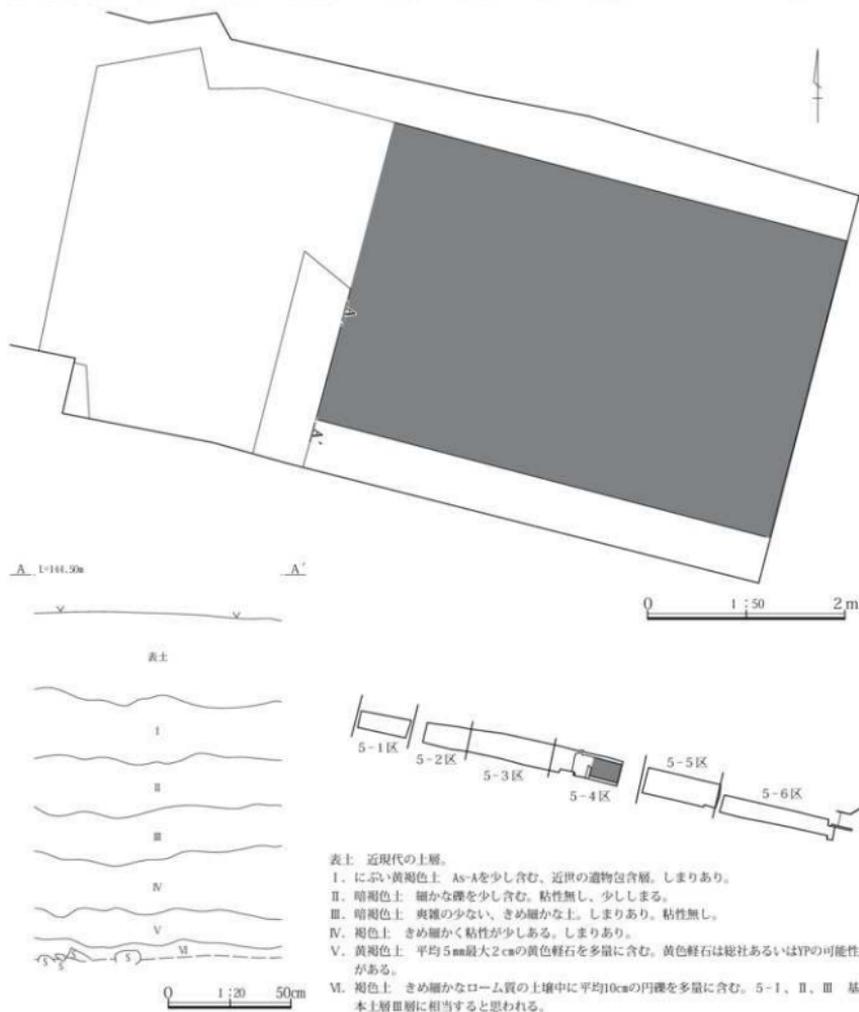
第3表 調査区・時期別遺構数

	1区			2区			3区			4区			5区			6区			合計
	弥生	古墳	近世～近代																
竪穴建物							2	1		3			1			2	1		10
竪穴状遺構	1															1			2
溝			1			3			2			1						1	8
土坑						40			21			2		1	14	1		9	88
ピット						25			7					6	21		1	14	74
柱穴列																		1	1
風倒木																2			2
導水管															1				1
包含層							1												1

## 第2節 旧石器時代の調査

弥生時代から近代までの遺構を調査した後に、5-4区の東側において、旧石器時代の調査を実施した。旧石器の調査は、第11図のように南北3.1m、東西4.8mの調

査坑を調査区の東側に1ヶ所設置した。深さ約135cm下面においてローム質の褐色土層（Ⅵ層）を確認したが、石器などの出土を確認することはできなかった。



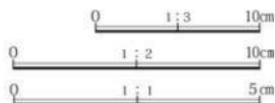
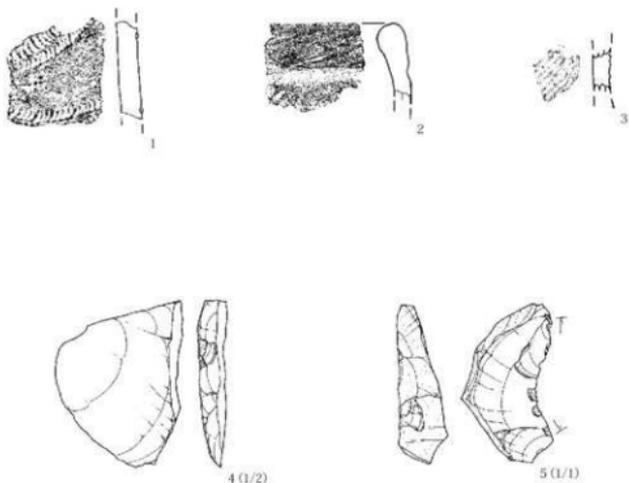
第11図 旧石器時代調査坑・土層断面図

### 第3節 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構は、確認されていないが、縄文時代中期中葉、中期後葉の縄文土器及び石器類が、調査区内から出土した。2区で2点、3区で1点、4区で1点、6-3区で1点と、出土量は数点のみで、出土状況などに特徴的な傾向は確認できない。

#### 1 遺構外出土遺物 (第12図、PL.69)

縄文時代に帰属する遺物は、縄文土器が3点、石器が2点出土した。縄文土器は、1～3が挙げられる(第12図-1～3)。1は中期中葉の勝坂2式で、キャタピラ文を伴う個体である。2は、中期後葉の加曾利E4式で、沈線区画内に縄文を充填している。3についても小片ではあるが、中期後葉に並行する土器である。石器は2点掲載した(第12図-4、5)。4と5は剥片石器で、5は黒曜石製で使用痕が認められる。



第12図 縄文時代 遺構外出土遺物

## 第4節 弥生時代の遺構と遺物

本節では、弥生時代の遺構及び遺物について扱う。

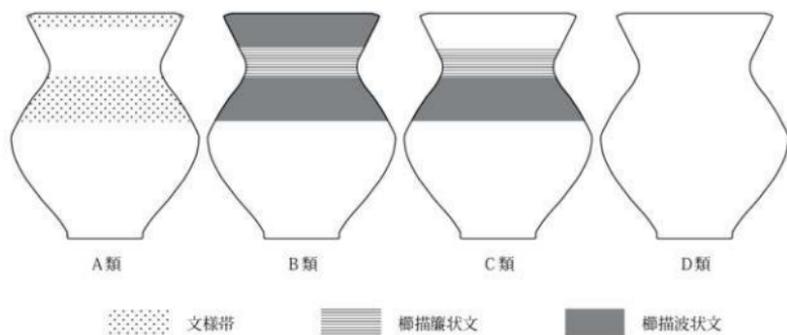
本遺跡の当該期の遺構は、竪穴建物8棟、竪穴状遺構2基、土坑が1基、倒木2基が確認された。土坑と倒木については遺物が出土しなかったため、時期特定の判断材料を得ることができなかったが、土層や確認状況から弥生時代の遺構と判断した。

遺構の密度について、第14図のように南北では北側の1、2区で希薄で、3、4区は傾向が確認できた。東西では東側の6区で濃く、西側の5区では薄い様相が確認できた。しかし調査範囲が狭く、傾向を反映できているとは言い難い。遺物の出土量に関しても、遺構の密度と整合的であった。遺構の時期は、出土遺物からすべて弥生時代後期の樽式期に相当する遺構で、前後段階の型式は確認できなかった。本遺跡では古墳時代前期の竪穴建

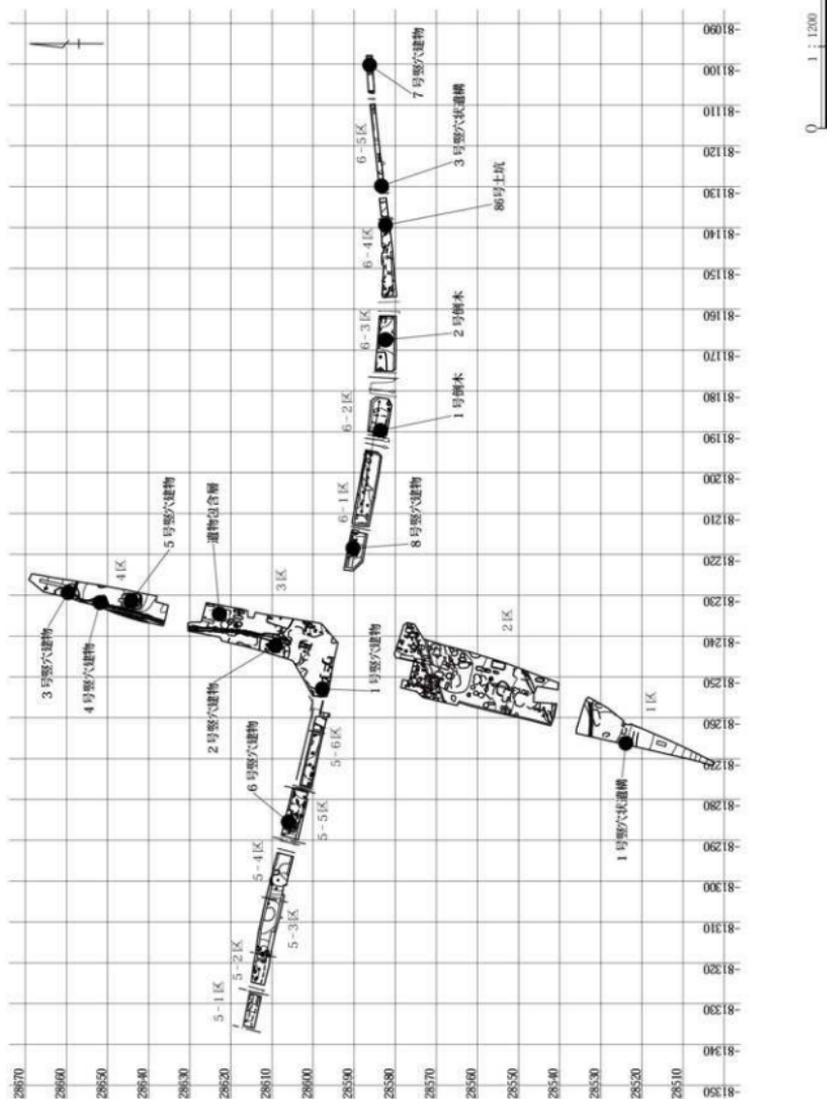
物も確認されており、弥生時代後期以降も断続的に生活が営まれていたと考えられる。

遺物については、甕が多い一方で、壺が少ない傾向がみられた。それ以外の器種は、台付甕や高環などが出土した。また弥生土器の文様について、甕のまとまりを確認したことから、下記の通り分類を行い、各遺構の出土土器について、分類を用いて説明を行う（第13図）。

- A：口唇部と胸部に文様帯を形成し、口縁部下位を無文帯とするもの。  
 B：口縁部から胸部にかけて柳描波状文、頸部に柳描縞状文を施文するもの。  
 C：口縁部を無文帯として、頸部に柳描縞状文、胸部に柳描波状文を施文するもの。  
 D：無文のもの。



第13図 弥生土器分類凡例



第14図 弥生時代 遺構位置図

## I 竪穴建物

竪穴建物は、8棟確認された。調査区範囲が狭い為、全掘できた竪穴建物が1棟のみで、他の竪穴建物は調査区外に掛かっているため、建物の全体像がわかるものは少ない。下記では各遺構について解説する。

3区1a、1b号竪穴建物（第9・15～24図、PL.10～13・69～74）

**位置** 3区南西壁間、X=28595～28603 Y=-81249～-81255に位置する。

**経過** 令和2年に調査が行われた。不整形の範囲に黒色土が堆積していたことから、竪穴建物として調査を行った。竪穴建物の北西から南東方向にかけて帯状に弥生土器と礫が集中して出土していた。整理作業時には、全体の1/3が攪乱によって不明瞭であるが、1棟の竪穴建物としては大型の建物であり、柱穴と東壁の立ち上がり関係、炉の位置などから、2棟の重複を想定した。想定した建物の規模と形状は、第16図のように示し、aとbに区分した。

**重複** 調査時に確定した遺構範囲や炉の位置関係から、整理作業時に2棟の重複を想定した。aとbの切り合いを想定したが、土層断面からは確認することはできなかった。大部分が攪乱によって壊されており、遺物集中の垂直分布図で新旧関係の判断を試みたが、新旧関係は不明である。

**堆積状況** 5、6層が本建物の埋土に相当する。6層中からは、北西から南東にかけて帯状に、土器と石器類の集中が確認された。出土状況は第15図を確認すると、完形に近い土器が多く、器種は甕が大半を占めた。出土位置は床面より10～15cm浮いている遺物が多いことから、竪穴建物の廃絶時に不要な礫と一緒に廃棄した可能性が考えられる。特に中央部付近に遺物が集中した。

**平面形** 前述した通り、2棟重複を想定しているが、東壁が確認されたのみで、全体像は明らかにできない。他の竪穴建物の形態などから、両者とも隅丸形状であったと判断した。

1a：規模 長軸（5.05）m 短軸（3.20）m  
最大壁高 0.40m

床面積（16.16）㎡ 主軸方位 N-76°-W

1b：規模 長軸（5.40）m 短軸（4.50）m

最大壁高 0.40m

床面積（24.30）㎡ 主軸方位 N-4°-W

**床面** 黄色土をブロック状に含んだ貼り床を確認した。所見が残されていないため、床面の状態は判断できないが、土層注記などから、硬くしまり、硬化していたとみられる。床面に炭化物や焼土がみられたかについても不明である。床面上面で確認した遺物集中について、床面出土遺物と遺物集中出土遺物の区別は、判別がつかず、建物廃絶後の間層もみられないことから、すぐに遺物の廃棄が行われた可能性が高い。

**柱穴** 床面調査時に3基確認できた。形態は不整形を呈していた。深さは、18～23cmと浅いもので、柱痕も不明瞭であり、柱穴とするには心許ない。

P1 長径 0.58m 短径 0.44m 深さ 0.18m

P2 長径 0.24m 短径（0.18）m 深さ 0.18m

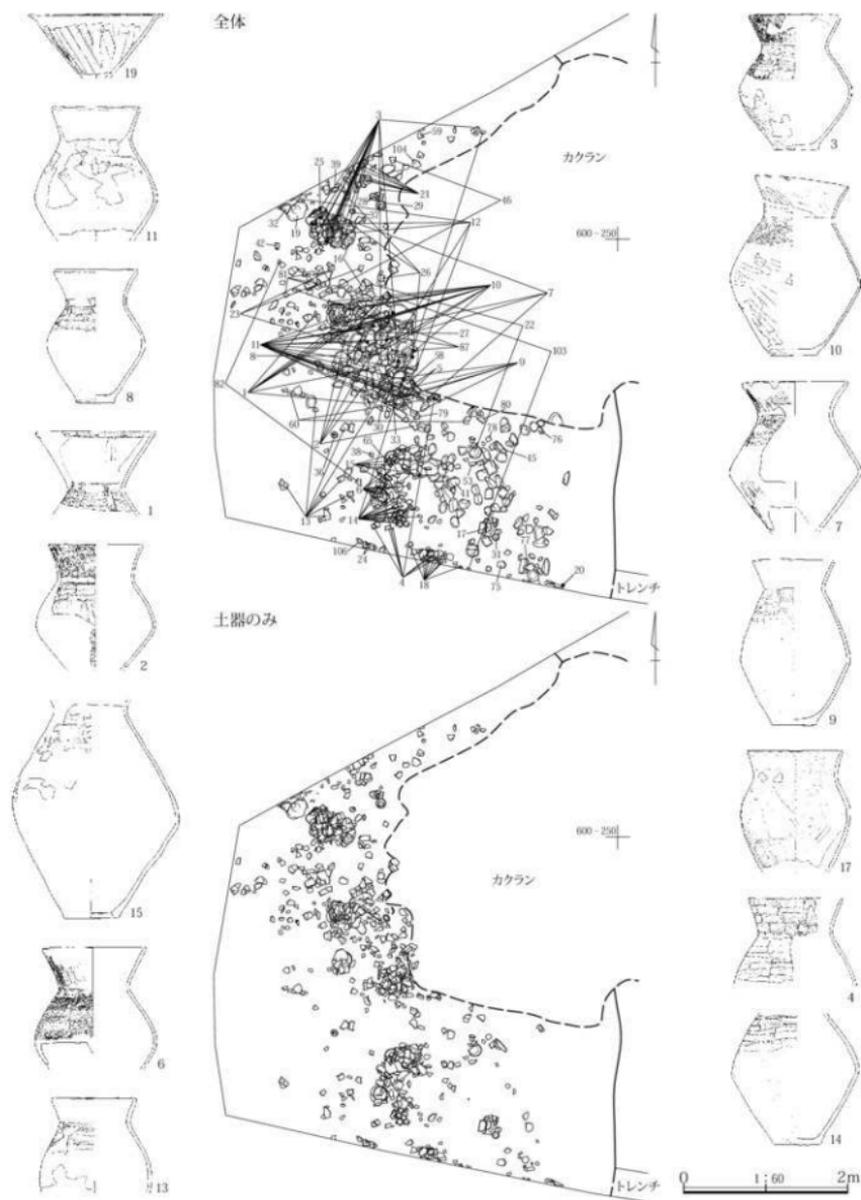
P3 長径 0.22m 短径 0.20m 深さ 0.23m

**炉** 調査時にビットとして調査が行われたが、PL.13-6をみると東側の土層断面に焼土が明瞭に残っていることから、整理作業時に炉と判断した。焼土は、灰、炭化物に混じって東縁辺部で確認された。位置関係から1b号竪穴建物に帰属すると判断した。写真では、黒色土層が焼土を切っているようにも見受けられる。炉が黒色土層を切っているとすれば、1a号竪穴建物が1b号竪穴建物よりも新しいと想定される。

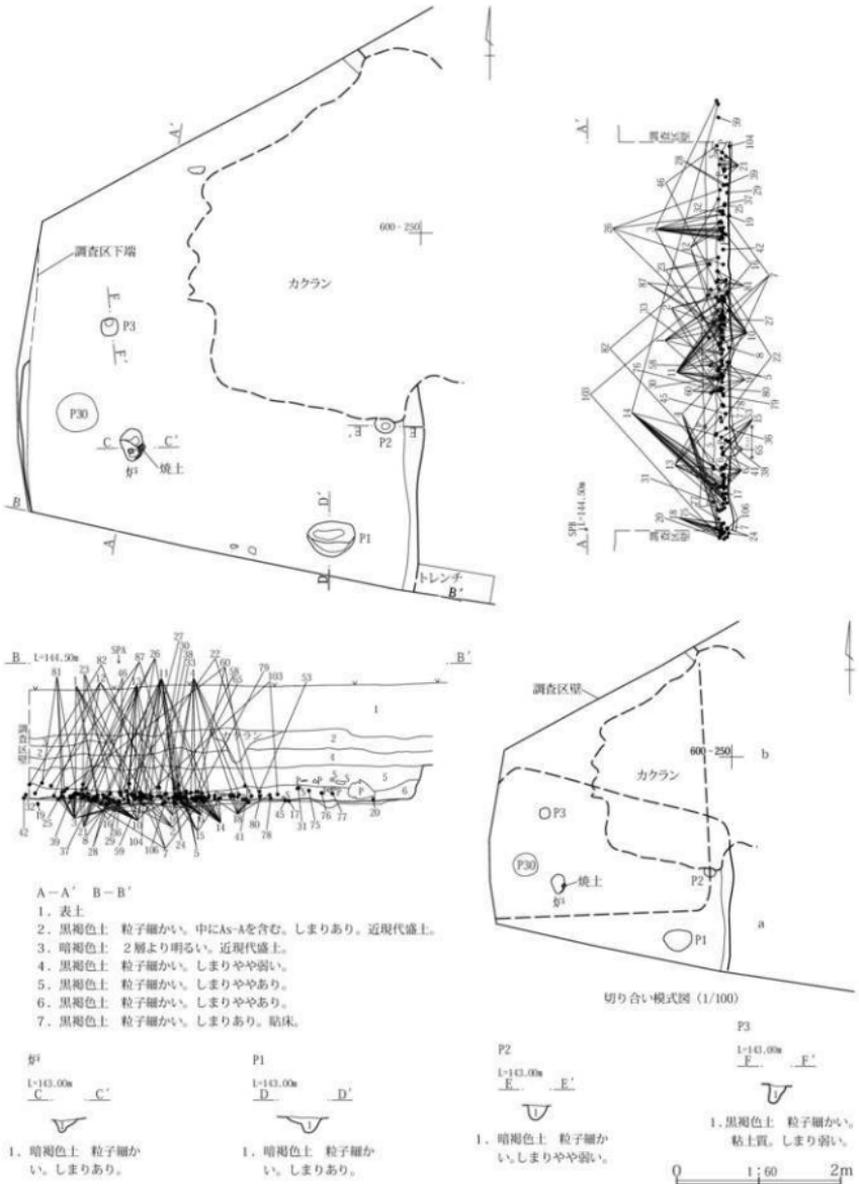
**各施設** 確認できない。

**掘方** 断面図では、貼床の5cm程の中央部において、確認できるが明瞭に残存しておらず、掘方の状態に関する記録もない。土層断面から、掘方まで浅いとみられ、建物構築時に黄色土を掘削後、整地して床面とした可能性が高い。

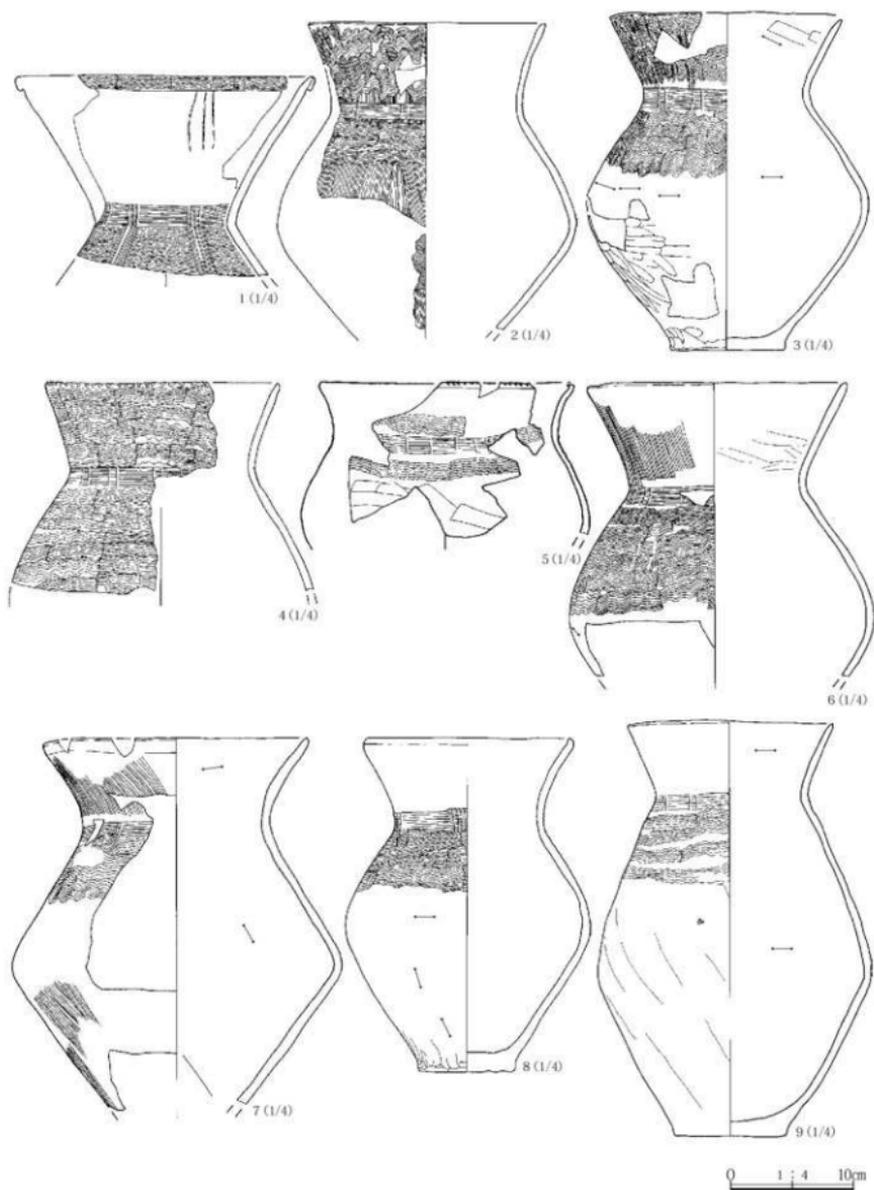
**遺物と出土状況** 本建物の遺物出土状況は、第16図のように、床面から10～15cm浮いた状態で確認した遺物集中からの出土がほとんどである。遺物は第16図のように礫に混じり、多量の土器片が出土した。土器は、完形に近いものが多く、甕が中心である。石器類も礫石器が数点確認された。出土土器、土製品は、100点挙げた（第17図～第24図）。非掲載遺物は、弥生土器が1631点、21985.0g、石が20点、440.0g出土した。遺物集中を中心に完形に近い土器が多く、全体的な様相がわかるため、完形資料を中心に解説する。壺については、1、15、20



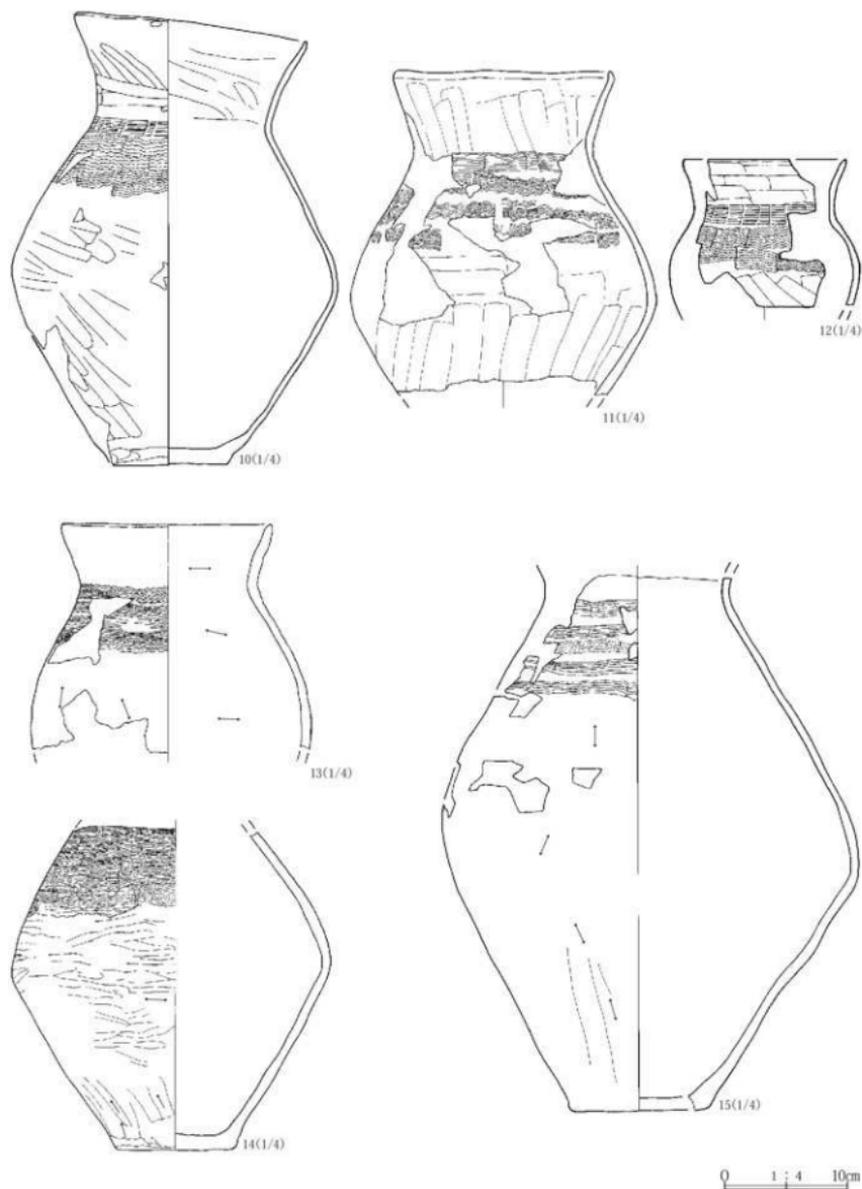
第15図 1号竪穴建物遺物出土分布図



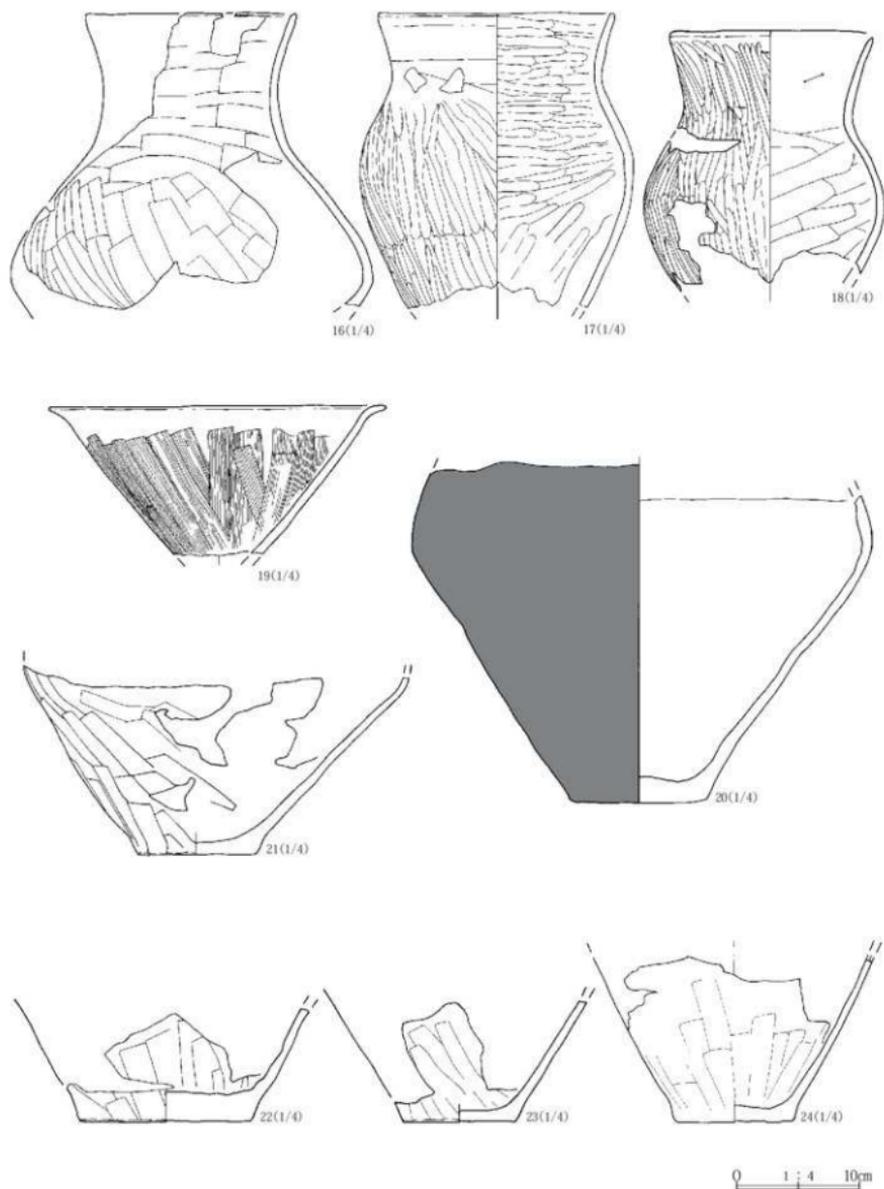
第16図 1号型穴建物



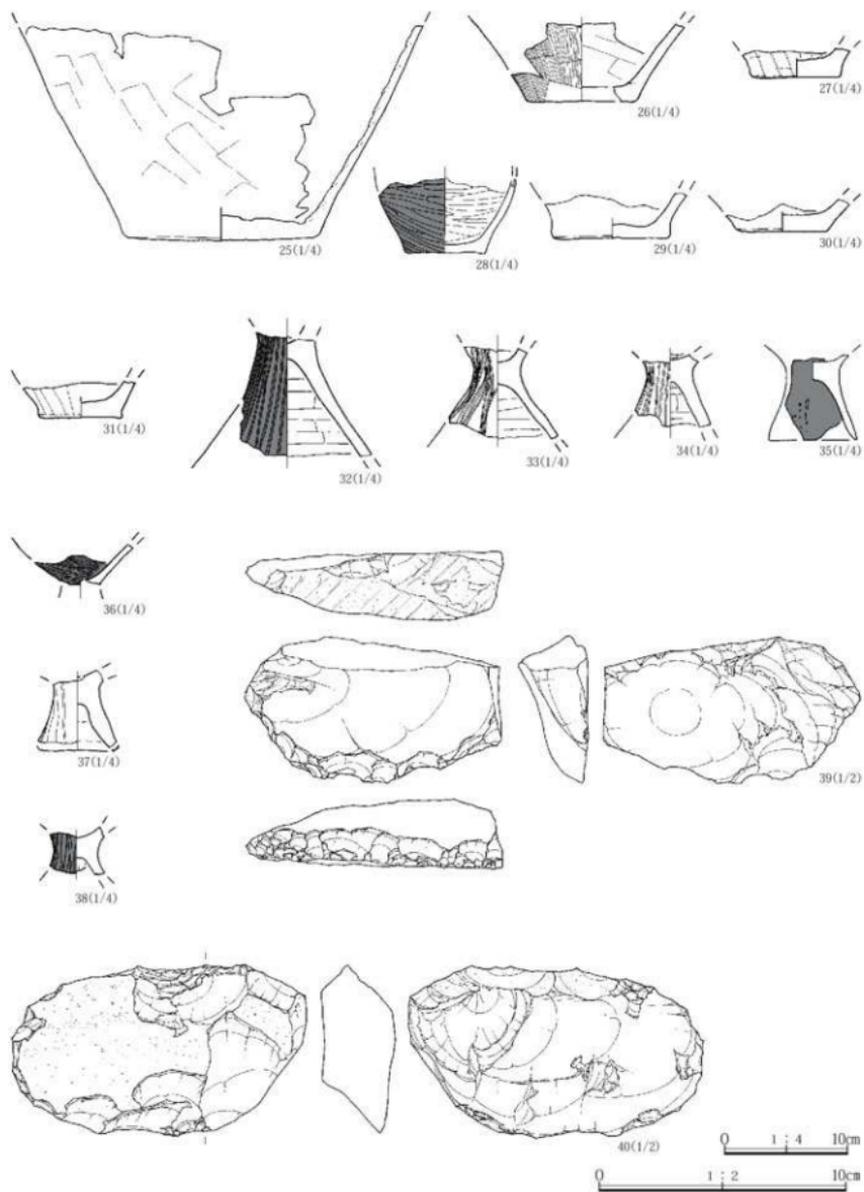
第17図 1号竪穴建物出土遺物(1)



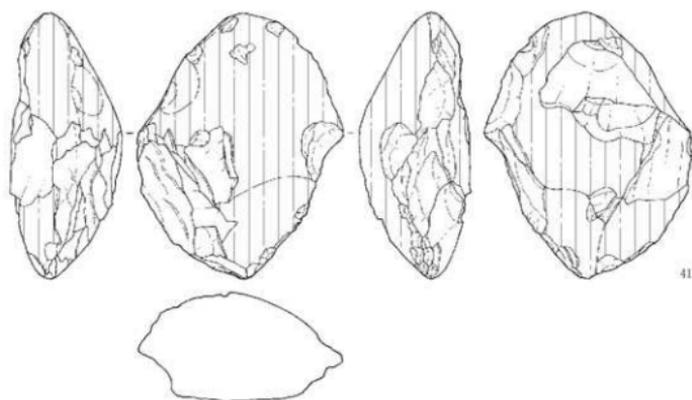
第18図 1号竪穴建物出土遺物(2)



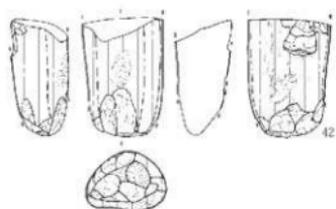
第19図 1号竪穴建物出土遺物(3)



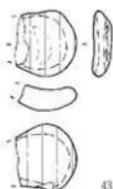
第20図 1号竪穴建物出土遺物(4)



41



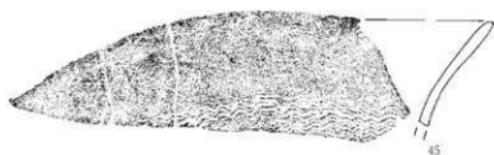
42



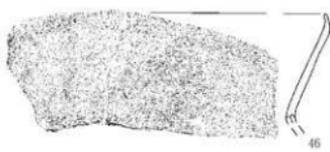
43



44



45



46



47



48



49



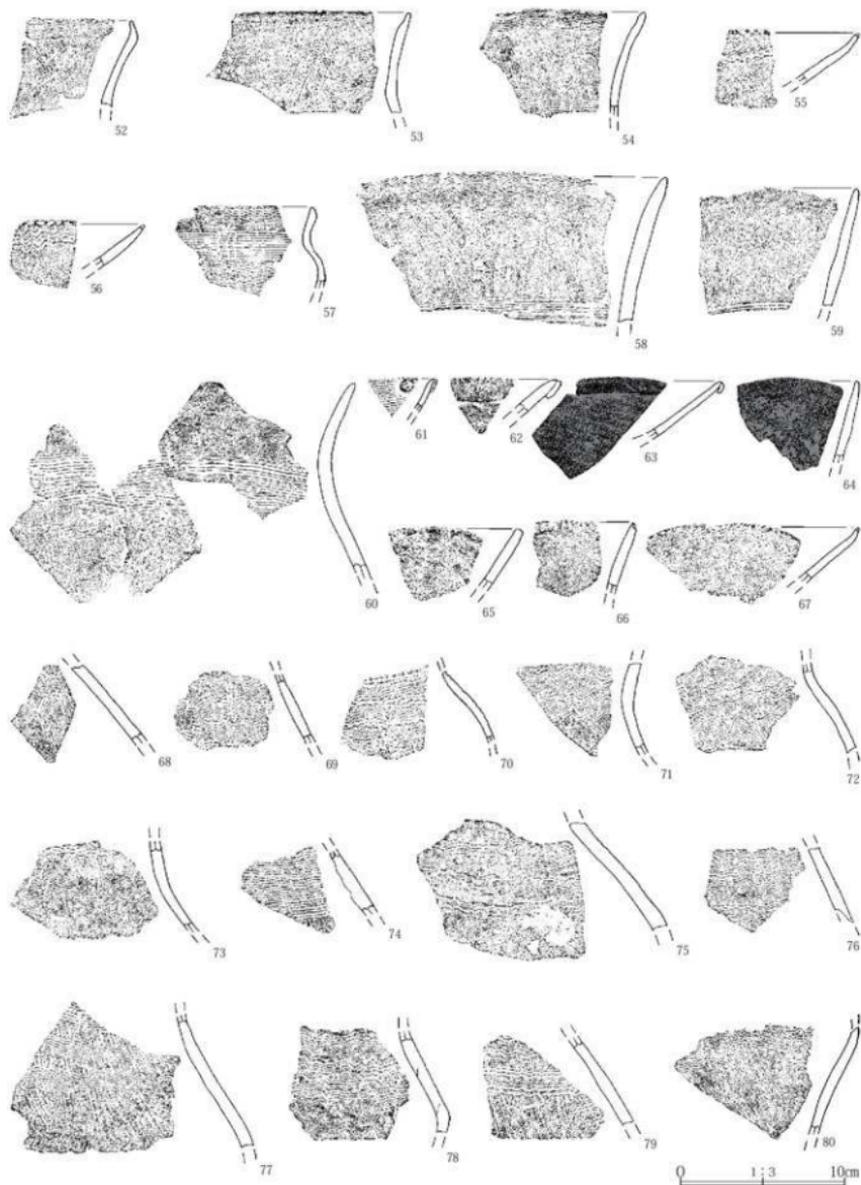
50



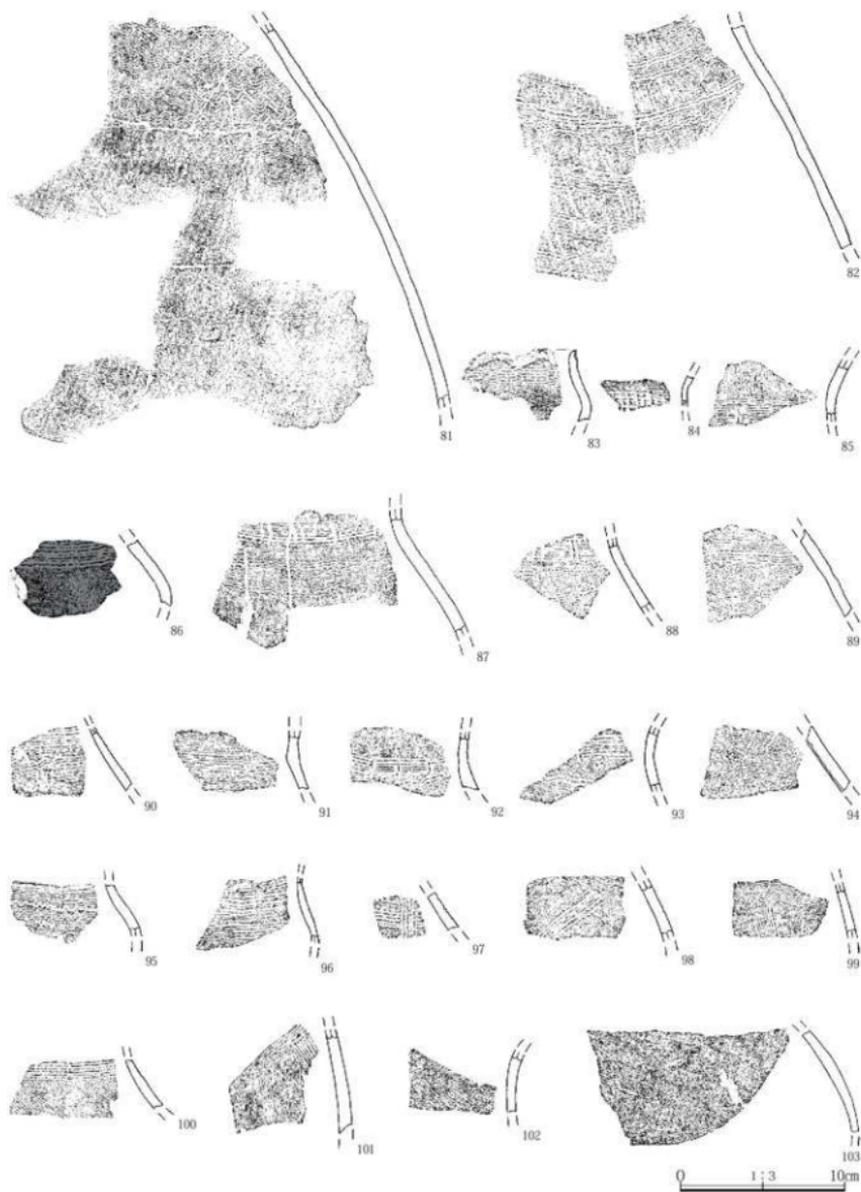
51

0 1:3 10cm

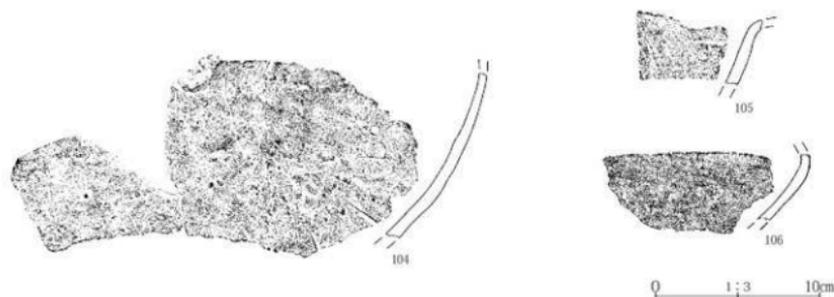
第21図 1号塚穴建物出土遺物(5)



第22図 1号塚穴建物出土遺物(6)



第23図 1号竪穴建物出土遺物(7)



第24図 1号竪穴建物出土遺物(8)

～22、25、28、74、79、81、82、94を挙げた。1は、口唇部と胴部に文様帯を有し、口唇部に櫛描波状文、胴部に櫛描波状文と縦位に櫛描縲状文を施文する。口縁部下位には絵画文を施文する。15は頸部に櫛描縲状文を施文し、下位に崩れた櫛描波状文を施文する。20～22、25、28は底部片で、内面に整形がみられず、25のように輪積み痕を残す個体や、赤彩して磨く個体もある(28)。74、79、81、82、94は胴部片で、内面を磨かない。外面には櫛描波状文、櫛描縲状文、櫛描文を施文する。甕の様相は、3類型が確認でき、以下の通りである。

A：口唇部と胴部に文様帯を形成し、口縁部下位を無文帯とするもの。(45～55、57)

B：口縁部から胴部にかけて櫛描波状文、頸部に櫛描縲状文を施文するもの(2～5)。

C：口縁部を無文帯として、頸部に櫛描縲状文、胴部に櫛描波状文を施文するもの(6～8)。

D：無文のもの(16～18)。

A類は破片資料のみ確認でき、45～55、57が挙げられた。口唇部に刻み文を有するものもみられた(55)。

B類には、口唇部に刻みを伴わないもの(2、3)と伴うもの(4、5)に分かれ、整形方法は、ナデ、ミガキ、ケズリなどがみられ、ナデ整形の個体が多く確認できた。破片資料では、確認できなかった。

C類では口縁部無文帯にケズリまたはナデ整形が施される。櫛描波状文は3～5段、櫛描縲状文は2段のものが多くみられた。破片資料から60～101が挙げられるが、情報量が少ないため、B類の可能性も考えられる。また胴部の櫛描波状文、下位には98、99のような櫛描文を施

す個体も確認できた。

D類には16～18が挙げられ、口縁部を横ナデ、胴部下半を縦ナデする個体がA～C類にも共通して確認できた。17と18のようにナデ整形を施した個体も一定数見受けられた。

類型以外の甕は、23、24、26、27、29～31のような底部が出土した。

甕以外の器種には高坏(19、32、34～38、63、64、105)、台付甕(57、83)、蓋(33)が出土した。

石器は39～44を挙げた。39、40は礫器、41、43、44は磨石、42は敲き石である。磨石は小型で、土器の器面調整具と思われる。

以上のような出土遺物の様相から、樽式3期古段階に比定される。

**所見** 本建物の確認範囲は、1棟としては広範囲であったため、2軒を想定したが、土層の切り合い関係などは不明である。しかし、A断面の遺物垂直分布図を見ると、北側の遺物出土が希薄であること、若干疎らであること、などから模式図の切り合いを想定した。

またが断面では、黒色土層に切られているような様相が確認でき、1a号竪穴建物が1b号竪穴建物よりも新しい可能性も考えられるが、推測の域を出ない。

遺物集中は、甕の完形に近い個体が多く確認され、その他器種については少量で、破片資料にとどまった。本建物廃絶後、煮沸具として利用した甕を廃棄したと考えられる。

**時期** 弥生時代後期(樽式3期古段階)

3区2号竪穴建物(第9・25～30図、PL.14～18・74～76)

**位置** X=28606～28614 Y=-81239～-81246に位置する。3区中央部の西側で確認した。

**経過** 黒褐色土が堆積した隅丸形状の形状を確認したことから、竪穴建物として調査を行った。

**重複** 建物東側は、南北軸に延びる近世に相当する4号溝と4号土坑によって切られている。

**堆積状況** 3～7層は近世以降の堆積層で、3～5層は6層にAs-Aが含有していることから、As-A降下以降の攪乱と考えられる。1、2層が建物の埋没土で、2層は1号竪穴建物と同様、30～50cm程の礫に混じて弥生土器が集中し、炭化物も多く含有する。

**平面形** 調査区外に位置する西壁以外は、確認できた。東壁は6.54m、北壁は5.18mを測る。南壁と東壁の関係は、直角を呈する一方で、北壁と東壁の関係は、北壁が北側へ外反気味の形態を呈する。建物の壁隅は、北東と南東で確認できた。形状は半円状に丸みを帯び、竪穴建物の形態は隅丸方形を呈している。

**規模** 長軸6.54m 短軸(5.18)m 最大壁高0.35m

**床面積** 33.88㎡ **主軸方位** N-15°-E

**床面** 確認面から約35cmの深さで黄色土の床面を確認した。床面の状態は所見がないため不明だが、遺構写真から、床面直上で炭化材が集中した部分が確認できる。床面には炭化材のみで、焼土や灰などが確認できないことから、焼失建物ではないと判断した。

**柱穴** 床面調査時に7基確認された。うちP2からP5は、主柱穴である。P3からP4間は2.1m、P4からP5は2.7mを測る。P3とP5は柱穴の東側に抜き取り痕が確認できた。

その他の柱穴について、P4の南側に位置するP6、P7は、用途は不明だが、深さは柱穴と同じ深さを有しており、主柱穴に関連した構造物の可能性がある。南壁よりに位置するP1は位置関係などから、入口施設の可能性があると考えられる。各柱穴の規模は以下の通りである。

P1	長径 0.30m	短径 0.24m	深さ 0.36m
P2	長径 0.41m	短径 0.32m	深さ 0.28m
P3	長径 0.44m	短径 0.41m	深さ 0.31m
P4	長径 0.44m	短径 0.38m	深さ 0.27m
P5	長径 0.68m	短径 0.43m	深さ 0.40m
P6	長径 0.44m	短径 0.38m	深さ 0.27m

P7 長径 0.19m 短径 0.15m 深さ 0.26m

**炉** 建物の北側、P3とP4の間で確認された。P3からは70cm、P4からは90cmの位置関係にある。炉の正面には廃絶時に投棄された礫や土器片が混在する。炉の形態は南北に長い不整形を呈し、75cm×50cmを測る。断面は皿形で深さ6cmを測り、土層には焼土や炭化物を含有する。

炉の中央部には、炉の主軸と直交する形で30cm程の棒状の結晶片岩が配置されており、火熱痕が明瞭であった。配置状況から炉石と考えられる。炉石の下面にも焼土がみられるが、炉石と位置関係から、動いている可能性は低いと判断した。

**各施設** P1は南壁との位置関係などから入口施設の可能性があると考えられる。

**掘方** 確認されていない。建物構築時に黄色土を掘削後、整地して床面とした可能性が高い。

**遺物と出土状況** 6層中に礫にまじって大型片が多量に出土した。弥生土器、土製品は56点挙げた。弥生土器では、甕が多く出土した。非掲載についても777点、13137.0gが出土し、掲載資料と相違ない。甕の類型では、A～C類が確認でき、C類が主体を占めた(2、23、29、36～51、54)。C類の中には、54のように櫛描文を伴う個体もみられた。頸部の櫛描襷文は2段施文する土器が多く、櫛描波状文は全体像がわかるものは少ないが、1～3段を基本とする。他の類型は3、26、27、30はA類、1と28は、B類に該当する。A類は全体像が確認できないが、28は口唇部が内側へくの字状に屈曲し、前段階の様相を残している。B類の施文はC類と変わらず、口唇部が鋭角に整形される

甕以外には、壺(14、52、53)、台付甕(5、9)、高坏(10、31、55)、甕(17)が出土した。土製品類は異形土器(20)、ミニチュア土器(21)、紡錘車(22)が出土した。

また4世紀に比定される高坏(6～8、11)も出土しており、古墳時代に廃棄されたとみられる。以上のような出土遺物の様相から、樽式2期新段階に比定される。

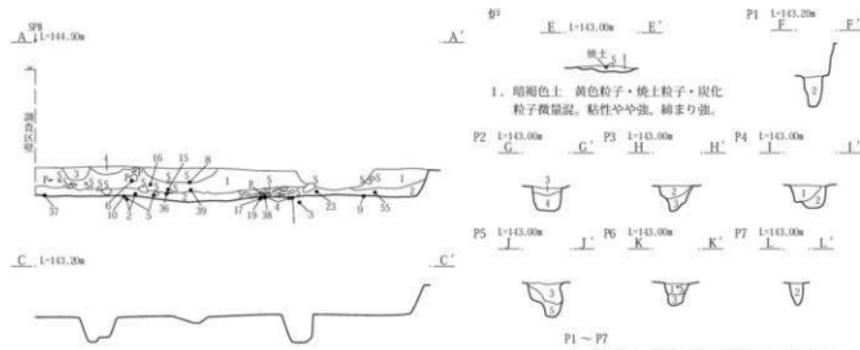
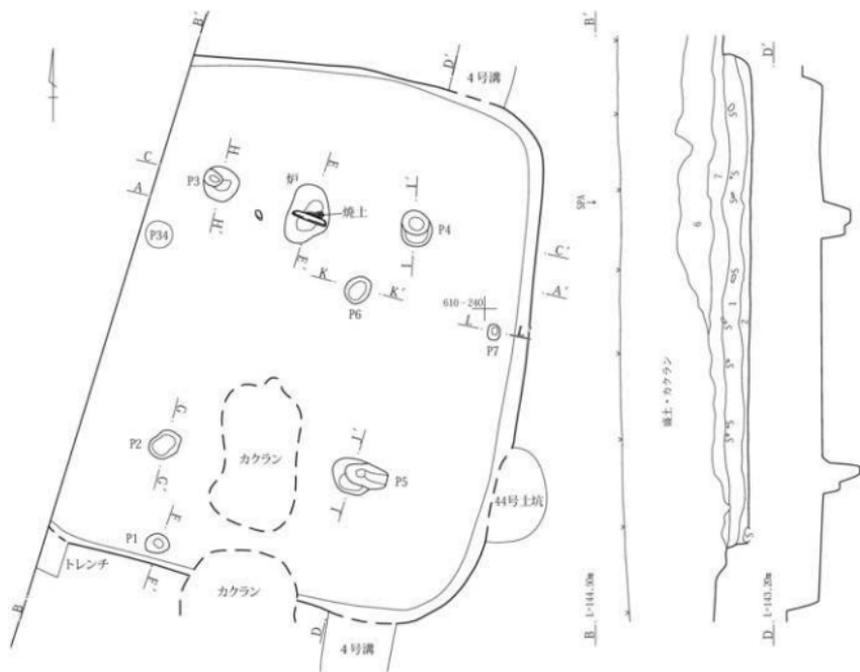
**所見** 床面直上に遺物集中がみられ、建物廃絶後の早い段階で、廃棄が行われたと考えられる。器種は1号竪穴建物で確認できた様相と同じで、甕類が多い傾向にある。

炉と柱穴との配置関係をみると、入口は南壁側と考えられ、P1も入口施設として捉えられる。

**時期** 弥生時代後期(樽式2期新段階)

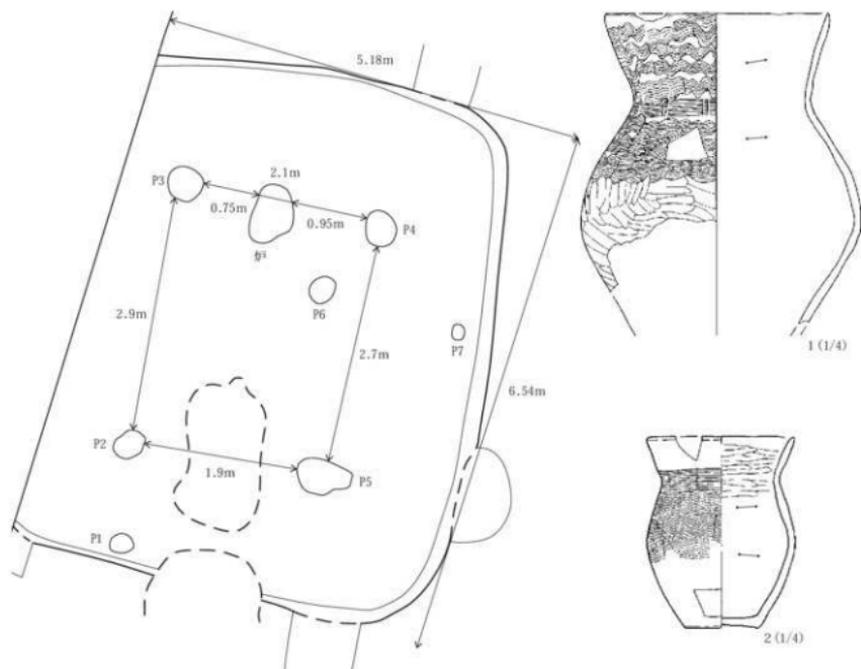


第25図 2号竪穴建物遺物出土分布図

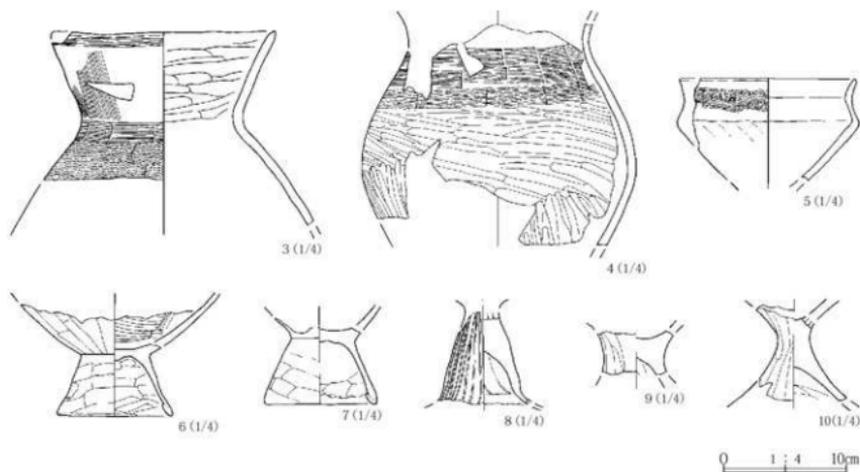


- A-A' B-B'
1. 黒褐色土 白色粒子・焼土粒子・炭化粒子微量混。さめ細かい。粘性やや強、しまり強。
  2. 暗褐色土 白色粒子・黄色粒子極微量混。部分的に炭化物多量混。粘性やや強、しまり強。
  3. 黒褐色土 砂粒少量混。粘性やや強、しまり強。堅穴建物より新しい埋土。
  4. 黒褐色土 As-A・砂粒少量混。粘性やや強、しまり強。堅穴建物より新しい埋土。
  5. 暗褐色土 炭化物少量、砂粒微量混。粘性やや強、しまり強。堅穴建物より新しい埋土。
  6. 黒褐色土 As-A中層混。粘性やや弱、しまり強。
  7. 黒褐色土 白色粒子・黄色粒子極微量混。さめ細かく粘性やや強、しまり強。
1. 暗褐色土 黄色粒子・焼土粒子・炭化粒子微量混。粘性やや強、しまり強。  
 2. 暗褐色土 粒子細かい。しまりあり。  
 3. 暗褐色土 粒子細かい。褐色土ブロック多量混。しまりあり。  
 4. にぶい黄褐色土 粒子細かい。しまりあり。  
 5. 暗褐色土 粒子細かい。褐色土ブロック少量混。しまりあり。
- 0 1:60 2m

第26図 2号堅穴建物



第27図 2号竪穴建物計測図

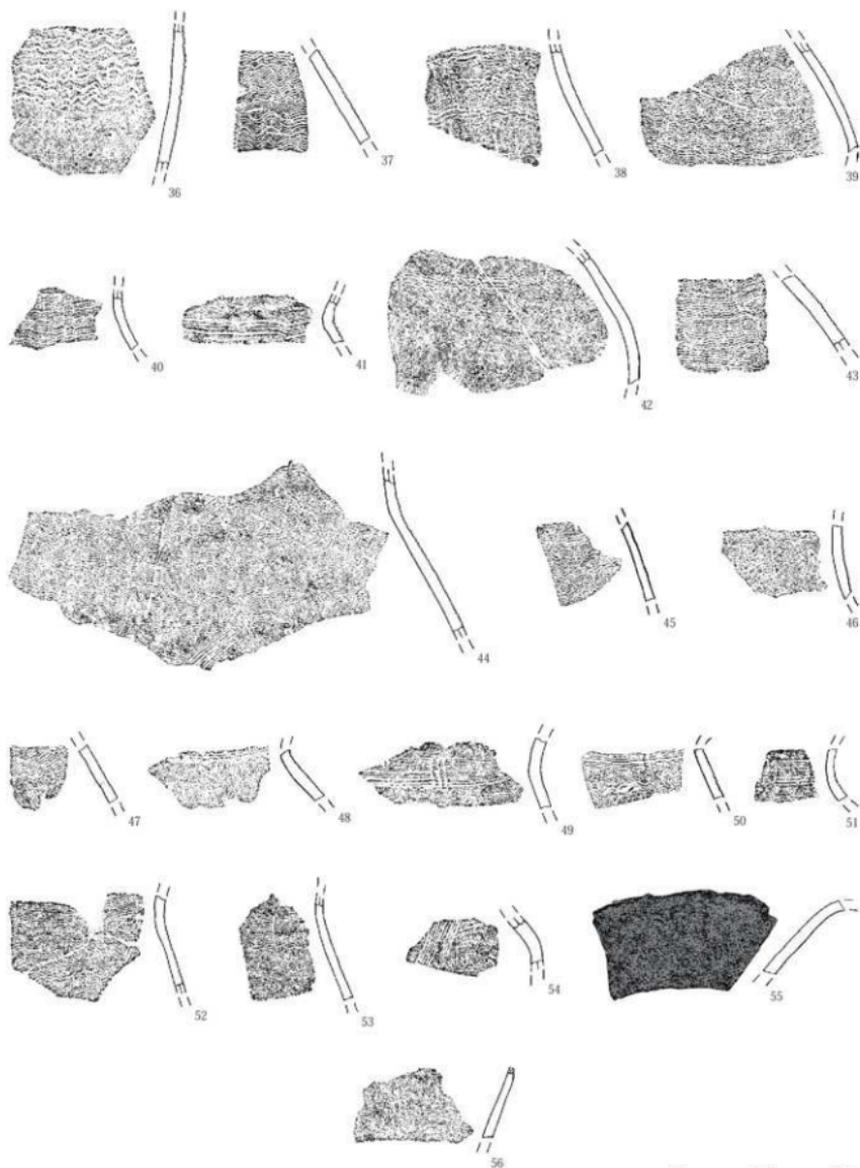


第28図 2号竪穴建物出土遺物(1)

第3章 調査された遺構と遺物



第29図 2号竪穴建物出土遺物(2)



第30図 2号堀穴建物出土遺物(3)

4区3号竪穴建物 (第9・31～33図、PL.18・19・76)

位置 X=28656～28663 Y=-81227～-81231

経過 令和2年度に調査が行われ、4区北側において確認された。竪穴建物の2/3が調査され、北西部分は調査区外に位置する。

重複 南側を近世に相当する4、6号溝によって切られる。

堆積状況 確認面から床面までの堆積は浅く、15cmの堆積であった。周囲に近世の遺構が多く確認されていることから、近世の頃に削平されたと考えられる。確認された竪穴建物の状況から、本来は1m前後の深さを有していたと想定される。1、2層は、竪穴建物廃絶時の堆積土で、1層に弥生土器や礫を含有していた。

平面形 東壁と南壁は直線的に構築され、北壁は一部のみ確認できたが、外側へ膨らんだ様相を呈している。竪穴建物の形態は、北西隅は調査区外、南西隅は4号溝によって切られているが、北東隅と南東隅の形状から、隅丸長方形を呈していると判断される。

規模 長軸 (5.64)m 短軸 (4.10)m 最大壁高0.15m

床面積 (23.12)m<sup>2</sup> 主軸方位 N-21°-W

床面 確認面から15cmの深さで貼床を確認した。貼床は、黄褐色土をブロック状に含有した土で形成され、硬くしまっていた。焼土や炭化物の有無などは所見がないが、写真からは炭化物の散布が確認できる。焼土は確認できないことから、焼失家屋ではないと判断される。

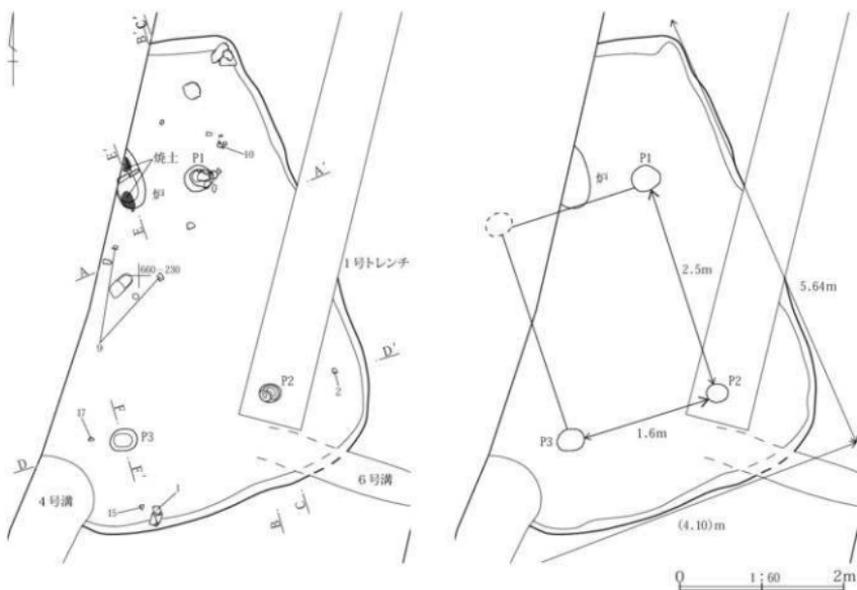
柱穴 床面調査時に3基を確認した。各柱穴の関係は、P1とP2間は2.5m、P2とP3は1.6mを測る。柱穴の性格は、壁と平行するように並んでいること、等間隔であること、断面図をみると同様の深さを有していることから、主柱穴と判断される。柱穴には抜き取り痕や根固めの痕跡などは確認できない。各柱穴の規模は以下の通りである。

P1 長径 0.35m 短径 0.31m 深さ 0.37m

P2 長径 0.26m 短径 0.23m 深さ 0.36m

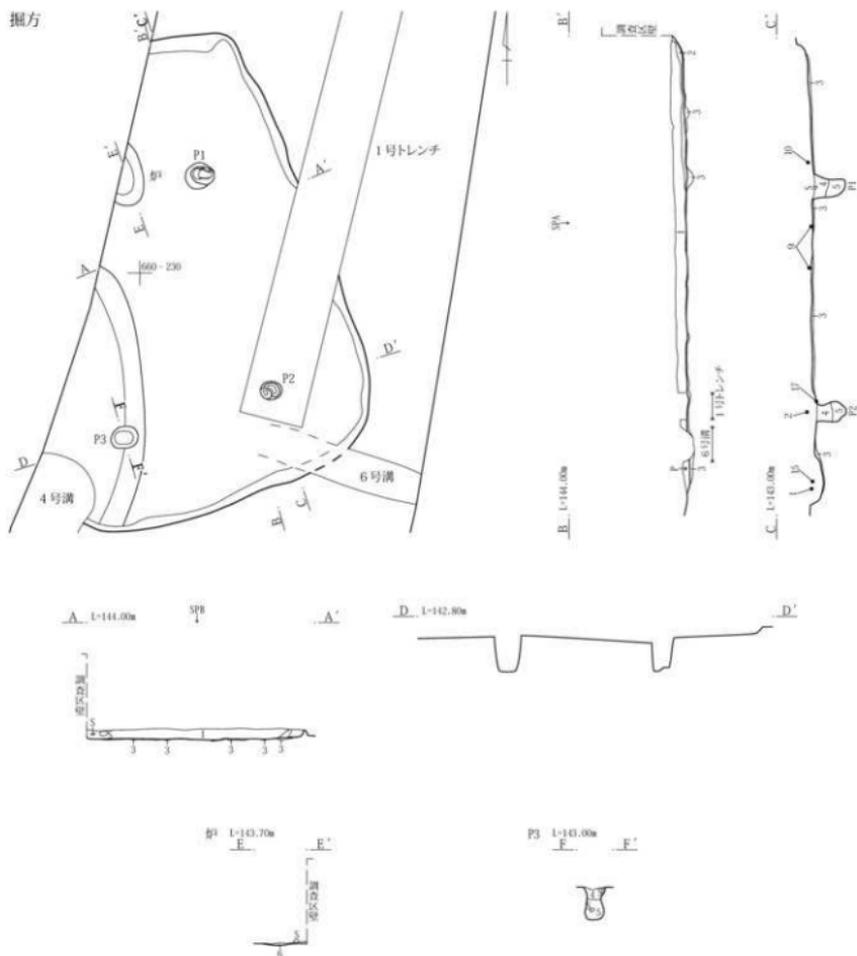
P3 長径 0.33m 短径 0.26m 深さ 0.38m

炉 竪穴建物北西側、P1から50cm西側で確認した。北西側は調査区外に位置するため、全体像は不明であるが、長軸約75cm、短軸35cmの長円形状を呈する。柱穴と炉との位置関係は、西側が不明であるが、他の竪穴建物から



第31図 3号竪穴建物 (1)

掘方



1. 黒褐色土 粒子細かい、しまりややあり。所々に黄褐色土ブロック混入。
2. にぶい黄褐色土 粒子細かい、しまりあり。
3. 黒褐色土 黄褐色地山ブロック混。しまりやや強い、粘床。
4. 黒褐色土 粒子細かい、しまりあり。所々に褐色土ブロック混入。
5. 黒褐色土 粒子細かい、しまりやや弱。
6. 暗褐色土 粒子細かい、黄土を含む。褐色土ブロックあり、しまりあり。

0 1:60 2m

第32図 3号竪穴建物(2)

推測すると、左右対称の位置に構築されたと考えられる。炉内には、中央部に炉の主軸方向と直交する状態で30cmほどの棒状の結晶片岩が縦に配置されており、火熱痕が明瞭であった。炉の覆土には焼土や炭化物、灰を含有していた。断面は皿形で、深さ6cmを測る。

**各施設** 確認されていない。

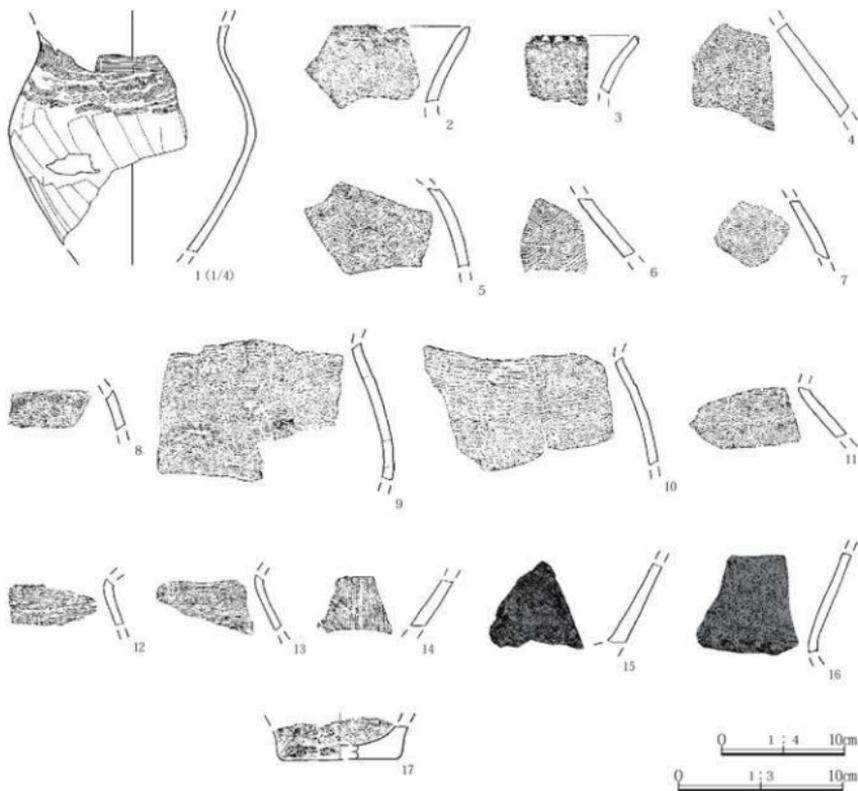
**掘方** 貼床から掘方までは浅く、基底面は若干凹凸し、南西部は緩く下がっていた。建物構築時に黄色土を掘削後、整地して床面としたと判断される。

**遺物と出土状況** 床面直上に、礫とともに、弥生土器の大型片が出土した。出土分布は炉の周辺と南西部に集中

する。弥生土器は17点掲載した。器種は甕を中心に出土し、類型はB類のみに限られた(1~14、16)。1は口縁部の様相が不明であるが、頸部に2段の櫛描波状文と下位に4段の櫛描波状文を施文している。非掲載遺物では276点、3040.0gが出土した。甕には口唇部に刻みを伴うものも確認できた(3)。その他に高環(15)が出土した。以上のような出土遺物の様相から、樽式2期新段階に比定される。

**所見** 確認面が浅く、残存状態が良好ではないが、出土遺物から、樽式期の隅丸長方形の竪穴建物と判断される。

**時期** 弥生時代後期(樽式2期新段階)



第33図 3号竪穴建物出土遺物

## 4区4号竪穴建物 (第9・34～36図、PL.20・21・76)

位置 X=28649～28655 Y=-81230～-81234

経過 4区中央部西壁よりで、方形の形状を確認したことから、竪穴建物として調査が行われた。

重複 西側を4号溝で壊されている。

堆積状況 確認面から床面までの堆積は浅く、10cm程の堆積であった。周囲に4号溝など近世の遺構が多く確認されていることから、近世の頃に削平されたと考えられる。確認された竪穴建物の状況から、本来は1m前後の深さを有していたと想定される。1、2層は、竪穴建物廃絶時に堆積した土で、黄褐色土をブロック状に含有し、特に1層に弥生土器や礫を含有していた。

平面形 竪穴建物の1/3は調査区外に位置するため、様

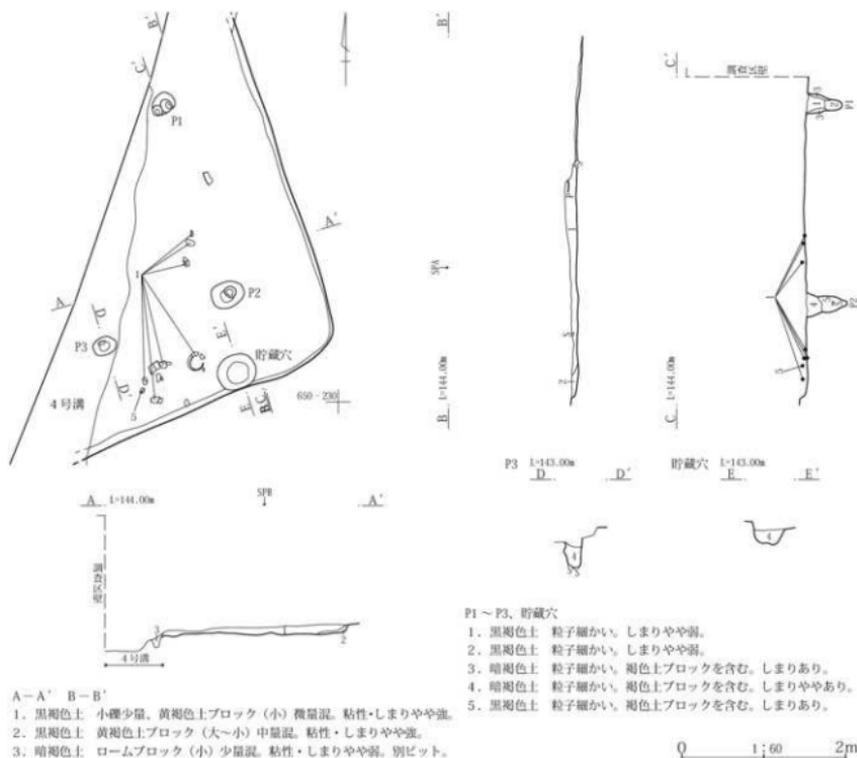
相は不明である。確認できた東壁と南壁は直角に構築され、南東壁は丸みを帯びていることから、隅丸方形の建物であったと判断される。隅は直角に近い状態で形成されていた。

規模 長軸(4.22)m 短軸(3.40)m 最大壁高0.12m

床面積 (14.35)m<sup>2</sup> 主軸方位 N-18° -W

床面 床の状態、焼土、炭化物の有無については、所見はないが、写真から部分的に焼土が散っている状態が確認できる。炭化物の出土は少なかったとみられ、灰も確認できないことから、焼失家屋ではないと判断される。床面の状態は、貼床や硬化面などは確認できないが、写真からある程度しまっていたと想定される。

柱穴 床面の調査時に3基確認された。P1とP2間は2.2



第34図 4号竪穴建物

### 第3章 調査された遺構と遺物

m、P2とP3間は、1.3mを測る。これらの柱穴が壁と並列し、等間隔であること、深さが一定であることなどから、本建物の支柱穴と判断される。柱穴には抜き取り痕や根固めの痕跡などは確認できない。各柱穴の規模は以下の通りである。

P1 長径 0.31m 短径 0.23m 深さ 0.43m

P2 長径 0.40m 短径 0.31m 深さ 0.50m

P3 長径 0.29m 短径 0.22m 深さ 0.34m

**炉** 確認されていない。本遺跡で確認した竪穴建物の様相から、調査区外にあると推察される。

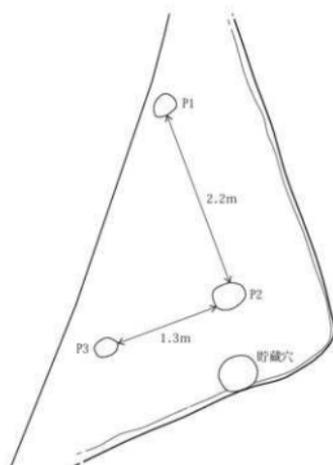
**各施設** 南壁際のP2付近に貯蔵穴が確認された。調査時にはP4として調査が行われたが、形態や確認位置などから、貯蔵穴と判断した。形態は円形を呈している。

**掘方** 確認されていない。建物構築時に黄色土を掘削後、整地して床面とした可能性が高い。

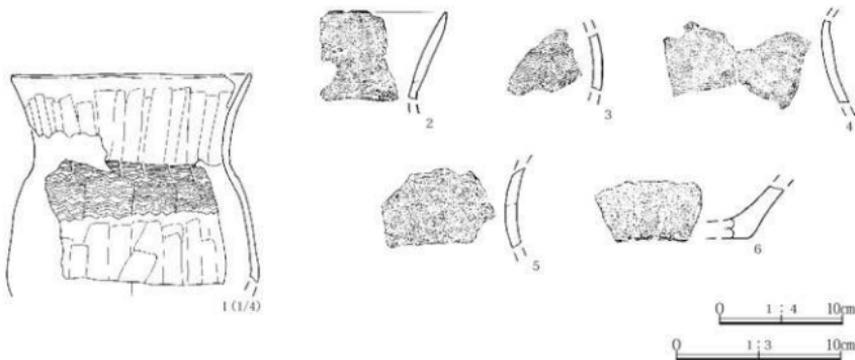
**遺物と出土状況** 建物南側に遺物が集中し、床面直上の出土が中心であった。弥生土器は6点掲載した。非掲載遺物は54点、890.0gである。器種は甕が出土し、B類に限られた(1、2、4~6)。1は逆位の状態で出土し、廃棄直後の位置を保っていると考えられる。他には壺が出土した(3)。以上のような出土遺物の様相から、樽式2期新段階に比定される。

**所見** 確認面が狭く、残存状態が良好ではないが、弥生土器の器種の傾向は他の竪穴建物で確認できた様相と同じく、甕類が多い傾向にある。出土遺物から、樽式2期新段階の隅丸方形の竪穴建物と判断される。

**時期** 弥生時代後期(樽式2期新段階)



第35図 4号竪穴建物計測図



第36図 4号竪穴建物出土遺物

4区5号竪穴建物（第9・37～40図、PL.21～23・77・78）

位置 X=28641～28647 Y=-81229～-81234

経過 令和2年度調査で確認した。4区南側に位置し、隅丸長方形の形状を確認したことから、竪穴建物として調査が行われた。

重複 なし。

堆積状況 確認面から床面までの堆積は浅く、最大23cm程の堆積であった。周囲に近世の遺構が多く確認されていることから、近世の頃に削平されたと考えられる。確認された竪穴建物の状況から、本来は1m前後の深さを有していたと想定される。1層は、竪穴建物廃絶時の堆積土で、黄褐色土をブロック状に含有し、特に1層に弥生土器や礫を含有していた。

平面形 すべて壁がほぼ直角に構築され、隅は丸みを帯び、建物が隅丸長方形を呈している。

規模 長軸 4.86m 短軸 3.63m 最大壁高 0.23m

床面積 16.61㎡ 主軸方位 N-0°

床面 確認面から、23cmの深さで厚さ10cmほどの貼床を確認した。貼床は地山の黄色土層を用い、粘性が強く、硬くしまっていた。焼土、炭化物の有無については、所見はないが、写真から部分的に焼土が散っている状態が確認できる。炭化物の出土は少なかったとみられ、灰も確認できないことから、焼土家屋ではないと判断される。

柱穴 床面調査時に7基確認された。P2とP5間は2.15m、P4とP5間は1.1m、P2とP3は1.3mを測り、等間隔であること、深さが一定であることから、主柱穴と判断される。P2とP3の南側にはP6とP7が確認された。両柱穴間は0.35m、西壁から1.5m、東壁から1.1m、南壁から0.39mの位置に構築されていた。形態や深さが同じ様相を呈していることから、一連の遺構と捉え、入口施設と想定した。これらの柱穴には抜き取り痕や根固めの痕跡などは確認できない。それぞれの柱穴の規模は以下の通りである。

P1	長径 0.36m	短径 0.26m	深さ 0.06m
P2	長径 0.37m	短径 0.28m	深さ 0.49m
P3	長径 0.40m	短径 0.32m	深さ 0.54m
P4	長径 0.44m	短径 0.32m	深さ 0.42m
P5	長径 0.28m	短径 0.18m	深さ 0.48m
P6	長径 0.31m	短径 0.30m	深さ 0.27m
P7	長径 0.28m	短径 0.19m	深さ 0.23m

炉 確認されていない。柱穴等の位置関係から、試掘調査によって設けられた2号トレンチ部分に構築されていたと考えられ、調査時に失われたと判断される。

各施設 南東隅に貯蔵穴が確認された。形態は円形を呈している。北側には有段状の掘り込みを確認した。堆積土層は2層堆積していた。炭化物などの含有の有無については所見がないため、不明である。

掘方 建物の床面より5cm程掘り窪められて形成されていた。平面図からは、中に段を設ける様相のみ判断できる。写真では、工具痕も若干認められるが、不明瞭である。

遺物と出土状況 遺物の出土状況は特異性はなく、床面直上の出土を中心に30cmほどの礫とともに、弥生土器が散在する様相を呈している。1、3、10、11、22、25は、床面から5～10cm高い位置で出土した。出土遺物の中で弥生土器は27点掲載した。非掲載遺物は土器は164点、2712.0g、石は7点、35.0gである。器種は壺、甕、台付甕、高坏が出土した。

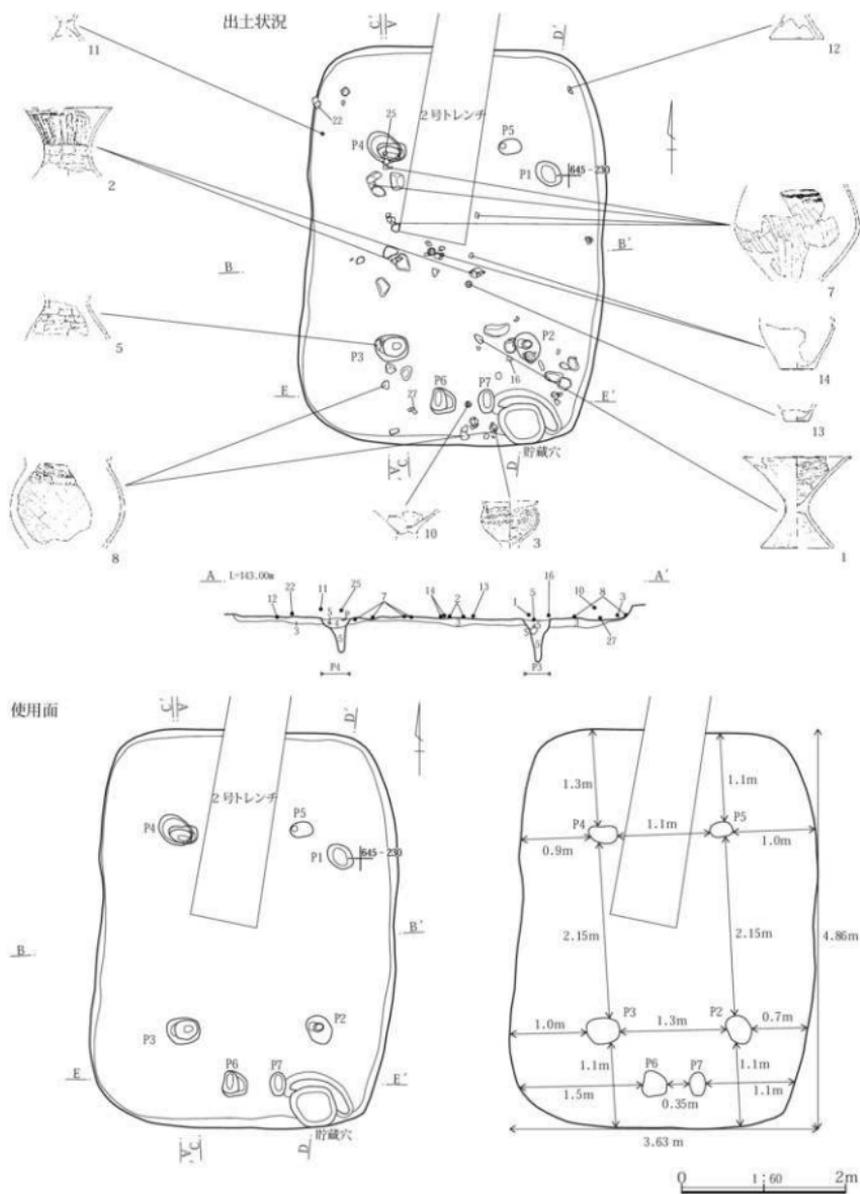
甕はB類、C類が確認できた。B類は5、6、16である。C類は7、8、24～26で、26は絵文が施文されている。壺は2、14、15、22、23が挙げられ、口縁部にはハゲメ整形を施し、頸部に櫛波状文、胴部に櫛波状文を施文する。他には15のように紐線文に押捺を施すもの、22のように櫛波文を施文するもののみ見られた。

台付甕は3、4、18、19、高坏は1、10～12が出土した。台付甕はくびれ部の屈曲がやや緩く、ボタン状の貼付文を有する個体も確認できた(18)。11はミニチュアの高坏で、21もミニチュア土器である。これらの調整は、ナデ整形が中心であった。以上のような出土遺物の様相から、樽式2期新段階に比定される。

所見 本遺跡で確認した竪穴建物の中では、唯一全体が調査された竪穴建物である。竪穴建物の規模は、他の竪穴建物の規模からみても同様の建物と考えられる。P6とP7については、6号竪穴建物でも同様の遺構が確認されていることや周辺遺跡で確認された竪穴建物の様相から、入口施設と考えられる。出土遺物は、甕に関しては全体像がわかる土器がみられなかったが、他の竪穴建物から出土した土器と比較して、樽式2期新段階の隅丸長方形の竪穴建物と判断した。

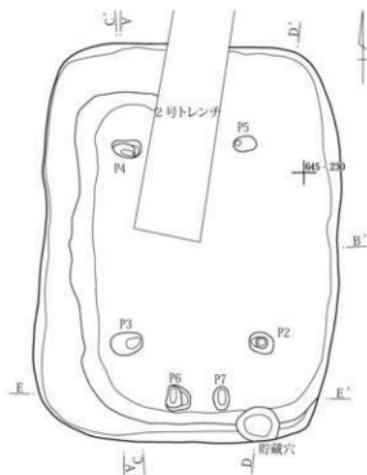
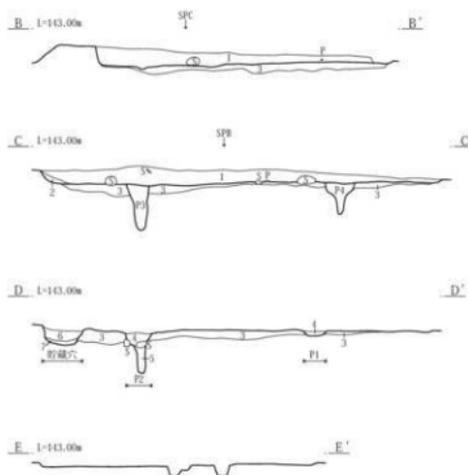
時期 弥生時代後期（樽式2期新段階）

第3章 調査された遺構と遺物



第37図 5号貯蔵穴建物(1)

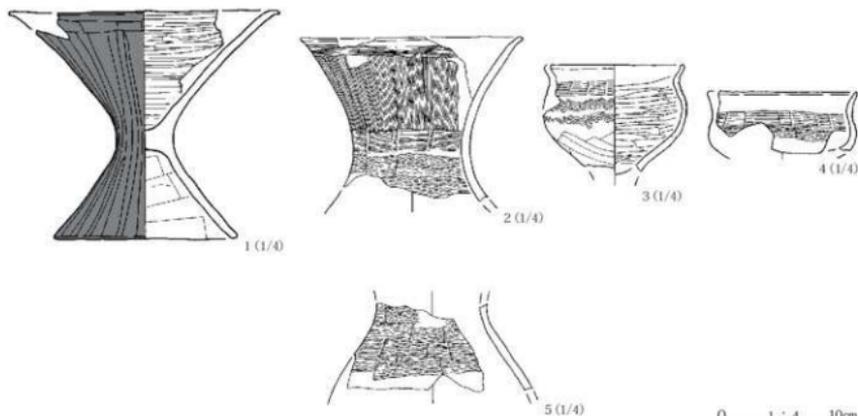
掘方



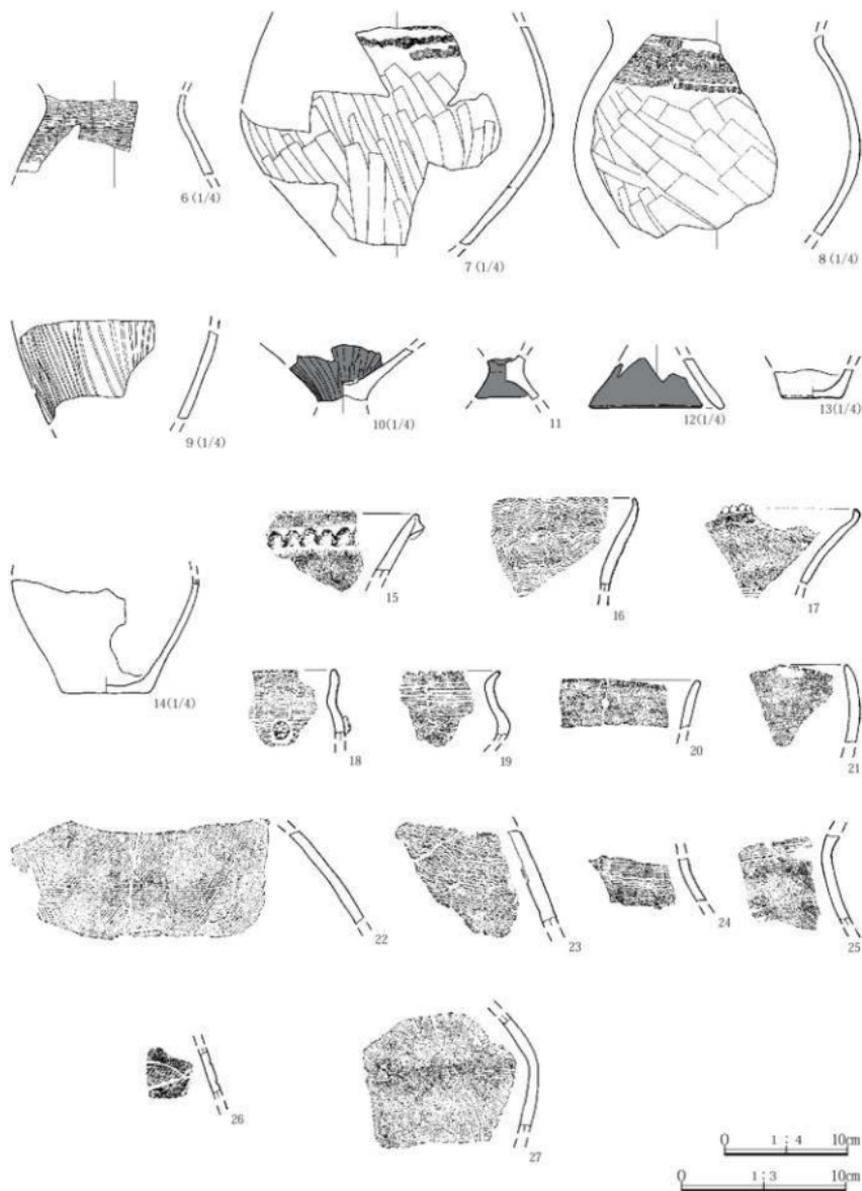
1. 暗褐色土 粒子細かい、中に褐色のブロックを含む。しまり弱い。
2. 褐色土 粒子細かい。しまりあり。
3. 黒褐色土 粘土ブロック(中～小) 中量混。粘性やや強。しまり強。陥床。
4. 暗褐色土 粒子細かい。しまりあり。
5. 暗褐色土 粒子細かい。褐色土ブロックを含む。しまりあり。
6. 暗褐色土 粒子細かい。しまりややあり。
7. 暗褐色土 粒子細かい。しまりややあり。

0 1:60 2m

第38図 5号竪穴建物(2)



第39図 5号竪穴建物出土遺物(1)



第40図 5号竪穴建物出土遺物(2)

## 5-5区6号竪穴建物(第10・41・42図、PL.24・25・78)

位置 X=28605 ~ 28608 Y=81282 ~ 81289

経過 令和3年度調査において、5-5区東隅で確認した。

重複 竪穴建物の南側を近世に相当する72、75号土坑によって切られている。

堆積状況 上面は近世期の開発や擾乱などにより、著しく壊されており、堆積、埋没状況は悪く、確認面から床面までは15cm前後であった。堆積土層は、5層以外は近世以降の造成による土層である。廃絶した竪穴建物の埋没土として確認できるのは5層のみで、覆土中には炭化材や焼土などの夾雑物は確認できず、床面直上に弥生土器を含有していた。

平面形 調査されたのは竪穴建物全体の1/4のみで、それ以外の北側部分は調査区外に位置するため、全体像は不明である。壁面は、東、南、西壁の一部が確認でき、立ち上がりが15cm程と浅い。これらの壁は直線的に構築され、東側はやや東へ反気味である。隅は、南西、南東隅が確認でき、丸みを帯びていた。全体像は不明であるが、本遺跡で確認された竪穴建物の状況から、隅丸長方形と考えられる。

規模 ほとんどが調査区外に位置するため、全体像や長軸の規模は不明である。短軸は東壁と西壁から5.91mを測る。長軸 — 短軸 5.91m 最大壁高0.15m

床面積 — 主軸方位 N-5° -E

床面 確認面から15cmの深さで確認した。周辺の竪穴建物の状況から踏まえると本来は1m程の高さを有していたと想定される。床面は貼床や硬化面などは確認できなかった。地山層に相当する黄色土を平坦に形成し、床としたと考えられる。床面には、部分的に焼土が散布しており、特にP1の南東部分に集中していた。焼土範囲は不整形を呈し、灰や炭化材、掘り込みは確認できないことから、炉ではないと判断される。また床面には、焼土が散っている部分か確認できるものの、炭化材などは確認できないことから、焼失家屋ではないと判断した。

柱穴 床面調査時に1基を竪穴建物の東側において確認した。P1の形状は円形を呈し、確認状況や深さなどから、主柱穴と判断した。根固めなどの痕跡は確認できなかった。柱穴の規模は下記の通りである。

P1 長径 0.35m 短径 0.30m 深さ 0.60m

炉 確認できなかった。P1の南東方向に焼土範囲が確認されており、付近に炉がある可能性が考えられる。

各施設 入口施設と貯蔵穴を確認した。入口施設は、南壁際に位置し、西壁から約2.8m、東壁から約2.0mのほぼ中央部に位置する。形状は北側を開いた「コ」の字状に構築されていた。深さは50 ~ 60cm、形状は長円形で形状が類似しており、3つのピットは一連の遺構として捉えた。ピット内からは柱痕や遺物などは確認できなかった。調査時には西側をP2、東側をP3としていたが、南側には名称が付いていなかったため、整理作業時に新たにP4として名称を付けた。各入口施設の規模は以下の通りである。

P2 長径 0.50m 短径 0.30m 深さ 0.60m

P3 長径 0.55m 短径 0.30m 深さ 0.50m

P4 長径 0.55m 短径 0.15m 深さ 0.07m

貯蔵穴は、入口施設の東側P3に隣接していた。形態や確認位置などから、貯蔵穴と判断し、形態は円形を呈している。貯蔵穴からは、無文の甕が出土した(第42図-2)。貯蔵穴の規模は下記の通りである。

貯蔵穴 長径0.60m 短径0.55m 深さ0.30m

掘方 確認されていない。建物構築時に黄色土を掘削後、整地して床面とした可能性が高い。

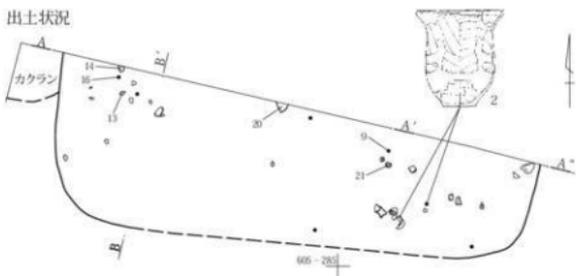
遺物と出土状況 遺物は、床面直上からの出土がほとんどで、21点を掲載した。非掲載遺物は土器は314点、2205.9g、石は4点、38.0gである。出土遺物の器種は甕が多い。甕はA類(1、3)以外は小破片が多く、確認できない。1は頸部に櫛描夔文が等間隔に施文されている。類型以外にも無文の甕が貯蔵穴から出土した。整形はナデ整形で、口唇部がくの字状に屈曲する後期初頭の様相を残している。甕以外は壺(20)、台付甕(19)、高坏(7、10)が出土した。

所見 P1の南東の床面で、30cmほどの範囲において、焼土を確認した。状態はまだらで浅いため、炉ではないが、近くに炉が構築されている可能性はあり得る。P2 ~ P4の入口施設は8号竪穴建物でも確認されているが、本竪穴建物とは異なる様相を呈する。出土遺物からは、全体像がわかる遺物が少ないものの、樽式2期古段階の古い様相を呈しており、本遺跡で確認した竪穴建物の中で最も古い建物と位置づけられる。

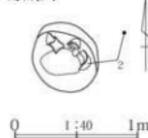
時期 弥生時代後期(樽式期)

第3章 調査された遺構と遺物

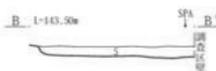
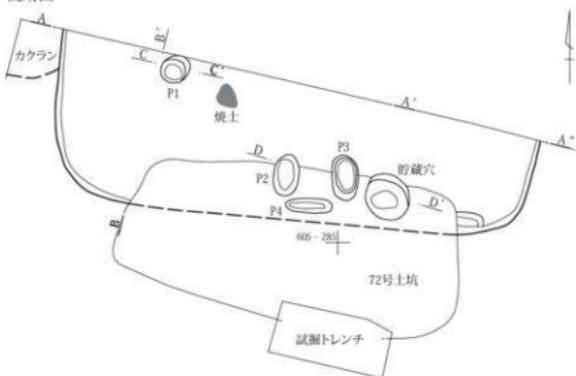
出土状況



貯蔵穴



使用面

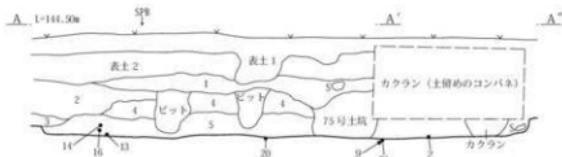
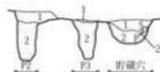


P1 1:43.50m



P2, P3, 貯蔵穴

D 1:10.50m



A-A' B-B'

表土1 駐車場の土層。

表土2 主に近代の土層。

1. にぶい黄褐色土 5-6区基本土層1層に似るがロームを含む。
2. 暗褐色土 5-6区基本土層1層相当か。暗褐色土中に最大1cmの砂礫を含む。
3. 暗褐色土 2層に似るが、2層に含まれる砂礫のみの土層。
4. 黒褐色土 1cm程度の角礫を僅かに含む。きめ細やかな土層。粘性もややあり。しまる。
5. 暗褐色土 夾雑物の無い、きめ細やかな土層。粘性はないがしまる。

P1~P3

1. 暗褐色土 型穴覆土の5層に似るが、5層よりも砂質。
2. 褐色土 ローム質土壌中に最大5cmの礫を含む。含まれる砂礫が多い。

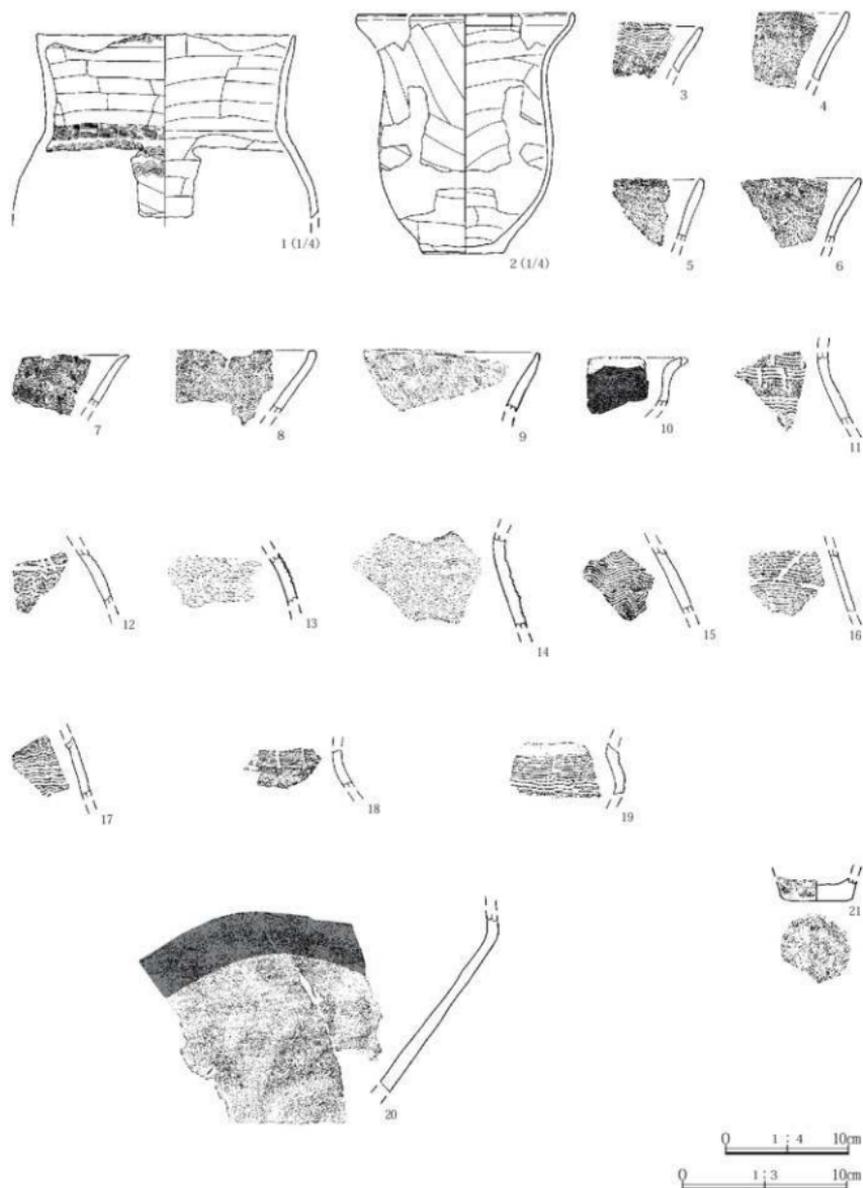
貯蔵穴

1. 暗褐色土 型穴覆土の5層に似るが、さらに砂質味を帯びる。
2. 暗褐色土 1層中に最大5cmの礫を含む。

0 1:60 2m

第41図 6号型穴建物

第4節 弥生時代の遺構と遺物



第42図 6号塚穴建物出土遺物

6-5区7号竪穴建物(第10-43-44図、PL.26・27・78)

位置 X=28585～28587 Y=81097～81103

経過 6-5区の東隅に位置する。確認状況から、竪穴建物の中央部を確認したと考えられる。大部分は調査区外に架かっているため全体像は不明瞭である。黒色土層で埋没した形状を確認し、竪穴建物として調査を行った。

重複 なし。

堆積状況 上面を近世以降の造成によって削平され、竪穴建物の深さは確認面から、20cmほど残存する。確認した竪穴建物の様相から、本来は1m前後を有していたと想定される。2層までは、近世以降の堆積土である。1層中にはAs-Aを含有しており、2層にはみられないことから、2層はAs-A降下以前の堆積土と考えられる。3、4層は、竪穴建物廃絶時の堆積土である。遺物の多くは、3層の上層で出土した。一方で30cmほどの礫が下層で集中していた。これらの遺物は、床面から10～15cm程浮いた状態で出土しており、本竪穴建物がある程度埋没した段階で投棄した遺物と考えられる。4層は、ロームブロックの三角堆積で、壁の崩落土と考えられ、堆積状況から自然堆積の可能性が高い。

平面形 竪穴建物の大部分は調査区外に位置するため、壁の立ち上がりは、西壁のみ確認できた。西壁は若干丸みを帯びた形状を呈する。平面形の判断材料は少ないが、本遺跡で確認された同時期の竪穴建物から隅丸長方形と想定される。

規模 大部分は調査区外に位置するため、不明である。

長軸 — 短軸 — 最大壁高 0.20m

床面積 — 主軸方位 —

床面 確認面から15cmの深さで確認した。周辺の竪穴建物の状況から踏まえると本来は1m程の高さを有していたと想定される。床面は貼床や硬化面などは確認できなかった。地山層に相当する黄色土を平坦面に形成し、床としたと考えられる。床面には、部分的に焼土や炭化物が散布しているが、顕著な集中はみられず、焼失家屋ではないと判断した。床面には弥生土器は少なく、礫が集中する状況で、特に北東隅で確認した。礫に火熱などの痕跡があったかは不明で、30cm程の円礫が中心である。

柱穴 柱穴は2基確認した。P1とP2はがらを扶むように構築されていた。P1とがらは40cm、がらとP2の間は70cmの距離に構築され、西壁とP1は約115cmを測る。個々の柱穴の

形状は円形で、深さは20cm程と浅い。規模はP2が調査区外に1/2位置するため不明であるが、P1の規模から類推すると、直径20cm程の規模を有したと想定される。主柱穴とするには心許ないが、地山に礫が混在しており、滑り止めの役割を果たしていること、がらと柱穴、壁との配置関係から、主柱穴と判断できる。それぞれの柱穴の規模は以下の通りである。

P1 長径 0.30m 短径 0.17m 深さ 0.18m

P2 長径 — 短径 — 深さ 0.18m

炉 竪穴建物の中央部北壁より、P1とP2の間で確認した。平面図には記録がないが、写真と断面図を見ると、がらとみられる石が確認できる。石の規模は不明であるが、がらの中央よりに位置しており、建物の廃絶後に動いた可能性が考えられる。がらの覆土中には、土器は出土しなかったが、焼土や灰を多く含んでいた。がらの断面形態は皿形を呈し、規模は以下の通りである。

がら 長径 0.40m 短径 0.35m 深さ 0.05m

各施設 なし。

掘方 確認されていない。建物構築時に黄色土を掘削後、整地して床面とした可能性が高い。

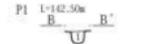
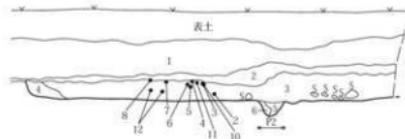
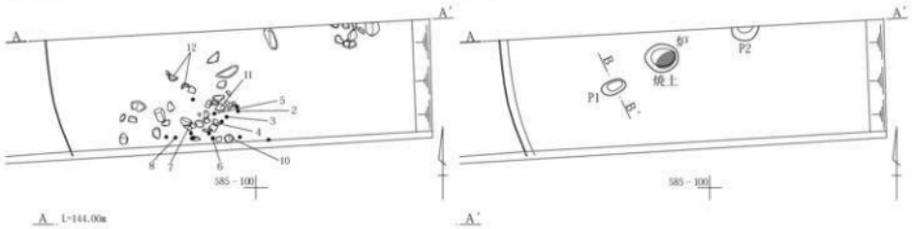
遺物と出土状況 遺物は30～50cmほどの礫に混じった状態で3層上面からの出土が中心であった。床面からは浮いた状態で出土しており、小破片が多く、1、2、9など6世紀の遺物を多く含有していた。このことから、6世紀代の造作によって、不用な礫とともに廃棄されたと考えられる。弥生土器も6世紀代の遺物に混じる遺物と下層から出土した遺物に分かれるが、時間差はなく、床面直上からの出土は得られなかった。遺物は12点掲載した。非掲載遺物は144点、1120.0g出土した。弥生土器については壺(5)と甕(3、4、6～8、10～12)が出土した。これらは6世紀代の遺物と混在した土器である。6世紀代の遺物は1、2、9が出土し、1と2は高坏片、9は須恵器である。

所見 西壁の形状が丸みを帯びているが、本来はP1、がら、P2のラインと直交する直線的な形状であったと考えられる。竪穴建物の時期は遺物が古墳時代の遺物と混在し、床面直上由来の遺物の出土がみられないため、確定しがたいが、がらの形状など本遺跡で確認した竪穴建物のがらと類似しており、弥生時代後期に比定すると判断した。

時期 弥生時代後期(樽式期)

出土状況

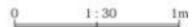
使用面



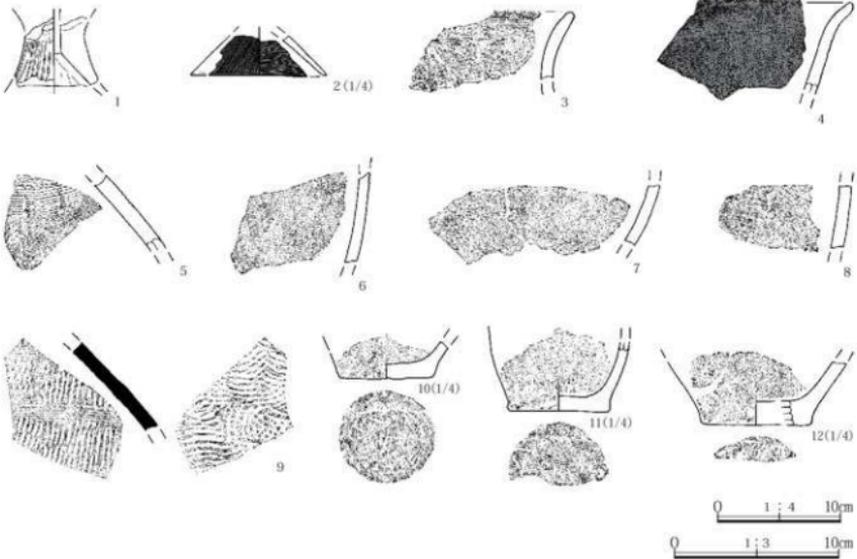
1. 暗褐色土 ローム粒を少し含む。粘性強い。



1. 黒褐色土 炭化粒と焼土粒を少し含む。粘性あり。  
2. 褐色土 灰や炭・焼土を少し含む。



第43図 7号竪穴建物



第44図 7号竪穴建物出土遺物

## 6-1区8号竪穴建物（第10・45・46図、PL.27～29・79）

位置 X=28589～28592 Y=-81216～-81221

経過 6-1区中央部よりで方形範囲を確認したことから、竪穴建物として調査を行った。

重複 近世に帰属するP62と古墳時代以降に帰属するP74によって竪穴建物の南壁と西壁の一部を壊されている。

堆積状況 上面は近世以降の攪乱や造成によって、壊されている。全体的に遺存状態は良好ではないが、東壁は最大60cm程残存している。遺構の状態などから、本来の壁の高さは1m以上あったと想定される。東壁部分は、近世以降の造成によって、20cm程の高さまで削平されていた。堆積土は黒色土を主体として3層堆積しており、東壁、西壁よりがやや上層へ彎曲気味になり、レンズ状の堆積を呈していた。土層断面や遺物出土状況に特異性は認められず、人為的な埋没の痕跡が認められないことから、自然に埋没していったと考えられる。

平面形 竪穴建物の2/3は調査区外に所在しており、確認できたのは、南壁と西壁、東壁の一部のみである。各々の壁は、直線的に構築されており、直角に交わっている。壁と壁の交点は、丸みを帯びていることから、隅丸長方形と想定される。

規模 竪穴建物の2/3は調査区外に所在しており、全体像は不明だが、短軸は東壁から西壁まで4.00mを測る。

長軸(2.80)m 短軸4.00m 最大壁高0.40m

床面積(11.20)㎡ 主軸方位—

床面 確認前から、西壁では40cm、東壁では20cm下層で確認した。所見はなく、写真からは床面の状態、焼土、炭化物の有無は判別できないが、断面図からは平坦に床面が形成されていることが判断できる。写真では床面に地山石が混在しており、本来は一段高く、床面を形成していた可能性も考えられる。

柱穴 調査時にはP4まで登録し、調査を行った。整理作業では、P1とP3は等間隔に並列し、配置状況などから、主柱穴と判断した。主柱穴とするには、深さが浅く、心許ないが、地山に礫を含有しており、根固めの役割を担っていたと考えられる。P2とP4は配置状況から付属施設と考え、後述する。西壁とP1、P1とP3の間は、それぞれ100cmを測り、等間隔に構築されている。南壁とP1は115cm、南壁とP3は100cmの距離で構築されている。P1と

P3の北側は調査区外に位置するため、柱穴の配置は不明であるが、本遺跡で確認された竪穴建物から、4本柱と想定される。それぞれのピットには20～30cm程の礫が混入しており、埋没過程で、弥生土器も含んでいることから遺物とともに混入したものと判断される。各柱穴の規模は以下の通りである。

P1 長径 0.55m 短径 0.45m 深さ 0.20m

P3 長径 0.60m 短径 0.50m 深さ 0.35m

炉 確認されていない。柱穴や各施設の配置から判断すると、調査区外に位置すると考えられる。

各施設 入口施設と貯蔵穴を確認した。入口施設はP2として調査が行われた。整理作業時、炉の可能性も視野に検討したが、深さ30cmを測り、炉としては深く、焼土も確認できないことから、入口施設と判断した。入口施設は、西壁から165cm、東壁から200cmを測り、ほぼ中心に位置する。規模は長軸60cm、短軸40cmを測り、主軸が北方向に向いた楕円形を呈する。貯蔵穴は南壁の東壁より構築されている。調査時にはP4として調査が行われている。位置関係などから貯蔵穴として判断した。規模は直径40cmの円形を呈していた。

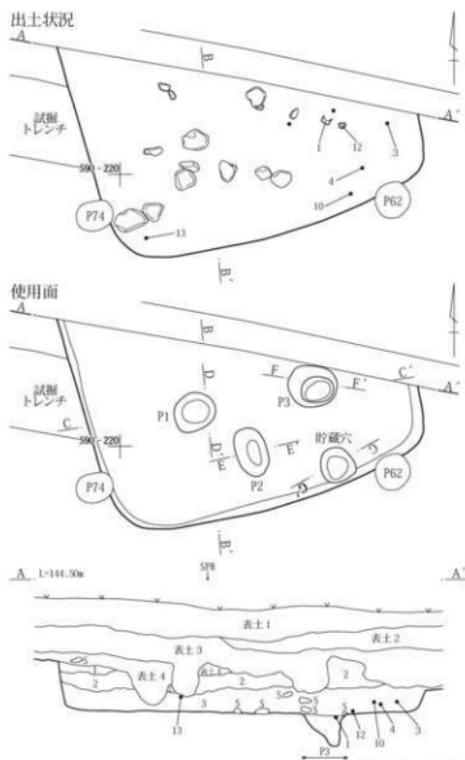
掘方 確認されていない。床面とされる面が平坦に形成されており、構築当初に平坦に整地して、床としたとみられる。

遺物と出土状況 遺物は30～50cmほどの礫に混じって出土した。出土位置は床面からは浮いた状態で出土しており、小破片が多いことから、不用品とともに廃棄されたと考えられる。床面直上は12で、1はP3から出土した。出土遺物は13点掲載した。非掲載遺物は土器は32点、347.5g、石は1点、18.4gである。弥生土器は、甕が主体を占め、他には高環(9)が出土した。甕は類型を確認できる土器はD類とした無文土器のみであった(1)。文様は口唇部から口縁部にかけて櫛波状文を施すものがみられた(2～4)。

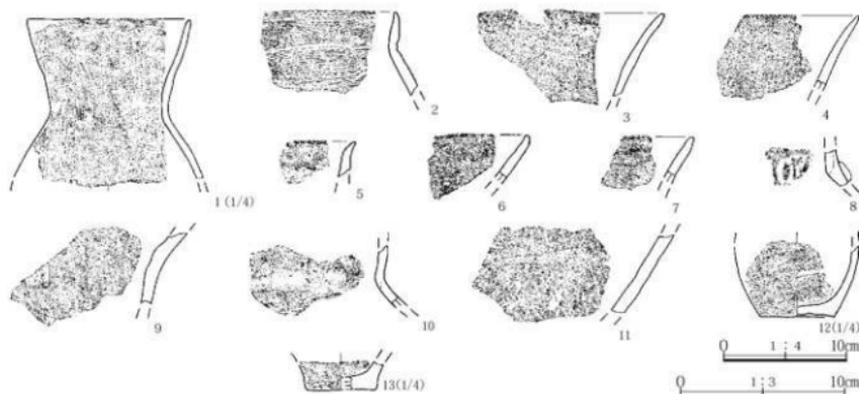
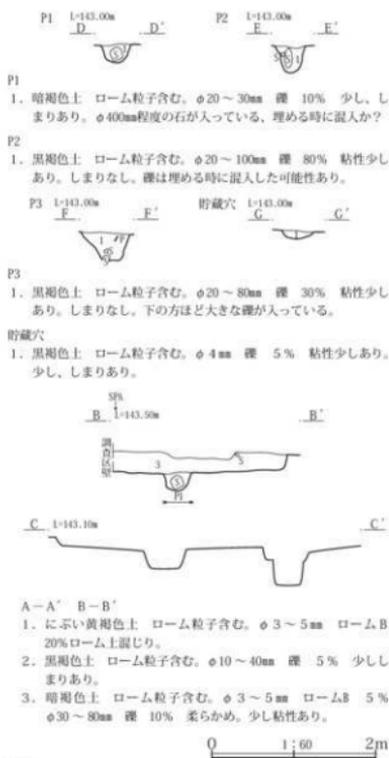
所見 遺物は覆土中からの出土で、堆積状況もレンズ状に堆積していることから、自然堆積と判断した。P2の入口施設は5号竪穴建物と6号竪穴建物と様相が異なるが、施設の配置からみて、入口施設と考えられる。帰属時期の判断材料は少ないが、出土遺物から、弥生時代後期の樽式期に相当する。

時期 弥生時代後期(樽式期)

第4節 弥生時代の遺構と遺物



第45図 8号竪穴建物



第46図 8号竪穴建物出土遺物

## 2 竪穴状遺構

竪穴状遺構は、1区と6-5区において確認した。それぞれ掘り込みのみで、柱穴や硬化面など竪穴建物の要素を確認できないことから、竪穴状遺構と捉えた。縄属時期は出土遺物が希薄で、確定できる材料が少ないが、堆積土層が本遺跡で確認した竪穴建物の堆積土と類似していることから、弥生時代後期の遺構として捉えた。

1区1号竪穴状遺構（第8・47図、PL.29）

位置 X=28522～28526 Y=81265～81267

経過 1区中央部西壁際で黒褐色土の堆積を確認し、調査が行われた。本遺構は、一部のみの確認に留まり、全体の様相が不明確のため、竪穴状遺構として扱った。

重複 南側は攪乱によって壊され、西側は調査区外に位置する。

堆積状況 3層までは近世以降の造成土で、造作によって削平されているため、確認面から床面までは15cmほど浅い。4層は、1号竪穴状遺構の廃絶時の堆積土で、黒色土が堆積する。

平面形 大部分は調査区外に位置するため、全体の様相は不明である。北、東壁は直線上に構築され、北東隅で直交し、隅は丸みを帯びている。

規模 長軸(3.02)m 短軸(0.84)m 最大壁高0.17m

床面 平坦状に形成され、しまっており、床面と判断される。写真を見る限りでは、炭化物等の痕跡や状況は判断できない。掘方は確認できず、遺構構築時に平坦面を形成し、床としたと考えられる。

柱穴 確認されていない。竪穴建物だとすれば、調査区外に位置する。

遺物と出土状況 小片のため、掲載していないが弥生土器が1点出土した。

所見 平面形態や床面の状態から、竪穴建物の可能性も考えられるが、判断材料は少なく、不明瞭である。土層堆積状況や出土遺物などから、弥生時代後期の遺構と判断した。

時期 弥生時代後期

6-5区3号竪穴状遺構（第10・47図、PL.29・30）

位置 X=28582～28585 Y=81126～81134

経過 6-5区の東側、6-4区よりで確認した。暗褐色土の堆積を確認し、調査が行われた。当初東側のみで遺

構が完結すると思われたが、西側を調査した際、同一の堆積土で埋没した遺構を確認し、一連の遺構ととらえた。本遺構は、一部のみの確認に留まり 全体の様相が不明確のため、竪穴状遺構として扱った。

重複 なし。

堆積状況 表土1、表土2、1層までは近世以降の造成土で、造作によって削平されているため、確認面から床面までは15cmほど浅い。2層は、3号竪穴状遺構の廃絶時の堆積土で、暗褐色土が堆積する。

平面形 本遺構のほとんどが調査区外に位置するため、平面形態は不明である。東西壁の一部が確認され、直線状に構築されている。壁の立ち上がりは西側では直角に近く、東側ではやや緩やかである。

規模 長軸 - 短軸(7.50)m 最大壁高 0.30m

床面 平坦状に形成され、しまっており、床面と判断される。写真を見る限りでは、炭化物等の痕跡や状況は判断できない。掘方は確認できず、遺構構築時に平坦面を形成し、床としたと考えられる。

柱穴 確認されていない。柱穴を必要としない簡易な掘立状の遺構と考えられる。

遺物と出土状況 出土していない。

所見 遺物は出土しなかったが、堆積土層が弥生時代後期に相当する7号竪穴建物に近似しており、弥生時代後期の遺構と判断した。

時期 弥生時代後期

## 3 土坑

弥生時代に相当する土坑は1基のみである。遺物出土はないが、調査所見や土層堆積状況をもとに弥生時代に帰属する遺構と判断した。

86号土坑（第10・47図、PL.30）

位置 X=28582～28583 Y=81139～81140

経過 6-4区東側で確認した。

重複 なし。

形状 円形。

規模 長軸 0.75m 短軸 0.68m 深さ 0.30m

主軸方位 N-18°-E

埋没状態 黒褐色土が単層で堆積し、小礫を含有する。

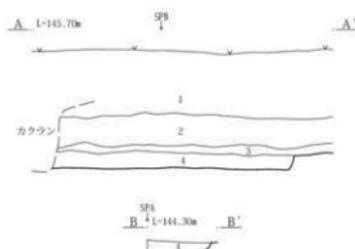
出土遺物 なし。

所見 出土遺物など時期を確定する要素は確認できない

が、堆積状況などから帰属時期は弥生時代後期と考えられる。

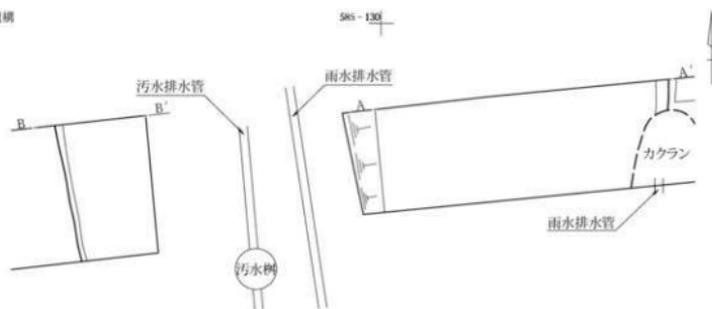
時期 弥生時代後期

1号壑穴状遺構



1. 表土 大小の礫・石を含む。
2. 黒褐色土 粒子細かい、小礫を含む。しまりややあり。
3. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。
4. 黒色土 粒子細かい。しまりあり。

3号壑穴状遺構



- 表土1 現代の砕石。  
表土2 ビニル片も含む近現代の上。
1. 暗褐色土 As-Aを現状に含んだ上層。固くしまるが粘性は弱い。
  2. 暗褐色土 きめ細かな上層。しまりあり。7号壑穴建物覆土と似る。

0 1:60 2m

86号土坑



1. 黒褐色土 地山の黄褐色土中に含まれる、径5cm程度の円礫を含む。粘性はないがしまる。

0 1:40 1m

第47図 1・3号壑穴状遺構 86号土坑

## 4 倒木

6区において倒木が3基確認され、うち2基について調査が行われた。堆積土層などから弥生時代以降と判断し、以下で報告する。

### 1号倒木 (第10・48図、PL.30)

**位置** X=28582～28585 Y=81183～81191

**経過** 6-2区の西側に位置し、北側には1号柱穴列が隣接する。形状や土層堆積状況から、倒木と判断し、調査を行った。

**重複** なし。

**形状** 南側が開口する形の三日月状を呈する。

**規模** 長軸 (1.50) m 短軸 1.20m 深さ 0.40m

**埋没状態** 黒褐色土層が単層で堆積する。縦位堆積は確認できない。礫を少量含有する。

**出土遺物** 出土しなかった。

**所見** 土層断面が東から西へ浅くなっていることから、倒木として認定して調査を行った。倒木特有の倒木時の土層の陥入は確認できなかった。覆土や周辺の状況などから、弥生時代以降と考えられる。

**時期** 弥生時代以降

### 2号倒木 (第10・48図、PL.30)

**位置** X=28580～28585 Y=81165～81170

**経過** 6-3区の中央に位置し、形状や土層堆積状況から、倒木と判断し、調査を行った。

**重複** なし。

**形状** 西側が開口する三日月状を呈する。

**規模** 長軸 (3.80) m 短軸 3.15m 深さ 0.80m

**埋没状態** 黒褐色土層と褐色土が縦位に堆積し、礫を中心に含有する。

**出土遺物** 縄文土器が1片出土した (第12図-3)。

**所見** 土層断面が東から西へ浅くなっていること、倒木特有の倒木時の土層の陥入を確認したことから、倒木として判断した。覆土や周辺の状況などから、弥生時代以降と考えられる。

**時期** 弥生時代以降

## 5 遺物包含層 (第48・49図、PL.68・79・80)

**位置** 3区北東部

**経過** 黒褐色土中に土器片が多く出土したことから、調

査を行った。

**堆積状況** 平面図はなく、断面図のみのため、状況は確認できない。遺構写真からは、弥生土器と礫が散在して出土している状況が確認できる。土層断面からは、15cm程黒褐色土の堆積が確認できた。焼土や炭化材などの夾雑物は確認できない。

**遺物と出土状況** 出土状況について遺構写真からは礫とともに遺物が散在する状況であった。本報告では1～21を挙げた。土器に完形品はなく破片資料が出土した。非掲載遺物は土器は668点4863.0g、石は5点56.0g出土した。器種は甕が中心で破片資料が中心であり、類型を特定できる土器は確認できない。甕は1～3、5～17で、櫛描波状文を施文するもの (1、2)、口唇部に刻みを有するもの (3)、胴部に施文するもの (6～11)、櫛描籬状文と櫛描波状文を施文するもの (13、14) を確認した。高環は4と18で、4はくの字状に口唇部が外反する。**所見** 断面からは落ち込み部分に破片がたまったと想定され、浅い窪地に自然と流れ込んで堆積したのと考えられる。

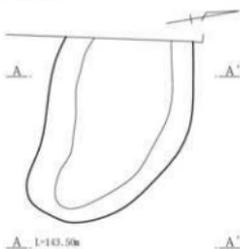
**時期** 弥生時代後期

## 6 遺構外出土遺物 (第50・51図、PL.80・81)

遺構外出土遺物については各調査区ごとに解説する。4区については小片のみの出土であったため割愛した。なお非掲載遺物の点数と重量は第7表の通りである。傾向としては、竪穴建物から出土している弥生土器の傾向と同一の様相を呈している。

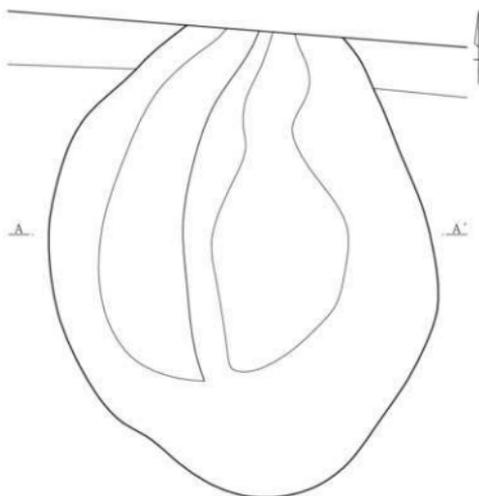
1区では5点を掲載した。1、2、4、5は甕、3は台付甕で胴部に櫛描波状文を施文する。2区では18点を掲載し、4と8は壺、5と16は高環、それ以外は甕である。甕は単位文を施文するもの (13、14) などがみられた。3区では16点掲載し、6は壺、14は甕、それ以外は甕である。3は口唇部に有段状に形成する。5-3区では、甕2点を掲載し、1にはボタン状の貼付文が施文されている。5-4区では甕1点を掲載した。櫛描籬状文が等間隔に施文されている。5-5区では台付甕 (1)、甕 (2、3) を掲載した。1にはボタン状の貼付文が施文されている。6-1区では甕 (1～5) を掲載した。1は口唇部が鋭角に整形され、2は口唇部上端に沈線が施文されている。6-5区では甕1点を掲載した。口縁部が折り返されている個体である (1)。

1号倒木



1. 黒褐色土 ローム粒子を少し含む。φ  
4~50mm 礫10% しまりあり。

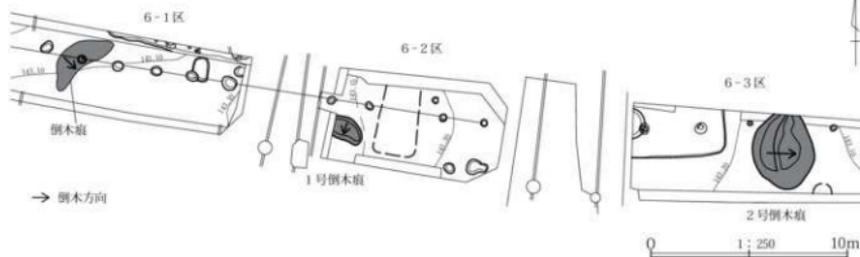
2号倒木



1. 黒褐色土 こぶし大~25cmの礫を少し含む。しまり弱い。  
2. 暗褐色土 径2cm程度の礫を多く含む。こぶし大の礫を少し含む。しまり強い。2層中から縄文土器片。  
3. 暗褐色土 2層に似るが色調が若干暗い。しまり弱い。  
4. 褐色土 地山の砂礫層。砂層が主体。  
5. 褐色土 4層に似るが、含まれる礫は4層より少ない。  
6. 暗褐色土 地山の砂礫に黒色土が混じる。  
7. 褐色土 地山の砂礫層。こぶし大の礫を多量に含む。



0 1:40 1m



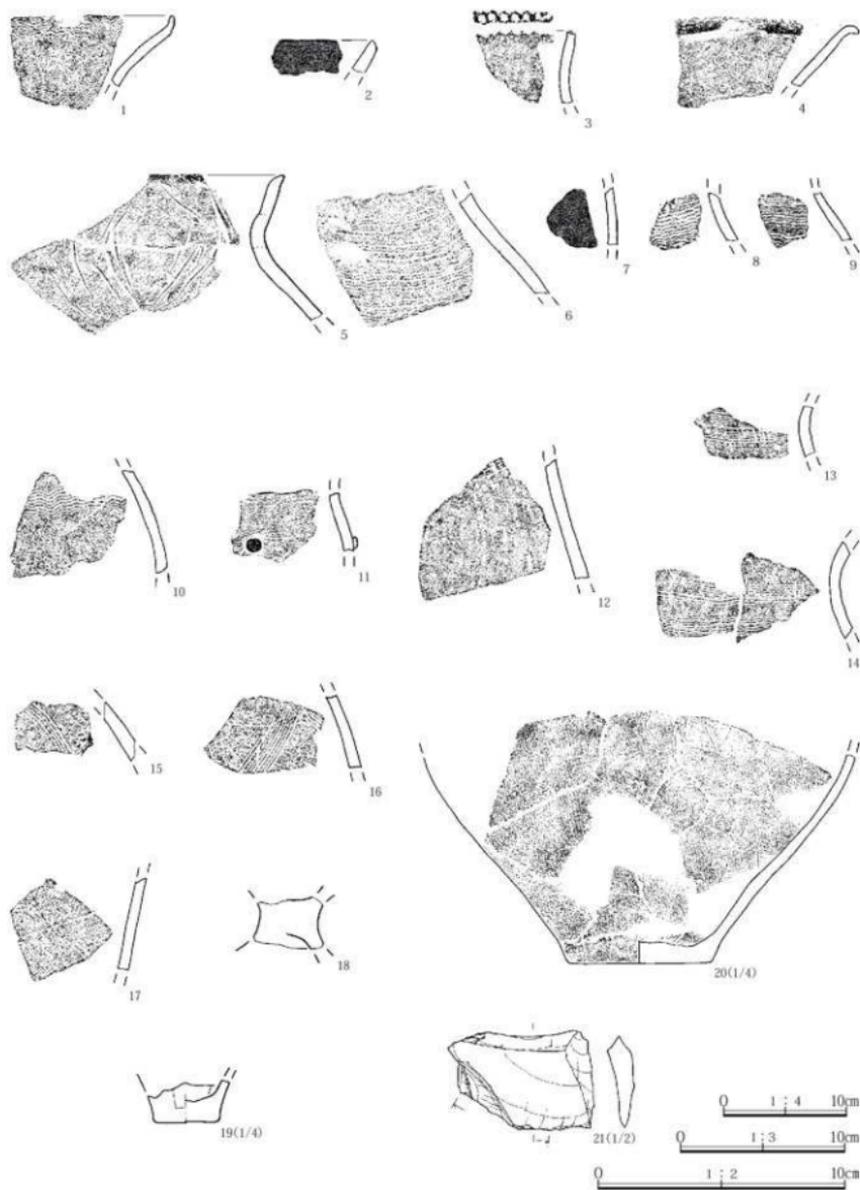
遺物包含層 A. 1:10.50m



1. 黒褐色土 粒子細かい。粘土質。しまりあり。

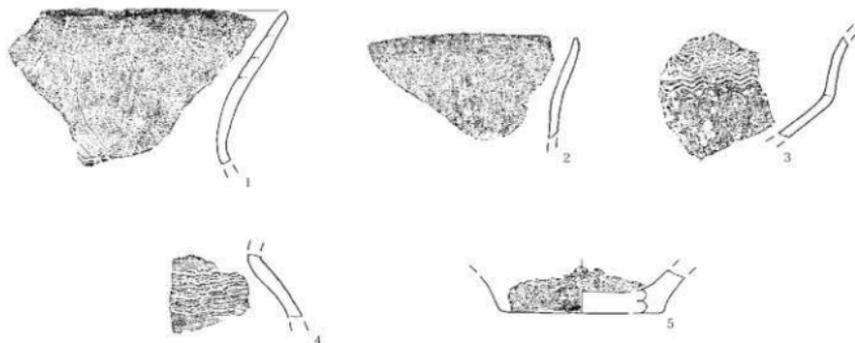
0 1:60 2m

第48図 倒木 遺物包含層

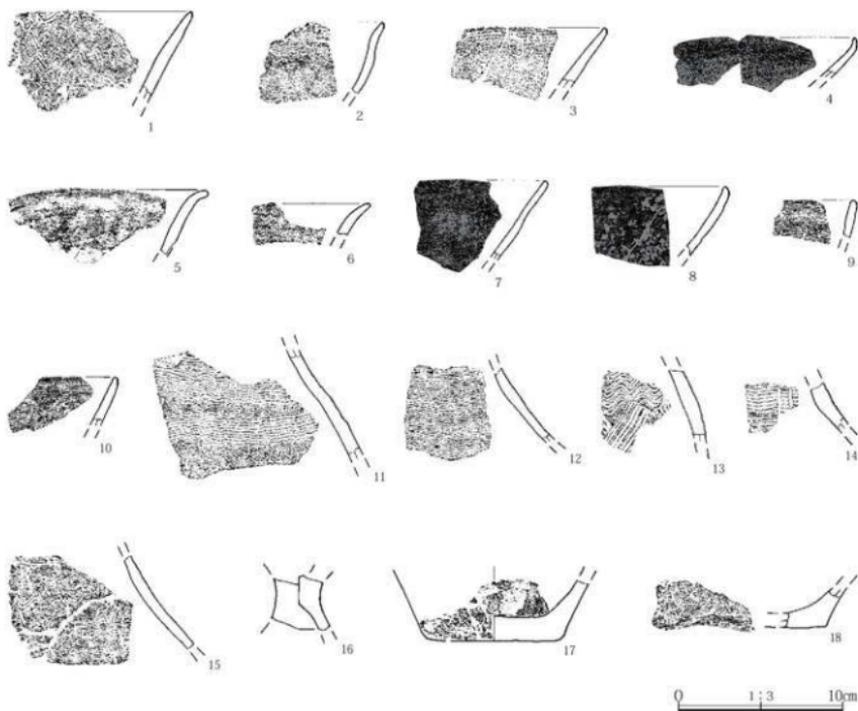


第49図 遺物包含層出土遺物

1区

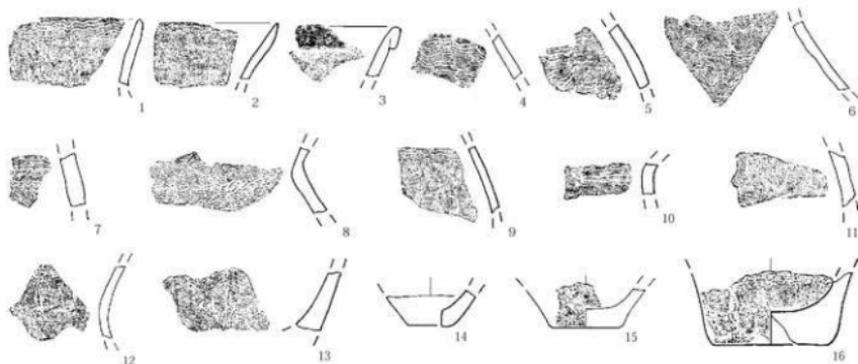


2区



第50図 遺構外出土遺物(1)

3区



5-3区



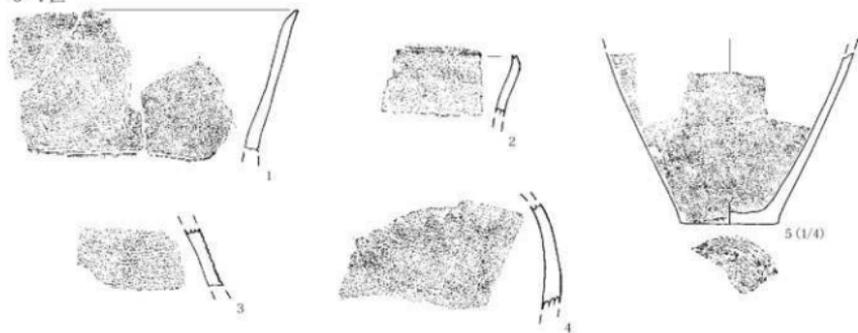
5-4区



5-5区



6-1区



6-5区



第51図 遺構外出土遺物(2)

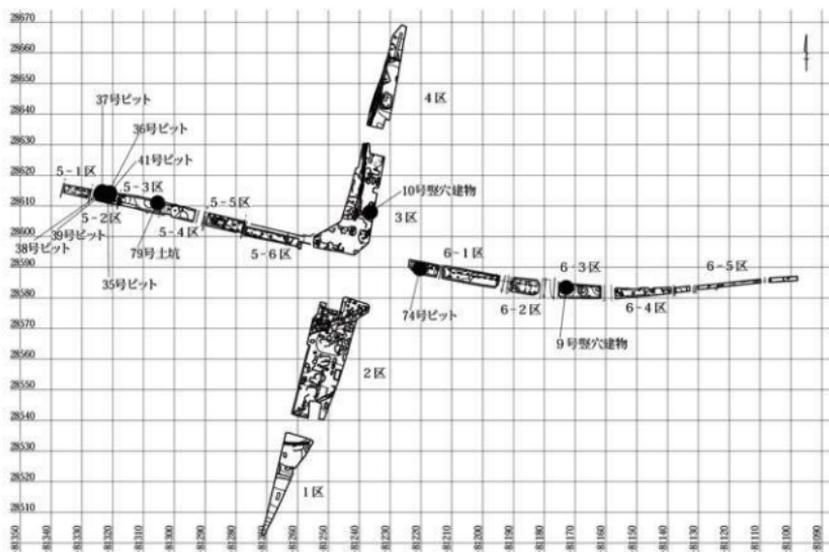
## 第5節 古墳時代～平安時代の 遺構と遺物

本節では、古墳時代から平安時代の遺構と遺物について扱う。本遺跡では、当該期の遺構について、竪穴建物2棟、土坑1基、ピット7基を確認した。内訳は竪穴建物2棟が古墳時代前期に伴うもので、土坑とピットは古墳時代以降に帰属する。古代に関しては遺構外において土師器が出土している。遺構の分布傾向は、5区と6区の東西を中心に分布する傾向がみられたが、道路の拡幅による調査のため、全体的な傾向を表しているとは言い難い。遺構外出土遺物は掲載遺物以外は確認できなかったことから古墳時代から平安時代は遺構の分布が希薄な地点だったと考えられる。

竪穴建物は、4世紀と7世紀の竪穴建物を2棟確認した。弥生時代では後期の構式2期新段階から構式3期古

段階までの竪穴建物を確認したが、構式3期中段階以降の遺構と遺物は確認できず、100年程度の空白期間が生じる。古墳時代前期以降においても、4世紀代と7世紀代と断続的な土地利用が行われていた。古代においても、古代以降に比定される遺物が2、3区の遺構外から出土しており、周辺に古代の遺構があった可能性が考えられる。

その他の遺構に関して土坑とピットは、古墳時代から古代の遺物は出土しなかったが、調査所見において古墳時代から古代と、土層などから判断されていた。本報告においても確認状況や土層堆積などを吟味した上で、調査時の所見に則り、時期を特定した。以下では各遺構と遺物について解説する。



第52図 古墳時代～平安時代 遺構位置図

## 1 竪穴建物

本節で扱う竪穴建物は2棟確認され、4世紀と7世紀の竪穴建物を確認した。

6-3区9号竪穴建物 (第10・53・54図、PL.30~32・81)

**位置** X=28582~28585 Y=-81170~-81176

**経過** 6-3区西側で確認した。

**重複** 89号土坑に切られる。

**堆積状況** 表土から4層までは、近世以降の堆積物で、1層には、明治期に由来すると考えられる突き固められた家屋基礎が確認された。3層にはAs-Aを含有しており、4層には含有しないことから、4層はAs-A降下以前の堆積物である。5、6層は竪穴建物廃絶時の堆積物で、5層上面の確認面から床面までは25cmを測る。近世以降の造作によって、削平されているが、本来は1mほどの高さを有していたと考えられる。6層には焼土ブロックが集中しているが、炭化材などを伴わないことから、焼失家屋ではなく、カマド由来の堆積物と考えられる。

**平面形** 北側と西側は、調査区外に位置するため、南壁と東壁の一部のみ確認できた。壁は直線状に構築され、南東隅は丸みを帯びる。本遺跡で確認された竪穴建物から、隅丸長方形と推定される。

**規模** 3/4は調査区外に位置するため、規模不明である。

**床面** 確認面から25cmの深さで褐色土の床面を確認した。貼床、硬化面は確認できなかった。床面の状態は遺構写真から地山礫が散在している状況が確認できる。

**柱穴** 2基確認した。両者は並列し、P1とP2間は、240cm、P2と東壁間は、100cmを測る。P1とP2、南壁間は其々130cmを測る。柱穴内には20cm程の礫が混入しているが、根積み状に配置しているわけではなく、廃絶後の混入と捉えられる。P1は縦位堆積を確認した。各柱穴の大きさは以下のとおりである。

P1 長径 0.57m 短径 0.50m 深さ 0.35m

P2 長径 0.60m 短径 0.55m 深さ 0.30m

**カマド** 確認されていない。

**各施設** 確認されていない。

**掘方** 床から約20cm程の深さで確認した。掘方は地山礫を多く含む、東壁際では円形状の掘削痕が明瞭に残る。北側は有段状に掘り込まれていた。

**遺物と出土状況** 遺物は30~50cmほどの礫に混じって出土した。出土位置は、垂直分布図を見ると、7から3

にかけて東側ヘレンス状に上がっている様相が確認できる。このことから出土遺物は、竪穴建物廃絶時に不用品ととも廃棄されたと考えられる。出土遺物は10点掲載した。非掲載遺物は土器は34点、315.0g、石は1点、2.1gである。1~3は内斜口縁の杯、4~6は鉢、7、10は甕である。7と10は胎土や整形から同一個体の可能性がある。8、9は甕である。

**所見** 6層と出土遺物の関係は、6層下面の床面直上からも9が出土しており、そこから東方向ヘレンス状に分布していることから、遺物廃棄後に焼土が廃棄されたと考えられる。出土遺物から7世紀前半に比定される。

**時期** 古墳時代後期(7世紀前半)

3区10号竪穴建物 (第9・55・56図、PL.32・81)

**位置** X=28604~28612 Y=-81234~-81239

**経過** 3区東壁よりで確認された。調査時には、柱穴や炉などが確認できず、2号竪穴状遺構として扱った。整理作業時に単独のピットとして調査された32号ピットが竪穴状遺構との位置関係と整合することから、ピットを柱穴と捉え、2号竪穴状遺構を10号竪穴建物とした。

**重複** 西壁の一部を掘乱しによって壊され、西側は調査区外に位置する。

**平面形** 竪穴建物の1/2は調査区外に位置するため、全体像は不明である。北、西壁は直線上に構築され、交点は直角に交わり、隅は丸みを帯びている。形態から、隅丸方形の竪穴建物と考えられる。

**規模** 長軸6.10m 短軸(2.70)m 最大壁高0.20m

**床面積** (16.47)㎡ **主軸方位** ー

**床面** 所見はなく、炭化物や硬化面の有無など詳細は不明であるが、平坦面を形成している。床の状態はしまりがなく、不明瞭である。

**柱穴** P1は当初32号ピットとして調査が行われたが、土層断面や竪穴建物との位置関係から、P1とした。柱穴はP1のみで、ほかに関連する遺構は見つっていない。

**炉** 確認されていない。

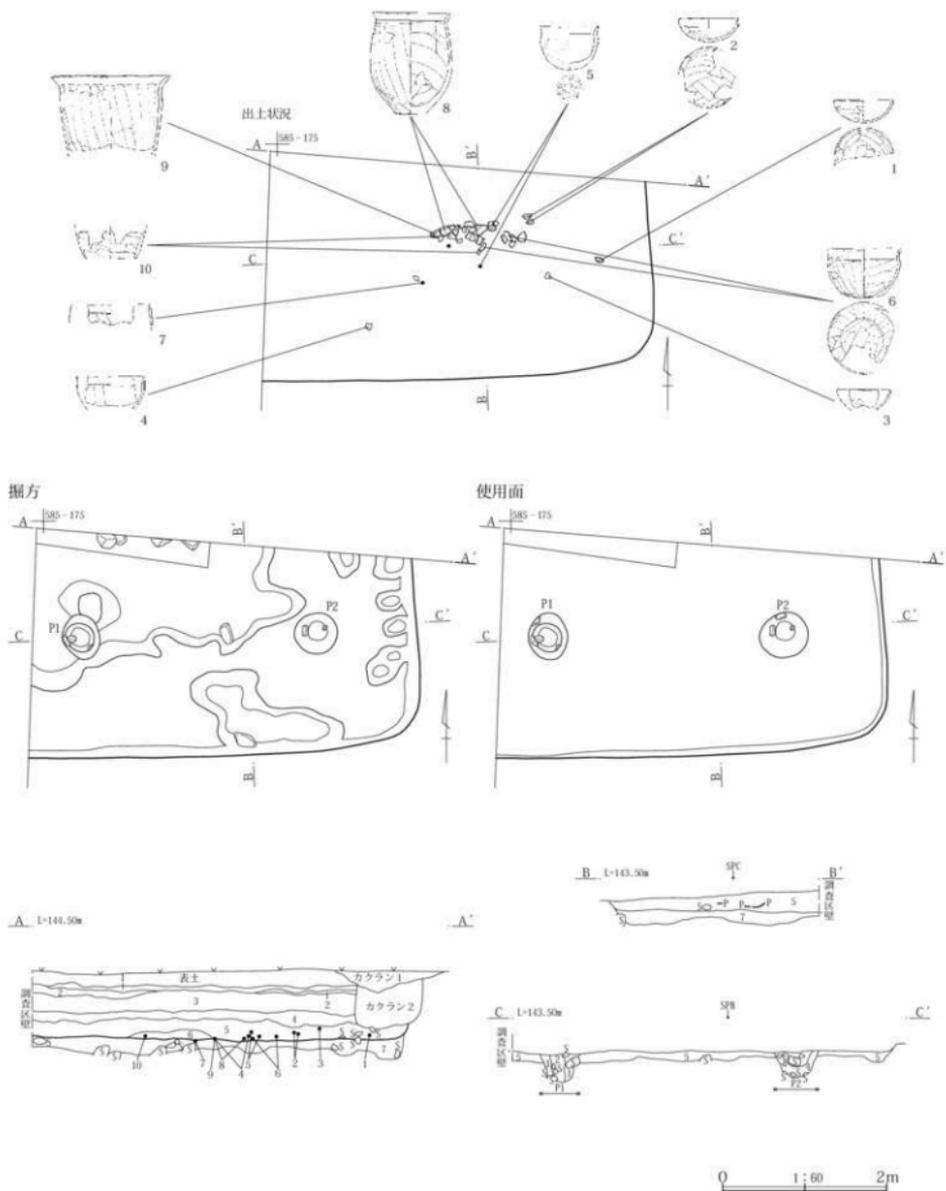
**各施設** 確認されていない。

**掘方** 確認されていない。建物構築時に黄色土を掘削後、整地して床面としたと考えられる。

**遺物と出土状況** 1~3を挙げた。1はS字口縁甕である。

**所見** 出土遺物から古墳時代前期に比定される。

**時期** 古墳時代前期(4世紀)



第53図 9号掘穴建物

### 第3章 調査された遺構と遺物

A-A' B-B'

表土 褐色土 現代に由来する土層。

1. にぶい黄褐色土 明治を中心とした時代に由来する。家屋内と思われ、つき固められている。白色の塗喰状のライン（厚さ3mm）が2本確認できる。

2. 暗褐色土 1層に類似し固くしめる。

3. 暗褐色土 As-Aや炭化物を少し含む。近世に由来する土層。しまり弱い。

4. 暗褐色土 径1cm程度の礫を、まばらに含む。しまり弱い。

5. 暗褐色土 壁穴建物の覆土。径5mm程度の礫を多く含む、こぶし大の礫を少し含む。粘性は弱い。

6. 褐色土 焼上ブロックを多く含む。粘性・しまりが強い。カマドに由来する可能性がある。

7. 褐色土 掘方の土層。地山の礫を多量に含む。

C-C'

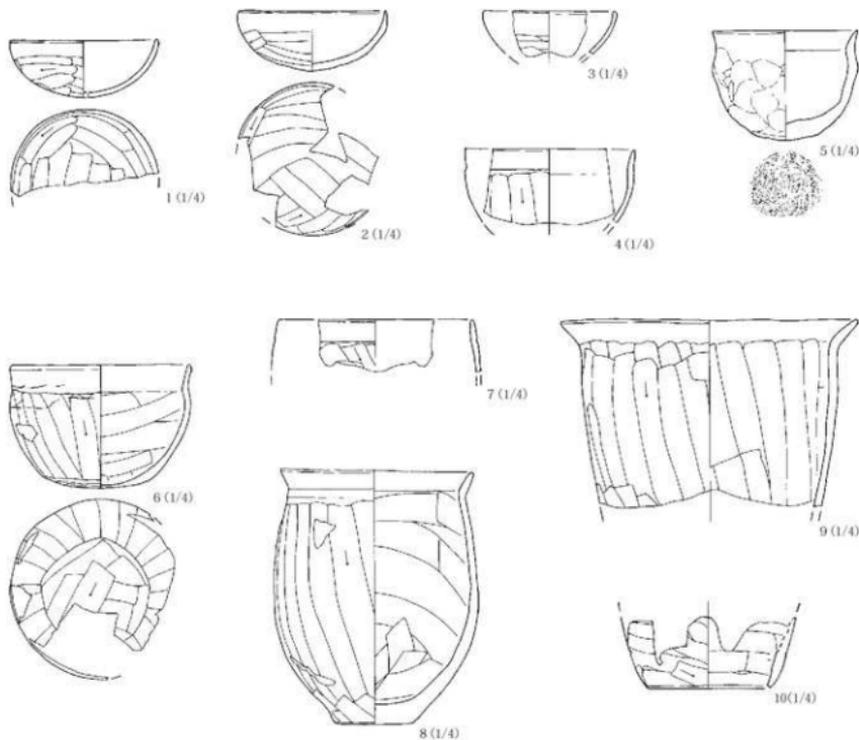
1. 暗褐色土 P1の覆土。2~20cm程の円礫を少し含む。ローム粒を含む。しまり強い。

2. 黒褐色土 P1の覆土。柱痕。1cm程度の小礫を多く含む。しまり弱く、粘性も無い。

3. 暗褐色土 P2の覆土。5~20cm程の円礫を含む。しまり弱い。

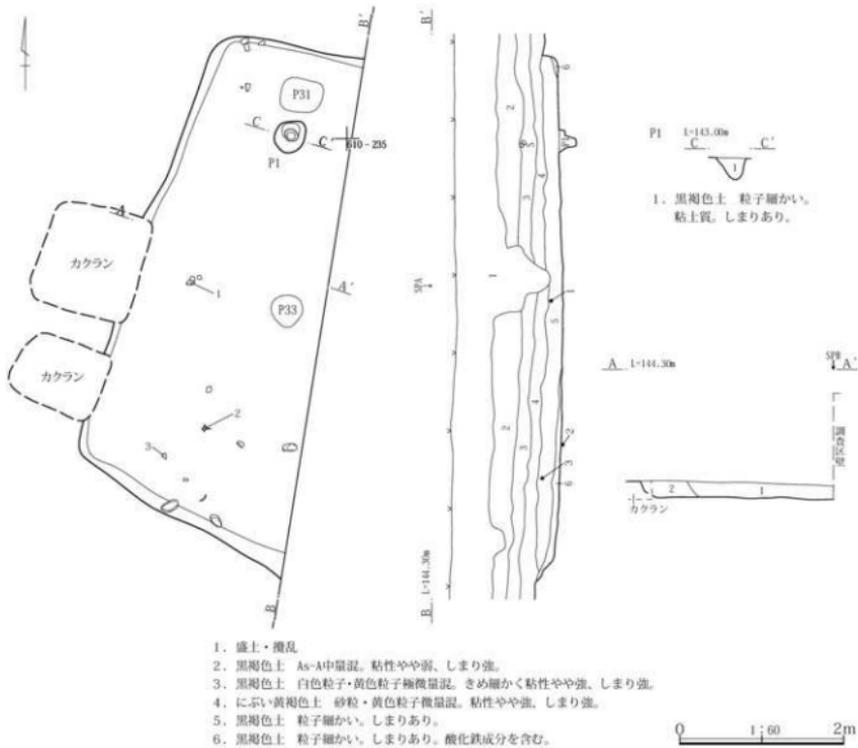
4. 褐色土 P2の覆土。ローム質の土壌中に5cm程度の小礫を多く含む。しまり弱い。

5. 褐色土 掘方の土層。地山の礫を多量に含む。

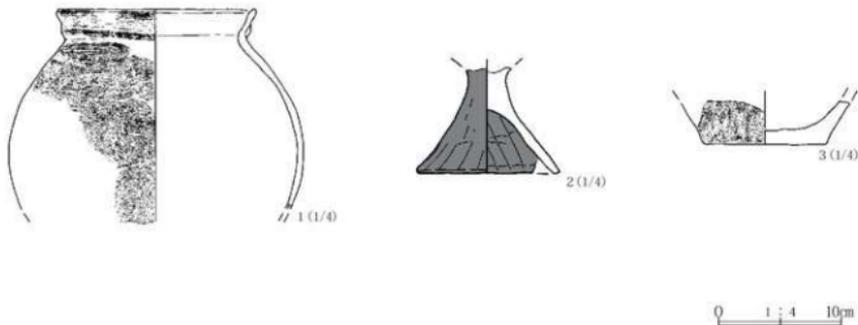


0 1 : 4 10cm

第54図 9号壁穴建物出土遺物



第55図 10号竪穴建物



第56図 10号竪穴建物出土遺物

## 2 土坑・ピット

### 土坑

令和3年度調査において土層及び堆積状況から、4基の土坑が古墳時代以降に帰属すると判断して、調査が行われた。整理事業過程ではこれらの土坑を、周辺遺構や土層などから、うち3基は近世に帰属すると判断した。当該期の土坑は79号土坑のみである。令和2年度調査の土坑は、近世相当の溝などと土層が近似しており、当該期に帰属する遺構ではないと判断した。本報告では、調査所見に則って古墳時代以降の遺構として扱う。

#### ・5-3区土坑

79号土坑（第10・57図、PL.33）

**位置** X=28610～28612 Y=81305～81306

**経過** 5-3区西側の北壁で確認した。

**重複** なし。1/2が調査区外に位置する。

**形状** 1/2が調査区外に掛かっており、形状は不明である。確認できた範囲では、半円状に確認できた。

**断面形態** 箱形状を呈し、基底面は凹凸がみられる。

**規模** 長軸 — 短軸 — 深さ 0.15m

**主軸方位** —

**埋没状態** 暗褐色土が2層堆積する。2層の暗褐色土はレンズ状に堆積する。遺存状態が悪いため、埋没過程は不明である。堆積状況から人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格は不明で、時期を判断できる材料はない。堆積土層や周辺の遺構などから、古墳時代以降に帰属すると判断した。

**時期** 古墳時代以降

### ピット

令和3年度調査において土層及び堆積状況から、8基のピットが古墳時代以降に帰属すると判断して、調査が行われた。整理事業過程において、周辺遺構や土層などから、うち1基は近世に帰属すると判断した。そのため当該期のピットは35～39,41,74号ピットの7基である。遺物が出土し、時代が確定できるのは35号ピットのみである。令和2年度調査のピットは、近世相当の溝などと土層が近似しており、当該期に帰属する遺構ではないと判断した。本報告では、調査所見に則って古墳時代以降

の遺構として扱う。

#### ・5-2区ピット

35号ピット（第10・57図、PL.33）

**位置** X=28612～28614 Y=81321～81322

**経過** 5-2区中央部で確認した。

**重複** なし。周囲に古墳時代以降のピットが集中する。

**形状** 円形。

**断面形態** U字状を呈する。

**規模** 長軸 0.46m 短軸 0.45m 深さ 0.30m

**主軸方位** N-0°

**埋没状態** ぶい黄褐色土が1層、黒褐色土が2層として堆積する。ロームブロックを含有し、堆積状況から、人為的な埋没と判断される。総じて礫を含有する。

**出土遺物** 小片のため、図化しなかったが、古墳時代の土師器が2点出土している。

**所見** 機能や性格は、不明である。時期は出土遺物から古墳時代と捉えられる。

**時期** 古墳時代

36号ピット（第10・57図、PL.33）

**位置** X=28614～28615 Y=81321～81322

**経過** 5-2区北側で確認した。

**重複** 41号ピットを切っている。

**形状** 不整形。

**断面形態** 箱形状を呈し、基底面は凹凸がみられる。

**規模** 長軸 0.50m 短軸 0.32m 深さ 0.25m

**主軸方位** N-82° -E

**埋没状態** 黒褐色土層と暗褐色土層で堆積する。覆土中にはロームブロック粒が堆積する。堆積状況から人為的な埋没が想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格は不明である。帰属時期は出土遺物が無いため不明であるが、周辺の遺構や堆積土層から古墳時代以降と判断した。

**時期** 古墳時代以降

37号ピット（第10・57図、PL.33）

**位置** X=28614～28615 Y=81323～81324

**経過** 5-2区北側で確認した。

**重複** なし。

**形状** 円形。

**断面形態** U字状に形成され、深さからも柱穴の可能性

があるが、柱痕などは確認できない。

**規模** 長軸 0.48m 短軸 (0.34) m 深さ 0.56m

**主軸方位** ー

**埋没状態** 黒褐色土が堆積し、礫を多量に含有する。堆積状況から人為的な埋没と考えられる。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格は不明である。帰属時期は出土遺物が無いため不明であるが、周辺の遺構や堆積土層から古墳時代以降と判断した。

**時期** 古墳時代以降

38号ピット (第10・57図、PL.33)

**位置** X=28613～28615 Y=81323～81325

**経過** 5-2区西側で確認した。

**重複** なし。東側には39号ピットが隣接する。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 0.54m 短軸 0.45m 深さ 0.35m

**主軸方位** N-31°-W

**埋没状態** 黒褐色土が堆積し、礫を多量に含有する。堆積状況から人為的な埋没と考えられる。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期と機能は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から古墳時代以降に構築されたと判断した。

**時期** 古墳時代以降

39号ピット (第10・57図、PL.33)

**位置** X=28613～28614 Y=81325～81324

**経過** 5-2区西側で確認した。

**重複** なし。西側には38号ピットが隣接する。

**形状** 長円形。

**断面形態** U字状を呈する。

**規模** 長軸 0.58m 短軸 0.42m 深さ 0.34m

**主軸方位** N-76°-E

**埋没状態** 黒褐色土が堆積し、礫を多量に含有する。堆積状況から人為的な埋没と考えられる。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期と機能は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から古墳時代以降に構築されたと判断した。

**時期** 古墳時代以降

41号ピット (第10・57図、PL.33)

**位置** X=28614～28615 Y=81320～81322

**経過** 5-2区北壁で確認した。

**重複** 36号ピットに切られている。

**形状** 円形か。

**規模** 長軸 0.58m 短軸 (0.46) m 深さ 0.30m

**主軸方位** ー

**埋没状態** 黒褐色土が堆積し、礫を多量に含有する。堆積状況から人為的な埋没と考えられる。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期と機能は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から古墳時代以降に構築されたと判断した。

**時期** 古墳時代以降

・6-1区ピット

74号ピット (第10・57図、PL.33)

**位置** X=28589～28590 Y=81220～81221

**経過** 6-1区西側で確認した。

**重複** 8号竪穴建物を切っている。

**形状** 長円形。

**断面形態** U字状を呈する。

**規模** 長軸 (0.36) m 短軸 0.36m 深さ 0.16m

**主軸方位** ー

**埋没状態** 黒褐色土層が単層で堆積する。ロームブロックと礫を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、土層の堆積状況などから、古墳時代以降に構築されたと捉えた。機能については、周辺に近世の柱穴列が構築されており、検討を試みたが、構築された高さなどが異なることから、単独のピットと捉えた。

**時期** 古墳時代以降

### 3 遺構外出土遺物 (第58図、PL.81)

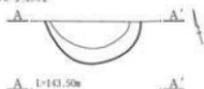
古墳時代から平安時代にかけての遺物は1区から6区まで出土した。5区と6区については、小片だったため割愛し、1～4区の当該期の遺物を掲載した。なお各調査区の非掲載遺物は、第7表の通りである。

1～4区の遺物は7点掲載した。1、3、5は4世紀、2は5世紀、4、6、7は古代以降の遺物である。1はS字状口縁の甕である。

### 第3章 調査された遺構と遺物

5-3区

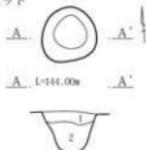
79号土坑



1. 暗褐色土 5-6 基本土層、Ⅲ層に似る。きめ細かい土。
2. 暗褐色土 ロームを少し含む。

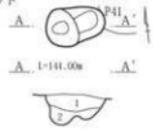
5-2区

35号ピット



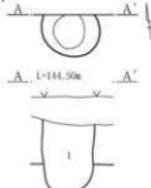
1. にぶい黄褐色土 ローム粒子を多く含む。φ30~40mm 礫30%
2. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ20~50mm 礫40% 柔らかめ。

36号ピット



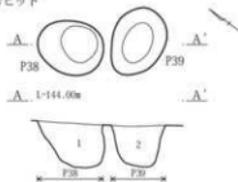
1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ30~40mm 礫40% 柔らかめ。
2. 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。砂粒子が下方へ行くほど多くなる。

37号ピット



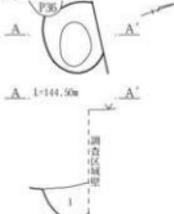
1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ20~40mm 礫50% (丸みをおびた物が殆ど)

38・39号ピット



1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ30~100mm 礫40% 砂の粒子も少し含まれる。
2. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ30~50mm 礫50%

41号ピット



1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ4~20mm 礫40% 少ししまりあり。

6-1区

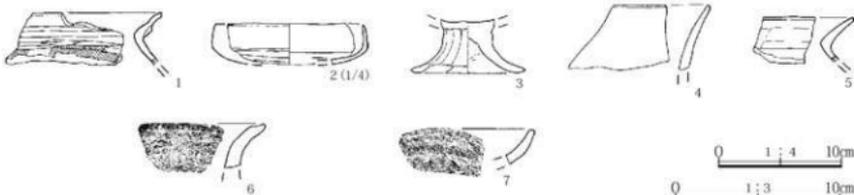
74号ピット



1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ3~4mm ロームB 5% φ2~3mm 礫 5%。

0 1:40 1m

第57図 土坑・ピット



第58図 遺構外出土遺物

## 第6節 中世以降の遺構と遺物

本節で扱う遺構と遺物は、17世紀以降のものがほとんどで、特に近代が中心である。中世に関しては、14世紀の片口跡が出土するのみである。遺構は、導水管が1条、溝8条、柱穴1列、土坑86基、ピット67基である。本遺跡の位置する地点は、小幡牧野家の支配以降、陣屋、宿場町として栄えており、近代まで商業が盛況していたとみられる。溝は当時の区割り溝とみられ、宿場町の様相を残している。土坑やピット、柱穴列についても、宿場の町屋を構成していた遺構と判断できるものも確認できた。しかし道路拡幅工事に伴う調査のため、町屋の規模など不確定であり、推測の域を出ない。また8号竪穴建物の土層断面をみると、明治時代頃の建物に伴った版築が確認できている。確認された土坑やピット類は明治期の生活面よりも低く、失われている情報の方が多いと考えられ、本報告では事実記載のみにとどめる。

### 1 導水管

導水管は、表土中から1条確認した。確認位置は、8号竪穴建物で明治期の建物に関連する版築と同じ高さに構築されており、近代に属する可能性が高い。また「福嶋宿」が所在した「姫街道」と並行していることから、福嶋宿の関連遺構として、掲載した。

1号導水管 (第10・59図, PL.34・82)

**位置** 5-4区の北側壁面の際において確認した。東西方向に10°傾いた状態で延びていた。西側は調査時には既に失われていた。

**重複** なし。

**平面形状** 溝状 **掘方形状** 溝状

**石樋断面形状** 箱形 **掘方形状** U字状

**規模** 導水管 全長157cm

1 : 長さ 92.0cm 幅 28.8cm

2 : 長さ 65.0cm 幅 28.5cm

**掘方** 幅 0.55m

**堆積状況** 石蓋上面では表土と2層の堆積が確認した。表土には塩化ビニール製の管が含まれており、現代の造成土と考えられる。1層は、暗褐色土層である。石樋保護のための褐色土上面を整地する役割を担っていたと考

えられる。2層はローム質の褐色土層で20～30cm程の円礫を中心に含有していた。堆積状況からこれらの層は、石樋保護のため、礫を詰めて人為的に埋めた土と判断される。

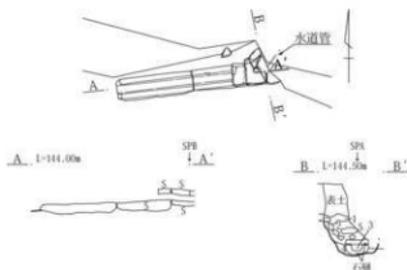
**構築材** 導水管は、石樋2点で構成され、石樋上面に塞ぐように蓋石1点を確認した。石樋の形状は底面は1は屋根型、2はカマボコ状を呈し、外面はノミ状工具で荒く削られていた。内面は1は緑から9.5cm、2は緑から8.3cm程を箱状に抉り、先端の細いノミを用いて綺麗に整形されていた。石樋の緑は蓋が載るように平坦に整形されていた。蓋は長さ40.5cm、幅28.0cmを測る。外面は未加工で、内面は平ノミで平坦に造られていた。これらの構築材は、牛伏砂岩製である。

**掘方** U字状に掘られ、掘方の中央部に石樋を敷設していた。掘方の土層は、小礫を含有し、よく固く締まっており、敷設後突き固めたと考えられる。石樋内は石蓋によって保護されているため、土層の堆積はない。

**出土遺物** 構築材以外は確認できない。石樋を保護する為の土からも確認できなかった。

**所見** 宿場町関連の排水施設と考えられる。出土遺物はないが、堆積状況などから、8号竪穴建物の堆積土層で確認した明治時代の建物の版築と同じ高さから確認されており、近代以降の遺物と判断される。

**時期** 近代以降



表土 As-Aやローム粒、焼土を含む。

1. 暗褐色土 きめ細かい土。しまりは弱い。
2. 黄褐色土 石樋被覆土ローム土。固くしまる。
3. 黒褐色土 石樋内覆土しまりなし。
4. 黒褐色土 石樋掘方の上。小さな礫を少し含む。固くしまる。

0 1:60 2m

第59図 1号導水管

## 2 溝

溝は8条確認され、すべて近世から近代に帰属する遺構である。性格はほとんどが区画に伴う溝と考えられる。1号溝と4号溝は、福嶋宿の町屋に伴う区割り溝と考えられ、1号溝が東西、4号溝が南北軸で直角に形成されていた。8号溝に関しても、町屋に関連する柱穴列と並行関係にあり、区画溝と想定される。2号溝と5号溝に関しては、本遺跡周辺の壬申地籍図と方位が合わないが、両者とも同じ方向へ形成されており、同時期に構築されたと考えられる。しかし、明治期に作成された区割りとはい合わないため、福嶋宿として機能する以前の区割りの可能性が考えられる。

1号溝 (第8・60図、PL.35・83)

位置 X=28532 ~ 28533 Y=-81256 ~ -81265

経過 1区北側で東西方向へ延びる溝を確認した。溝は調査区外へ延びるため、全貌は不明である。

重複 中央部の一部を攪乱によって切られている。

形状 直線的である。断面はU字状である。

規模 調査区内では、全長8mを測る。確認面の上端幅60cm ~ 68cm、底面幅40cm ~ 45cmを測る。確認面から底面まで48cmを測る。

底面傾斜 西から東へ向けて緩やかに傾く。標高は143.69 ~ 143.78m、比高差9cmを測る。

主軸方位 N-90°

埋没状態 土層断面の観察では、周囲から土砂が流れ込んだ様子が確認できることから、自然埋没と判断される。

その他施設 確認されていない。

出土遺物 江戸時代の肥前陶器が1点出土した。

所見 出土遺物から近世以降に属すると考えられる。性格は、明治期に作成された壬申地籍図の福嶋町の地割と一致しており、福嶋宿の町屋に関連する区画溝と考えられる。

時期 近世以降

3号溝 (第9・60図、PL.36)

位置 X=28596 ~ 28599 Y=-81252 ~ -81254

経過 3区南西部に南北方向へ延びる溝を確認した。溝は調査区内で完結するが、判断材料に乏しく、全貌は不明である。

重複 なし。



第60図 1・3・6号溝 1・6号溝出土遺物

**形状** 蛇行気味である。断面はU字状である。

**規模** 調査区内では、全長1.92mを測る。確認面での上端幅20cm～40cm、底面幅15cm前後を測る。確認面から底面まで8cmを測る。

**底面傾斜** 底面は平坦である。標高は143.15mを測る。

**主軸方位** N-2°-E

**埋没状態** 土層断面の観察では、周囲から土砂が流れ込んだ様子が確認できることから、自然埋没と判断される。

**その他施設** 確認されていない。

**出土遺物** 小片のため固化していないが、近世の在地系土器が1点出土した。

**所見** 時代を確定する材料はないが、周辺の遺構などから近世以降と判断される。周囲には、攪乱が広がっており、本遺構も後世の造成によって削平されている。隣接する本来は土坑だった可能性もあり得る。

**時期** 近世以降

6号溝(第9・60図、PL.43・85)

**位置** X=28657～28659 Y=81226～81231

**経過** 4区北側で東西方向へ延びる溝を確認した。溝は調査区外へ延びるため、全貌は不明である。

**重複** 3号竪穴建物を切っている。南側には4号溝が位置する。

**形状** 直線的である。断面はU字状である

**規模** 調査区内では、全長4.50mを測る。確認面での上端幅40cm前後、底面幅15cm～20cmを測る。確認面から底面まで11cmを測る。

**底面傾斜** 西から東へ向けて緩やかに傾く。標高は東が142.57m、比高6cmを測る。

**主軸方位** N-73°-W

**埋没状態** 土層断面の観察では、周囲から土砂が流れ込んだ様子が確認できることから、自然埋没と判断される。

**その他施設** 確認されていない。

**出土遺物** 牛伏砂岩製の磨石が出土した(1)。非掲載遺物では、弥生土器が11点出土している。掲載した磨石も弥生時代のもつと判断される。

**所見** 出土遺物が本遺構に伴うものかは不明であり、石製品であるため、帰属時期も不明である。しかし南側に位置する4号溝との位置関係が直角に形成されており、両遺構は関連があると判断できる。また明治期に作成された福島町の地割と一致しており、福島宿の町屋に関連

する区画溝と考えられる。4号溝と一連の施設と考えるとすれば、4号溝からは、17世紀後半から19世紀初頭の遺物が出土しており、同時期に帰属すると捉えられる。

**時期** 近世～近代

2号溝(第8・61・62図、PL.35・83)

**位置** X=28541～28550 Y=81248～81262

**経過** 2区北側で東西方向へ延びる溝を確認した。溝は調査区外へ延びるため、全貌は不明である。

**重複** 複数の土坑、攪乱によって部分的に壊されている。

**形状** 直線的である。断面は皿状である。

**規模** 調査区内では、全長19.98mを測る。確認面での上端幅200～220cm、底面幅140～160cmを測る。確認面から底面まで40cmを測る。

**底面傾斜** 南西から北東へ向けて緩やかに傾く。標高は東が143.09～143.25mで、比高16cmを測る。

**主軸方位** N-72°-E

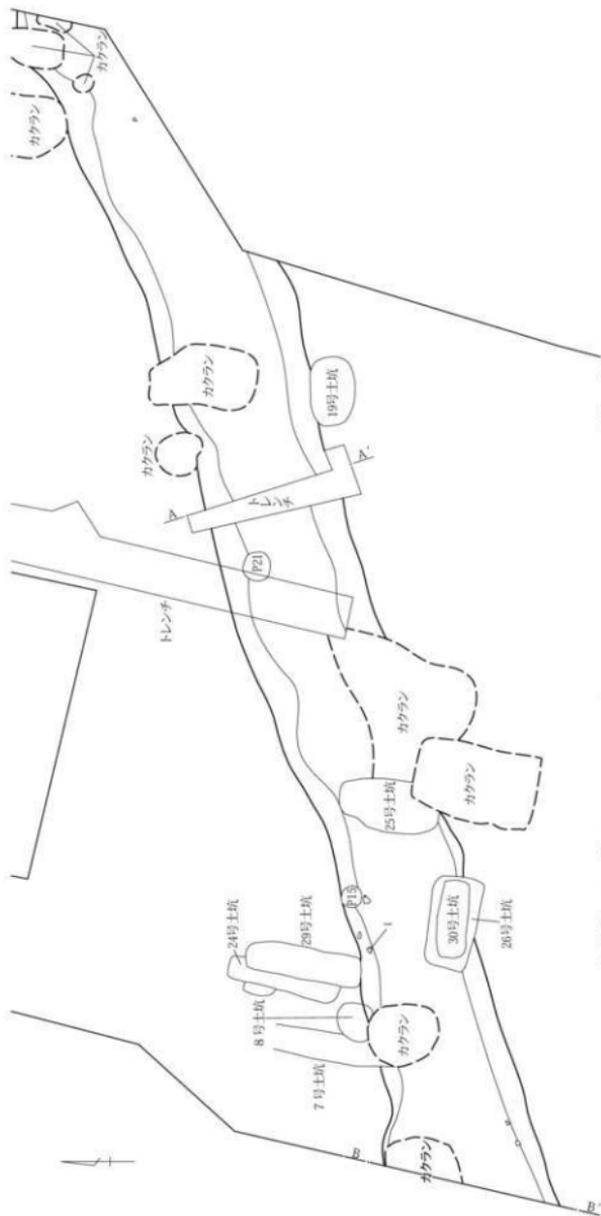
**埋没状態** 土層断面の観察では、周囲から土砂が流れ込んだ様子が確認できることから、自然埋没と判断される。

**その他施設** 確認されていない。

**出土遺物** 弥生土器と陶器が混在する。近世以降の遺物は小片だったため1点のみ掲載したが、8点138g出土した。弥生土器は24点掲載した。器種は1～7、9～12、14～19、22が甕、13が台付甕、8、20、21が壺、23と24が高環である。甕は類型が分かる個体はなく、小片に限られる。口唇部をくの字状に形成するもの(1)、口縁部に櫛波状文を施文するもの(2～4)、胴部に櫛波状文と櫛波状文を施文するもの(11～17)、ボタン状の貼付文(19)がみられた。文様の様相から、出土した土器は樽式2期新段階に比定される。中には地文に縄文を施文するもの(14)がみられた。25は近現代の在地系土器の銅形土器である。石製品は近世期の砥石(26)が出土した。

**所見** 出土遺物は、弥生土器が多く出土したが、破片資料が多く、摩滅も確認できたことから、溝の堆積過程において、埋没したとみられる。2号溝の方向は5号溝と並行関係に位置しており、関連性が想定される。

**時期** 近世

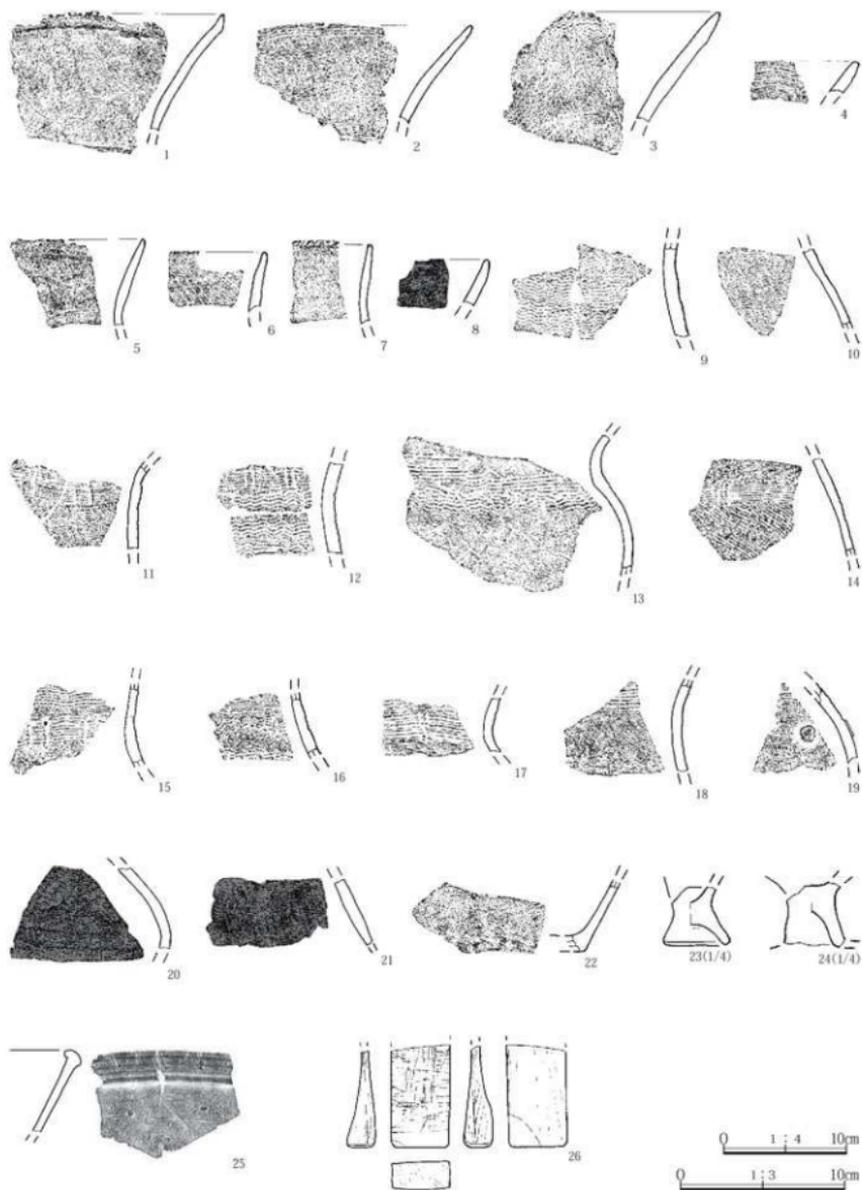


1. 暗褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 粒子細かい。小礫を含む。しまり強い。
3. 暗褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。
4. 褐色土 粒子細かい。しまりあり。



- I. 表土 攪乱。
- II. 黒褐色土 粒子細かい。所々にAs-Aを含む。しまりあり。
1. 黒褐色土 粒子細かい。小礫を含む。しまりあり。
2. 暗褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。
3. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。
4. 黒褐色土 粒子細かい。砂質土。粒子の細かい礫を含む。しまりやや弱い。

第61図 2号溝



第62図 2号溝出土遺物

4号溝(第9・63～67図、PL.36～43・83～85)

位置 X=28600～28658 Y=81230～81244

経過 3区と4区にわたって南北方向へ延びる溝を確認した。溝の東側には、石積みを伴っていた。

重複 北側では弥生時代の相当する4号竪穴建物を壊し、南側では擾乱によって部分的に壊されている。

形状 南北方向へ直線的に延び、断面は箱状を呈する。

規模 3、4区にまで及び、全長は58.50mを測る。確認面での上端は石積みの掘方を含めて幅80～160cmを測り、機能面は幅80～100cmを測る。底面の幅は80cm前後を測る。確認面から底面までは22～48cmを測る。

底面傾斜 標高は142.20～142.90mを測り、南から北へ向けて緩やかに傾く。比高は70cmを測る。

主軸方位 N-12°-E

埋没状態 土層断面の観察では、南側は6層によって1度に埋没し、北側は段階的に埋没して、最終的に3層で埋没した、これらの堆積状況から人為的な埋没と考えられる。北側と南側では最終的な埋没層が異なるが、出土遺物からは、時間差ほとんど無いため、間を置くことなく、埋没したと考えられる。3層にはAs-Aが含有している。含有物の有無は不明であるが、純層ではなく、遺物も17世紀代が出土していることから、天明3年の浅間山噴火によって降下したAs-Aを客土中に含有していたと考えられる。覆土中には、陶磁器を中心とした遺物が多く含有しており、埋没の過程で混入したと考えられる。

石積み 溝の東側側端部に50cm程の石を利用した石積みを確認した。石はすべて河原石を用いており、付近の河川から持ち込まれたと考えられる。石白などの石製品を構築材への転用は確認できなかった。石積みは有段状に形成した部分に石を横位に据え、1～2段積まれていた。後世の造成などにより、部分的に失われている状況である。1段目は軸を南北に向けた状態で横位に据えるものが多く、2段目以降は軸を東西に向けて横位に積んだ状況がみられた。また1段目は扁平石が主体的な一方で、2段目以降は比較的棒状の石を用いていた。後世の擾乱や造成を考慮すると、本来は4～5段積まれていたと想定される。PL.37～40では、空隙防止のため、横位に敷設した石と石の間を小礫によって塞ぎ、敷き詰める状況も確認できた。溝西側の肩には、石積みや石積みを据えるための掘方が確認できないことから、元々積まれてい

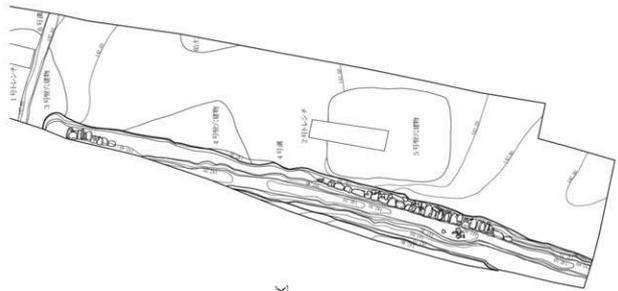
なかったとみられる。

掘方 溝本体は、機能面のみで、掘方面は確認できなかった。石積み部分の掘方は、土層断面が無いため、堆積状況は明らかではない。石積みの断面や遺構写真から推察すると、確認面から40cmほど掘り下げ、東へ60～80cmほどの幅で平坦面を形成し、石積みを敷設したと考えられる。

遺物と出土状況 出土遺物は、陶磁器と弥生土器が出土した。出土状況などから近世以降の遺構と判断し、陶磁器及び在地系土器を32点掲載した。陶磁器の非掲載遺物は46点、721.0gである。弥生土器の非掲載遺物は267点、3602.0gで、埋没土に含有していたとみられる。出土状況は、流れ込んだような状況が遺構写真や垂直分布から読み取れる。また遺物には完形品が確認できないことから、埋没過程で混入または廃棄されたと考えられる。1～23、25、27、28は陶磁器で、肥前陶磁器が多い傾向にある。器種は1～14が碗、15～19が皿、20が鉢、21が染付灰吹で、22、23は徳利、25は半胴甕、27、28はすり鉢である。24、26、29～32は在地系土器で、24は火消し壺、26は鉢形鍋、29～31は焙烙、33は十能である。土製品は33が挙げられ、鯛を模った泥メンコである。金属製品は34～36が挙げられ、34は寛永通宝、35は鎌、36は釘である。石製品は、37～39が挙げられ、37と38は石白、39は砥石である。

所見 本遺構は、直線的で規格性を持ち、なおかつ6号溝との関係を踏まえれば、区画溝としての機能が考えられる。本遺跡が位置する地点では、17世紀頃から福嶋宿、あるいは陣屋として機能しており、本区画溝も町屋の区画に伴った溝と考えられる。明治期の作成された壬申地籍図では本区画溝は確認できないが、溝の軸線は、地籍図とも一致しており、地籍図作成以前に埋没されたと考えられる。また本区画溝は、片側に石積みを有する特異性を有する。付近には奥平家が御殿・陣屋を置いたとされる「殿町」が近くに位置するが、本遺構は規模が小さく、出土遺物からも性格上当てはまらない。福嶋宿の区画溝が、石積みを持っていたかは定かではないが、屋号を持った町屋を区画するための区画溝の可能性もあり得る。

時期 近世～近代



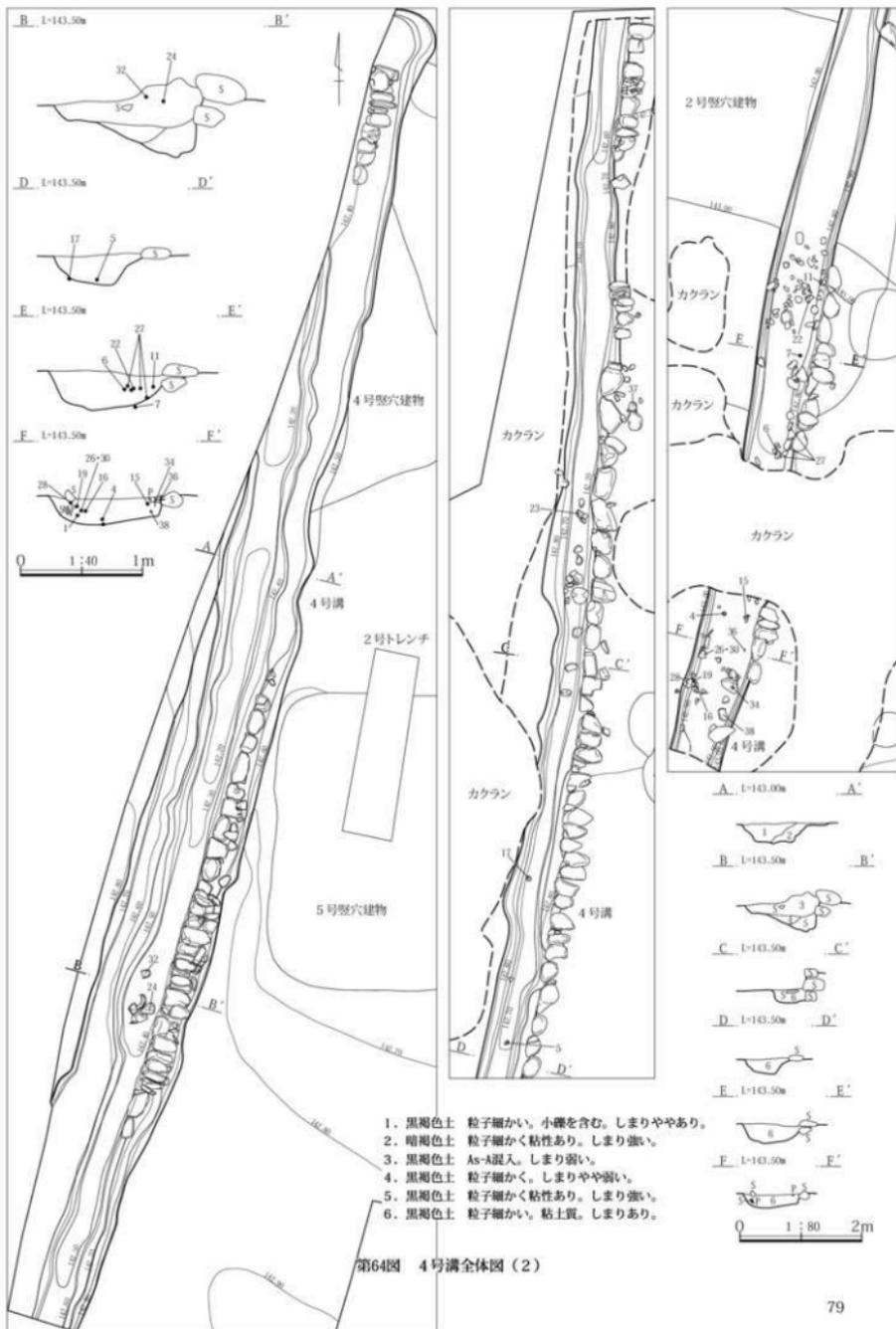
4区



3区

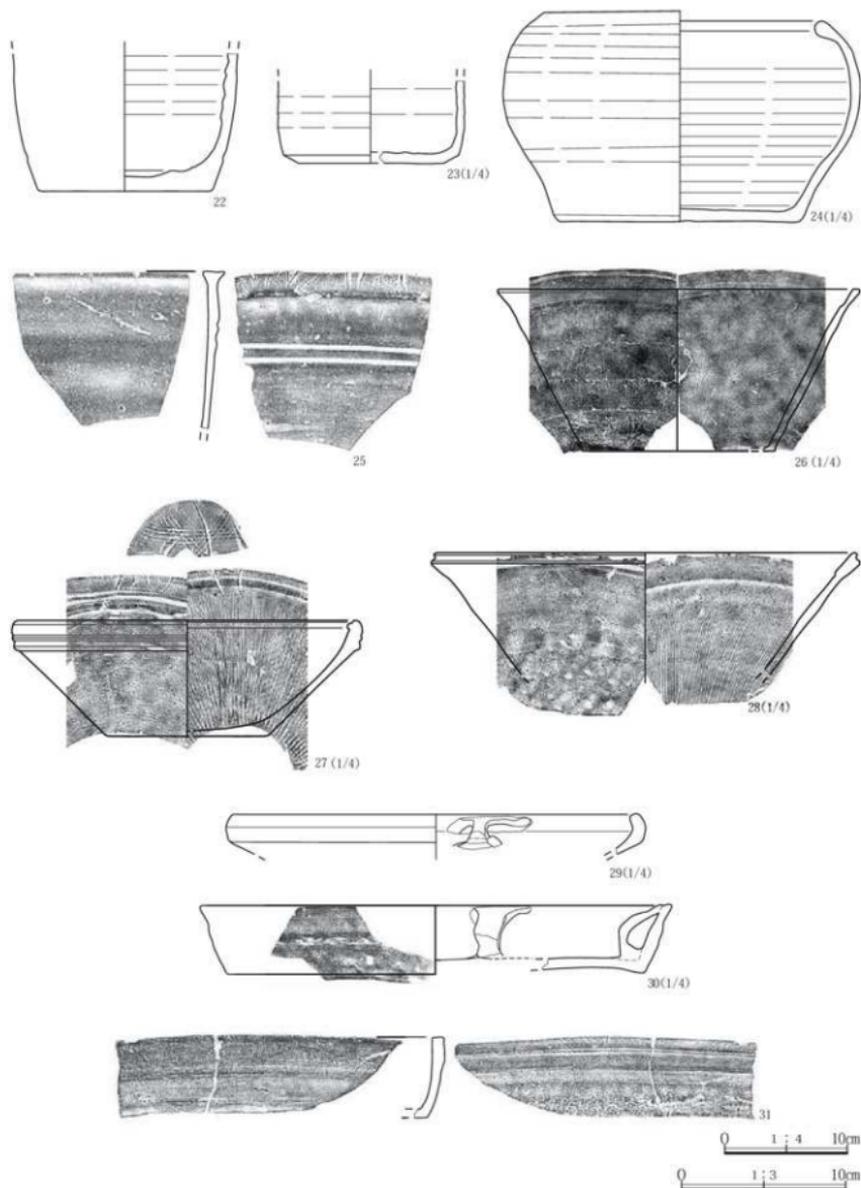
第63图 4号溝全体图(1)





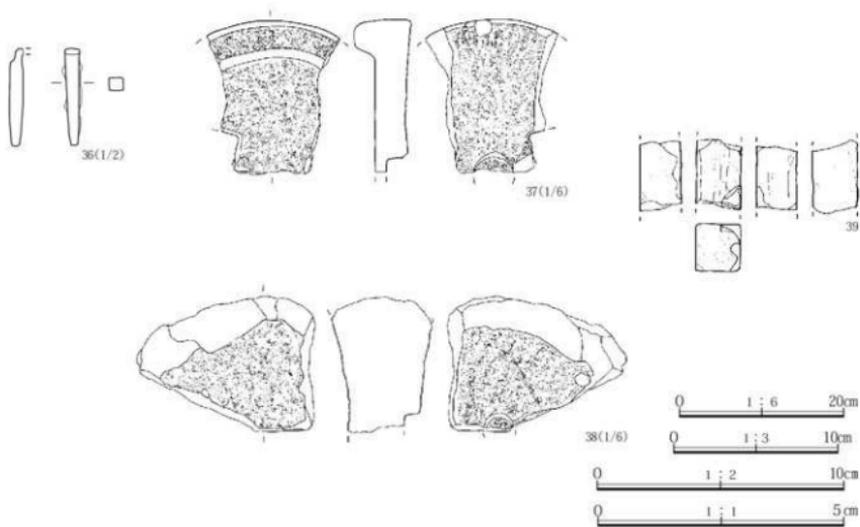
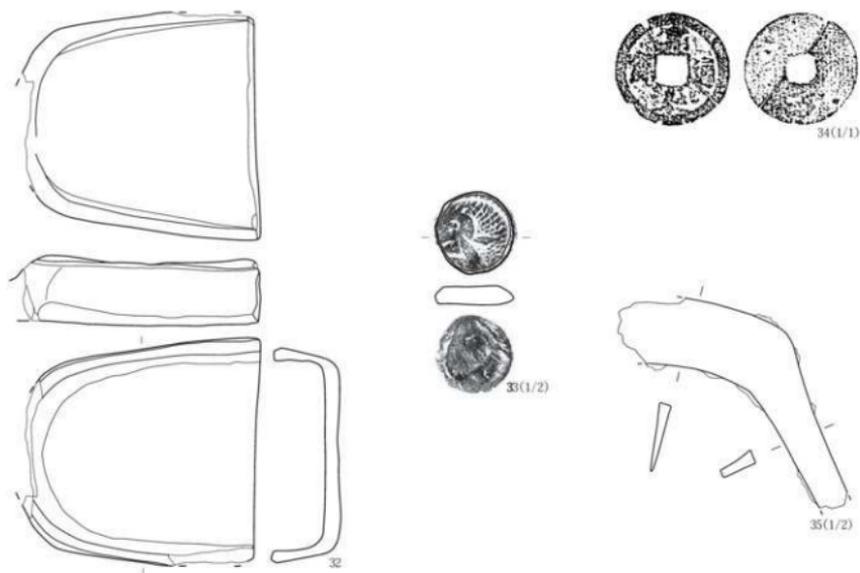


第65図 4号溝出土遺物(1)



第66図 4号溝出土遺物(2)

第3章 調査された遺構と遺物



第67図 4号溝出土遺物(3)

## 5号溝(第8・68図、PL.43)

位置 X=28541～28550 Y=81248～81262

経過 2区北側で南西から北東方向へ延びる溝を確認した。溝は調査区外へ延びるため、全貌は不明である。

重複 掘削で中央部と東側を、7号溝で東側を壊す。

形状 直線的である。断面はU字状である。

規模 調査区内では、全長14.96mを測る。確認面での上端幅100～120cm、底面幅30～50cmを測る。確認面から底面までは、遺存状態が悪く、30cm前後を測る。

底面傾斜 南西から北東へ向けて緩やかに下がっている。標高は143.54～143.87mで、確認面から底面までの比高は、33cmを測る。

主軸方位 N-62°-E

埋没状態 遺存状態が悪く、土層断面は単層である。土層はA断面とB断面では堆積土層が異なり、後者では礫を多量に含有する。単層のため、埋没過程は明らかではないが、堆積土層などから人為的な埋没と判断される。

出土遺物 陶磁器1点を掲載した。非掲載は近世相当の在地系土器が1点、43.0g、弥生土器26点、398.0gが出土した。磁器は18世紀中葉～後葉の染付筒形碗が出土した(1)。

所見 本遺構は、直線的な形態などから、区画溝と判断される。本遺構の北側には、同方向に延びて形成された2号溝があり、両者は区画溝として関連性が想定される。両遺構の方位は福岡宿の地割と一致していない。1642年に織田家治世では福岡宿が成立しており、それ以前の地割に用いた溝と考えられる。出土遺物は18世紀の磁器が出土し、年代間が一致しない。周囲に掘削などがあることから、後世の混入の可能性もあり得る。

時期 近世

## 7号溝(第8・68図)

位置 X=28547～28549 Y=81248～81250

経過 2区北側で東西方向へ延びる溝を確認した。溝は部分的に確認したため、全貌は不明である。

重複 中央部の一部を掘削によって切られている。5号溝との関係は、7号溝が新しいと判断される。

形状 直線的である。断面はU字状である。

規模 調査区内では、全長1.38mを測る。確認面での上端幅55～60cm、底面幅25～35cmを測る。確認面から底面まで54cmを測る。

底面傾斜 底面の標高値は不明である。遺構写真を見る限りでは、平坦に形成されている。

主軸方位 N-90°

埋没状態 小礫を含有した黒褐色土の単層の堆積を確認した。堆積状況などから、人為的な埋没と考えられる。

出土遺物 なし。

所見 本遺構は直線的な形態から、区画溝と考えられる。本遺構の軸線が福岡宿の地割の軸線と一致すること、福岡宿成立以前と考えられる5号溝を切っていることから福岡宿成立以後の区割り溝と考えられる。

時期 近世

## 8号溝(第10・68図、PL.43・44)

位置 X=28586～28589 Y=81194～81220

経過 6-1区北側で東西方向へ延びる溝を確認した。溝は部分的に確認のため、全貌は不明である。

重複 8号土坑を切っている。8号溝には8号土坑と同様にAs-Aが堆積しており、8号溝がAs-Aで埋没後に8号土坑を復旧坑として構築したと考えられる。

形状 直線的である。断面はU字状である。

規模 調査区内では、全長7.46mを測る。上端と底面の幅は、片側が調査区外に位置するため、不明である。確認面から底面まで40cmを測る。

底面傾斜 西から東へ向けて緩やかに傾く。標高は143.33～143.55m、比高22cmを測る。

主軸方位 ー

埋没状態 As-Aが純層で堆積していた。底面にのみ、礫を含有しており、機能時には既に小礫が混入していたと考えられる。他の夾雑物は含有しないことから、As-A降下時に埋没したと考えられる。

その他施設 確認されていない。4号溝の石積みに類似した50cm程の川原石が溝内に混入しており、確認されていない片側には、石積みが存在する可能性がある。

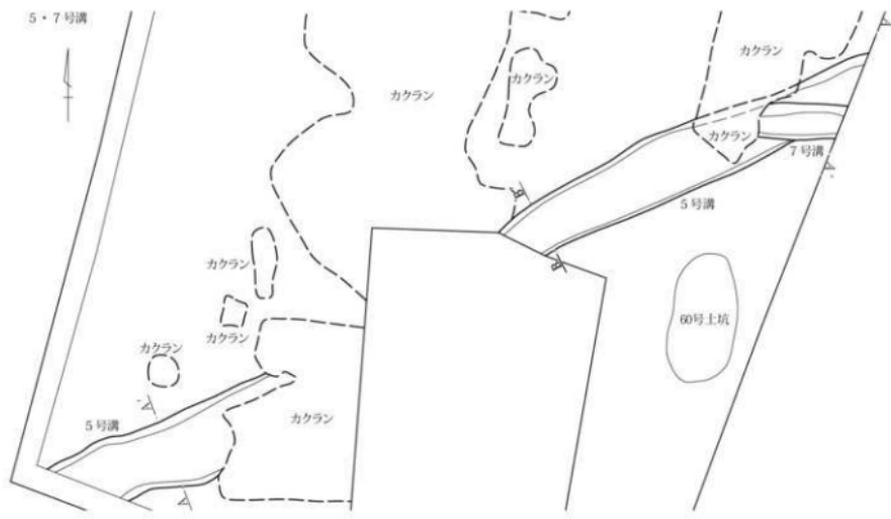
出土遺物 小片のため掲載していないが、陶磁器が1点出土した。

所見 本遺構は、直線的な形態などから、区画溝と判断される。本遺構の軸線が福岡宿の地割の軸線と一致することから福岡宿成立以後の区割り溝で、尚且つAs-Aの純層で埋没しており、福岡宿成立から1707年まで機能していた溝と考えられる。堆積状況から、As-A降下以前に埋没した可能性があり、出土遺物からも近世に属すると考えられる。本遺構の南側にある軸線が平行する柱穴列は、切り合い関係から溝よりも新しい。

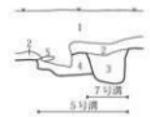
時期 近世

第3章 調査された遺構と遺物

5・7号溝

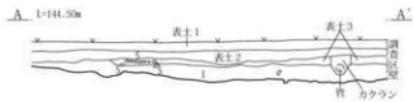
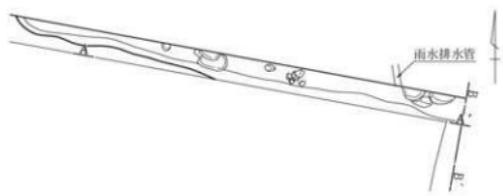


1. 黒褐色土 粒子細かい。しまり弱い。
2. 黒褐色土 粒子細かい。大小の礫多量混。しまり弱い。

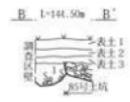


1. 表土
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。
3. 黒褐色土 粒子細かい。小礫を含む。しまりあり。
4. 黒褐色土 粒子細かい。粘性あり。しまりあり。

8号溝



1. 灰黄褐色土 As-Aの純層。φ2~9mm  
軽石 80% φ20~200mm 礫 10%



1. 灰黄褐色土 φ2~9mm 軽石を主とするAs-Aの純層。



第68図 5・7・8号溝 5号溝出土遺物

## 3 柱穴列

本遺跡で確認した柱穴列は1列のみで、調査時には古代の遺構として調査されたが、整理事業時に8号溝と並行していることなどから、近世以降に帰属する遺構ととらえた。機能としては、一部のみ確認されたため定かではないが、柵あるいは建物の一部と考えられる。

## 1号柱穴列(第10図・付図、PL.44～47)

**位置** 6-1～2区にかけて、東西方向に構築されている。

**経過** ビットの調査を行ったところ、東西方向に等間隔に配置されたビットを確認したことから、柱穴列として調査を行った。

**重複** 83号土坑によって柱穴列P4が切られている。

**平面形状** 東西12間確認したが、途中に掘乱や調査区外が絡んでおり、それ以上の間数があった可能性がある。

**規模** 調査区が狭いため、全体像が明らかになったとは言えず、不明である。

**柱穴** 11基確認された。

P1:西側から3基目の柱穴。平面形態は、円形を呈する。

長径0.40m、短径0.38m、深さ0.24mを測る。ややしっかりと掘方を有し、断面形態はU字状を呈する。

P2:西側から4基目の柱穴。平面形態は、円形を呈する。

長径0.54m、短径0.48m、深さ0.24mを測る。掘方は緩やかで、断面形態はボール状を呈する。

P3:西側から5基目の柱穴。平面形態は、円形を呈する。

長径0.54m、短径0.46m、深さ0.24mを測る。掘方はややしっかりとおり、断面形態はU字状を呈する。

P4:西側から6基目の柱穴。平面形態は、東西方向に長軸を持った楕円形を呈する。長径0.62m、短径0.48m、

深さ0.14mを測る。掘方は緩く、断面形態はU字状を呈する。

P5:西側から7基目の柱穴。平面形態は、不整形円形を呈する。

長径0.76m、短径0.66m、深さ0.52mを測る。ややしっかりと掘方を有し、断面形態はU字状を呈する。

P6:西側から9基目の柱穴。平面形態は、不整形円形を呈する。

長径0.42m、短径0.32m、深さ0.18mを測る。ややしっかりと掘方を有し、断面形態はU字状を呈する。

P7:西側から10基目の柱穴。平面形態は、不整形円形を呈する。長径0.36m、短径0.36m、深さ0.36mを測る。しっかりと掘方を有し、断面形態はU字状を呈する。

P8:西側から11基目、東端の柱穴。平面形態は、不整形円形を呈する。長径0.36m、短径0.32m、深さ0.30mを測る。しっかりと掘方を有し、断面形態はU字状を呈する。

P9:西側から8基目の柱穴。平面形態は、不整形円形を呈する。長径0.40m、短径0.38m、深さ0.16mを測る。緩い掘方を有し、断面形態はU字状を呈する。

P10:西側から2基目の柱穴。平面形態は、円形を呈する。長径0.30m、短径0.26m、深さ0.18mを測る。緩い掘方を有し、断面形態はU字状を呈する。

P11:西側から1基目、西端の柱穴。平面形態は、円形を呈する。長径0.42m、短径0.40m、深さ0.24mを測る。緩い掘方を有し、断面形態はU字状を呈する。

**埋土** 20m程の礫を含有した黒褐色土、黒色土がP1、P8以外単層で堆積する。P1は黒褐色土とローム混土が堆積している。底面には柱痕などは確認できなかった。

**柱間**

P8 - P7 : 1.8m 0.99間 P7 - P6 : 3.4m 1.87間

P6 - P9 : 1.5m 0.82間 P5 - P4 : 1.2m 0.66間

P4 - P3 : 1.2m 0.66間 P3 - P2 : 1.4m 0.77間

P2 - P1 : 1.4m 0.77間 P1 - P10 : 3.6m 1.98間

P10 - P11 : 2.3m 1.26間

**出土遺物** なし。

**所見** 調査時にはAs-Aを含有せず、壬申地籍図地割と一致しないため、機能していた時期が福嶋宿成立前と捉え、古代と認定された。覆土中からは、遺物の出土はなく、時期判定の確証はない。8号溝と柱穴列の軸方向が並行しており、関連性を想定した。しかし8号溝は、As-Aで埋没しており、時期差がある。そのため、8号溝構築時には既に埋没しており、関連性はない。最低でも19世紀中葉に構築された83号土坑よりも古い。また調査区が細いため、本来一つの遺構を構成していたと言えない。一連の遺構とすれば、町屋を構成していたと考えられるが、確証はない。詳細な検討については第4章で述べる。

**時期** 近代

#### 4 土坑・ピット

本遺跡では、近世に相当する土坑が86基、ピットが67基を確認した。土坑・ピットの分布傾向は1区では確認できず、2区では北側に密に分布していた。一方で3・4区では散逸的にみられた。形状は隅丸長方形と円形の土坑を中心としていた。性格は天明3年のAs-Aの復旧坑、建物基礎あるいは柱穴、廃棄土坑がみられた。ピットの形状は円形のものが多く、柱穴の可能性のあるものも確認できた。

##### ・2区土坑

1号土坑（第8・69図、PL.48）

**位置** X=28574～28577 Y=-81242～-81244

**経過** 2区北東部で確認され、2号溝の北側に位置する。

**重複** 掘乱によって、東側の一部が壊されている。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 1.40m 短軸 1.08m 深さ 0.54m

**主軸方位** N-4° -W

**埋没状態** レンズ状に堆積する。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

2号土坑（第8・69図、PL.48）

**位置** X=28577～28578 Y=-81243～-81244

**経過** 2区北東部で確認され、2号溝の北側に位置する。

**重複** 本土坑の西側に6号ピットが位置し、6号ピットによって切られている。

**形状** 不整形円形。

**規模** 長軸 0.64m 短軸 0.54m 深さ 0.14m

**主軸方位** N-11° -W

**埋没状態** 単層のため、堆積状態は不明である。人為的な痕跡は確認できないため、自然堆積と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

3号土坑（第8・69図、PL.48）

**位置** X=28574～28577 Y=-81239～-81241

**経過** 2区北東部で確認され、2号溝の北側に位置する。

**重複** 本土坑の北東側が掘乱によって一部壊されている。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 2.56m 短軸 1.10m 深さ 0.26m

**主軸方位** N-2° -W

**埋没状態** レンズ状に堆積が確認でき、人為的な堆積と想定される。

**出土遺物** 非掲載であるが、近世の焙烙片2点と弥生土器6点が出土した。

**所見** 性格は廃棄土坑と考えられる。土層の堆積状況や周辺の遺構との関係を踏まえて、近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

4号土坑（第8・69図、PL.48）

**位置** X=28574～28576 Y=-81245～-81247

**経過** 2区北部で確認され、2号溝の北側に位置する。

**重複** なし。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 0.64m 短軸 0.40m 深さ 0.12m

**主軸方位** N-15° -W

**埋没状態** 単層のため、自然堆積か、あるいは人為的な堆積によるかは、判断としない。褐色土ブロックを含むことから、人為的な埋没の可能性がある。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

5号土坑（第8・69図、PL.48）

**位置** X=28573～28575 Y=-81250～-81252

**経過** 2区北西部で確認され、2号溝の北側に位置する。

**重複** 本土坑の南側に12号ピットが位置し、12号ピットによって切られている。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 1.44m 短軸 0.94m 深さ 0.19m

**主軸方位** N-38° -W

**埋没状態** 埋没土層が単層であり、自然堆積か、人為堆積か判断としない。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が4点出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

6号土坑(第8・69図、PL.48)

**位置** X=28572～28574 Y=-81248～-81249

**経過** 2区北部で確認され、2号溝の北側に位置する。

**重複** 本土坑の北側に22号ピットが位置し、22号ピットによって切られている。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 0.40 m 短軸 0.32 m 深さ 0.28 m

**主軸方位** N-15° -E

**埋没状態** ほぼ水平に堆積している。2層中には礫が混じり、人為的な堆積と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 堆積状況や含有物から廃棄土坑と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

7号土坑(第8・69図、PL.48)

**位置** X=28570～28573 Y=-81253～-81254

**経過** 2区北西部で確認され、2号溝の北側に位置する。

**重複** 本土坑の北側は18号土坑に、南側は8号土坑と攪乱によって壊されている。2号溝を切っている。

**形状** 溝状を呈する。

**規模** 長軸 2.00 m 短軸 0.48 m 深さ 0.12 m

**主軸方位** N-8° -E

**埋没状態** 黒褐色土層が単層で確認された。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格は廃棄土坑と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

8号土坑(第8・69図、PL.48・49)

**位置** X=28570～28572 Y=-81252～-81254

**経過** 2区北西部で確認され、2号溝の北側に位置する。

**重複** 本土坑の西側に7号土坑が位置し、7号土坑を切る。2号溝も切っている。南側は攪乱によって一部切られている。

**形状** 不整形円形。断面形態は箱状を呈する。

**規模** 長軸 0.60 m 短軸 0.52 m 深さ 0.23 m

**主軸方位** N-85° -W

**埋没状態** 黒褐色土層が単層で堆積する。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

9号土坑(第8・69・75図、PL.49・85)

**位置** X=28576～28577 Y=-81251～-81253

**経過** 2区北西部で確認され、2号溝の北側に位置する。

**重複** なし。

**形状** 不整形円形。断面形態は箱形で、北東部の底面に不整形の掘り込みを有する。

**規模** 長軸 0.74 m 短軸 0.62 m 深さ 0.40 m

**主軸方位** N-7° -E

**埋没状態** 黒褐色土層が2層ほぼ水平に堆積する。注記に記載はないが、写真からは褐色ブロックの堆積が確認できる。

**出土遺物** 鉄製の釘(1)と治平元宝(2)が出土した。それ以外に小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が3点出土した。

**所見** 性格などは不明である。構築時期は出土遺物や堆積状況、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

10号土坑(第8・69図、PL.49)

**位置** X=28572～28574 Y=-81246～-81248

**経過** 2区北部で確認され、2号溝の北側に位置する。

**重複** なし。

**形状** 東側は試掘トレンチによって切られているが、おそらく隅丸長方形と推察される。

**規模** 長軸 1.00 m 短軸 0.62 m 深さ 0.11 m

**主軸方位** N-90°

**埋没状態** 黒褐色土層中に50cm程の礫を含有する。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が1点出土した。覆土中に混入していたと考えられる。

**所見** 堆積土層中に礫を多く含有しており、礫の廃棄土坑の可能性が考えられる。時期を判断できる材料はない

が、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

11号土坑 (第8・70図、PL.49)

**位置** X=28566 ~ 28568 Y=-81251 ~ -81254

**経過** 2区中央部で確認され、2号溝の南側に位置する。

**重複** なし。

**形状** 隅丸長方形。断面形態は箱形を呈する。

**規模** 長軸 1.92m 短軸 0.68m 深さ 0.16m

**主軸方位** N-73° -W

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が3点出土した。覆土中に混入していたと考えられる。

**所見** 性格は建物基礎と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

12号土坑 (第8・70図、PL.49)

**位置** X=28566 ~ 28568 Y=-81249 ~ -81251

**経過** 2区中央部で確認され、2号溝の南側に位置する。

**重複** なし。

**形状** 円形。断面形態は箱形を呈する。

**規模** 長軸 1.54m 短軸 1.36m 深さ 0.28m

**主軸方位** N-79° -W

**埋没状態** 黒褐色土間にブロック状の褐色土を主体とする層が単層で堆積する。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、近世に相当する焙烙片が11点出土した。覆土中に混入していたと考えられる。

**所見** 性格は建物基礎と考えられる。時期は出土遺物や周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

13号土坑 (第8・70図、PL.49)

**位置** X=28566 ~ 28567 Y=-81244 ~ -81247

**経過** 2区中央部で確認され、2号溝の南側に位置する。

**重複** なし。

**形状** 隅丸長方形。断面形態はU字状を呈する。

**規模** 長軸 1.46m 短軸 0.48m 深さ 0.29m

**主軸方位** N-78° -E

**埋没状態** 黒褐色土中にブロック状の褐色土と礫を含有する。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格は建物基礎と考えられる。時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

14号土坑 (第8・70図、PL.49)

**位置** X=28562 ~ 28565 Y=-81245 ~ -81247

**経過** 2区中央部東側で確認され、周辺には同様の土坑が散在する。

**重複** 本土坑の東側に隣接して、15号土坑が位置し、15号土坑を一部切っている。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 1.58m 短軸 0.96m 深さ 0.20m

**主軸方位** N-5° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。単層のため、堆積状態は不明であり、人為的な堆積か、自然堆積かは判然としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

15号土坑 (第8・70図、PL.49)

**位置** X=28563 ~ 28565 Y=-81244 ~ -81246

**経過** 2区中央部東側で確認され、周辺には同様の土坑が散在する。

**重複** 本土坑の西側に隣接して、14号土坑が位置し、14号土坑に一部切られている。

**形状** 不整形円形。

**規模** 長軸 1.20m 短軸 (1.04) m 深さ 0.42m

**主軸方位** N-15° -E

**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積し、礫を含有する。堆積層は、水平に堆積していた。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

16号土坑 (第8・70図、PL.49・50)

位置 X=28562～28564 Y=-81246～-81248

経過 2区中央部東側で確認され、周辺には同様の土坑が集中する。

重複 本土坑の西側は、攪乱によって、土坑の2/3は失われている。また南側には17号土坑が隣接しており、16号土坑が新しい。

形状 長円形か。

規模 長軸 — 短軸 — 深さ (0.26) m

主軸方位 —

埋没状態 黒褐色土が単層で堆積する。上面の南側が高い傾向が認められ、南側からの土砂の流入が想定される。

出土遺物 なし。

所見 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

時期 近世以降

17号土坑 (第8・70図、PL.50)

位置 X=28561～28563 Y=-81246～-81248

経過 2区中央部東側で確認され、周辺には同様の土坑が集中する。

重複 本土坑の北側に16号土坑が位置し、16号土坑に切られている。

形状 長円形か。

規模 長軸 (0.70) m 短軸 0.58m 深さ 0.26m

主軸方位 N-10° -E

埋没状態 黒褐色土が2層堆積する。1層上面が南側へ高い傾向が認められ、南側からの土砂の流入が想定される。

出土遺物 なし。

所見 性格は建物基礎と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

時期 近世以降

18号土坑 (第8・70図、PL.50)

位置 X=28572～28574 Y=-81253～-81254

経過 2区北西部で確認され、2号溝の北側に位置する。

重複 本土坑の南側に7号土坑、西側に24号ピットが位置し、7号土坑を切り、24号ピットに切られている。

形状 不整形。

規模 長軸 (0.84) m 短軸 (0.72) m 深さ 0.19m

主軸方位 N-65° -W

埋没状態 黒褐色土が単層で堆積する。土砂の流入状況は不明確であり、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

出土遺物 なし。

所見 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

時期 近世以降

19号土坑 (第8・70図、PL.50)

位置 X=28571～28573 Y=-81242～-81244

経過 2区北東部で確認され、2号溝の南側に位置する。

重複 2号溝を切っている。

形状 長円形。

規模 長軸 1.12m 短軸 0.72m 深さ 0.57m

主軸方位 N-89° -E

埋没状態 黒褐色土が単層で堆積し、小礫を含有する。単層のため、堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

出土遺物 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が5点出土した。覆土中に混入していたと考えられる。

所見 性格は小礫を多く含有しており、廃棄土坑と考えられる。時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

時期 近世以降

20号土坑 (第8・70図、PL.50)

位置 X=28569～28571 Y=-81254～-81256

経過 2区北西部で確認され、2号溝の北側に位置する。

重複 本土坑の西側は攪乱で壊されている。

形状 隅丸長方形。

規模 長軸 (1.28) m 短軸 0.60m 深さ 0.22m

主軸方位 N-65° -W

埋没状態 黒色土と黒褐色土が堆積し、人為的な埋没と想定される。

出土遺物 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が5点出土した。覆土中に混入していたと考えられる。

所見 性格は建物基礎と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

21号土坑 (第8・70図、PL.50)

**位置** X=28571 ~ 28573 Y=-81254 ~ -81256

**経過** 2区北部西壁で確認され、周辺には同様の土坑が集中する。

**重複** 西側は調査区外に位置するため、全貌は不明である。北側は攪乱で壊されている。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 (1.36) m 短軸 (0.48) m 深さ 0.28m

**主軸方位** N-11° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積し、小礫を含有する。単層のため、堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。2層中にAs-Aを含有しており、As-A降下以前に埋没したと考えられる。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が2点出土した。覆土中に混入していたと考えられる。

**所見** 性格は不明であるが、土坑埋没後にAs-Aを含有する層が堆積していることから、As-A降下以前に構築されたと考えられる。近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降 (天明3年以前)

22号土坑 (第8・71図、PL.50)

**位置** X=28571 ~ 28573 Y=-81249 ~ -81251

**経過** 2区北部で確認され、周辺には同様の土坑が集中する。

**重複** なし。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 1.34m 短軸 0.54m 深さ 0.10m

**主軸方位** N-14° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が1点出土した。覆土中に混入していたと考えられる。

**所見** 性格は廃棄土坑と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

23号土坑 (第8・71・75図、PL.50・85)

**位置** X=28573 ~ 28576 Y=-81251 ~ -81253

**経過** 2区北西部で確認され、周辺には同様の土坑が集中する。

**重複** 西側は攪乱で壊されている。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 1.60m 短軸 (0.92) m 深さ 0.32m

**主軸方位** N-14° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況などから人為的な堆積と考えられる。

**出土遺物** 15 ~ 16世紀の内耳鐲が1点出土した(1)。小片のため、非掲載遺物としたが、近世相当の在地系土器が5点出土した。覆土中に混入していたと考えられる。

**所見** 本土坑は廃棄土坑とみられ、出土遺物から近世に帰属する遺構と判断される。

**時期** 近世

24・29号土坑 (第8・71図、PL.51)

**位置** 24号土坑：X=28571 ~ 28574 Y=-81252 ~ -81253

29号土坑：X=28571 ~ 28574 Y=-81251 ~ -81253

**経過** 2区北西部で確認され、周辺には同様の土坑が集中する。

**重複** 24号土坑の東に29号土坑が隣接しており、29号土坑が24号土坑を切っている。29号土坑は2号溝も切っている。

**形状** 24・29号土坑：隅丸長方形。

**規模**

24号土坑：長軸1.84m 短軸 (0.40) m 深さ0.27m

29号土坑：長軸1.88m 短軸 0.52 m 深さ0.37m

**主軸方位** 24号土坑：N-12° -E

29号土坑：N-10° -E

**埋没状態** 24号土坑は単層で、29号土坑は2層で堆積する。両者ともブロック状の黄褐色土を含有し、後者が小礫を含有する。24号土坑は単層であり、29号土坑はほぼ水平に堆積している。人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 29号土坑からは小片のため、非掲載遺物としたが、近世相当の在地系土器が3点出土した。

**所見** 24号土坑は廃棄土坑、29号土坑は建物基礎とみられる。時期を出土遺物や遺構の形状などから、近世に帰属すると考えられる。

**時期** 近世

25号土坑 (第8・71図、PL.51)

**位置** X=28569 ~ 28572 Y=-81249 ~ -81251

**経過** 2区北西部で確認され、周辺には同様の土坑が集中する。

**重複** 2号溝を切っている。南東は攪乱で壊されている。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 1.64m 短軸 0.86m 深さ 0.34m

**主軸方位** N-5° -E

**埋没状態** 黒褐色土が2層で堆積し、小礫を含有する。堆積状況から人為的な埋没と考えられる。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が25点と近世の在来系土器が出土した。

**所見** 性格は小礫を多く含有しており、廃棄土坑と考えられる。時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

26号土坑 (第8・71図、PL.51)

**位置** X=28569 ~ 28571 Y=-81250 ~ -81253

**経過** 2区北部で確認され、周辺には同様の土坑が集中する。

**重複** 2号溝を切っている。北西部を攪乱によって、壊されている。東側には27号土坑が接しており、本土坑の方が新しい。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 1.50m 短軸 0.84m 深さ 0.30m

**主軸方位** N-80° -W

**埋没状態** 黒褐色土が2層で堆積する。堆積状況から人為的な埋没と考えられる。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格は建物基礎と考えられる。時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

27号土坑 (第8・71図、PL.51)

**位置** X=28568 ~ 28570 Y=-81250 ~ -81252

**経過** 2区北部で確認され、周辺には同様の土坑が集中する。

**重複** 西側を26号土坑に、東側を28号土坑に切られている。

**形状** 隅丸長方形か。

**規模** 長軸 (0.80) m 短軸 0.52m 深さ 0.16m

**主軸方位** N-77° -W

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格は建物基礎と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

28号土坑 (第8・71図、PL.51)

**位置** X=28568 ~ 28570 Y=-81249 ~ -81251

**経過** 2区北部で確認され、周辺には同様の土坑が集中する。

**重複** 東側は攪乱によって壊されている。西側には27号土坑が隣接しており、これを切っている。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 (1.12) m 短軸 (0.52) m 深さ 0.27m

**主軸方位** N-8° -W

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器と近世の在来系土器が出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

30号土坑 (第8・71図、PL.51)

**位置** X=28569 ~ 28570 Y=-81250 ~ -81253

**経過** 2区北部で確認され、周辺には同様の土坑が集中する。

**重複** 2号溝を切っている。上面を攪乱によって壊されている。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 (1.26) m 短軸 (0.48) m 深さ 0.13m

**主軸方位** N-89° -W

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況から人為的な埋没と考えられる。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、近世の在来系土器が出土した。

**所見** 性格は、形態などから廃棄土坑と考えられる。時期は、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

31号土坑 (第8・71図、PL.51)

### 第3章 調査された遺構と遺物

**位置** X=28574 ~ 28576 Y=-81246 ~ -81248

**経過** 2区北部で確認され、周辺には同様の土坑が集中する。

**重複** 重複はないが、本土坑の北側は調査区外のため、土坑の全容は不明である。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 (1.28) m 短軸 (0.12) m 深さ 0.28m

**主軸方位** N-8° -W

**埋没状態** 暗褐色土が2層で堆積し、人為的な埋没と想定される。2層中にAs-Aを含有しており、As-A降下以前に埋没したと考えられる。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が出土した。

**所見** 性格は廃棄土坑と考えられ、土坑埋没後にAs-Aを含有する層が堆積していることから、As-A降下以前に構築されたと考えられる。近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降(天明3年以前)

53号土坑(第8・71図、PL.51)

**位置** X=28554 ~ 28557 Y=-81248 ~ -81250

**経過** 2区中央部東側で確認された。

**重複** なし。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 1.34m 短軸 0.60m 深さ 0.06m

**主軸方位** N-18° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積し、小礫を含有する。人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 建物基礎と考えられる。時期は、判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

54号土坑(第8・71図、PL.51)

**位置** X=28561 ~ 28563 Y=-81253 ~ -81255

**経過** 2区中央部西側で確認された。

**重複** なし。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.90m 短軸 0.80m 深さ 0.12m

**主軸方位** N-71° -W

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明

確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が2点出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

56号土坑(第8・72図、PL.52)

**位置** X=28557 ~ 28559 Y=-81252 ~ -81254

**経過** 2区中央部で確認された。

**重複** なし。

**形状** 円形か。

**規模** 長軸 1.00m 短軸 (0.72) m 深さ 0.19m

**主軸方位** N-75° -W

**埋没状態** 黒褐色土と暗褐色土が堆積し、2層中には黄褐色土がブロック状に堆積する。堆積状況から、人為的な埋没と考えられる。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が出土した。

**所見** 性格は建物基礎と考えられる。時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

57号土坑(第8・72図、PL.52)

**位置** X=28556 ~ 28558 Y=-81250 ~ -81252

**経過** 2区中央部で確認された。

**重複** なし。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 1.10m 短軸 0.92m 深さ 0.19m

**主軸方位** N-73° -W

**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積し、1層が東上方向へ傾斜していることから、東側から土砂が流れ込んで堆積したとみられる。

**出土遺物** 非掲載遺物であるが、弥生土器が3点出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

58号土坑(第8・72図、PL.52)

**位置** X=28556 ~ 28561 Y=-81247 ~ -81249

**経過** 2区中央部東側で確認された。

**重複** なし。

**形状** 溝状を呈している。中央部が有段状になっており、記録はないが、切り合っていた可能性もあり得る。

**規模** 長軸 3.58m 短軸 0.90m 深さ 0.31m

**主軸方位** N-13° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層堆積する。人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が4点出土した。

**所見** 性格は建物基礎と考えられる。時期は判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

59号土坑 (第8・72・75図、PL.52・85・86)

**位置** X=28551 ~ 28554 Y=-81257 ~ -81260

**経過** 2区中央部西側で確認された。

**重複** なし。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 1.62m 短軸 1.36m 深さ 0.55m

**主軸方位** N-76° -W

**埋没状態** 暗褐色土1層と黒褐色土2層がレンズ状に堆積する。ブロック状の黄褐色土を含有しており、人為的に埋没したと考えられる。

**出土遺物** 陶磁器類が出土し、2点掲載した。非掲載遺物は陶磁器19点、近世相当の在地系土器15点である。1は在地系土器の火鉢で、近世から近代に相当する。2は17世紀後葉～18世紀前葉に比定される瀬戸・美濃陶器である。また鎌2点が出土している(3、4)。

**所見** 出土遺物には破片が多く、3層に集中していたことから、廃棄土坑と考えられる。時期は覆土中から陶器が出土しており、近世に帰属すると判断される。

**時期** 近世

60号土坑 (第8・72・75図、PL.52・86)

**位置** X=28543 ~ 28546 Y=-81250 ~ -81252

**経過** 2区南東部隅で確認された。

**重複** なし。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 2.12m 短軸 1.08m 深さ 0.74m

**主軸方位** N-8° -E

**埋没状態** 2層の堆積が確認され、2層は黒褐色土層、1層はAs-Aの純層で、下面には、小礫が堆積する。堆積状況から人為的な埋没と考えられ、復旧坑と想定される。

**出土遺物** 陶磁器類が出土し、1点掲載した。非掲載遺物は陶磁器1点、近世相当の在地系土器1点である。1は18世紀中葉～後葉に比定される肥前磁器の小丸碗である。また用途不明の鉄製品が1点出土した。

**所見** 土坑の土層堆積状況から、復旧坑と考えらる。堆積層から天明3年に帰属すると考えられ、出土遺物とも整合的である。

**時期** 近世

61号土坑 (第8・72・76図、PL.52)

**位置** X=28553 ~ 28557 Y=-81245 ~ -81249

**経過** 2区中央部東側で確認された。

**重複** なし。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 3.38m 短軸 1.80m 深さ 0.80m

**主軸方位** N-12° -E

**埋没状態** As-Aが主体の層が堆積し、堆積状況から人為的な埋没と考えられ、復旧坑と想定される。

**出土遺物** 陶磁器類が出土し、2点を掲載した。1と2は瀬戸・美濃陶器のすり鉢で、1は18世紀後葉に比定される。小片のため、非掲載遺物としたが、陶磁器1点と在地系土器7点が出土した。

**所見** 土坑の土層堆積状況から、復旧坑と考えられ、天明3年以降に帰属すると考えられる。出土遺物とも整合的である。

**時期** 近世

63号土坑 (第8・73・76図、PL.52・86)

**位置** X=28552 ~ 28556 Y=-81251 ~ -81255

**経過** 2区中央部で確認された。

**重複** なし。

**形状** 不整形円形。

**規模** 長軸 3.50m 短軸 (3.08) m 深さ 0.36m

**主軸方位** N-77° -W

**埋没状態** 攪乱により遺存状態は良好でないが、2層の堆積が確認され、2層は黒褐色土層、1層はAs-Aの純層が堆積する。堆積状況から人為的な埋没と考えられ、復旧坑と想定される。

### 第3章 調査された遺構と遺物

**出土遺物** 陶磁器類が出土し、1を掲載した。1は17世紀中葉から後葉の肥前陶器の呉器手碗である。小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器3点と近世の在地系土器6点と陶磁器1点が出土した。

**所見** 土坑の土層堆積状況から、復旧坑と考えられ、天明3年以降に帰属すると考えられる。

**時期** 近世

・2区ピット

1号ピット (第8・73図、PL.53)

**位置** X=28578～28580 Y=81242～81244

**経過** 2区北東側で確認された。

**重複** 2号ピットに切られている。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 0.80m 短軸 0.46m 深さ 0.30m

**主軸方位** N-3° -E

**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。縦位堆積が認められることから、柱穴の可能性もあり得る。

**出土遺物** なし。

**所見** 堆積状況から柱穴の可能性が考えられる。時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

2号ピット (第8・73図、PL.53)

**位置** X=28578～28580 Y=81242～81244

**経過** 2区北東部で確認された。

**重複** 1号ピットを切っている。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 0.46m 短軸 0.38m 深さ 0.17m

**主軸方位** N-7° -E

**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。縦位堆積が認められることから、柱穴の可能性もあり得る。

**出土遺物** なし。

**所見** 堆積状況から柱穴の可能性が考えられる。時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

3号ピット (第8・73図、PL.53)

**位置** X=28578～28579 Y=81241～81243

**経過** 2区北東部で確認された。

**重複** なし。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 0.46m 短軸 0.36m 深さ 0.10m

**主軸方位** N-14° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。土層中には、黄色土ブロックを含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

4号ピット (第8・73図、PL.53)

**位置** X=28575～28576 Y=81240～81242

**経過** 2区北東部で確認された。東側には5号ピットが位置する。

**重複** なし。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 0.28m 短軸 0.20m 深さ 0.34m

**主軸方位** N-57° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

5号ピット (第8・73図、PL.53)

**位置** X=28575～28577 Y=81240～81241

**経過** 2区北東部で確認された。西側には4号ピットが位置する。

**重複** なし。4号ピットが隣接するが、切り合っていない。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 0.30m 短軸 0.26m 深さ 0.10m

**主軸方位** N-10° -W

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はない

が、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

6号ピット (第8・69図、PL.48)

**位置** X=28577 ~ 28578 Y=-81243 ~ -81245

**経過** 2区北東部で確認され、2号溝の北側に位置する。

**重複** 本ピットの東側に2号土坑が位置し、2号土坑を切っている。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 0.30m 短軸 0.22m 深さ 0.33m

**主軸方位** N-8° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

7号ピット (第8・73図、PL.53)

**位置** X=28575 ~ 28576 Y=-81241 ~ -81242

**経過** 2区北東部で確認された。

**重複** なし。

**形状** 不整形円形。

**規模** 長軸 0.36m 短軸 0.28m 深さ 0.22m

**主軸方位** N-87° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

8号ピット (第8・73図、PL.53)

**位置** X=28576 ~ 28577 Y=-81239 ~ -81241

**経過** 2区北東部で確認された。

**重複** なし。

**形状** 不整形円形。

**規模** 長軸 0.54m 短軸 0.52m 深さ 0.22m

**主軸方位** N-45° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明

確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

9号ピット (第8・74図、PL.53)

**位置** X=28576 ~ 28578 Y=-81237 ~ -81239

**経過** 2区北東部で確認された。

**重複** なし。

**形状** 不整形円形。

**規模** 長軸 0.52m 短軸 0.40m 深さ 0.38m

**主軸方位** N-67° -W

**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

10号ピット (第8・74図、PL.53・54)

**位置** X=28577 ~ 28578 Y=-81252 ~ -81253

**経過** 2区北西部で確認された。

**重複** なし。

**形状** 不整形円形。

**規模** 長軸 0.48m 短軸 0.44m 深さ 0.44m

**主軸方位** N-69° -W

**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

11号ピット (第8・74図、PL.54)

**位置** X=28575 ~ 28577 Y=-81249 ~ -81251

**経過** 2区北西部で確認された。

**重複** なし。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.38m 短軸 0.38m 深さ 0.42m

**主軸方位** N-0°  
**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。  
**出土遺物** なし。  
**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。  
**時期** 近世以降  
 12号ピット (第8・74図、PL.54)  
**位置** X=28573～28574 Y=81250～81251  
**経過** 2区北西部で確認された。  
**重複** 本ピットの北側に5号土坑が位置し、5号土坑を切っている。  
**形状** 不整形円形。  
**規模** 長軸 0.48m 短軸 0.44m 深さ 0.44m  
**主軸方位** N-90°  
**埋没状態** 黒褐色土が単層堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。  
**出土遺物** なし。  
**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。  
**時期** 近世以降  
 13号ピット (第8・74図、PL.54)  
**位置** X=28572～28573 Y=81250～81251  
**経過** 2区北西部で確認された。  
**重複** なし。  
**形状** 円形。  
**規模** 長軸 0.50m 短軸 0.44m 深さ 0.16m  
**主軸方位** N-75° -W  
**埋没状態** 黒褐色土が単層堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。  
**出土遺物** なし。  
**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。  
**時期** 近世以降  
 14号ピット (第8・74図、PL.54)  
**位置** X=28571～28572 Y=81250～81252  
**経過** 2区北西部で確認された。

**重複** なし。  
**形状** 不整形円形。  
**規模** 長軸 0.36m 短軸 0.32m 深さ 0.38m  
**主軸方位** N-0°  
**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。  
**出土遺物** なし。  
**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。  
**時期** 近世以降  
 15号ピット (第8・74図、PL.54)  
**位置** X=28571～28572 Y=81251～81252  
**経過** 2区北西部で確認された。  
**重複** 2号溝を切っている。  
**形状** 円形。  
**規模** 長軸 0.36m 短軸 0.32m 深さ 0.37m  
**主軸方位** N-0°  
**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。堆積状況から東側から土砂が流入したと考えられるが、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。  
**出土遺物** なし。  
**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。  
**時期** 近世以降  
 16号ピット (第8・74図、PL.54)  
**位置** X=28568～28569 Y=81250～81251  
**経過** 2区北部で確認された。  
**重複** なし。  
**形状** 不整形円形。  
**規模** 長軸 0.48m 短軸 0.44m 深さ 0.39m  
**主軸方位** N-80° -W  
**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。堆積状況から東側から土砂が流入したと考えられるが、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。  
**出土遺物** なし。  
**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

17号ピット (第8・74図、PL.54)

**位置** X=28569 ~ 28570 Y=-81255 ~ -81256

**経過** 2区北西部で確認された。

**重複** なし。

**形状** 不整形円形。

**規模** 長軸 0.32m 短軸 0.26m 深さ 0.40m

**主軸方位** N-3° -W

**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が3点出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

18号ピット (第8・74図、PL.54・55)

**位置** X=28569 ~ 28570 Y=-81253 ~ -81255

**経過** 2区北西部で確認された。

**重複** なし。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.38m 短軸 0.38m 深さ 0.46m

**主軸方位** N-0°

**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が4点出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

19号ピット (第8・74図、PL.55)

**位置** X=28575 ~ 28576 Y=-81252 ~ -81253

**経過** 2区北西部で確認された。

**重複** 20号ピットを切っている。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.44m 短軸 0.36m 深さ 0.34m

**主軸方位** N-32° -W

**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

20号ピット (第8・74・76図、PL.55・86)

**位置** X=28575 ~ 28576 Y=-81251 ~ -81253

**経過** 2区北西部で確認された。

**重複** 19号ピットに切られている。

**形状** 不整形円形。

**規模** 長軸 — 短軸 0.56m 深さ 0.22m

**主軸方位** —

**埋没状態** 黒褐色土が単層堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

**出土遺物** 鉄製の釘が出土した(1)。小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が2点出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

21号ピット (第8・74図、PL.55)

**位置** X=28572 ~ 28574 Y=-81245 ~ -81247

**経過** 2区北部で確認された。

**重複** 2号溝を切っている。

**形状** 不整形円形。

**規模** 長軸 0.48m 短軸 0.44m 深さ 0.64m

**主軸方位** N-76° -W

**埋没状態** 黒褐色土が2層、暗褐色土が1層堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が2点出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

22号ピット (第8・74図、PL.55)

**位置** X=28573 ~ 28574 Y=-81248 ~ -81249

**経過** 2区北部で確認された。

**重複** 本ピットの南側に6号土坑が位置し、6号土坑を

切っている。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 0.46m 短軸 0.40m 深さ 0.49m

**主軸方位** N-81° -E

**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

**出土遺物** 弥生時代後期の甕が出土した（第50図2区-6）。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

23号ピット（第8・74・76図、PL.55・86）

**位置** X=28567～28569 Y=-81255～-81257

**経過** 2区中央部西側で確認された。

**重複** なし。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 0.44m 短軸 (0.40) m 深さ 0.24m

**主軸方位** N-5° -W

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

**出土遺物** 17世紀中葉から後葉に比定される瀬戸・美濃陶器の皿が出土した（1）。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

24号ピット（第8・74図、PL.55）

**位置** X=28572～28574 Y=-81253～-81255

**経過** 2区北西部で確認された。

**重複** 本ピットの東側に18号土坑が位置し、18号土坑を切っている。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 0.32m 短軸 0.28m 深さ 0.40m

**主軸方位** N-11° -E

**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断

される。

**時期** 近世以降

25号ピット（第8・74図、PL.55）

**位置** X=28574～28575 Y=-81248～-81249

**経過** 2区北部で確認された。

**重複** なし。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 0.32m 短軸 0.26m 深さ 0.14m

**主軸方位** N-42° -W

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が1点出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

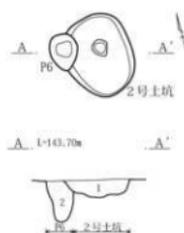
**時期** 近世以降

1号土坑



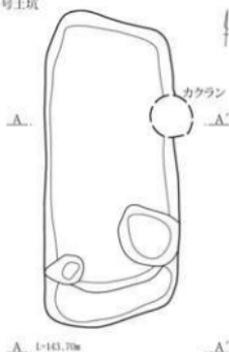
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。  
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

2号土坑・6号ピット



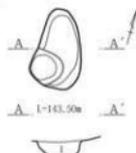
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。  
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

3号土坑



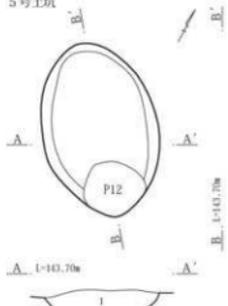
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。  
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

4号土坑



1. 黒褐色土 褐色土ブロック(小)少量の砂粒粘性やあり。しまり弱い。  
2. 黒褐色土 粒子細かい。粘性あり。しまりあり。

5号土坑



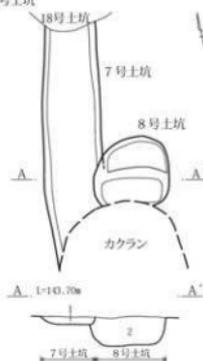
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

6号土坑



1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。  
2. 黒褐色土 粒子細かい。粘性あり。しまりあり。

7・8号土坑



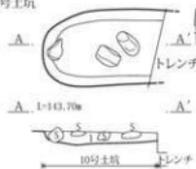
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。  
2. 黒褐色土 粒子細かい。粘性あり。しまりあり。

9号土坑



1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。  
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

10号土坑



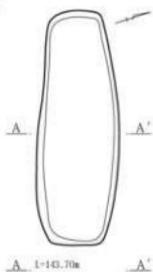
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまり弱い。



第69図 2区土坑(1)

第3章 調査された遺構と遺物

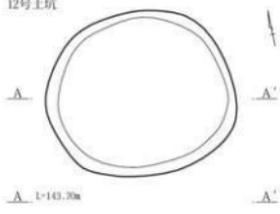
11号土坑



A A' L=143.70m

1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。

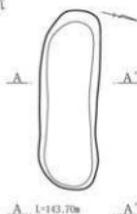
12号土坑



A A' L=143.70m

1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。  
2. 褐色土 粘土質。しまり強い。  
3. 暗褐色土 粒子細かい。しまりややあり。  
4. 暗褐色土 粒子細かい。しまりあり。

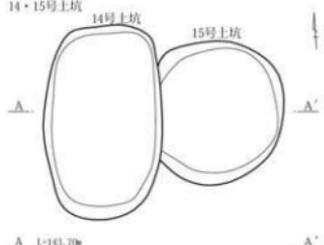
13号土坑



A A' L=143.70m

1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

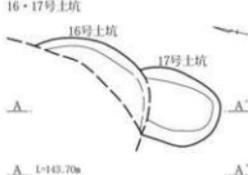
14・15号土坑



A A' L=143.70m

1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。  
2. 黒褐色土 粒子細かい。小礫を含む。しまりあり。  
3. 黒褐色土 粒子細かい。粘性あり。しまり強い。

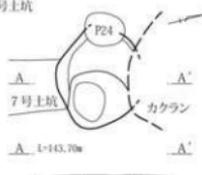
16・17号土坑



A A' L=143.70m

1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。  
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。  
3. 暗褐色土 粒子細かい。しまりあり。

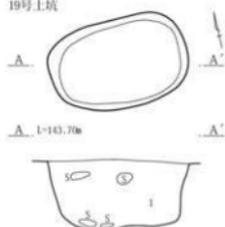
18号土坑



A A' L=143.70m

1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。  
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

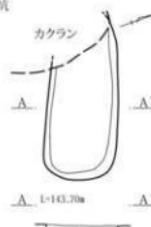
19号土坑



A A' L=143.70m

1. 黒褐色土 粒子細かい。小礫を含む。しまりややあり。

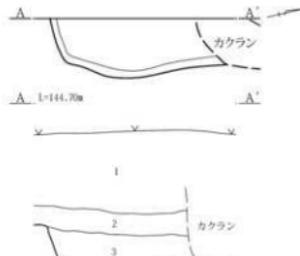
20号土坑



A A' L=143.70m

1. 黒色土 粒子細かい。しまりややあり。  
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

21号土坑

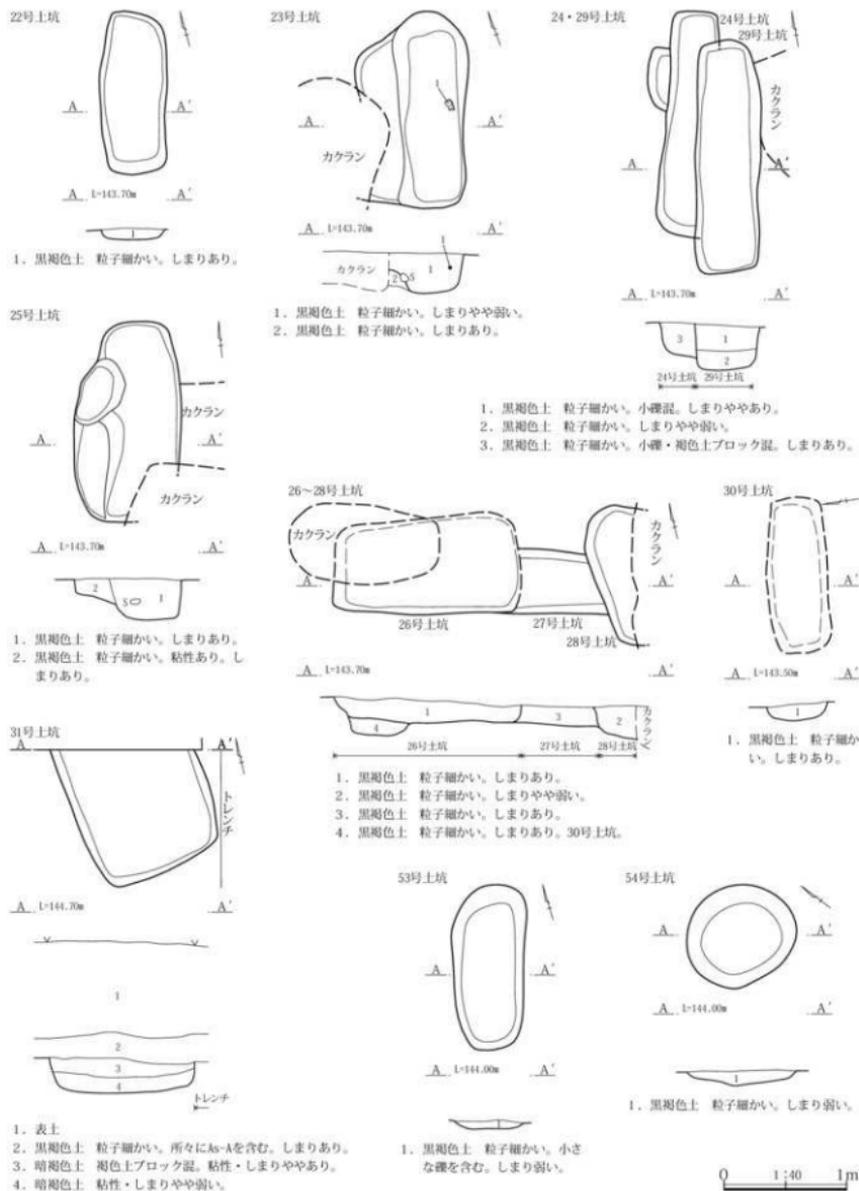


A A' L=144.30m

1. 表土 撈凡。  
2. 黒褐色土 粒子細かい。所々にAs-Aを含む。しまりあり。  
3. 黒褐色土 粒子細かい。砂粒混。しまりあり。

0 1:40 1m

第70図 2区土坑(2)



第71図 2区土坑(3)

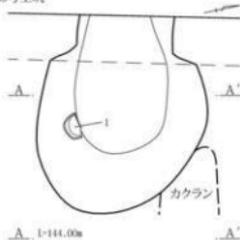
第3章 調査された遺構と遺物

56号土坑



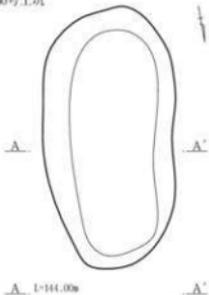
1. 黒褐色土 粒子細かい、しまりあり。
2. 暗褐色土 黄褐色土ブロック（小）混。しまりあり。

59号土坑



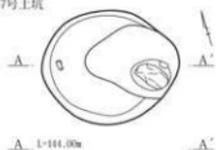
1. 暗褐色土 粒子細かい、黄褐色土ブロック多量混。しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 粒子細かい、しまり弱い。
3. 黒褐色土 粒子細かい、しまりややあり。

60号土坑



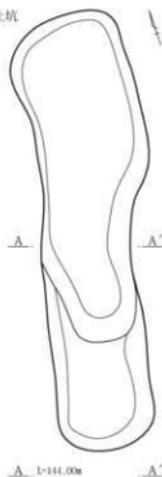
1. As-土純層
2. 黒褐色土 粒子粗い、しまり弱い。

57号土坑



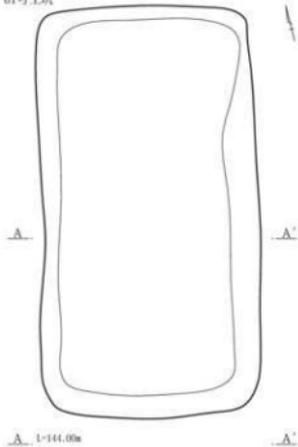
1. 黒褐色土 粒子細かい、しまりあり。
2. 黒褐色土 粒子細かい、しまり弱い。

58号土坑

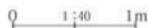


1. 黒褐色土 粒子細かい、しまりあり。

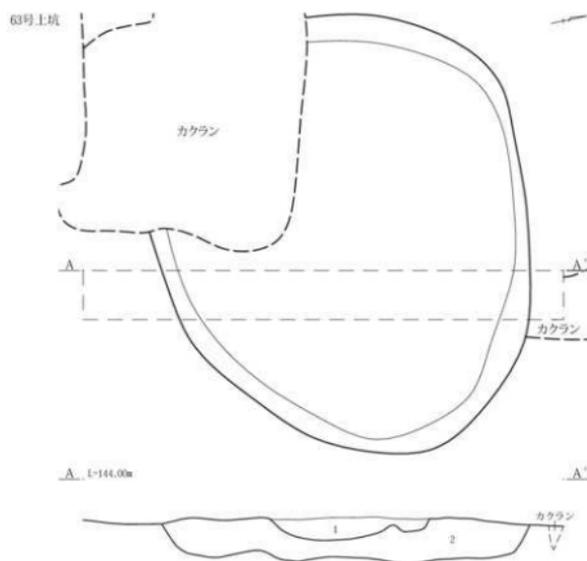
61号土坑



1. 黒褐色土 As-A土体、小礫を含む。しまりあり。

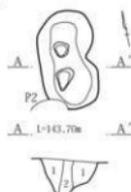


第72図 2区土坑（4）



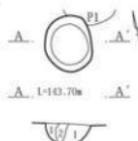
1. A-A純層  
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。

1号ビット



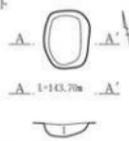
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。  
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。

2号ビット



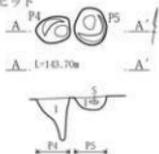
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。  
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。

3号ビット



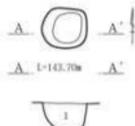
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

4・5号ビット



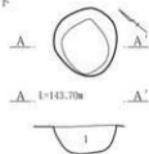
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。

7号ビット



1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。

8号ビット



1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。



第73図 2区土坑(5)・ビット(1)

第3章 調査された遺構と遺物

9号ピット



1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

12号ピット



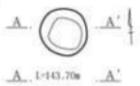
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

15号ピット



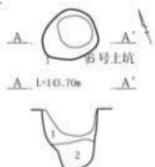
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまり弱い。

18号ピット



1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。

22号ピット



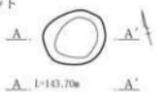
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。

10号ピット



1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

13号ピット



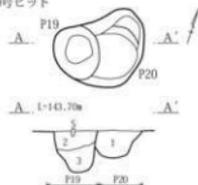
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

16号ピット



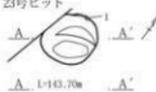
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。

19・20号ピット



1. 黒褐色土 粒子やや細かい。しまり弱い。
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。
3. 黒褐色土 粒子細かい。しまり弱い。

23号ピット



1. 黒褐色土 粒子細かい。しまり弱い。

24号ピット



1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

11号ピット



1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。

14号ピット



1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまり弱い。

17号ピット



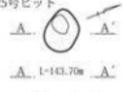
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。

21号ピット



1. 黒褐色土 粒子やや細かい。しまりややあり。
2. 暗褐色土 粒子細かい。しまりあり。
3. 黒褐色土 粒子やや細かい。しまりやや弱い。

25号ピット



1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。



第74図 2区ピット(2)

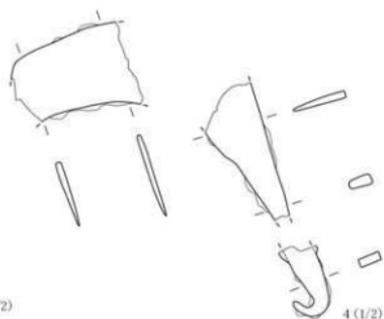
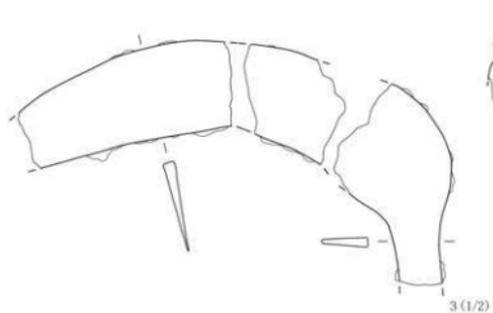
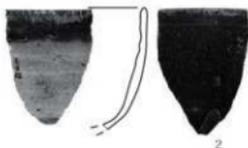
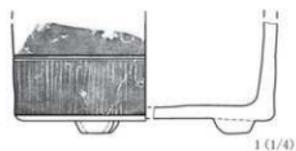
9号土坑



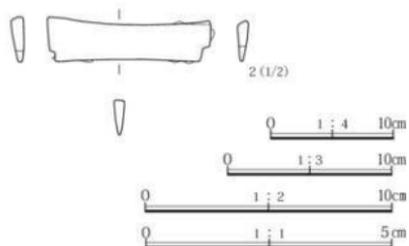
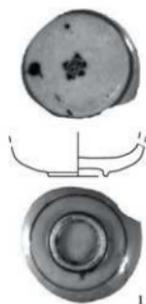
23号土坑



59号土坑

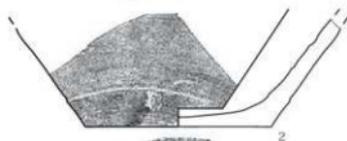
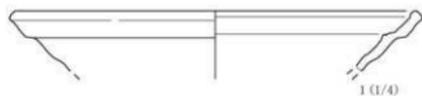


60号土坑

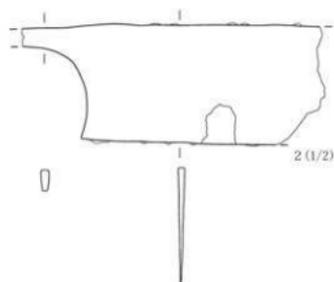


第75図 2区土坑・出土遺物

61号土坑



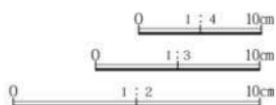
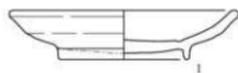
63号土坑



20号ピット



23号ピット



第76図 2区土坑・ピット出土遺物

## ・3区土坑

## 32号土坑 (第9・77図、PL.56)

位置 X=28600 ~ 28603 Y=81236 ~ 81238

経過 3区南側の東壁で確認された。

重複 東側は調査区外に、南側は33号土坑によって一部壊されている。切り合い関係などから33号土坑よりも古いと判断される。

形状 東側は調査区外に、南側は33号土坑によって一部壊されているため、全貌は不明であるが、確認された部分から、不整形と推定される。

規模 長軸 (1.70) m 短軸 (1.00) m 深さ 0.50m

主軸方位 N-9° -E

埋没状態 黒褐色土が2層堆積する。1層中には30cm程の礫が1ヶ所に集中していた。堆積状況は南側が土坑に切られているため、不明だが、礫の出土状況から、人為的な埋没が想定される。

出土遺物 弥生時代後期の甕が出土したが(第51図3区-5)、時期と整合性がとれていないため、遺構外出土遺物とした。近世相当の遺物は、小片のため、非掲載遺物としたが、陶磁器2点、在地系土器1点が出土した。

所見 性格は建物基礎と考えられ、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

時期 近世以降

## 33号土坑 (第9・77図、PL.56)

位置 X=28600 ~ 28602 Y=81236 ~ 81238

経過 3区南側の東壁で確認された。

重複 東側は調査区外に位置するため、全貌は不明である。北側の32号土坑、南側の34号土坑を壊していることから、両土坑よりも新しいと判断される。

形状 東側は調査区外に位置するため、全貌は不明であるが、確認された部分から、隅丸長方形と推定される。

規模 長軸 (1.42) m 短軸 (0.60) m 深さ 0.22m

主軸方位 N-79° -W

埋没状態 黒褐色土が単層で堆積する。人為的な埋没が想定される。

出土遺物 なし。

所見 性格は建物基礎と考えられ、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

時期 近世以降

## 34号土坑 (第9・77図、PL.56)

位置 X=28600 ~ 28602 Y=81236 ~ 81239

経過 3区南側の東壁より確認された。

重複 北側の33号土坑に切られ、南側の35号土坑を切っている。

形状 北側を32、33号土坑によって切られているため、全貌は不明だが、確認された部分から不整形と判断される。

規模 長軸 (1.16) m 短軸 0.98m 深さ 0.17m

主軸方位 N-36° -E

埋没状態 黒褐色土が単層で堆積する。人為的な埋没と想定される。

出土遺物 小片のため、非掲載遺物としたが、近世の在地系土器が4点出土した。

所見 性格は建物基礎と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

時期 近世以降

## 35号土坑 (第9・77図、PL.56)

位置 X=28599 ~ 28601 Y=81237 ~ 81239

経過 3区南側の東壁より確認された。

重複 北側を34号土坑によって壊されていることから、本土坑の方が古い。

形状 北側を34号土坑によって切られているため、全貌は不明だが、確認された部分から隅丸長方形と推定される。

規模 長軸 (0.92) m 短軸 0.56m 深さ 0.20m

主軸方位 N-10° -E

埋没状態 黒褐色土が単層で堆積する。人為的な埋没と想定される。

出土遺物 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が1点出土した。

所見 性格は廃棄土坑と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

時期 近世以降

## 36号土坑 (第9・77図、PL.56)

位置 X=28601 ~ 28603 Y=81237 ~ 81239

経過 3区南側の東壁より確認された。

重複 なし。

形状 長円形。

**規模** 長軸 1.40m 短軸 0.40m 深さ 0.19m  
**主軸方位** N-77° -W  
**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。人為的な埋没と想定される。  
**出土遺物** なし。  
**所見** 性格は建物基礎と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。  
**時期** 近世以降  
 37号土坑 (第9・77図、PL.56)  
**位置** X=28600～28602 Y=-81239～-81240  
**経過** 3区南側の東壁よりで確認された。  
**重複** 西側を攪乱によって壊されている。  
**形状** 西側を攪乱によって壊されているが、円形と推定される。  
**規模** 長軸 0.58m 短軸 (0.52) m 深さ 0.11m  
**主軸方位** N-18° -E  
**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。  
**出土遺物** なし。  
**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。  
**時期** 近世以降  
 38号土坑 (第9・77図、PL.56)  
**位置** X=28599～28600 Y=-81238～-81240  
**経過** 3区南側の東壁よりで確認された。  
**重複** なし。  
**形状** 長円形。  
**規模** 長軸 0.70m 短軸 0.56m 深さ 0.11m  
**主軸方位** N-54° -W  
**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。  
**出土遺物** なし。  
**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。  
**時期** 近世以降  
 39号土坑 (第9・77図、PL.57)  
**位置** X=28595～28597 Y=-81247～-81248

**経過** 3区南側で確認された。  
**重複** なし。  
**形状** 長円形。  
**規模** 長軸 0.64m 短軸 0.46m 深さ 0.09m  
**主軸方位** N-6° -E  
**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。  
**出土遺物** なし。  
**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。  
**時期** 近世以降  
 40号土坑 (第9・77図、PL.57)  
**位置** X=28596～28598 Y=-81250～-81251  
**経過** 3区南側で確認された。  
**重複** なし。  
**形状** 不整形円形。  
**規模** 長軸 0.52m 短軸 0.50m 深さ 0.39m  
**主軸方位** N-6° -E  
**埋没状態** 黒褐色土が2層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。  
**出土遺物** 覆土中から小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が5点出土した。  
**所見** 1号竪穴建物の柱穴の可能性もあるが、明確ではないため、単独の土坑として扱った。  
**時期** 近世以降  
 41号土坑 (第9・77図、PL.57)  
**位置** X=28598～28599 Y=-81253～-81254  
**経過** 3区南側の西壁よりで確認された。  
**重複** なし。  
**形状** 長円形。  
**規模** 長軸 0.84m 短軸 0.58m 深さ 0.22m  
**主軸方位** N-3° -W  
**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。人為的な埋没と想定される。  
**出土遺物** 弥生時代後期の甕が出土した (第51図3区-8) が、帰属時期の整合性がとれていないため、遺構外出土遺物とした。小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が10点出土した。  
**所見** 性格は建物基礎と考えられ、時期を判断できる材

料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

42号土坑 (第9・77図、PL.57)

**位置** X=28599 ~ 28601 Y=-81253 ~ -81255

**経過** 3区南側の西壁で確認された。

**重複** なし。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 (0.98) m 短軸 (0.98) m 深さ 0.36m

**主軸方位** N-17° -W

**埋没状態** 黒色土と黒褐色土で2層堆積する。堆積状況は東側から土砂の流入が読み取れることから、人為的な埋没と判断される。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が19点出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係や、上層の2層にAs-Aの純層が堆積し、間層を伴うことから、As-A以前に既に埋没していた。また3層に立ち上がりが認められ、2層のAs-A純層が堆積することから、復旧坑の可能性もあり得る。

**時期** 近世以降 (天明3年以前)

43号土坑 (第9・77図、PL.57)

**位置** X=28595 ~ 28598 Y=-81245 ~ -81247

**経過** 3区南側で確認された。

**重複** 北側を攪乱によって壊されている。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 (2.26) m 短軸 (1.84) m 深さ 0.15m

**主軸方位** N-14° -E

**埋没状態** As-Aの純層が堆積し、堆積状況から人為的な埋没と考えられ、復旧坑と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 土坑の土層堆積状況から、復旧坑と考えられ、天明3年以降に帰属すると考えられる。

**時期** 近世

44号土坑 (第9・78・80図、PL.57・58・86)

**位置** X=28606 ~ 28609 Y=-81239 ~ -81241

**経過** 3区中央部で確認され、西側には4号溝が位置する。

**重複** 2号竪穴建物を切っている。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 1.16m 短軸 1.02m 深さ 0.20m

**主軸方位** N-4° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。土層中には、黄色土ブロックを含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 釘が2点出土した。小片のため、非掲載遺物としたが、近世の在地系土器が12点と陶磁器3点が出土した。

**所見** 性格は建物基礎と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

45号土坑 (第9・78図、PL.58)

**位置** X=28616 ~ 28620 Y=-81234 ~ -81236

**経過** 3区北側の東壁よりで確認された。東側には46、47号土坑が位置する。

**重複** なし。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 2.22m 短軸 0.88m 深さ 0.16m

**主軸方位** N-14° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。土層中には、黄色土ブロックを含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が9点出土した。

**所見** 性格は廢棄土坑と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

46号土坑 (第9・78図、PL.58)

**位置** X=28617 ~ 28619 Y=-81233 ~ -81235

**経過** 3区北側の東壁よりで確認された。47号土坑に切られ、付近には45号土坑が位置する。

**重複** 47号土坑によって切られている。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 (1.48) m 短軸 (0.60) m 深さ 0.12m

**主軸方位** N-82° -W

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。土層中には、黄色土ブロックを含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が1点出土した。

**所見** 性格は廃棄土坑と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

47号土坑 (第9・78図、PL.58)

**位置** X=28616 ~ 28620 Y=-81233 ~ -81235

**経過** 3区北側の東壁よりで確認された。46号土坑を切り、付近には45号土坑が位置する。形状から、2基の土坑が絡んでいると思われるが、調査時の状況を活かして、単独の土坑として扱う。

**重複** 46号土坑を切っている。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 2.76m 短軸 0.76m 深さ 0.18m

**主軸方位** N-12° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。土層中には、黄色土ブロックを含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が3点出土した。

**所見** 性格は廃棄土坑と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

48号土坑 (第9・78図、PL.58)

**位置** X=28618 ~ 28620 Y=-81236 ~ -81238

**経過** 3区北側で確認された。

**重複** 49号土坑によって切られている。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 1.06m 短軸 (0.84) m 深さ 0.20m

**主軸方位** N-21° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。土層中には、黄色土ブロックを含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が1点出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

49号土坑 (第9・78・80図、PL.58・86)

**位置** X=28617 ~ 28619 Y=-81236 ~ -81238

**経過** 3区北側で確認された。

**重複** 48号土坑を切っている。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 1.44m 短軸 1.08m 深さ 0.17m

**主軸方位** N-26° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。土層中には、黄色土ブロックを含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 釘が1点出土した(1)。小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が5点出土した。

**所見** 性格は廃棄土坑と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

50号土坑 (第9・78図、PL.58)

**位置** X=28619 ~ 28621 Y=-81236 ~ -81238

**経過** 3区北側で確認された。

**重複** 51号土坑によって切られている。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 0.88m 短軸 (0.76) m 深さ 0.10m

**主軸方位** N-6° -W

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。土層中には、30cm程の礫を含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が1点出土した。

**所見** 礫の廃棄土坑と考えられるが、時期を判断できる材料はない。周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

51号土坑 (第9・78図、PL.58)

**位置** X=28619 ~ 28621 Y=-81235 ~ -81237

**経過** 3区北側で確認された。

**重複** 50号土坑を切っている。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 1.52m 短軸 0.60m 深さ 0.12m

**主軸方位** N-17° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。土層中には、黄色土ブロックを含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が2点出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

52号土坑（第9・78図、PL.58）

**位置** X=28623～28626 Y=81232～81233

**経過** 3区北側の東壁より確認された。

**重複** なし。

**形状** 隅丸長方形。

**規模** 長軸 1.88m 短軸 0.58m 深さ 0.27m

**主軸方位** N-10° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。土層中には、黄色土ブロックを含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 弥生時代後期の甕が出土したが（第51図3区-10、11、16）、時期が整合しないため遺構外出土遺物とした。小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が10点出土した。

**所見** 性格は廃棄土坑と考えられ、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

### ・3区ピット

26号ピット（第9・79図、PL.58）

**位置** X=28596～28597 Y=81248～81249

**経過** 3区南側で確認された。

**重複** なし。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 0.44m 短軸 0.40m 深さ 0.40m

**主軸方位** N-83° -W

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が1点出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

27号ピット（第9・79図、PL.59）

**位置** X=28597～28599 Y=81238～81240

**経過** 3区南側の東壁より確認された。

**重複** なし。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 0.40m 短軸 0.28m 深さ 0.06m

**主軸方位** N-10° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

28号ピット（第9・79図、PL.59）

**位置** X=28596～28597 Y=81238～81239

**経過** 3区南側の東壁で確認された。

**重複** なし。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 0.48m 短軸 0.26m 深さ 0.16m

**主軸方位** N-20° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

30号ピット（第9・79図、PL.59）

**位置** X=28597～28599 Y=81253～81255

**経過** 3区南側の西壁より確認された。

**重複** なし。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.48m 短軸 0.46m 深さ 0.32m

**主軸方位** N-0°

**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。堆積状況は不明確

### 第3章 調査された遺構と遺物

で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

**出土遺物** 弥生時代後期の甕が出土したが（第51図3区-2、7）、時期が整合しないため遺構外出土遺物とした。小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が4点出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

31号ピット（第9・79図、PL.59）

**位置** X=28610～28611 Y=-81235～-81236

**経過** 3区中央部の東壁よりで確認された。

**重複** なし。

**形状** 隅丸方形。

**規模** 長軸 0.50m 短軸 0.40m 深さ 0.12m

**主軸方位** N-80° -Ⅱ

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

**出土遺物** 弥生時代後期の甕が出土したが（第51図3区-9）、時期が整合しないため遺構外出土遺物とした。小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が2点出土した。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

33号ピット（第9・79図、PL.59）

**位置** X=28607～28609 Y=-81235～-81236

**経過** 3区中央部の東壁よりで確認された。

**重複** なし。

**形状** 不整円形。

**規模** 長軸 0.38m 短軸 0.38m 深さ 0.18m

**主軸方位** N-0°

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

**時期** 近世以降

34号ピット（第9・79図、PL.59）

**位置** X=28610～28612 Y=-81243～-81245

**経過** 3区中央部の西壁よりで確認された。

**重複** なし。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.32m 短軸 0.32m 深さ 0.16m

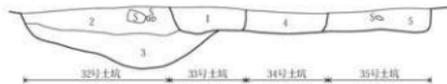
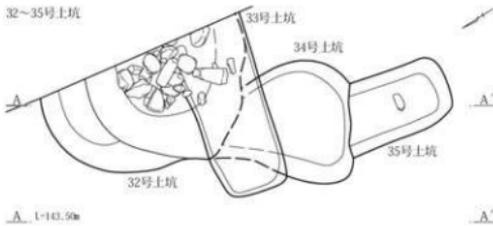
**主軸方位** N-0°

**埋没状態** 黒褐色土と暗褐色土で2層堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

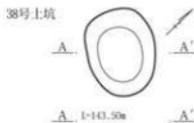
**出土遺物** なし。

**所見** 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

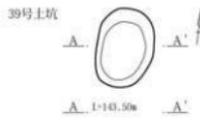
**時期** 近世以降



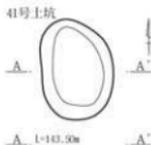
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。
3. 黒褐色土 粒子細かい。小礫を含む。
4. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。
5. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。



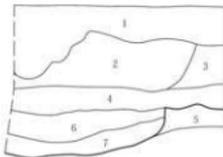
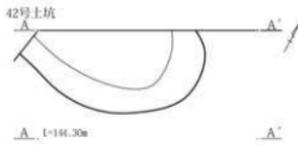
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。



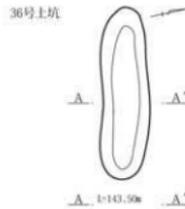
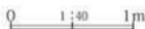
1. 黒褐色土 砂質土。しまりやや弱い。



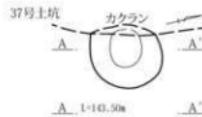
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまり弱い。



1. 表土
2. As-A純層
3. 黒褐色土 粒子細かい。小礫混。しまりあり。
4. 黒褐色土 粒子細かい。しまりややあり。
5. 暗褐色土 粒子細かい。しまり弱い。
6. 黒色土 粒子細かい。しまりあり。
7. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。



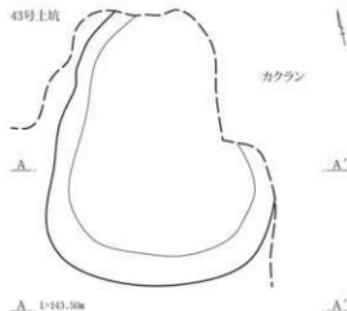
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。



1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。



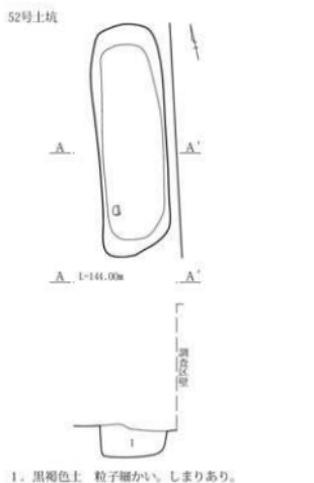
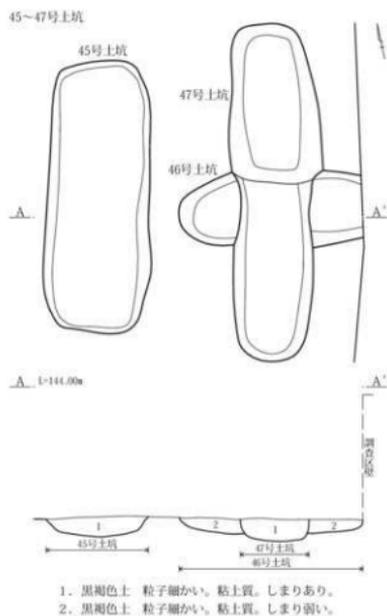
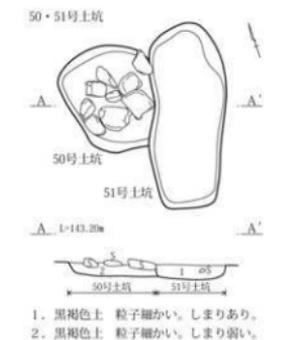
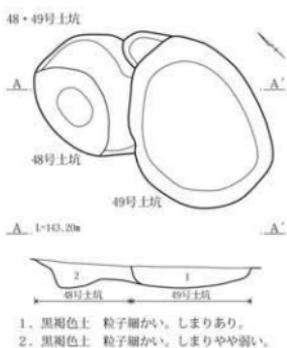
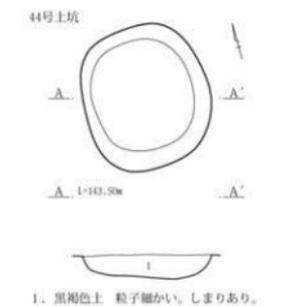
1. 黒褐色土 粒子細かい。しまり弱い。
2. 黒褐色土 粒子細かい。しまりやや弱い。



1. As-A純層

第77図 3区土坑(1)

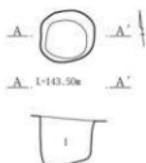
第3章 調査された遺構と遺物



0 1:40 1m

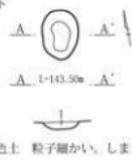
第78図 3区土坑(2)

26号ビット



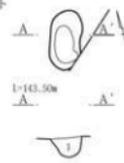
1. 黒褐色土 粒子細かい、粘土質。しまりあり。

27号ビット



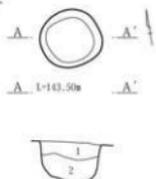
1. 黒褐色土 粒子細かい、しまりあり。

28号ビット



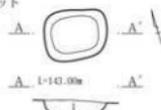
1. 黒褐色土 粒子細かい、しまりあり。

30号ビット



1. 黒褐色土 粒子細かい、しまり弱い。  
2. 黒褐色土 粒子細かい、しまりやや弱い。

31号ビット



1. 黒褐色土 粒子細かい、しまりあり。

33号ビット



1. 黒褐色土 粒子細かい、しまりあり。

34号ビット

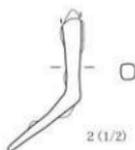
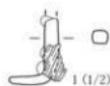


1. 黒褐色土 粒子細かい、しまりあり。  
2. 暗褐色土 粒子細かい、しまりあり。

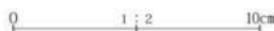


第79図 3区ビット

44号土坑



49号土坑



第80図 3区土坑出土遺物

・4区土坑

64号土坑 (第9・81図、PL.59)

位置 X=28664 ~ 28666 Y=-81228 ~ -81229

経過 4区北側で確認された。

重複 なし。

形状 不整形。

規模 長軸 0.70m 短軸 0.52m 深さ 0.16m

主軸方位 N-13° -W

埋没状態 黒褐色土が単層で堆積する。土層中には、褐色土ブロックを含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。

出土遺物 なし。

所見 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

時期 近世以降

65号土坑 (第9・81図、PL.60)

位置 X=28650 ~ 28653 Y=-81227 ~ -81229

経過 4区中央部の東壁で確認された。

重複 なし。

形状 隅丸長方形。

規模 長軸 (2.26) m 短軸 (0.92) m 深さ 0.20m

主軸方位 N-12° -W

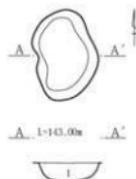
埋没状態 暗褐色土が単層で堆積する。人為的な埋没と想定される。

出土遺物 なし。

所見 性格などは不明で、時期を判断できる材料はないが、周辺の遺構との関係から近世以降に帰属すると判断される。

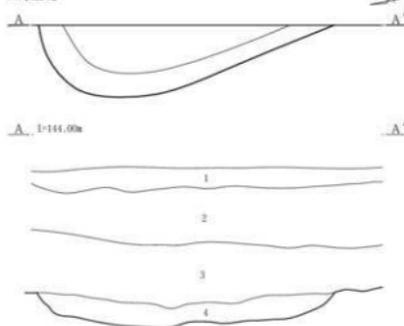
時期 近世以降

64号土坑



1. 黒褐色土 粒子細かい。しまりあり。褐色土ブロック混入。

65号土坑



1. 表土  
2. 黒褐色土 しまり強い。所々にAs-Aを含む。  
3. 黒褐色土 しまりあり。小礫を含む。  
4. 暗褐色土 粒子細かい。しまりあり。65号土坑埋土。



第81図 4区土坑

## ・5-2区土坑

66号土坑 (第10・82図、PL.60)

位置 X=28613 ~ 28615 Y=-81321 ~ -81323

経過 5区西部の5-2区北西側で確認された。

重複 なし。

形状 円形。

規模 長軸 0.70m 短軸 0.70m 深さ 0.20m

主軸方位 —

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。土層中には、30cm程の礫を含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 覆土上面から小片のため、非掲載遺物としたが、陶磁器が1点出土した。

**所見** 礫を多量に含有していること、上面に陶磁器が出土したことなどから、近世の建物基礎と考えられる。

時期 近世

67号土坑 (第10・82図、PL.60)

位置 X=28611 ~ 28613 Y=-81317 ~ -81319

経過 5区西部の5-2、3区の境で確認した。

重複 なし。

形状 東西方向に主軸を有する長楕円形。

規模 長軸 1.14m 短軸 0.86m 深さ 0.50m

主軸方位 N-20° -W

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。土層中には、10cm程の小礫を含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。底面に段を有し、東側が低く構築されている。

出土遺物 なし。

**所見** 礫を多量に含有していることから、廃棄土坑と考えられる。帰属時期は、出土遺物が無いため、不明であるが、周辺の遺構から近世と判断される。

時期 近世

## ・5-2区ピット

40号ピット (第10・82図、PL.62)

位置 X=28612 ~ 28613 Y=-81319 ~ -81320

経過 5区西部の5-2区東側で確認した。

重複 なし。

形状 円形。

規模 長軸 0.45m 短軸 0.40m 深さ 0.10m

主軸方位 N-62° -W

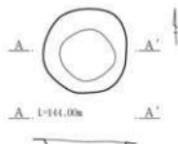
**埋没状態** にぶい黄褐色土が堆積し、礫を多量に含有する。堆積状況から人為的な埋没と考えられる。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、陶磁器が1点出土した。

**所見** 帰属時期と機能は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。

時期 近世以降

66号土坑



1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ10～50mm 礫50%

67号土坑



1. 黒褐色土 φ4～90mm 礫60% 粘性少しあり。柔らかめ。

40号ピット



1. にぶい黄褐色土 ローム粒子を多く含む。φ30～120mm 礫70% しまりなし。

0 1:40 1m

第82図 5-2区土坑・ピット

・5-3区土坑

68号土坑 (第10・83図、PL.60)

位置 X=28610 ~ 28612 Y=-81316 ~ -81318

経過 5区中央部の5-3区西側で確認した。

重複 なし。

形状 南北方向に長軸を有する不整形。

規模 長軸 0.90m 短軸 0.72m 深さ 0.60m

主軸方位 N-20° -W

埋没状態 黒褐色土が単層で堆積する。土層中には、10cm程の小礫とロームブロックを含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。

出土遺物 なし。

所見 礫を多量に含有していることから、建物基礎と考えられる。帰属時期は、出土遺物が無いため、不明であるが、周辺の遺構から近世と判断される。

時期 近世

69号土坑 (第10・83図、PL.60)

位置 X=28612 ~ 28614 Y=-81316 ~ -81317

経過 5区中央部の5-3区西側で確認した。

重複 北側は調査区外に位置する。

形状 南北方向に主軸を有する長楕円形。

規模 長軸 (1.20)m 短軸 0.82m 深さ 0.80m

主軸方位 N-10° -E

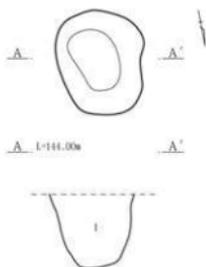
埋没状態 黒褐色土が2層堆積する。2層はレンズ状に堆積し、東側がやや高くなっていることから、東側から土砂が流入したとみられる。土層中には、10cm程の小礫を含有しており、堆積状況から人為的な埋没と想定される。

出土遺物 なし。

所見 礫を多量に含有していることから、建物基礎と考えられる。As-Aを含有する1層下面に形成されていることから、帰属時期はAs-A降下以前と考えられる。

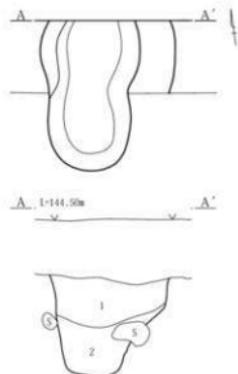
時期 近世 (天明3年以前)

68号土坑



1. 黒褐色土 φ5~80mm 礫60% 粘性少しあり。柔らかめ。

69号土坑



1. 黒褐色土 φ4~70mm 礫40% 向ばったものを少し含む。少し、しまりあり。

2. 黒褐色土 φ5~60mm 礫50% 粘性少しあり。柔らかめ。

0 1:40 1m

第83図 5-3区土坑

## ・5-4区土坑

84号土坑 (第10・84図、PL.61・62)

位置 X=28608 ~ 28610 Y=-81297 ~ -81299

経過 5区央中部の5-4区中央部で確認された。

重複 北側はトレンチで壊されている。

形状 長円形。

規模 長軸 (1.40) m 短軸 1.20m 深さ 0.50m

主軸方位 N-9° -W

埋没状態 As-Aを多く含有している。堆積状況から人為的な埋没と考えられ、復旧坑と想定される。

出土遺物 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器2点と陶磁器が1点出土した。

所見 土坑の土層堆積状況から、復旧坑と考えられ、天明3年以降に帰属すると考えられる。

時期 近世

## ・5-4区ピット

60号ピット (第10・84図、PL.64)

位置 X=28608 ~ 28610 Y=-81301 ~ -81302

経過 5区央中部の5-4区西側で確認した。

重複 なし。東側に61号ピットが隣接する。

形状 円形。

規模 長軸 0.40m 短軸 0.35m 深さ 0.22m

主軸方位 N-17° -E

埋没状態 暗褐色土が単層で堆積し、焼土を含有する。確認時は、残存状態が悪く、堆積状況は不明確であることから、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

出土遺物 なし。

所見 帰属時期と機能は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。

時期 近世以降

61号ピット (第10・84図、PL.64・65)

位置 X=28608 ~ 28609 Y=-81298 ~ -81300

経過 5区央中部の5-4区中央部で確認した。

重複 なし。西側に60号ピットが隣接する。

形状 不整形。

規模 長軸 0.42m 短軸 0.40m 深さ 0.21m

主軸方位 N-46° -E

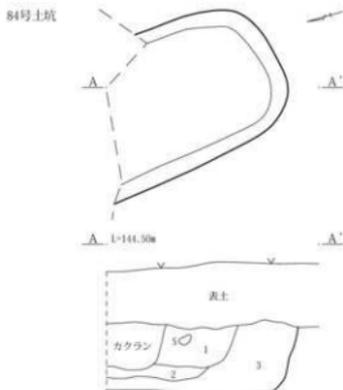
埋没状態 暗褐色土が単層で堆積し、As-Aを含有する。確認時は、残存状態が悪く、堆積状況は不明確であるこ

とから、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

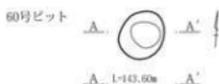
出土遺物 なし。

所見 帰属時期と機能は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。

時期 近世以降



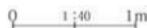
1. 暗褐色土 As-A及びロームブロックを含む。しまり弱い。
2. 黒褐色土 As-Aを少し含む。固くしまった土。
3. 暗褐色土 As-Aを少し含む。しまり弱い。



1. 暗褐色土 焼土粒を少し含む。しまりなし。



1. 暗褐色土 As-Aを少量含む。しまりなし。



第84図 5-4区土坑・ピット

・5-5区土坑

72号土坑 (第10・85・87図、PL.60・61・86)

位置 X=28603 ~ 28606 Y=-81283 ~ -81288

経過 5区東部の5-5区西側で確認した。

重複 75、77、78号土坑を切っている。

形状 隅丸長方形。

規模 長軸 4.30m 短軸 2.30m 深さ 0.80m

主軸方位 N-82°-W

埋没状態 As-Aを多く含有している。堆積状況から人為的な埋没と考えられ、復旧坑と想定される。

出土遺物 陶磁器類が出土し、2点を掲載した。1は18世紀中葉から後葉に比定される瀬戸・美濃陶器の灯火受皿で、2は瀬戸・美濃陶器のすり鉢である。小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器6点と近世の在り系土器1点と陶磁器5点が出土した。

所見 土坑の土層堆積状況から、復旧坑と考えられ、天明3年以降に帰属すると考えられる。

時期 近世

73号土坑 (第10・85図、PL.61)

位置 X=28604 ~ 28605 Y=-81277 ~ -81279

経過 5区東部の5-5区北東側で確認された。周囲にはピットが複数形成されている。

重複 74号土坑が東側に隣接しており、本土坑によって壊されている。

形状 円形か。

規模 長軸 0.95m 短軸 (0.56) m 深さ 0.65m

主軸方位 ー

埋没状態 暗褐色土が単層で堆積する。覆土中にはAs-Aとロームブロック粒が堆積し、下層には30cm程の礫を含有する。特に礫が集中し、横面に敷かれたように配置されている礫も確認できる。

出土遺物 小片のため、非掲載遺物としたが、近世の在り系土器2点と陶磁器2点が出土した。

所見 As-Aを含有していることから、天明期以降に帰属すると考えられる。土坑の1/2は調査区外に位置するため、詳細は不明であるが、底面に横面に敷設された石が確認されており、建物の礎石として利用した柱穴と考えられる。

時期 近世

74号土坑 (第10・85図)

位置 X=28604 ~ 28605 Y=-81278 ~ -81280

経過 5区東部の5-5区北東側で確認された。周囲にはピットが複数形成されている。

重複 73号土坑の西側に隣接しており、本土坑が壊されている。

形状 円形か。

規模 長軸 0.60m 短軸 (0.38) m 深さ 0.48m

主軸方位 ー

埋没状態 褐色土が単層で堆積する。覆土中にはAs-Aとロームブロック粒が堆積する。堆積状況から人為的な埋没が想定される。

出土遺物 なし。

所見 性格は不明であるが、As-Aを含有しており、As-A降下以降に構築されたと考えられる。

時期 近世

75号土坑 (第10・85図、PL.61)

位置 X=28605 ~ 28607 Y=-81284 ~ -81286

経過 5区東部の5-5区中央部北西側で確認された。

重複 6号竪穴建物上面に構築されており、本土坑が新しい。72号土坑に切られている。

形状 円形か。

規模 長軸 1.15m 短軸 (0.85) m 深さ 0.25m

主軸方位 ー

埋没状態 暗褐色土が単層で堆積する。覆土中にはAs-Aとロームブロック粒が堆積する。堆積状況から人為的な埋没が想定される。

出土遺物 なし。

所見 性格は不明であるが、As-Aを含有しており、As-A降下以降に形成されたと考えられる。

時期 近世

76号土坑 (第10・85図、PL.61)

位置 X=28601 ~ 28603 Y=-81281 ~ -81283

経過 5区東部の5-5区中央部南東側で確認された。

重複 59号ピットによって切られている。

形状 長円形か。

規模 長軸 (0.60) m 短軸 0.56m 深さ 0.32m

主軸方位 N-90°

埋没状態 暗褐色土が単層で堆積する。覆土中にはロームブロック粒が堆積する。写真から判断すると、西側にロームブロック粒が多く含有しており、西側から流れ込

んだことによる人為的な埋没が想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格は建物基礎と考えられるが、59号ピットの関係から、抜き取り痕の可能性はある。

**時期** 近世

77号土坑 (第10・85図、PL.61)

**位置** X=28603 ~ 28605 Y=-81283 ~ -81285

**経過** 5-5区中央部で72号土坑に隣接して確認した。

**重複** 72号土坑によって切られている。

**形状** 円形か。

**規模** 長軸 1.00m 短軸 (0.70) m 深さ 0.28m

**主軸方位** -

**埋没状態** 灰黄褐色土が単層で堆積する。覆土中にはロームブロック粒が堆積する。堆積状況から人為的な埋没が想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 性格は建物基礎と考えられる。帰属時期は、出土遺物が無いため、不明であるが、周辺の遺構から近世と判断される。

**時期** 近世

78号土坑 (第10・86図、PL.61)

**位置** X=28603 ~ 28605 Y=-81286 ~ -81288

**経過** 5区東部の5-5区中央部南西側で確認された。

**重複** 72号土坑によって切られている。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 1.00m 短軸 0.67m 深さ 0.65m

**主軸方位** N-12° -E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。覆土中には褐色粒子を含有する。

**出土遺物** なし。

**所見** As-Aを含有していることから、天明期以降に帰属する。柱痕周囲を礫が巡っていることから、柱穴と考えられる。

**時期** 近世

・5-5区ピット

52号ピット (第10・86図、PL.63)

**位置** X=28603 ~ 28604 Y=-81280 ~ -81282

**経過** 5区東部の5-5区東側で確認した。

**重複** なし。東側には、55 ~ 58号ピットが隣接する。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.40m 短軸 0.38m 深さ 0.32m

**主軸方位** N-0°

**埋没状態** 暗褐色土が単層で堆積する。ロームブロックを含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、東側に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

53号ピット (第10・86図、PL.63)

**位置** X=28602 ~ 28604 Y=-81283 ~ -81285

**経過** 5区東部の5-5区中央部南側で確認した。

**重複** なし。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 0.80m 短軸 0.66m 深さ 0.71m

**主軸方位** N-15° -E

**埋没状態** 暗褐色土が単層で堆積する。覆土中にはAs-Aとロームブロック粒が堆積し、下層には30cm程の礫を含有する。特に礫が集中し、横位に敷かれたように配置されている礫も確認できる。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が1点出土した。

**所見** 底面に横位に敷設された石が確認されており、礎石として利用した柱穴の可能性はある。東側に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

54号ピット (第10・86図、PL.64)

**位置** X=28601 ~ 28603 Y=-81280 ~ -81281

**経過** 5区東部の5-5区南東側で確認した。

**重複** なし。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 0.48m 短軸 0.36m 深さ 0.38m

**主軸方位** N-35° -E

**埋没状態** 暗褐色土が単層で堆積する。ロームブロックを含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、東側に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列

### 第3章 調査された遺構と遺物

の一部と考えられる。

**時期** 近世

55号ピット (第10・86図、PL.64)

**位置** X=28603 ~ 28604 Y=-81280 ~ -81281

**経過** 5区東部の5-5区東側で確認した。

**重複** 56号ピットに切られている。

**形状** 円形か。

**規模** 長軸 0.36m 短軸 (0.25) m 深さ 0.23m

**主軸方位** —

**埋没状態** 土層所見が無く、不明である。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、東側に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

56号ピット (第10・86図、PL.64)

**位置** X=28603 ~ 28605 Y=-81280 ~ -81281

**経過** 5区東部の5-5区東側で確認した。

**重複** 55、57号ピットを切り、58号ピットに切られている。

**形状** 円形か。

**規模** 長軸 0.40m 短軸 (0.36) m 深さ 0.50m

**主軸方位** —

**埋没状態** 暗褐色土と褐色土の2層が堆積する。ロームブロックや炭化物を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、土師器が4点出土した

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、東側に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

57号ピット (第10・86図、PL.64)

**位置** X=28603 ~ 28605 Y=-81280 ~ -81281

**経過** 5区東部の5-5区東側で確認した。

**重複** 56、58号ピットによって切られている。

**形状** 円形か。

**規模** 長軸 0.30m 短軸 (0.25) m 深さ 0.22m

**主軸方位** —

**埋没状態** 暗褐色土が単層で堆積する。ロームブロックを含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、東側に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

58号ピット (第10・86図、PL.64)

**位置** X=28603 ~ 28604 Y=-81280 ~ -81281

**経過** 5区東部の5-5区東側で確認した。

**重複** 56、57号ピット上面に形成されており、本ピットが新しい。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.28m 短軸 0.24m 深さ 0.20m

**主軸方位** N-15° -E

**埋没状態** 暗褐色土が単層で堆積する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、東側に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

59号ピット (第10・85図、PL.64)

**位置** X=28601 ~ 28603 Y=-81281 ~ -81282

**経過** 5区東部の5-5区南東側で確認した。

**重複** 西側に位置する76号土坑を壊している。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 0.90m 短軸 0.46m 深さ 0.72m

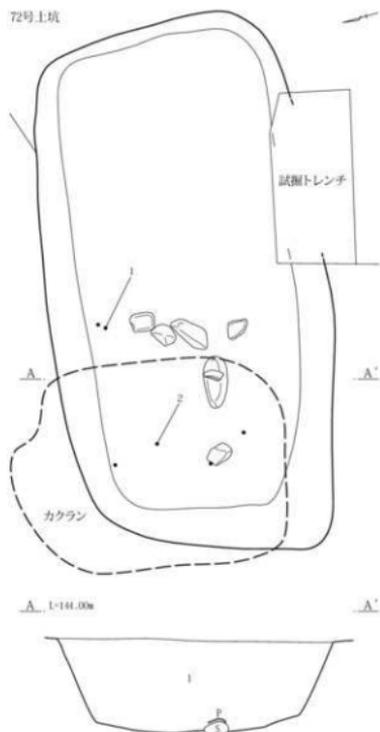
**主軸方位** N-2° -W

**埋没状態** 暗褐色土が単層で堆積する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

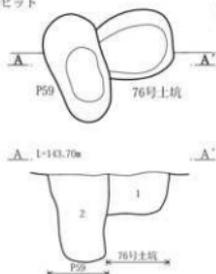
**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、深さが72cmを有しており、柱痕は確認できなかったが、柱穴の可能性が考えられる。また周辺にはピットや土坑が集中しており、関連性が想定される。

**時期** 近世

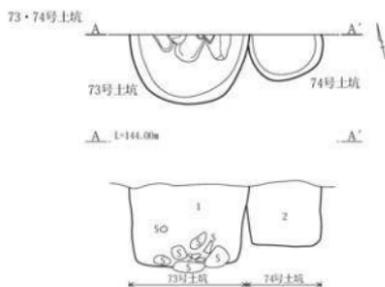


1. 灰黄褐色土 As-Aの復旧坑覆土。As-Aを主体とする。As-Aは細粒～最大10mm、As-A以外の夾雑物は殆ど無い。

76号土坑・59号ピット

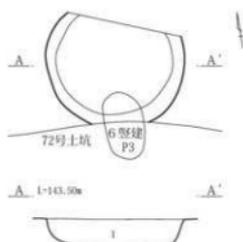


1. にぶい黄褐色土 1～5cmのロームブロックを少し含む。  
2. 暗褐色土 2～5cmのロームブロックを塊状に含む。粘性はあり。



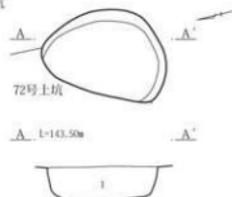
1. 暗褐色土 As-A、ローム粒、ロームブロック及び礫を含む。しまりなし。  
2. 褐色土 As-A、ローム粒を含む。しまりなし。73号土坑に切られる。

75号土坑



1. 暗褐色土 6号竪穴建物覆土内の土坑。As-Aを含み、しまりは弱い。

77号土坑

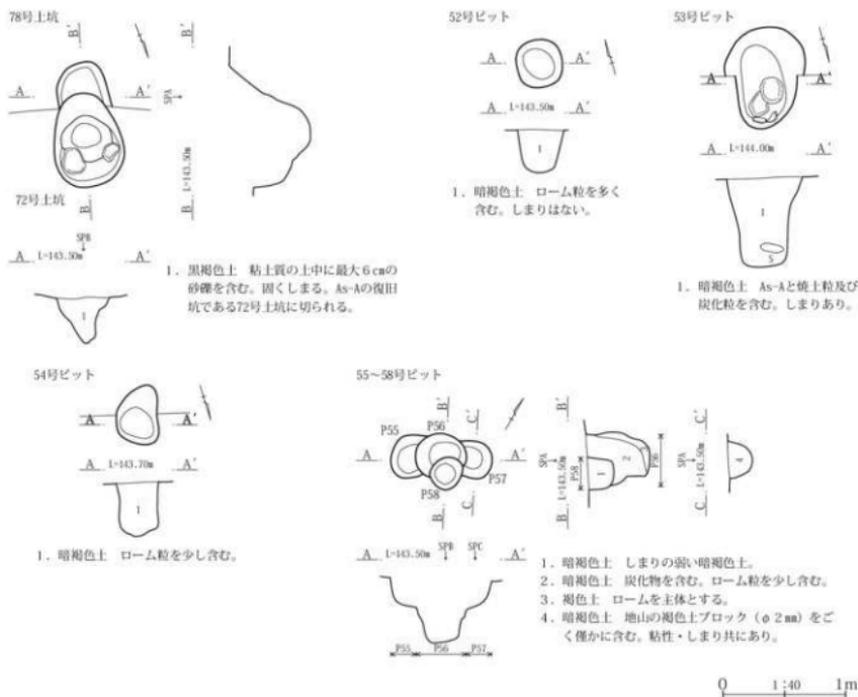


1. 灰黄褐色土 φ5mmの内礫を多く含む。しまりなし。As-Aの復旧坑である72号土坑に切られる。

第85図 5-5区土坑(1)

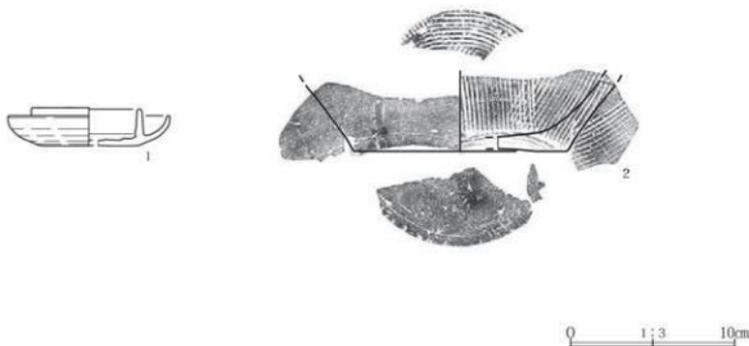


第3章 調査された遺構と遺物



第86図 5-5区土坑(2)・ピット

72号土坑



第87図 5-5区土坑出土遺物

## ・5-6区土坑

70号土坑 (第10・88図、PL.60)

位置 X=28600 ~ 28602 Y=-81271 ~ -81272

経過 5区東部の5-6区中央部で確認した。

重複 なし。

形状 長円形。

規模 長軸 0.66m 短軸 0.56m 深さ 0.16m

主軸方位 N-16° -W

埋没状態 暗褐色土が単層で堆積し、褐色土をブロック状に含有する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

出土遺物 なし。

所見 機能は建物基礎と考えられ、帰属時期は周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。

時期 近世

71号土坑 (第10・88図、PL.60)

位置 X=28599 ~ 28601 Y=-81268 ~ -81270

経過 5区東部の5-6区中央部で確認した。

重複 なし。

形状 長円形。

規模 長軸 0.70m 短軸 0.58m 深さ 0.13m

主軸方位 N-34° -W

埋没状態 暗褐色土が単層で堆積し、褐色土をブロック状に含有する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

出土遺物 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が2点出土した。

所見 機能は建物基礎と考えられ、帰属時期は周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。

時期 近世

## ・5-6区ピット

42号ピット (第10・88図、PL.62)

位置 X=28600 ~ 28602 Y=-81275 ~ -81277

経過 5区東部の5-6区西側で確認した。

重複 なし。

形状 円形。

規模 長軸 0.45m 短軸 0.40m 深さ 0.28m

主軸方位 N-38° -W

埋没状態 暗褐色土が単層で堆積し、褐色土をブロック状に含有する。堆積状況は、人為的な埋没と想定される。

出土遺物 なし。

所見 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については東側に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

時期 近世

43号ピット (第10・88図、PL.62)

位置 X=28599 ~ 28600 Y=-81264 ~ -81265

経過 5区東部の5-6区東側で確認した。

重複 なし。北側には45号ピットが隣接する。

形状 円形。

規模 長軸 0.26m 短軸 0.23m 深さ 0.07m

主軸方位 N-76° -W

埋没状態 暗褐色土が単層で堆積する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

出土遺物 なし。

所見 帰属時期と機能は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。

時期 近世

44号ピット (第10・88図、PL.62)

位置 X=28600 ~ 28602 Y=-81266 ~ -81267

経過 5区東部の5-6区北東部で確認した。

重複 なし。

形状 —

規模 長軸 0.30m 短軸 (0.17) m 深さ 0.24m

主軸方位 —

埋没状態 暗褐色土が単層で堆積し、小礫を含有する。堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判然としない。

出土遺物 なし。

所見 帰属時期と機能は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。

時期 近世

45号ピット (第10・88図、PL.62)

位置 X=28599 ~ 28600 Y=-81264 ~ -81265

経過 5区東部の5-6区東側で確認した。

重複 なし。南側には43号ピットが隣接する。

形状 円形。

規模 長軸 0.46m 短軸 0.43m 深さ 0.05m

主軸方位 N-42° -W

**埋没状態** 暗褐色土が単層で堆積する。確認時は、残存状態が悪く、堆積状況は不明確であることから、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期並びに機能は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。

**時期** 近世

46号ピット (第10・88図、PL.62・63)

**位置** X=28600～28601 Y=81273～81274

**経過** 5区東部の5-6区西側で確認した。

**重複** 南側を49号ピットで切られている。西側には47号ピットが隣接する。

**形状** 円形か。

**規模** 長軸 0.30m 短軸 0.30m 深さ 0.22m

**主軸方位** -

**埋没状態** 暗褐色土が単層で堆積する。ロームブロックを少量含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、東側に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

47号ピット (第10・88図、PL.62・63)

**位置** X=28600～28601 Y=81273～81274

**経過** 5区東部の5-6区西側で確認した。

**重複** 西側を48号ピットによって切られており、本遺構の方が古い。東側には46号ピットが隣接する。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 0.46m 短軸 0.34m 深さ 0.12m

**主軸方位** N-12°-W

**埋没状態** 暗褐色土が単層で堆積する。ロームブロックを少量含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、東側に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

48号ピット (第10・88図、PL.63)

**位置** X=28600～28601 Y=81274～81275

**経過** 5区東部の5-6区西側で確認した。

**重複** 東側の47号ピットを切っており、本遺構の方が新しい。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.46m 短軸 0.46m 深さ 0.30m

**主軸方位** N-0°

**埋没状態** 暗褐色土が単層で堆積する。ロームブロックを少量含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、東側に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

49号ピット (第10・88図、PL.63)

**位置** X=28599～28601 Y=81273～81274

**経過** 5区東部の5-6区西側で確認した。

**重複** 46号ピットの南側に位置し、46号ピットを切っている。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 0.66m 短軸 0.50m 深さ 0.80m

**主軸方位** N-41°-E

**埋没状態** にぶい黄褐色土が単層で堆積する。ロームブロックを少量含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、近世の在地系土器が2点出土した。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、東側に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

50号ピット (第10・88図、PL.63)

**位置** X=28599～28601 Y=81271～81273

**経過** 5区東部の5-6区西側で確認した。

**重複** 西側の51号ピットに切られている。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.40m 短軸 0.37m 深さ 0.12m

**主軸方位** N-5° -E

**埋没状態** 暗褐色土が単層で堆積する。ロームブロックと炭化物、焼土を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が2点出土した。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、東側に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。隣接する51号ピットについても関連性が想定される。

**時期** 近世

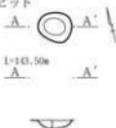
51号ピット (第10・88図、PL.63)

70号土坑



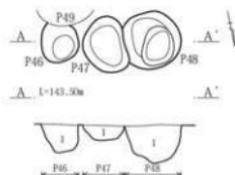
1. 暗褐色土 基本土層IV層の褐色土粒を斑状に含む。少ししりあり。

43号ピット



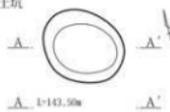
1. 暗褐色土 夾雑物の少ない、きめ細やかな土。

46~48号ピット



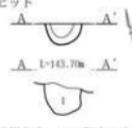
1. 暗褐色土 基本土層III層を覆上としロームブロックをごく僅かに含む。しりあり。

71号土坑



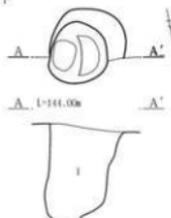
1. 暗褐色土 基本土層IV層の褐色土粒を斑状に含む。少ししりあり。

44号ピット



1. 暗褐色土 5mm程度の小礫を含む。粘性はないがしりる。

49号ピット



1. にぶい黄褐色土 φ5~30mmのロームを斑状に含む。炭化物を少し含む。粘性あり。

**位置** X=28599~28601 Y=-81272~-81273

**経過** 5区東部の5-6区西側で確認した。

**重複** 東側の50号ピットを切っている。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 0.44m 短軸 0.32m 深さ 0.22m

**主軸方位** N-71° -W

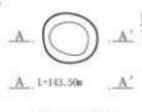
**埋没状態** 暗褐色土が単層で堆積する。礫を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が2点出土した。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、東側に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

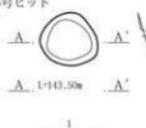
**時期** 近世

42号ピット



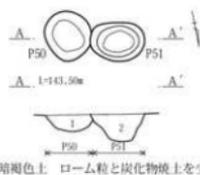
1. 暗褐色土 基本土層III層を覆上としロームブロックをごく僅かに含む。しりあり。

45号ピット



1. 暗褐色土 夾雑物の少ない、きめ細やかな土。

50・51号ピット



1. 暗褐色土 ローム粒と炭化物焼土を少し含む。粘性としりは少しある。  
2. 暗褐色土 φ3mm程度の礫を少し含む。粘性としりは少しあり。

0 1:40 1m

第88図 5-6区土坑・ピット

・6-1区土坑

80号土坑 (第10・89図、PL.65)

位置 X=28587～28589 Y=-81204～-81206

経過 6区西部の6-1区中央部で確認した。

重複 なし。

形状 不整形。

規模 長軸 0.68m 短軸 0.50m 深さ 0.22m

主軸方位 N-50°-E

埋没状態 黒褐色土が単層で堆積する。覆土中にはロームブロック粒と20cm程の礫を含有する。堆積状況から人為的な埋没が想定される。

出土遺物 なし。

所見 礫を含有すること、堆積状況などから廃棄土坑と考えられる。帰属時期は、出土遺物が無いため、不明であるが、周辺の遺構から近世と判断される。

時期 近世

81号土坑 (第10・89図、PL.65)

位置 X=28586～28587 Y=-81194～-81196

経過 6区西部の6-1区東側で確認した。

重複 なし。東側の一部は調査区外に位置する。南側には1号柱穴列が位置する。

形状 —

規模 長軸 (0.56) m 短軸 0.52m 深さ 0.14m

主軸方位 —

埋没状態 黒褐色土が単層で堆積する。覆土中にはロームブロック粒と20cm程の礫を含有する。堆積状況から人為的な埋没が想定される。

出土遺物 なし。

所見 礫を含有すること、堆積状況などから廃棄土坑と考えられる。帰属時期は、出土遺物が無いため、不明であるが、周辺の遺構から近世と判断される。

時期 近世

83号土坑 (第10・89・90図、PL.65・86)

位置 X=28585～28588 Y=-81196～-81198

経過 6区西部の6-1区東側で確認した。

重複 1号柱穴列P4の東側を壊している。

形状 隅丸長方形。

規模 長軸 1.22m 短軸 0.80m 深さ 0.05m

主軸方位 N-9°-E

埋没状態 後世の造成によって削平され、深さ5cmのみ

が残存する。堆積土層はロームブロックを含有した黒褐色土が単層で堆積している。黒褐色土層の上面には陶磁器類が一括で出土している。垂直分布図では、同じ位置で出土しており、人為的な廃棄と考えられ、埋没過程も人為的な埋没とするのに相違ない。

出土遺物 陶磁器類は5点掲載した。小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が3点出土した。1～4は碗、5は徳利である。1～4は18世紀後葉から19世紀初頭、5は19世紀前葉から中葉の肥前磁器である。金属製品は6～11が出土した。6と7は鉄銭、8～10は寛永通寶、11は鉄釘である。

所見 本土坑からは、寛永通寶3文、鉄銭2文、計5文と陶磁器類が出土している。土坑の残存状況が悪いため、6文銭だった場合、土贖墓の可能性も視野に検討した。しかし本土坑が福嶋宿内に位置すること、出土した陶磁器が完形品ではなく、埋没以前に割れた状態で出土していること、垂直分布図で少し土が堆積した状態で、陶磁器類が出土していることを踏まえて、廃棄土坑と捉えた。土層中には焼土などは無く、火災に伴った廃棄土坑ではない。特徴としては、出土した碗と徳利には生産された時期に時間差があること、陶磁器とともに古銭が出土していることが挙げられる。仮説としては、伝世品だった碗が何らかの事情により、徳利とともに割れ、浄化する意味を込めて古銭と一緒に埋納した様相が伺える。埋納時期としては、徳利が生産されたのが19世紀前葉から中葉にかけてであり、早くとも19世紀前葉には埋納されたと考えられる。

時期 近世 (19世紀前葉以降)

85号土坑 (第10・89図、PL.65)

位置 X=28584～28587 Y=-81194～-81195

経過 6区西部の6-1区東壁で確認した。

重複 8号溝を切っている。

形状 調査区壁のみで確認できたため、形状は不明である。

規模 調査区壁のみで確認できたため、規模は不明である。

主軸方位 —

埋没状態 As-Aの純層と30cm程の礫が堆積する。堆積状況から人為的な埋没と考えられ、復旧坑と想定される。

出土遺物 なし。

**所見** 土坑の土層堆積状況から、復旧坑と考えられ、天明3年以降に帰属すると考えられる。

**時期** 近世

・6-1区ピット

62号ピット (第10・89図、PL.66)

**位置** X=28589～28590 Y=-81216～-81217

**経過** 6区西部の6-1区西側で確認した。

**重複** なし。東側に63号ピットが隣接する。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.47m 短軸 0.43m 深さ 0.24m

**主軸方位** N-12°-E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。ロームブロックを少量含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

63号ピット (第10・89図、PL.66)

**位置** X=28589～28590 Y=-81216～-81217

**経過** 6区西部の6-1区西側で確認した。

**重複** なし。西側に62号ピットが隣接する。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.32m 短軸 0.30m 深さ 0.22m

**主軸方位** N-52°-W

**埋没状態** 灰黄褐色土が単層で堆積する。ロームブロックを少量含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

64号ピット (第10・89図、PL.66・67)

**位置** X=28589～28591 Y=-81214～-81215

**経過** 6区西部の6-1区西側で確認した。

**重複** なし。南側に65号ピットが隣接する。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.45m 短軸 0.42m 深さ 0.40m

**主軸方位** N-17°-E

**埋没状態** 黒褐色土層が2層堆積する。ロームブロックを少量含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

65号ピット (第10・89図、PL.67)

**位置** X=28589～28590 Y=-81214～-81216

**経過** 6区西部の6-1区西側で確認した。

**重複** なし。北側に64号ピットが隣接する。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.42m 短軸 0.40m 深さ 0.66m

**主軸方位** N-0°

**埋没状態** 黒褐色土層が2層堆積する。ロームブロックと礫を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

66号ピット (第10・89図、PL.67)

**位置** X=28590～28591 Y=-81215～-81216

**経過** 6区西部の6-1区西側で確認した。

**重複** なし。

**形状** 円形か。

**規模** 長軸 0.40m 短軸 (0.32) m 深さ 0.18m

**主軸方位** -

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。ロームブロックを少量含有する。上面を攪乱によって消失しているため堆積状況は不明確で、人為的な埋没なのか自然堆積なのか判断としない。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

67号ピット (第10・89図、PL.67)

**位置** X=28589 ~ 28590 Y=-81210 ~ -81211

**経過** 6区西部の6-1区中央部で確認した。

**重複** なし。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 0.52m 短軸 0.34m 深さ 0.22m

**主軸方位** N-42°-E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。ロームブロックと礫を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

68号ピット (第10・89図、PL.67)

**位置** X=28587 ~ 28589 Y=-81209 ~ -81210

**経過** 6区西部の6-1区中央部で確認した。柱穴列を構成する一部である。

**重複** なし。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.42m 短軸 0.40m 深さ 0.24m

**主軸方位** N-24°-W

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。ロームブロックと礫を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられ、1号柱穴列P11とした。

**時期** 近世

69号ピット (第10・89図、PL.67)

**位置** X=28586 ~ 28588 Y=-81210 ~ -81211

**経過** 6区西部の6-1区中央部で確認した。

**重複** なし。

**形状** 長円形。

**規模** 長軸 0.46m 短軸 0.36m 深さ 0.18m

**主軸方位** N-61°-W

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。ロームブロックと礫を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が1点出土した。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

70号ピット (第10・89図、PL.67)

**位置** X=28586 ~ 28587 Y=-81207 ~ -81209

**経過** 6区西部の6-1区中央部で確認した。

**重複** なし。

**形状** 不整形。

**規模** 長軸 0.56m 短軸 0.40m 深さ 0.17m

**主軸方位** N-71°-E

**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。ロームブロックと礫を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

71号ピット (第10・89図、PL.67)

**位置** X=28588 ~ 28589 Y=-81207 ~ -81208

**経過** 6区西部の6-1区中央部で確認した。

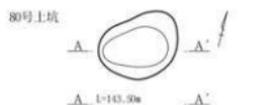
**重複** なし。

**形状** 円形。

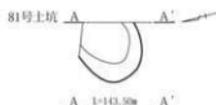
**規模** 長軸 0.42m 短軸 0.39m 深さ 0.28m

**主軸方位** N-19°-E

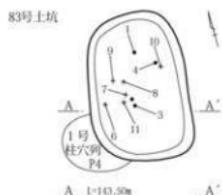
**埋没状態** 黒褐色土が2層堆積する。ロームブロックと礫を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定され



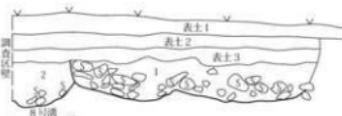
- 80号土坑  
A L=143.50m A'
1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ3~5mm 礫 5% φ3~4mm ロームB 5%



- 81号土坑 A L=143.50m A'
1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ15~30mm 礫 20% 少し粘性あり。

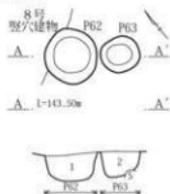


- 83号土坑 A L=143.50m A'
1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ10~30mm ロームB 30% φ4~10mm 礫 20%



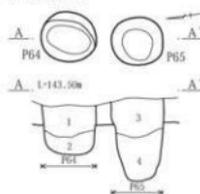
- 85号土坑 A L=144.50m A'
1. 灰黄褐色土 As-Aの灰掻き層。φ2~9mm 軽石 80% φ20~230mm 礫 60%
  2. 灰黄褐色土 φ2~9mm 軽石を主とする As-Aの灰掻き層。

62・63号ピット

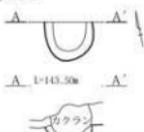


- 62・63号ピット A L=143.50m A'
1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ2~4mm ロームB 30% 少ししまりあり。φ2~4mm 礫 5% 底面は礫を含むローム層になっている。
  2. 灰黄褐色土 φ3~5mm ロームB 10% φ5~80mm 礫 10% 少ししまりあり。

64・65号ピット

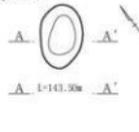


66号ピット



- 66号ピット A L=143.50m A'
1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ2~3mm ロームB 5% 少ししまりあり。

67号ピット



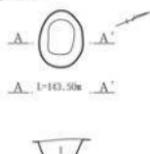
- 67号ピット A L=143.50m A'
1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ5~30mm 礫 5% 少ししまりあり。

68号ピット



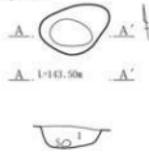
- 68号ピット A L=143.50m A'
1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ5~40mm 礫 10% 下に行くほど黒土の割合が多くなる。

69号ピット



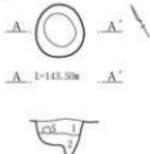
- 69号ピット A L=143.50m A'
1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ20~40mm 礫 20% 少ししまりあり。

70号ピット



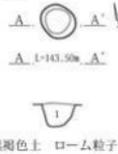
- 70号ピット A L=143.50m A'
1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ5~70mm 礫 20% 少し粘性あり。

71号ピット



- 71号ピット A L=143.50m A'
1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ4~70mm 礫 10% しまりあり。
  2. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ3~50mm 礫 20% 少し粘性あり。

72号ピット



- 72号ピット A L=143.50m A'
1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ2~3mm ロームB 5% φ10~30mm 礫 10%



第89図 6-1区土坑・ピット

る。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

**時期** 近世

72号ピット (第10・89図、PL.67・68)

**位置** X=28587～28588 Y=81206～81208

**経過** 6区西部の6-1区中央部で確認した。柱穴列を構成する一部である。

**重複** なし。

**形状** 円形。

**規模** 長軸 0.30m 短軸 0.26m 深さ 0.18m

**主軸方位** N-37° -W

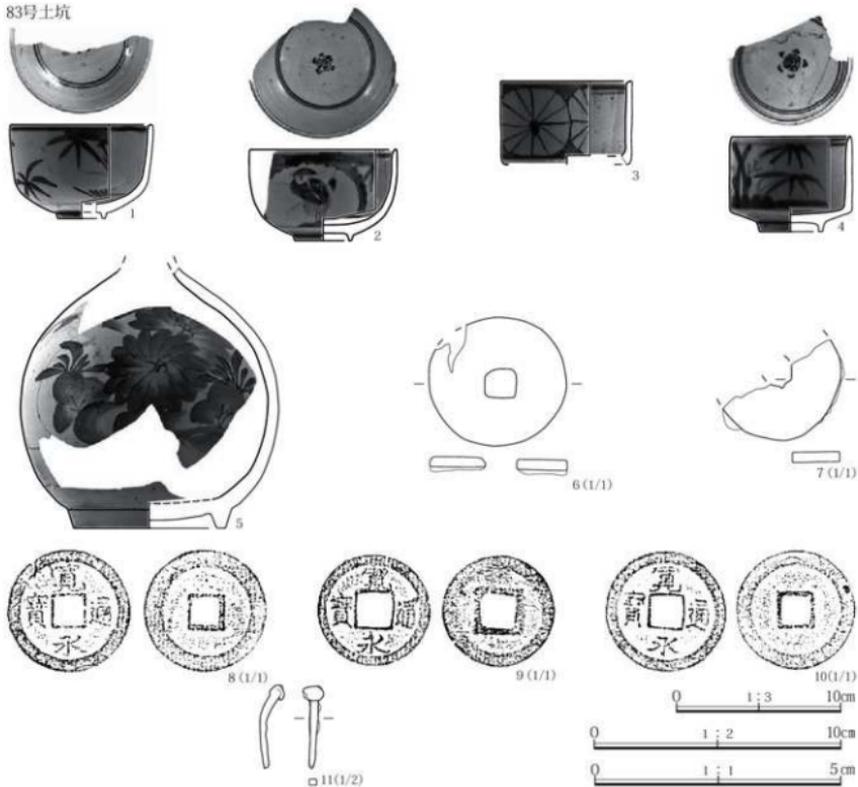
**埋没状態** 黒褐色土が単層で堆積する。覆土中にはロームブロック粒を含有する。堆積状況から人為的な埋没が想定される。

**出土遺物** なし。

**所見** 帰属時期は出土遺物がないため、不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、柱穴列の一部と考えられ、1号柱穴列P10とした。

**時期** 近世

83号土坑



第90図 6-1区土坑出土遺物

## ・6-2区土坑

82号土坑 (第10・91図、PL.65)

位置 X=28581 ~ 28582 Y=-81182 ~ -81184

経過 6区中央部の6-2区南東部で確認した。

重複 なし。西側には87号土坑が隣接する。

形状 不整形。

規模 長軸 1.06m 短軸 0.78m 深さ 0.15m

主軸方位 N-80° -W

埋没状態 黒褐色土が単層で堆積する。覆土中には白色粒子と礫、軽石を含有する。堆積状況から人為的な埋没が想定される。

出土遺物 なし。

所見 礫を含有すること、堆積状況などから廃棄土坑と考えられる。帰属時期は、出土遺物が無いため、不明であるが、周辺の遺構から近世と判断される。

時期 近世

87号土坑 (第10・91図、PL.66)

位置 X=28581 ~ 28582 Y=-81184 ~ -81185

経過 6区中央部の6-2区南東部で確認した。

重複 なし。東側には82号土坑が隣接する。

形状 円形。

規模 長軸 0.58m 短軸 0.50m 深さ 0.24m

主軸方位 N-45° -W

埋没状態 黒褐色土が単層で堆積する。覆土中には礫と軽石を含有する。堆積状況から人為的な埋没が想定される。

出土遺物 なし。

所見 礫を含有すること、堆積状況などから廃棄土坑と考えられる。帰属時期は、出土遺物が無いため、不明であるが、周辺の遺構から近世と判断される。

時期 近世

## ・6-2区ピット

73号ピット (第10・91図、PL.68)

位置 X=28584 ~ 28586 Y=-81185 ~ -81186

経過 6区中央部の6-2区北部で確認した。

重複 なし。

形状 不整形。

規模 長軸 0.32m 短軸 0.30m 深さ 0.10m

主軸方位 N-20° -W

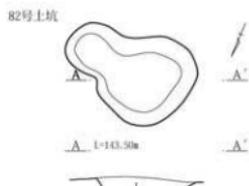
埋没状態 暗褐色土が単層で堆積する。覆土中にはロー

ムブロック粒と礫を含有する。堆積状況から人為的な埋没が想定される。

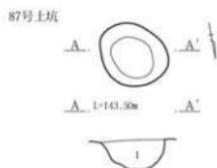
出土遺物 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が1点出土した。

所見 礫を含有すること、堆積状況などから廃棄ピットと考えられる。帰属時期は不明であるが、周辺の遺構から近世と判断される。

時期 近世



1. 黒褐色土 白色粒子含む、 $\phi$  5 ~ 30mm 礫 20%  
しまりあり。 $\phi$  3 ~ 5mm 軽石 10%



1. 黒褐色土  $\phi$  4 ~ 80mm 礫 20% しまりあり。  
 $\phi$  2 ~ 5mm 軽石 10%

73号ピット



1. 暗褐色土 ローム粒子含む。  
 $\phi$  3 ~ 5mm 礫 20%

0 1:40 1m

第91図 6-2区土坑・ピット

### 第3章 調査された遺構と遺物

#### ・6-3区土坑

89号土坑 (第10・92・93図、PL.66・87)

位置 X=28582～28585 Y=81174～81176

経過 6区中央部の6-3区西壁で確認した。

重複 9号竪穴建物を切っている。

形状 ー

規模 長軸 1.94m 短軸 (0.60) m 深さ 0.52m

主軸方位 ー

埋没状態 上からAs-Aを伴った暗褐色土が2層堆積し、北側には焼土や粘土を含有した赤褐色土が堆積する。さらに下層には10cm程の小礫が遺物やAs-Aとともに堆積していた。堆積状況から人為的な埋没が想定される。

出土遺物 陶磁器類が出土し、6点掲載した。1は肥前磁器、2は瀬戸・美濃磁器の碗で、3は瀬戸・美濃陶器の灯火皿、4は瀬戸・美濃磁器の白磁小皿、5は肥前磁器の染付皿、6は在地系土器の焙烙である。これらは18世紀後葉から19世紀前葉に比定されるものが中心である。小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器3点と近世の在地系土器12点と陶磁器29点が出土した。

所見 礫や遺物を含有すること、堆積状況などから廃棄土坑と考えられる。帰属時期は、出土遺物から近世と判断される。

時期 近世

#### ・6-3区ピット

77号ピット (第10・92図、PL.68)

位置 X=28583～28584 Y=81164～81166

経過 6区中央部の6-3区北部で確認した。

重複 なし。

形状 長円形。

規模 長軸 0.35m 短軸 0.28m 深さ 0.32m

主軸方位 N-55° -E

埋没状態 黒褐色土と褐色土の2層が堆積する。礫を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

出土遺物 小片のため、非掲載遺物としたが、弥生土器が1点出土した。

所見 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

時期 近世

78号ピット (第10・92図、PL.68)

位置 X=28583～28584 Y=81169～81170

経過 6区中央部の6-3区北部で確認した。

重複 なし。

形状 円形。

規模 長軸 0.26m 短軸 0.26m 深さ 0.20m

主軸方位 N-0°

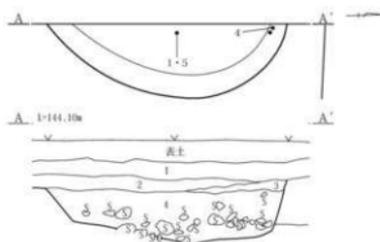
埋没状態 黒褐色土が単層で堆積する。小礫を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

出土遺物 なし。

所見 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

時期 近世

89号土坑



表土 灰黄褐色土 現代の表土。

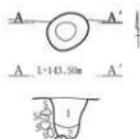
1. 暗褐色土 近代の遺物包含層。As-Aを少し含む。

2. 暗褐色土 近世以降の遺物包含層。As-Aを少し含む。2層下面是叩きしめられている。

3. 赤褐色土 焼土及び粘土を主体とし、叩きしめられた土層。

4. 暗褐色土 小礫から最大15cmの礫を多量に含む。As-Aも少し含む。19世紀の遺物包含層。炭化物を少し含む。

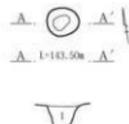
77号ピット



1. 暗褐色土 径1cm程度の礫をまばらに含む。しまり弱い。

2. 褐色土 ローム質土中に砂礫を多く含む。しまり弱い。

78号ピット

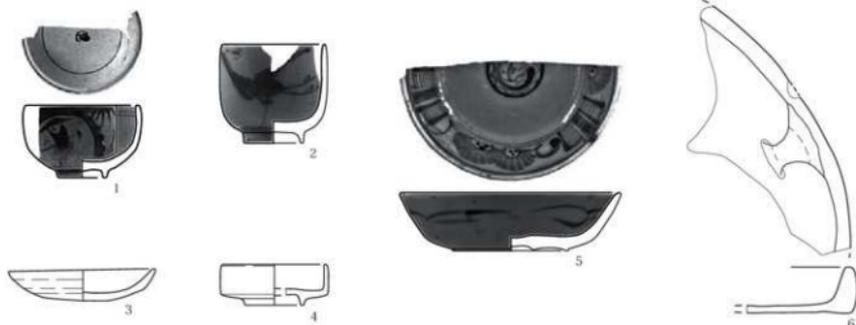


1. 黒褐色土 径5mm程度の小礫を多く含む。しまり弱い。



第92図 6-3区土坑・ピット

89号土坑



第93図 6-3区土坑出土遺物

・6-4区土坑

88号土坑 (第10・94図、PL.66)

位置 X=28582 ~ 28583 Y=-81140 ~ -81142

経過 6区中央部の6-4区東側で確認した。

重複 なし。西側に76号ピットが隣接する。

形状 長円形。

規模 長軸 0.63m 短軸 0.46m 深さ 0.48m

主軸方位 N-90°

埋没状態 暗褐色土が単層で堆積する。ロームブロックと礫を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

出土遺物 なし。

所見 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

時期 近世

90号土坑 (第10・94図、PL.66)

位置 X=28582 ~ 28583 Y=-81144 ~ -81146

経過 6区中央部の6-4区中央部で確認した。

重複 なし。

形状 —

規模 長軸 (0.38) m 短軸 0.56m 深さ 0.53m

主軸方位 —

埋没状態 黒褐色土層とにぶい黄褐色土層が堆積する。ロームブロックと礫を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

出土遺物 なし。

所見 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

時期 近世

・6-4区ピット

75号ピット (第10・94図、PL.68)

位置 X=28582 ~ 28583 Y=-81140 ~ -81141

経過 6区中央部の6-4区東側で確認した。

重複 なし。

形状 円形。

規模 長軸 0.22m 短軸 0.20m 深さ 0.04m

主軸方位 N-0°

埋没状態 灰黄褐色土と褐灰色土が堆積する。礫と軽石を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

出土遺物 なし。

所見 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

時期 近世

76号ピット (第10・94図、PL.68)

位置 X=28582 ~ 28583 Y=-81141 ~ -81142

経過 6区中央部の6-4区東側で確認した。

重複 なし。東側に88号土坑が隣接する。

形状 不整形。

規模 長軸 0.34m 短軸 0.26m 深さ 0.14m

主軸方位 N-43° -E

埋没状態 黒色土と黒褐色土が堆積する。ロームブロックと礫を含有する。堆積状況から、人為的な埋没と想定される。

出土遺物 なし。

所見 帰属時期は不明であるが、周辺の遺構などとの関係から、近世以降に構築されたとみられる。機能については、周辺に柱穴列が構築されており、本遺構も柱穴列の一部と考えられる。

時期 近世

88号土坑・76号ビット



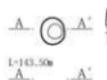
1. 暗褐色土 ローム粒子含む。φ5～30mm ロームB 20% φ10～30mm 礫 10% 粘性少しあり。
2. 黒色土 ローム・白色粒子含む。φ2～4mm 礫 5% しまりあり。
3. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ4～7mm ロームB 30% 粘性少しあり。

90号土坑



1. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ5～10mm 礫 5% しまりあり。
2. にぶい黄褐色土 ローム粒子含む。黒褐色土とロームの混合土。粘性少しあり。φ4～10mm 礫 10%
3. 黒褐色土 ローム粒子含む。φ4～30mm 礫 20% しまりあり。粘性少しあり。

75号ビット



1. 灰黄褐色土 φ3～5mm 礫 5% しまりあり。
2. 褐灰色土 軽石層 φ1～3mm 軽石が主体。



第94図 6-4区土坑・ビット

## 5 遺構外出土遺物 (第95～97図、PL.87～89)

攪乱を含めた遺構外遺物は、陶磁器、在地系土器類を写真のみ掲載の遺物を含め18点掲載した。非掲載遺物の数量は陶磁器が193点、3813.6g、在地系土器が539点、14125.0g出土した。各調査区等の出土数は、第7表を参照されたい。出土の傾向としては、出土箇所に特異性はなく、1区以外で全体的に出土した。下記では調査区ごとに解説する。出土しなかった1区と、4区については小片のみで、それ以外の調査区で反映できるため、割愛した。

2区は5点を掲載した。1、2は肥前磁器の染付碗、3は瀬戸・美濃陶器の皿、4は焙烙、5は片口鉢である。4と5は在地系土器である。年代観に関して、1、2は18世紀中葉から後葉、3は17世紀中葉から後葉、4は江戸時代、5は14世紀に相当する。

3区は6点を掲載した。1は肥前磁器の染付碗、2は

肥前陶器の刷毛目碗、3～5は瀬戸・美濃陶器製で、3は鉄絵皿、4は片口鉢、5はすり鉢である。6は在地系土器の焙烙である。それぞれの年代観は16世紀末から19世紀初頭に相当する。

5-1区は羽口を掲載した(1)。羽口は使用されたとみられ、先端部が溶解していた。

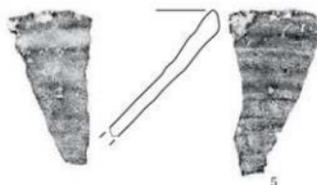
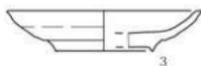
5-6区は耐火煉瓦を記載した。耐火煉瓦には、生産者名やSK番号は認められず、火熱痕も確認できない。

6-2区は丹波陶器のすり鉢で、17世紀後葉から18世紀中葉に比定される。

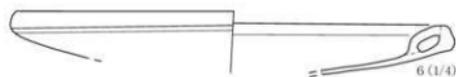
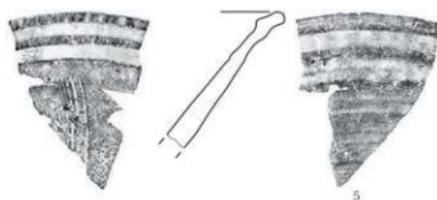
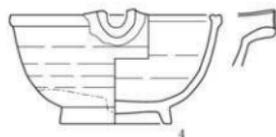
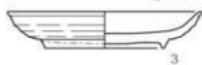
6-4区は染付碗を2点掲載した。両者は19世紀中葉から後葉に比定され、1は肥前磁器である。

6-5区は1が染付盃、2が青磁小碗で、近現代に比定される。2には「福岡町 内藤酒店」と染付で描かれている。

2区

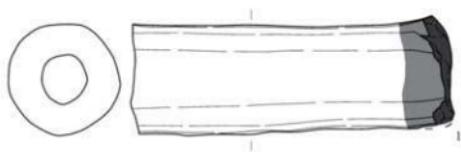


3区

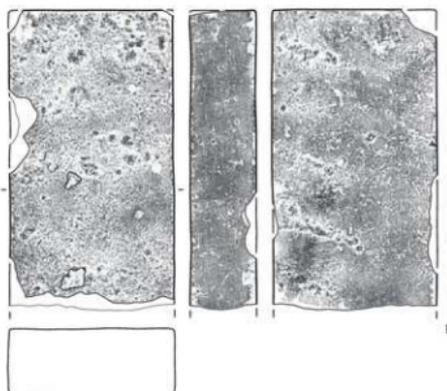


第95図 遺構外出土物 陶磁器(1)

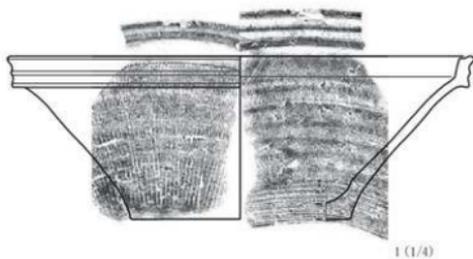
5-1区



5-6区



6-2区



6-4区



6-5区

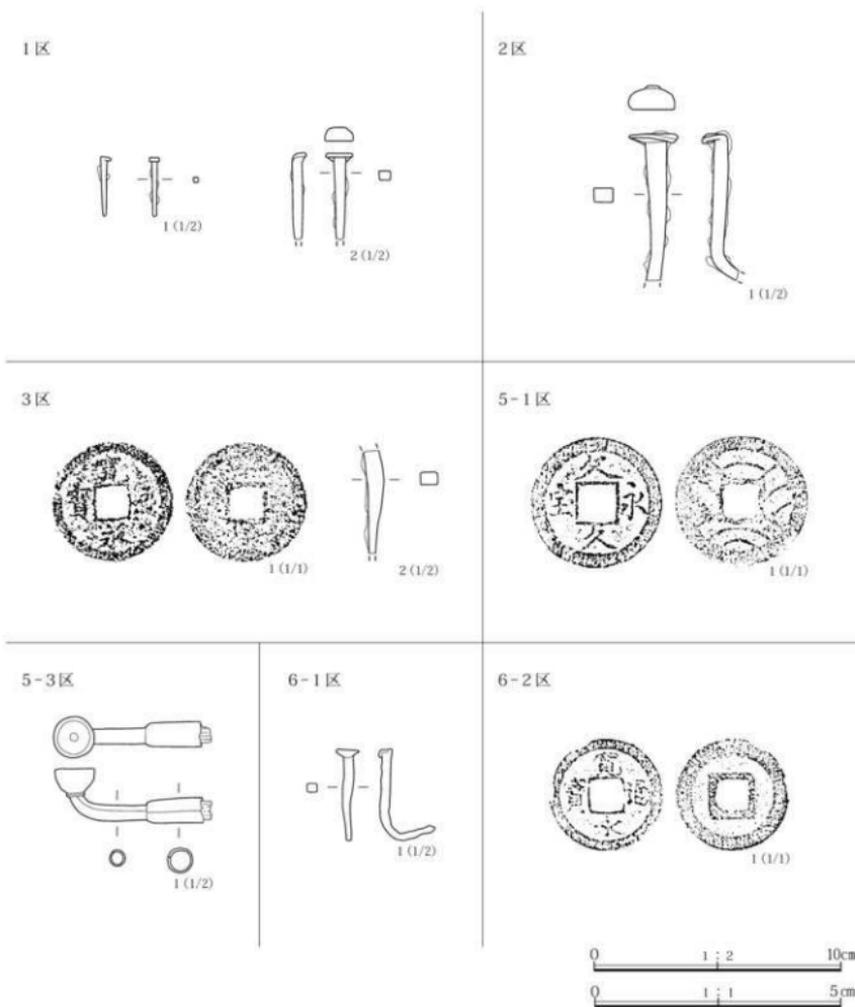


第96図 遺構外出土遺物 陶磁器(2)

### 第3章 調査された遺構と遺物

石製品は石臼が出土し、写真のみを掲載した。

金属製品は9点掲載した。釘は1～3、6-1区から出土した。銭貨は3、5-1、6-2区から出土した。3、6-2区は新寛永、5-1区は文久永宝である。5-3区からは煙管が出土した。



第97図 遺構外出土遺物 金属製品

## 第4章 調査の成果

### 第1節 総括

旧石器時代は、ローム質の褐色土層を確認したが、様相を示す遺構・遺物は確認されていない。褐色土層中には、円礫を含み、福島鹿嶋下、福島駒形遺跡でも同様の様相が確認されている。

縄文時代では、遺構外で、縄文時代中期中葉から後葉の縄文土器が出土した。中位段丘面においての縄文時代中期集落の確認例は、台地状に比べて少なく、不明である。本遺跡から北西に700mに位置する福島駒形遺跡では縄文時代後期後葉の加曾利B 3式期の竪穴建物が発見されている。

東側に位置する甘菜条里遺跡では縄文時代前期中葉の黒浜式の土器が出土している。中位段丘面では、前期中葉以降、生活の痕跡が認められており、中期の集落についても本遺跡の周辺に存在した可能性がある。

弥生時代では、弥生時代後期の樽式期の遺構・遺物を確認した。遺構数の内訳は竪穴建物8棟、竪穴状遺構2基、土坑1基、倒木2基である。竪穴建物は、樽式2期新段階から樽式3期古段階の建物で、樽式2期新段階が中心であった。樽式2期新段階は、2、4、5、6号竪穴建物、樽式3期古段階は1号竪穴建物に相当する。3、7、8号竪穴建物は、出土遺物が少量であったため、詳細は不明であるが、おそらく周辺の遺構から、樽式2期新段階と想定される。出土遺物は甕が主体を占め、壺や台付甕、高環などが出土した。赤彩土器の出土量が少なかったのも本遺跡の特徴に挙げられる。土器型式は樽式のみで、他地域の土器は出土しなかった。2区の2号溝において、頸部に縄文施文を施した樽式土器(第62図-14)が出土しており、南関東に分布する吉ヶ谷式の影響を受けていると考えられる。

周辺遺跡では田條塚原遺跡や福島駒形遺跡でも同様の時期の集落が確認され、本遺跡の規模と同じ建物の他に福島駒形遺跡では大型の建物が確認されており、本遺跡においても、構築されていた可能性があり得る。これらの遺跡と同様に、樽式3期新段階以降は、上位段丘面で

は笹遺跡のみとなり、中心地は白倉上野遺跡などが位置する台地・丘陵部へ集住化する傾向がみられる。中期後は後半には簗川流域にも環濠集落が形成され、後期になると中高瀬観音山遺跡のような大集落が形成される。

古墳時代では、4世紀(10号竪穴建物)と7世紀(9号竪穴建物)の竪穴建物をそれぞれ1棟確認した。遺物の出土量も遺構内に限られ、小規模に竪穴建物が展開していたとみられる。周辺遺跡では、北側では田條塚原遺跡で古墳時代前期の玉作り工房を伴った集落や後期古墳が確認されている。本遺跡の南側には、天王塚古墳や笹森稲荷塚古墳などの後期古墳が築造されており、周辺では積極的な土地利用が行われていたとみられる。

古墳時代以降は、遺構外出土遺物で土師器の出土が確認できるのみであった。本遺跡の下位段丘面では、甘菜条里遺跡など条里制水田が展開している。

中世は2区の遺構外から14世紀の片口鉢が出土するのみで、様相は不明である。小幡家の記録では、福嶋村の記載があり、村として機能していたとみられる。

近世では、遺構・遺物が確認できるのは、17世紀前葉以降で、奥平家が入封した1587年から織田家が小幡に陣屋を移すまでの1642年にかけての遺物は希薄で、陣屋や御殿が置かれていたことを示す資料は確認できなかった。中山道の裏街道「姫街道」が栄えたのが1780年頃とされており、甘菜町史によれば、問屋の屋号が2棟あり、伝馬や一般荷物に継立が行われ、万治2年(1659年)に商品を江戸に送った記録も文書に残されており、この頃には福嶋宿が宿場としての機能を有していたとみられる(甘菜町1959)。出土遺物についても17世紀後葉以降に相当する遺物が多く出土しており、遺物の出土傾向と宿場の成立時期とも整合的である。

遺構としては4号溝にみられるような区画溝が確認した。区画溝についても1期、2期に分かれており、前述した通り、1期は福嶋宿成立以前、2期は福嶋宿成立時と想定され、近世の土坑、ピット類も2期を中心に帰属すると考えられる。福嶋宿の絵図や文書などの記録類はないため、詳細は不明であるが、明治期に作成された壬申地籍図で様相を垣間見ることができる。しかし地籍図

には本遺跡で確認した区画溝が記載されていない。4号溝の垂直分布図を見ると、覆土層に18世紀後葉から19世紀初頭の遺物（第66図-27）が堆積しており、少なくとも19世紀初頭には埋没していたと仮定するならば、地籍図に記載されていないのも理解できる。

近代は、本遺跡では明確な遺構として、導水管と89号土坑が挙げられる。近代以降の遺構の場合、9号竪穴建物の土層断面1層（第53図）において、明治期の版築状の建物の土台基礎が確認されており、本調査では失われている、あるいは溝、土坑のみの確認となり、明確な様相は不明である。本遺跡の場合は、宿場として機能していた地点であり、周辺の歴史的環境を考慮した上での試掘調査、遺構想定が求められる。近代の福岡町は、1904年（明治37年）の『群馬県営業便覧』では旅館屋や問屋などが確認でき、明治時代においても商業活動が盛況であったとみられる。1873年（明治6年）頃に作成された福岡村の『壬申地籍図』と群馬県営業便覧の氏名は一致しており、近世から商業が営まれていたと考えられる。おそらく導水管も明治時代以降に構築された物と考えられる。群馬県営業便覧では、駅と県道254号線を接続する福岡停車場線が確認できる。壬申地籍図では確認できず、上信電鉄線の土州福島駅が開通した1897年（明治30年）以前に、開通に先立って建設が行われたと考えられる。

福島周辺の産業としては、福岡町笹森で1837年（天保11年）福島瓦の製造、近代に入り1872年（明治5年）富岡製糸場建設に伴い、製糸場防方元締格の非塚直次郎が同じく笹森でレンガや瓦の製造場が設け、製造を行っている。福島瓦は、富岡製糸場に供給されたとともに、名産品として周辺地域にも供給された。本遺跡でも非掘蔵ではあるが瓦が出土しており、周辺の産業を伺える資料と考えられる。その他に本遺跡では、耐火煉瓦と羽口が出土している。群馬県営業便覧によれば、本遺跡の5区の向かいに「鍛冶屋 田中彦五郎」との記載が確認できる。羽口は5-1区、耐火煉瓦は5-6区の表土から出土しており、「鍛冶屋 田中彦五郎」に関連する遺物の可能性もあり得る。「内藤酒店」の銘が入った碗については、明治37年の群馬県営業便覧では確認できず、大正以降の創業とみられ、大正以降の福岡町の商業活動を示す資料と考えられる。

以下では第2節で弥生時代から古墳時代、第3節で近世から近代の特徴についてまとめを行う。

## 第2節 弥生時代～古墳時代

### 1 出土土器について

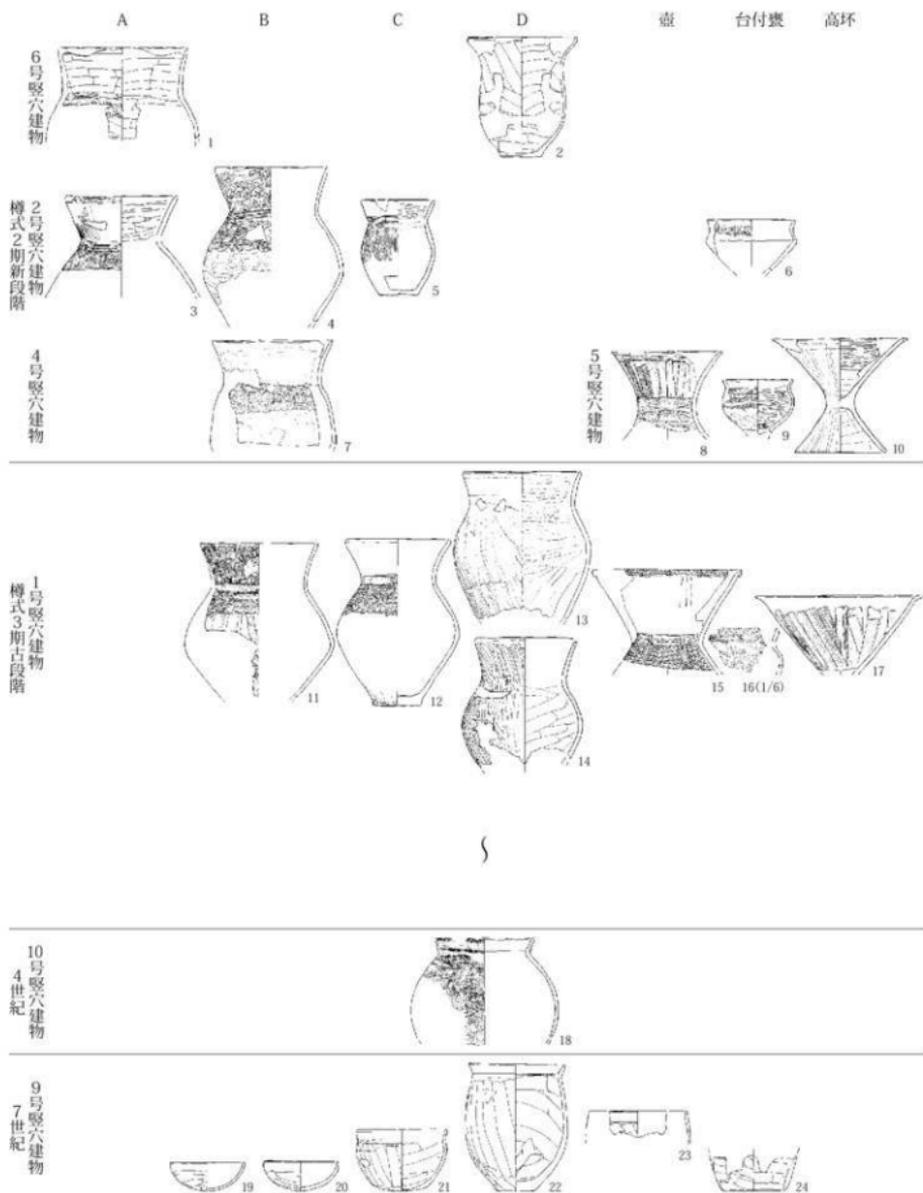
弥生土器は集計表（第7表）の通りである。調査区全体で6814点、86414.9g出土した。器種別の傾向は甕が一番多く、壺や台付甕、高環などが出土した。竪穴建物ごとの器種別の比率については、本遺跡が道路の拡幅調査であり、全容が明らかになっているとは言い難く、竪穴建物によっては、出土状況や遺存状況が近世以降の造成の影響もあって、ばらばらである。第98図の土器変遷図は、遺存状態の良好な建物の出土遺物を利用した。また変遷図については、甕の変遷をもとに作成した。甕の形態分類は、第3章第4節の類型に準拠した。また変遷図作成にあたっては大木氏にご教授賜った。

竪穴建物の編属時期に関して樽式2期新段階は6、2、4、5号竪穴建物、樽式3期古段階は1号竪穴建物が挙げられる。また第98図には、破片資料のみだったため、3、7、8号竪穴建物は図示していないが、破片資料の様相から樽式2期新段階に収まる。

#### 樽式2期新段階

出土遺物の様相から、6号竪穴建物→2号竪穴建物→4号竪穴建物という順に変遷を遂げる。甕は、A～D類まで確認した。6号竪穴建物の様相は、1は器形について、頸部のくびれが緩く、若狭氏のC類に該当する（飯島・若狭1988）。文様はA類とした土器で、頸部に等間隔に柳描籬状文を施文する古手の様相を示す。2は貯蔵穴内からの出土である。外面を縦位、内面を横位にナデ整形を施し、口唇部がくの字状に屈曲している。後期前半の様相を色濃く残している。2号竪穴建物の様相は3から5について、口唇部断面が鋭角になる共通性を持っている。A類の3は、文様構成が口唇部と頸部から胴部上半に文様帯を持つ特徴が壺と近似している。柳描籬状文は1連止めで、下位の柳描波状文は、3～4段施文する土器が多い。B類の4は口縁部に柳描波状文が施文されるが、規則性が認められない。頸部は2連止めの柳描籬状文を施文する。C類の5は、大木氏の高崎型で、等間隔

壺 台付壺 高坏



第98図 福島下町・屋敷下遺跡 土器変遷図 (1/8)

に柳描簾状文を施文し、胴部に規則的に柳描波状文を施文している。甕の他には、6のような胴部最大径がくの字状に屈曲する台付甕が出土した。4号竪穴建物では、甕(7)を挙げた。7は器形が緩く、胴部が窄まり、口縁部は外側に大きく開いている。頸部は等間隔の柳描簾状文を施文し、下位に柳描波状文が施文される。柳描簾状文には2号竪穴建物と共通性が見られる。調整はナデ整形を施される。5号竪穴建物は、甕は小片のため、編年的な位置づけはできない。壺については、2号竪穴建物(3)と8の調整は、篋ケズリ調整で共通性が見られるもの、8は3よりも口縁部が外反し、頸部の径が窄まり、後続の15の形態からも3と15の間に位置づけられる土器と考えられる。台付甕についても6の胴部最大径がくの字状に屈曲するのに対して、9は球状を呈するなど差異が確認できる。5号竪穴建物の位置づけは以上のように、4号竪穴建物との前後関係は不明であるが、2号竪穴建物よりも新しいと考えられる。

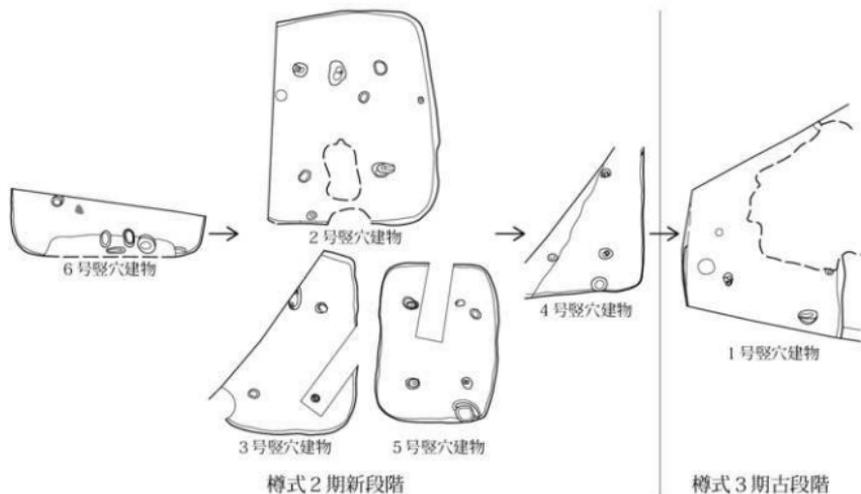
#### 樽式3期古段階

樽式3期古段階の竪穴建物は、1号竪穴建物のみ確認できた。11～14は甕、15は壺、16は台付甕、17は高環

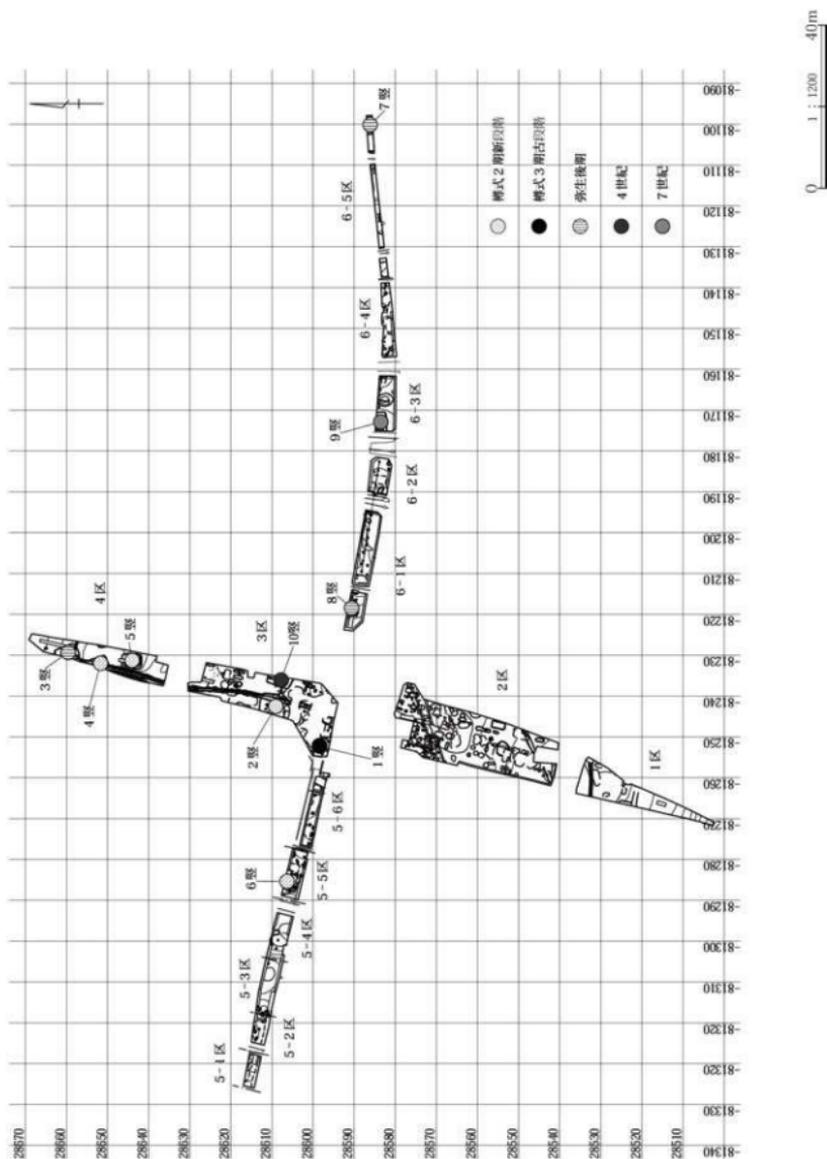
である。甕は胴部最大径がくの字状に屈曲し、球脚状を呈する。11と12は富岡型に比定される。11は口縁部と胴部に不規則な柳描波状文を施文し、頸部に2連止めの柳描簾状文を施文している。12は、口縁部は無文帯で、頸部に2連止めの柳描簾状文、胴部に不規則な柳描波状文を施文する。樽式3期古段階では、前段階よりも柳描波状文の施文が不規則になり、頸部の柳描簾状文も2連止めの間隔が広がっている。調整は、前段階ではケズリが多かったのに対して、この段階ではナデ整形が主流を占め、D類のような無文土器においてもナデ整形でも用いられ、器形はB、C類と共通している。台付甕の形態は樽式2期新段階と変化しないが、甕でみられた間隔の広い2連止めの柳描簾状文を施文されるなど、文様要素は甕と共通する。高環は、口唇部の外側への外反がより顕著にみられる。

#### 4世紀

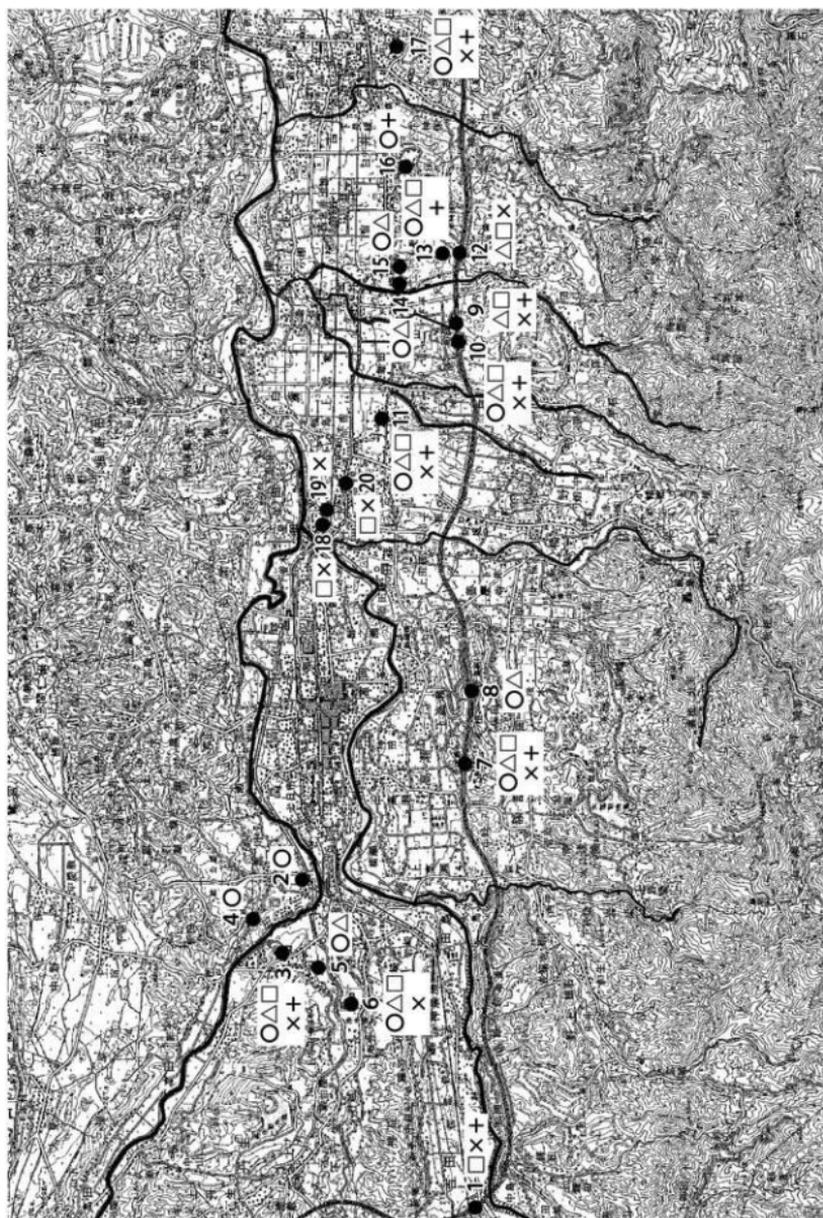
4世紀は10号竪穴建物で確認され、18が挙げられる。18はS字口縁甕で、口縁部のS字は緩やかで、胴部は刷毛目ではなく、ナデによって整形された模倣品である。周辺遺跡では、福島鹿嶋下遺跡で、4世紀代のS字口縁



第99図 時期別竪穴建物変遷図 (1/150)



第1000図 時期的弥生穴建物分布図



第101図 弥生風路酒長区（彌川中流域～下流域）1/65,000

甕を伴った集落と滑石製玉造工房が確認されている。本遺跡では、滑石製の石製品は出土しておらず、S字口縁甕も福島鹿嶋下遺跡よりも後出の土器であることから、時間差があると考えられる。10号竪穴建物では、18以外は掲載していないが、非掲載遺物の中に坏が確認できる。また2号竪穴建物の覆土中から、4世紀の高坏(第29図-11)が出土しており、周囲に遺構があった可能性も考えられる。

### 7世紀

7世紀は9号竪穴建物が確認され、19～24が出土した。19と20は内斜口縁の坏、胴部に横篋ケズリ整形が施される。21は鉢で、口縁部と胴部の境が有段状に形成され、口縁部を横ナデ、胴部を縦篋ケズリ、内面を横篋ケズリ整形が施される。22は甕で、やや小型で、胴部が張る形態を呈している。口縁部を横ナデ、胴部を縦篋ケズリ、内面を横篋ケズリ整形が施される。23と24は甕で、同じ胎土と整形方法から、同一形態である可能性がある。23は口縁部が直立し、胴部上半に縦篋ケズリ整形を施す。24は内外面ともに横篋ケズリ整形が施されている。これらの調整は、甘菜条里遺跡や福島鹿嶋下遺跡などの周辺遺跡でも確認でき、同様の様相を呈していたと考えられる。

## 2 竪穴建物について

竪穴建物の様相は、5号竪穴建物以外は、部分的な調査であり、規模などの全体像は不明確である。しかし竪穴建物の柱間隔については、読み取ることができ、縦2.5～2.9m、横1.8～2.1mの竪穴建物が中心である。周辺遺跡で確認された同時期の建物と比較すると、規模としては、中型の竪穴建物に当てはまるものが明らかになった。大型の竪穴建物は、福島駒形遺跡や丘陵部の遺跡に確認できる。第99図では、竪穴建物を構式2期新段階から構式3期古段階まで並べた。全容を把握できた建物は少ないが、建物の規模などの規格は類似している。

各施設として特徴的なのは、入口施設で、3類型確認できた。特徴としては、8号竪穴建物のように円形のピットが1つのもの、5号竪穴建物のように対ピット状に構築されるもの、6号竪穴建物のように対ピット状のピット

第4表 弥生集落消長図(鍋川中流域～下流域)(大木2020を一部改変)

区分 地域	遺跡名	後期				
		○	△	□	×	+
		構1	構2古	構2新	構3古	構3新
中 流 域	1 南蛇井増光寺					
	2 黒川小塚					
	3 阿曾岡・権現堂					
	4 東八木					
	5 宇田恵下原					
	6 一ノ宮櫻山	○				
	7 中高瀬観音山	○				
	8 内匠日影岡地・諏訪前					
鍋 川 下 流 域	9 天引狐崎					
	10 白倉下原					
	11 笹				○	○
	12 長根安坪				○	
	13 安坪古墳部					○
	14 西原Ⅱ					
	15 中原					
	16 折茂Ⅱ・Ⅳ					
	17 川内				○	
	18 田塚塚原					
	19 駒形					
	20 福島下町・屋敷下					

トに横位のピットを加え、コの字状に構築するものが確認できた。周辺遺跡では、円形のピットが1つの入口施設の竪穴建物を中心であり、3つの類型に地域的な傾向を見いだせるのかは今後の課題である。

## 3 集落について

本遺跡で確認した竪穴建物について、第100図の分布図で示した。道路の拡幅による調査のため、様相が示されているとは言いがたい。構式2期新段階では、北西部に分布が集中し、構式3期古段階と4世紀代も同じ傾向が認められる。一方で7世紀代では、東側で確認した。周辺遺跡の様相については、大木氏の論文が詳しいので、そちらを参照されたい(大木2015、2020)。第4表は大木氏の弥生集落消長図を元に作成した。本遺跡周辺では、田塚塚原遺跡と福島駒形遺跡において同時期の集落が確認され、構式3期新段階では、みられなくなる。鍋川下流域では、多胡台地に位置する笹遺跡や丘陵部の天引狐崎遺跡や白倉下原遺跡など構式1期から続く集落が構式3期新段階まで生活が営まれている。鍋川中流域でも宇田恵下原遺跡など構式1期からみられた集落が構式2期古段階以降少なくなる一方で、中高瀬観音山遺跡などでは中期後半から継続する集落も確認できる。

## 第3節 近世～近代

### 遺構・遺物からみる福嶋宿

#### 1 歴史的背景

第2章でも触れたように中山道の裏街道である下仁田街道「姫街道」の福嶋宿として栄えた地点である。福嶋宿の歴史的動向と遺構の帰属時期は第5表の通りである。下仁田道は、中山道の本庄宿から分岐し、下仁田、砥沢を抜けて長野方面へ延びる（第105図）。福嶋宿は、江戸時代中頃に成立し、屋号を持った問屋が2棟、旅籠が1棟存在したことが『北甘楽郡史』（本多1971）に記載されている。北甘楽郡史によれば、根岸家が問屋を1659年（万治2年）に創設し、6代続いた後、上原家が1860年（万延元年）に継いだと伝わる。宿場では、江戸からの継立てや砥沢石の流通、鉦川の水運による運搬が行われていた（群馬県教育委員会1994）。

福嶋宿の成立以前には既に福嶋村として存在し、1587年（天正15年）から1601年（慶長6年）の奥平氏の領分を経て、直轄地、1610年（慶長15年）から1615年（元和元年）に移封されるまで井伊氏の領分として支配役所の所在地となった。陣屋は本道跡の北側200m程の地点に『殿町』という地名があり、御殿や陣屋が置かれていたとされる。その後は織田氏が1642年（寛永19年）に小幡陣屋に移るまで陣屋として機能していた。福嶋宿の成立時期は明確ではないが、1659年には問屋が創設されており、この頃には宿場としての機能を持っていたと考えられる。下仁田街道の交通が盛んになったのは江戸時代中頃、甘楽町史によれば1780年（安永9年）とされている。この頃近世期の資料は少なく、万治2年に下仁田の石炭を江戸へ継立てに関する記録が残されている。

数少ない資料の中で、様相を復元できるのは明治以降であり、明治6年の『壬申地籍図』と明治37年に作成された『群馬県営業便覧』が挙げられ、当時の様相の一端を示すことができる。群馬県営業便覧によれば、問屋や旅籠屋、鍛冶屋、糸織商などの記載が確認できる。福島町周辺では、富岡製糸場建設に伴い、製糸場附方元締格の葎塚直次郎が葎森にレンガや瓦の製造場を設け、製造を行った。瓦は「福島瓦」と呼ばれ、周辺地域に供給さ

れ、生業も盛んに行われていた。

#### 2 遺構について

遺構は、導水管1条、溝8条、柱穴1列、土坑86基、ピット67基である。以下では溝と土坑を中心にまとめる。

溝は大きく2つの画期に分かれる。Ⅰ期は2号溝と5号溝、Ⅱ期は1、4、6、7、8号溝である。Ⅰ期の溝は下仁田街道の軸線が東西方向に対して、30度傾いた東西方向を軸線としている（第102図）。壬申地籍図等の区割りとも軸線が異なっていることや天明3年の復旧坑、建物の地業坑に切られていること等から、Ⅰ期は福嶋宿成立以前と考えられる。出土遺物は、陶磁器が小破片であるため、遺物からは時期を特定しがたい。福嶋宿の正確な成立時期は定かではないが、根岸家が問屋を創設した1659年には、既に区割りが整備されていたことになる。福嶋町に役所、陣屋が1610年（慶長15年）に井伊家の入封に伴って、設置されている。あくまで推測に過ぎないが、陣屋設置に伴い、宿場として開発を行った可能性も考えられ、Ⅰ期の溝は陣屋が設置された17世紀初頭以前と考えられる。

Ⅱ期の溝は、下仁田街道と並行するように区画されている（第102～104図）。1、6、7、8号溝は東西方向に延び、3、4号溝は南北に延びている。4と6号溝は、北側で連結はしないものの、直角に形成されている。連結しない部分は、攪乱などによる消失ではなく、意図的に4号溝の北端部は丸みを帯び、6号溝は西方向へ延伸している。8号溝は部分的に確認されたのみであるが、直線上には4号溝が位置しており、結ぶと6号溝と同様直角に結ばれ、方形状の区画が形成される。2区で確認した1号溝は、6号溝と8号溝と同一の方向で構築されている。3号溝は遺存状態が悪いが、4号溝と同じく、南北方向に構築されたと考えられる。これらの溝の底面はほぼ平坦であり、水を流す施設ではなく、町屋などの建物を区画するための溝だと考えられる。溝の構築方法は、4号溝は他の区画溝と異なり、東側縁辺に石積みが敷設され、他は素掘りですべて箱状に掘られている。壬申地籍図では、これらの区画溝に沿うように区割りが行われ、宿場町が構成されている。しかし、壬申地籍図と遺構全体図を照合すると、町割りの軸線は合っているものの、

幅や規格などにズレが生じる。出土遺物は4号溝の場合、覆土上層に18世紀後葉から19世紀初頭の遺物(第66図-27)が堆積しており、少なくとも19世紀初頭には埋没していたことになり、区画溝は壬申地籍図が作成された明治6年時点で確認できないのも整合性がある。Ⅱ期の溝は、地籍図上では確認できないものの、区画溝であることは確実である。地籍図の規格とは一致しており、福嶋宿の町割りの区画溝であると考えられる。

土坑はA～Dに分類を行った。A類は円形または不整形円形ないし不整形の土坑、B類は楕円形の土坑、C類は南北軸に長軸を持った長方形の土坑、D類は東西軸に主軸を持った土坑とした。A類は38基確認され、2区北側、3区中央部から南側で集中して確認でき、他の調査区でも散見された。規模は0.40～3.50mがみられ、0.60～0.70mと1.00m前後が主体を占めた。土層中には、単層夾雑物が認められない土坑が多いが、小礫が混入し、締まった土層を持った土坑や、土坑の底面付近に石を敷設した土坑などの建物基礎と考えられるもの、As-Aの純層が堆積した復旧坑が確認できた。建物の基礎または柱穴と判断される土坑は、12、32、41、44、56、66、68、70、71、74、77、90号土坑である。土坑の特徴は、12号土坑のような小礫を含有または粘土質の土層が認められ、締まった土層のもの、32号土坑のような石を底面に敷く土坑が確認できる。56号土坑は、東西方向に延びるピットが位置しており、これらと関連した遺構と考えられる。復旧坑は63号土坑が該当する。

B類の土坑は、14基確認され、規模は長軸が0.63～2.12m、短軸が0.46～1.08mの土坑がみられた。性格は、83号土坑のように陶磁器類が集中して出土する土坑が多く、廃棄土坑としての役割が中心であったと考えられる。分布は2区の北側で集中し、1、4区では確認できない。5区では散逸的に確認できる。また出土遺物から60号土坑の場合、18世紀中葉から後葉の遺物が出土しており、浅間山の噴火による火山灰降下時期とも一致する。形状は、長方形のものが多く、廃棄土坑と考えられる。

C類は、22基確認され、規模は長軸が1.34～3.58m、短軸が0.32～1.80mの土坑がみられ、規模に偏りはみられない。規格は、溝状の物(29号土坑)と長形状の物(61号土坑)が確認でき、前者が多く確認できた。古地状況は2区と3区で主に確認でき、2区では北側と東

側、3区では中央部北側よりで集中して確認した。5区と6区では、少なく疎らな状態である。C類の土坑の性格は、建物基礎と復旧坑、廃棄土坑が挙げられる。建物基礎と考えられる土坑は29、34、53、58号土坑で、A類と同じく、小礫を含有した締まった土が堆積する。同じく建物の基礎ととらえるA類の12号土坑とC類の53、58号土坑とは、主軸の延長線上が、直角に結ばれるため、同一の建物を構成していたと考えられる。復旧坑ととらえた土坑は、61、84、85号土坑である。これらは覆土中にAs-Aを含有している。廃棄土坑は、3、6、7、22～25、31、35、45、47、52号土坑が挙げられる。土層中に性格を示す痕跡が乏しかったことから、廃棄土坑と位置付けた。形状は建物基礎としたものと類似するものと、復旧坑と類似するものがみられる。2区の場合は、7号土坑のような建物基礎と類似する土坑が北西に位置するのに対し、3、31号土坑のような復旧坑と類似する土坑は北東側に位置するなど立地状況が異なる。立地状況や確認状況などから、廃棄土坑としたものの中には建物基礎が存在する可能性がある。

D類は、10、11、13、20、26、27、30、33、36、46、59、72号土坑が挙げられる。規模は長軸が1.40～4.30m、短軸が0.40～2.30mで、性格はC類と同様である。建物基礎とした土坑は11、13、20、26、27、33、36号土坑で、他の土坑と同じく、小礫を含んだ締まった土が堆積する。復旧坑は、72号土坑である。廃棄土坑と捉えた土坑は、10、46、59号土坑で、溝状を呈し、規模はC類と同規模である。土坑の中には、礫を含有する土坑もみられる。これらの廃棄土坑が同一時期に構築されたとすれば、C類の47号土坑に46号土坑が切られており、D類の廃棄土坑→C類廃棄土坑という変遷が捉えられる。

### 3 建物について

区画溝や建物の基礎坑、礎石を伴う土坑などをもとに建物の推定を行い、12棟の建物を想定した(第102～104図)。他にも柱穴などの並びがあり、さらに建物が存在した可能性もある。本稿では、壬申地籍図と群馬県営業便覧(第106図)と併せて解説していく。また第102～104図には建物の推定範囲と店舗及び地名を記載した。左側が壬申地籍図、右側が群馬県営業便覧時点の氏

名である。建物1と建物2は2区に想定した。両建物は2区中央部に位置する。街道は北側に位置し、西側の道路も壬申地籍図で存在を確認しており、近世でも道が存在したと想定される。調査区北側には廃棄土坑と捉えた土坑群が、東側と南側にAs-Aの復旧坑が構築されている。中央部には建物基礎坑や礎石を伴った土坑が集中しており、それらを線で結ぶと方形上の区画が現れ、区画内には土坑が他と比べてまばらな空間が形成されている。空間が出来上がる要因として、攪乱により削平されてしまっている、あるいは建物、広場が存在した可能性が挙げられる。空間部分には、攪乱などが存在するが、顕著ではなく、影響はないと考えられる。広場については、周囲では、廃棄土坑などが構築されており、空間利用の観点から低いと考えられる。基礎坑などの建物関連の土坑の外縁部には廃棄土坑や復旧坑が構築されているのに対して、内縁部には確認できないことから、もともと建物内であったと判断した。建物の規模は、南北で建物1が12m、建物2が11mを想定している。東西軸は西側が調査区外のため不明であるが、壬申地籍図では従来から道路として存在しており、道路際まで建物があったと想定される。南側は基礎坑が確認できないが、隣接して復旧坑の63号土坑が構築されており、63号土坑より北側で建物が完結していると想定される。建物を構成する土坑は、東側は17、53、58号土坑、北側は20、26、27号土坑の列と11、12号土坑の列、南側は56号土坑が当てはまる。北側は2列を確認し、20号土坑の列の場合53号土坑が飛び出ることから、2棟を想定したが、1棟の可能性もあり得る。時期については、北側の東西軸の列は、7号溝と並列しており、19世紀初頭までは存在したと考えられる。復旧坑の61号土坑は、建物の外縁部に存在し、天明3年には建物が既に存在したと考えられる。建物の想定内に構築されている23号ピットからは17世紀中葉から後葉に比定される陶器が出土しており、17世紀後葉には構築されていたと考えられる。これらの様相から建物1と2は17世紀後葉から19世紀初頭段階まで存在したと考えられる。明治期まで存在したかは不明であるが、壬申地籍図によれば「齋田竹十郎」、群馬県営業便覧では、「足袋屋 齋田」とされる区画に一致する。町屋の南限は、基礎坑の53、58号土坑に直交する形で、7号溝が位置しており、7号溝までが齋田家の敷地の南限だったと想定

される。北限と西限は下仁田道が形成されており、道際まで敷地内だったと考えられる。7号溝と同様に区画溝と考えられる1号溝は1区北側に位置し、7号溝、1号溝間と1号溝の南側は空白地帯が形成されている。現況では1区と2区間は道路となっているが、地籍図では確認できない。7号溝の北側には復旧坑の61号土坑が構築されており、両区画間は、町屋の敷地として形成されていたと考えられる。

建物3と4、5は、3区に想定した。3区東側には、上州福島駅に接続する上州福島停車線が位置する。上州福島駅が開設されたのは1897年である。壬申地籍図には現況の道路は存在せず、「山田吾七」と「根岸捨八」間には町屋区画の路地が存在するのみである。上州福島駅開設後に作成された群馬県営業便覧では「太物炭物商 山田屋近太郎」「根岸捨八」間に福島停車線が敷設されており、1897年前後に既存の路地の拡幅が行われたと同時に建物も移築あるいは取り壊されたと考えられる。4号溝は本道跡で確認した区画溝の中では、東側に石積みを持つ特異性が確認できた。群馬県営業便覧では、山田家は屋号を有しており、宿場の中では比較的大きな町屋と考えられることから、4号溝の特徴とも整合性があると考えられる。想定した建物3と4については、近世から継続していれば、山田家の建物と推察される。建物の規格について建物3は、短軸が石積みから52号土坑まで4mをはかる。52号土坑が建物の一部だとすれば、東側に延びる可能性が考えられる。長軸は50号土坑で土坑の底面に礎石を伴っており、建物が50号土坑まで構築されていたのは確実である。50号土坑の南側は、A、C、D類の土坑が密集している。この地点は元々空間が空いていたと考えられ、建物3についての南限は50号土坑にあると想定される。建物4は、北側の45、49号土坑が密集した区域と南側の32～36号土坑の密集した区域の間の空間に位置する。建物1と2を想定した区画同様に、周囲に土坑群が構築されているのに対して、区域内には確認できないことから、建物が構築されたと考えられる。32号土坑では、30cmほどの小礫を密集させ、礎石を形成している。礎石は確認できないが、36号土坑と44号土坑も土層状況などから建物の基礎坑と考えられ、これらを含めて建物4とした。北限は、基礎坑などは確認できないが、廃棄土坑の45や49号土坑が位置する為、廃棄土坑

よりも南に想定される。東側は4号溝が位置するため、44号土坑までと考えられる。構築時期は、判断材料に乏しいが、4号溝に伴った建物と考えられるため、17世紀～19世紀初頭までは存在していたと想定される。廃絶時期については、1897年に上州福島駅が開設されており、それに伴う道路整備が考えられることから、19世紀中葉までの廃絶が想定される。

建物5は、3号溝の西側に想定した。東側は壬申地籍図では、4号溝と3号溝間は「山田吾七」、群馬県営業便覧では「山田松五郎」と記載されている。この区画では、遺構に乏しく、攪乱が顕著であり、想定は困難であった。40、41号土坑がこの区画に伴う遺構と考えられる。3号溝西側は、壬申地籍図と群馬県営業便覧では確認できないが、町屋が存在したと考えられ、40、41号土坑が建物5に帰属する。おそらく、「山田松五郎」の敷地と想定される。他の建物に比べ、基礎坑などの情報が少なく、建物ではない可能性がある。帰属時期については、攪乱が顕著であり、弥生時代の1号竪穴建物の上面であることから、弥生土器が中心であるため、不明である。3号溝と4号溝は、並行するように構築されており、同時性が考えられることから、17世紀から19世紀初頭と考えられる。

建物6から9は5区、建物10から12は6区に想定した。5区と6区の南側は街道沿い面に面しており、南側には建物が及ばないと仮定して想定を行った。建物6は、5-2区の東側に想定した。基礎坑は、66、68、69号土坑とした。土層中には、小礫を含有する。規模は68号土坑から69号土坑までが1m、69号土坑から66号土坑までが5mを測る。68、69号土坑の軸から東側には柱穴などの痕跡は確認できず、空白地帯が広がっている。建物は西側と北側へ伸びていたと想定され、西側に関しては、5-1区東側は攪乱のみであり、おそらく5-1区と5-2区の間で建物が終わっていると考えと、東西方向2間の規模になる。群馬県営業便覧によれば、位置関係から「理髮所 岡田徳太郎」の建物の可能性が考えられ、壬申地籍図でも確認できる。建物6と7の間には、右から「水野徳太郎」、「桶屋幸太郎」と群馬県営業便覧では記載されている。水野家に関する資料は不明だが、桶屋家に位置する箇所には導水管が位置しており、関連性が想定される。

建物7は77、78号土坑、55号ピットで構成される。形状は円形で、78号土坑には、礎石あるいは根固め石が伴い、写真では柱痕が確認できる。77号土坑から78号土坑と78号土坑から55号ピット間はそれぞれ2m間隔の規模を有し、全長で4mの規模である。77号土坑は、復旧坑である72号土坑によって切られており、As-A降下以前の建物だと考えられる。72号土坑の北側に位置する75号土坑も、72号土坑に切られており、同時期と考えられることから、建物との関連性が想定される。

建物8は73、74号土坑、42、47、49～51、53、59号ピットで構成されている。50号ピットから53号ピットまでは12mを測り、柱と柱の間は42号ピットから59号ピットまで5m、その他は2mずつを測る。礎石は73号土坑のみ確認できた。北側の規模は、73と74号土坑が建物8に関連する遺構だと考えられ、建物の南側端部から3mを測る。73号土坑には中央部底面に礎石が伴っている。73、74号土坑、53号ピットにはAs-Aの含有が確認できたが、他にはみられなかった。柱穴が1ヶ所に2～3基構築していることから、最低1回建て替えていることが考えられる。As-Aの含有の有無から考えて、1回目は天明3年以前、2回目は天明3年以後で、建物8の西側に重なるように復旧坑が接することから、天明3年に降に帰属すると考えられる。壬申地籍図では「山田繁松」、群馬県営業便覧では「山田松五郎」に該当する。

建物9は70、71号土坑、43号ピットで構成される。規模は70号土坑から71号土坑まで2m、71号土坑から43号ピットまで4mを測り、規模から考えて、43号ピットから東側に柱穴が存在した可能性がある。確認時には、深さが浅く、堆積物も特異な物は確認できない。掘り込まれた面は、近代に相当すると考えられる。群馬県営業便覧では、山田屋近太郎の敷地と想定される。東側は3号溝によって区画されている。3号溝の西側に構築されている41、42号土坑が構築されており、関連性が想定される。

建物10から12は、第3章で1号柱穴列として解説した地点である。建物10は、1号柱穴列P10とP11によって構成され、2.3mを測る。西側は未確認であるが、もう1間存在した可能性がある。堆積土層中には、礫を含有するが、深さなど判断材料に乏しい。壬申地籍図では「齊田繁松」、群馬県営業便覧では「中野よね」に該当する。

建物10の西側は「根岸捨八」とされるが、遺構は確認できない。

建物11は、柱穴列P1からP5によって構成される。規模はP1からP5まで7 m、各柱穴間は1.2～1.4 mを測る。堆積土層は、建物10と同じく、小礫を含有する。P4は、19世紀初頭に構築された83号土坑によって切られており、19世紀初頭以前に帰属する。さらに建物の北側には、7号溝が位置する。8号溝は、As-Aの灰掻き層が堆積している。本建物の堆積層には、As-A層が堆積していないことから、天明3年以降に構築され、19世紀初頭には既に機能していないと考えられる。建物10と建物12についても東西軸に沿って直線的な構築されており、同時期に散在した可能性を考慮すれば、18世紀後葉に帰属すると想定される。

建物12は、1号柱穴列P6からP9で構成される。堆積土層は、建物10、11と同じく、小礫を含有するが、掘り込みが浅く、判断材料に乏しい。P8からP9まで7.5 mを測り、P6からP9が1.5 m、P7からP8が1.8 mを測る。P6からP7まで3.4 mを測り、間には攪乱があるため、柱穴があったかは不明である。建物10と11の柱穴と同じ軸線上にあるため、同時期に構築されたと考えられる。建物10から12は、18世紀後葉に帰属する建物と考えられ、壬申地籍図とは時間差があるため、照合はできない。壬申地籍図と群馬県営業便覧では建物12のある地点を含めて東側に5棟確認できる。現況では小規模なピットのみで、詳細は不明である。

## 4 まとめ

本節では、近世から近代まで、土坑と溝について検討し、建物の復元を試みた。溝はⅠ期とⅡ期に分けられ、Ⅰ期は福嶋宿成立以前の16世紀、Ⅱ期は福嶋宿成立期から19世紀までで、区画溝として機能していた。土坑・ピットのほとんどはⅡ期に帰属すると考えられ、いくつかは建物を構成し、建物のない箇所には廃棄土坑や復旧坑が構築されていた。建物の帰属時期については、大きくは4期に分かれる。これらは断片的な情報から推測した物であり、画期が並行する場合もある。

1期：17世紀後葉から18世紀後葉（6、7号建物）

2期：17世紀後葉から19世紀初頭（1～5号建物）

3期：18世紀後葉から19世紀初頭（10～12号建物）

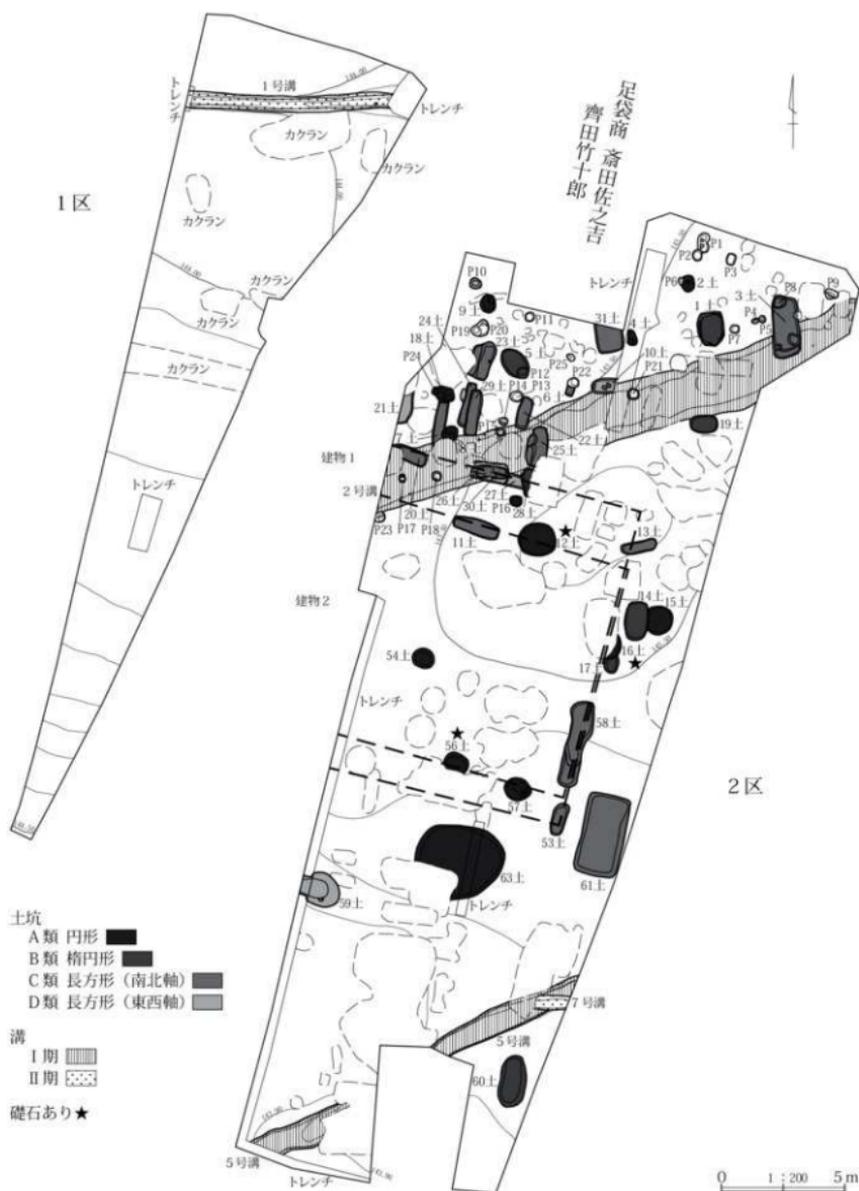
4期：18世紀後葉以降（8、9号建物）

画期の要因として、火災による焼失が考えられるが、焼土などの含有などはみられないため、可能性は低い。福嶋宿では、引越しなどの世帯の入れ替わりがみられたと考えられ、1860年には間屋が根岸家から上原家へ引き継がれ、群馬県営業便覧では山田家へ引き継がれている。壬申地籍図と群馬県営業便覧を照らし合わせても、25年間で数棟が入れ替わっている。このことから建て替えの画期として、世帯の入れ替わりや上州福島駅建設に伴った道路拡幅、または新設が考えられる。本遺跡は、道路の拡幅による調査であり、また宿場を想定して試掘や工程が組まれていないため、近代の営業便覧に関連する資料のほとんどが失われてしまっており、福嶋宿の全体像が明らかになったとは言えず、今後調査が行われることになれば、より詳細な様相が明らかになるだろう。また群馬県周辺の宿場町調査例とも比較の上、さらなる検討が必要である。

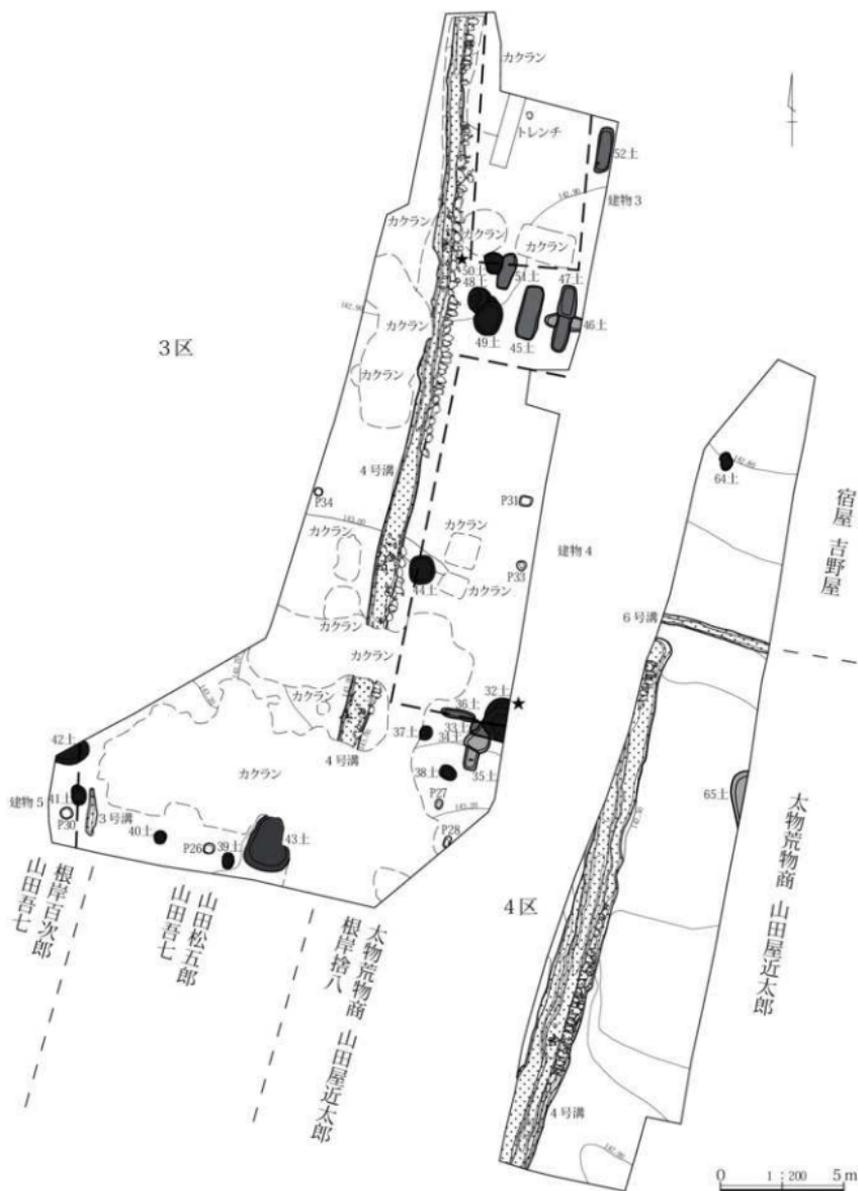
### 引用・参考文献

- 飯島克巳・若狭徹1988「樽式編年の再構成」『信濃』40巻9号 信濃史学会
- 井上昌美1998「白井遺跡群—中世・近世編—」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 大木伸一郎1997「第5章第2節 弥生時代の遺構と遺物」『南蛇井増光寺遺跡Ⅴ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 大木伸一郎2019「群馬県西部澗川下流域の後弥生遺跡について」『研究紀要』37号 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 大木伸一郎2020「群馬県における弥生時代後期の土器について」『研究紀要』38号 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 岡田昭二1991「第5章陸上交通の発達と問所」『群馬県史通史編5 近世2』群馬県
- 甘楽町史編纂委員会1979「甘楽町史」甘楽町役場
- 群馬県教育委員会文化財保護課1994「下仁田道」群馬県教育委員会
- 関口進2001「甘楽町地名考」関口宮子
- 前川要1991「都市考古学の研究—中世から近世への展開—」柏書房株式会社
- 中沢悟・関口正史2021「石川原遺跡(4)・前原遺跡」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 村山卓2019「梁橋宿本陣跡Ⅰ」(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 本多竜三1971「群馬県北甘楽郡史」仲善会
- 矢部暲2018「梁橋宿跡Ⅰ」(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 明治6年「壬申地籍図」

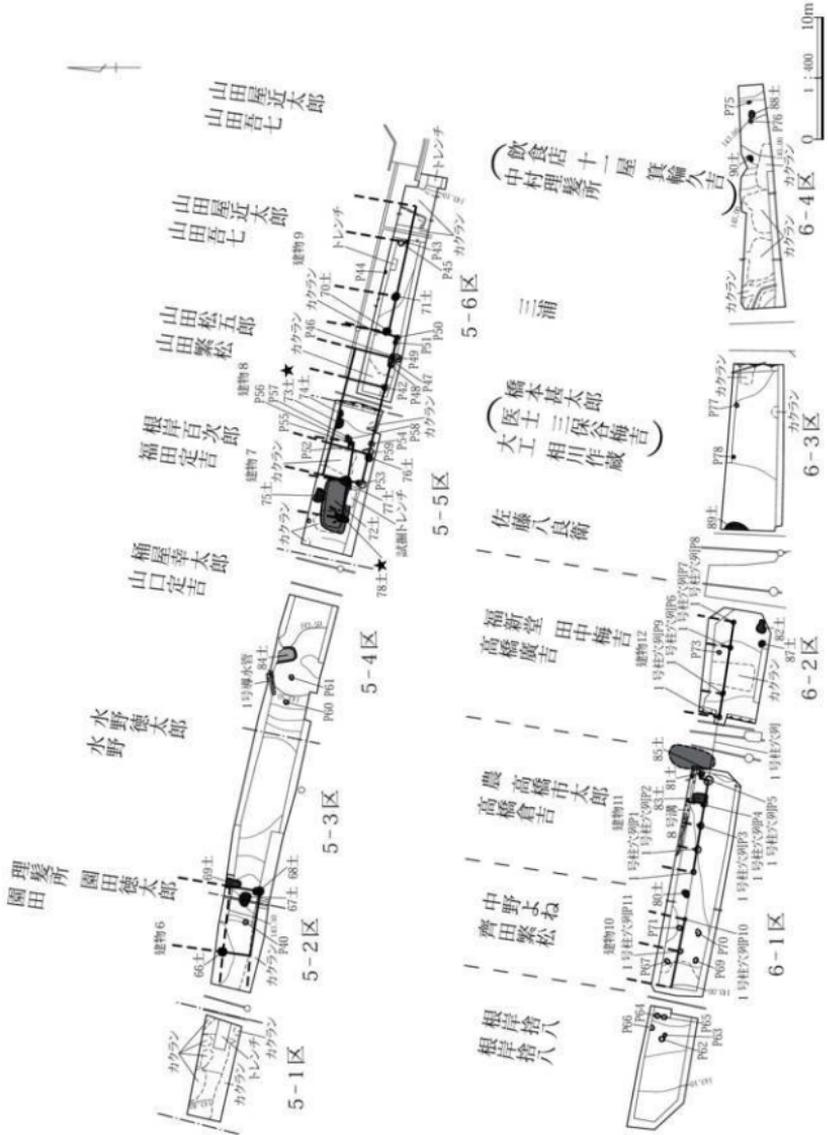
注1) ここで示す復旧坑はAs-Aの純層をかき集めた灰掻き坑を示す



第102図 1・2区 近世～近代 遺構分布図



第103図 3・4区 近世~近代 遺構分布図



第104図 5・6区 近世～近代 遺構分布図





遺構一覧表

第6表 遺構一覧表

弥生時代

竪穴建物

No.	区	位置X	位置Y	平面形状	主軸方向	長軸m	短軸m	最大壁高m	重複関係
1 a	3	28595 ~ 28600	-81249 ~ -81255	隅丸方形	N-76° -W	(5.05)	(3.20)	0.40	1 b号竪穴建物
1 b	3	28596 ~ 28603	-81250 ~ -81255	隅丸方形	N-4° -W	(5.40)	(4.50)	0.40	1 a号竪穴建物
2	3	28606 ~ 28614	-81239 ~ -81246	隅丸方形	N-15° -E	6.54	(5.18)	0.35	4号溝、44号土坑に切られる
3	4	28656 ~ 28663	-81227 ~ -81231	隅丸長方形	N-21° -W	(5.64)	(4.10)	0.15	4、6号溝に切られる
4	4	28649 ~ 28655	-81230 ~ -81234	隅丸方形	N-18° -W	(4.22)	(3.40)	0.12	4号溝に切られる
5	4	28641 ~ 28647	-81229 ~ -81234	隅丸長方形	N-0°	4.86	3.63	0.23	
6	5-5	28605 ~ 28608	-81282 ~ -81289	隅丸長方形か	N-5° -E	-	5.91	0.15	72、75号土坑に切られる
7	6-5	28585 ~ 28587	-81097 ~ -81103	隅丸長方形か	-	-	-	0.20	
8	6-1	28589 ~ 28592	-81216 ~ -81221	隅丸長方形か	-	(2.80)	4.00	0.40	62、74号ビットに切られる

竪穴状遺構

No.	区	位置X	位置Y	平面形状	主軸方向	長軸m	短軸m	最大壁高m	重複関係
1	1	28522 ~ 28526	-81265 ~ -81267	-	N-10° -E	(3.02)	(0.84)	0.17	
3	6-4	28582 ~ 28585	-81126 ~ -81134	-	-	-	(7.50)	0.30	

土坑

No.	区	位置X	位置Y	平面形状	主軸方向	長軸m	短軸m	深さm	重複関係
86	6-4	28582 ~ 28583	-81139 ~ -81140	円形	N-18° -E	0.75	0.68	0.30	

樹木

No.	区	位置X	位置Y	平面形状	主軸方向	長軸m	短軸m	深さm	重複関係
1	6-2	28582 ~ 28585	-81183 ~ -81191	三日月状	-	(1.50)	1.20	0.40	
2	6-3	28580 ~ 28585	-81165 ~ -81170	三日月状	N-0°	(3.80)	3.15	0.80	

古墳時代～平安時代

竪穴建物

No.	区	位置X	位置Y	平面形状	主軸方向	長軸m	短軸m	最大壁高m	重複関係
9	6-3	28582 ~ 28585	-81170 ~ -81176	隅丸長方形か	-	-	-	0.25	89号土坑に切られる
10	3	28604 ~ 28612	-81234 ~ -81239	隅丸方形か	-	6.10	(2.70)	0.20	

土坑

No.	区	位置X	位置Y	平面形状	主軸方向	長軸m	短軸m	深さm	重複関係
79	5-3	28610 ~ 28612	-81305 ~ -81306	-	-	-	-	0.15	

ビット

No.	区	位置X	位置Y	平面形状	主軸方向	長軸m	短軸m	深さm	重複関係
35	5-2	28612 ~ 28614	-81321 ~ -81322	円形	N-0°	0.46	0.45	0.30	
36	5-2	28614 ~ 28615	-81321 ~ -81322	不整形	N-82° -E	0.50	0.32	0.25	41号ビットを切る
37	5-2	28614 ~ 28615	-81323 ~ -81324	円形	-	0.48	(0.34)	0.56	
38	5-2	28613 ~ 28615	-81323 ~ -81325	長円形	N-31° -W	0.54	0.45	0.35	
39	5-2	28613 ~ 28614	-81323 ~ -81324	長円形	N-76° -E	0.58	0.42	0.34	
41	5-2	28614 ~ 28615	-83201 ~ -81322	円形か	-	0.58	(0.46)	0.30	36号ビットに切られる
74	6-1	28589 ~ 28590	-81220 ~ -81221	長円形	-	(0.36)	0.36	0.16	8号竪穴建物を切る

## 中世以降

## 導水管

No	区	位置X	位置Y	主軸方向	長さm	幅m	深さm	重複関係
1	5-4	28609 ~ 28611	-81299 ~ -81302	N-83°-E	1.83	0.30	0.20	

## 溝

No	区	位置X	位置Y	主軸方向	長さm	幅m	深さm	高 → 低 m
1	1	28532 ~ 28533	-81256 ~ -81265	N-90°	(8.00)	0.68	0.50	143.78 → 143.69
2	2	28567 ~ 28577	-81236 ~ -81257	N-72°-E	(19.98)	2.20	0.44	143.25 → 143.09
3	3	28596 ~ 28599	-81252 ~ -81254	N-2°-E	1.92	0.40	0.09	143.15 → 143.15
4	3-4	28600 ~ 28608	-81230 ~ -81244	N-12°-E	(58.50)	1.60	0.48	142.90 → 142.20
5	2	28541 ~ 28550	-81248 ~ -81262	N-62°-E	(14.96)	1.24	0.25	143.87 → 143.54
6	4	28657 ~ 28659	-81226 ~ -81231	N-73°-W	(4.50)	0.44	0.11	142.57 → 142.51
7	2	28547 ~ 28549	-81248 ~ -81250	N-90°	(1.38)	0.60	0.54	-
8	6-1	28586 ~ 28589	-81194 ~ -81220	-	(7.46)	(0.42)	0.25	143.55 → 143.33

## 柱穴列

No	区	位置X	位置Y	主軸方向	長さm	重複関係
1	6-1・2	28583 ~ 28589	-81182 ~ -81210	N-80°-W	(27.60)	P4が83号土坑に切られる

柱穴No	区	位置X	位置Y	平面形状	主軸方向	長軸m	短軸m	深さm	重複関係
1	6-1	28586 ~ 28588	-81202 ~ -81204	円形	N-77°-W	0.40	0.38	0.24	
2	6-1	28586 ~ 28588	-81200 ~ -81202	円形	N-78°-W	0.54	0.48	0.24	
3	6-1	28586 ~ 28587	-81198 ~ -81200	円形	N-73°-W	0.54	0.46	0.24	
4	6-1	28586 ~ 28587	-81197 ~ -81198	楕円形	N-73°-W	0.62	0.48	0.14	83号土坑に切られる
5	6-1	28585 ~ 28587	-81195 ~ -81196	不整形円形	N-60°-W	0.76	0.66	0.52	
6	6-2	28584 ~ 28585	-81188 ~ -81189	不整形円形	N-38°-W	0.42	0.32	0.18	
7	6-2	28583 ~ 28585	-81184 ~ -81185	不整形円形	N-6°-W	0.36	0.36	0.36	
8	6-2	28583 ~ 28585	-81182 ~ -81183	不整形円形	N-10°-W	0.36	0.32	0.30	
9	6-2	28584 ~ 28586	-81190 ~ -81191	不整形円形	N-17°-E	0.40	0.38	0.16	
10	6-1	28587 ~ 28588	-81206 ~ -81208	円形	N-37°-W	0.30	0.26	0.18	
11	6-1	28587 ~ 28589	-81209 ~ -81210	円形	N-24°-W	0.42	0.40	0.24	

## 土坑

No	区	位置X	位置Y	平面形状	類型	主軸方向	長軸m	短軸m	深さm	重複関係
1	2	28574 ~ 28577	-81242 ~ -81244	不整形円形	B	N-4°-W	1.40	1.08	0.54	
2	2	28577 ~ 28578	-81243 ~ -81244	不整形円形	A	N-11°-W	0.64	0.54	0.14	6号ビットに切られる
3	2	28574 ~ 28577	-81239 ~ -81241	隅丸長方形	C	N-2°-W	2.56	1.10	0.26	
4	2	28574 ~ 28576	-81245 ~ -81247	不整形円形	A	N-15°-W	0.64	0.40	0.12	
5	2	28573 ~ 28575	-81250 ~ -81252	長円形	B	N-38°-W	1.44	0.94	0.19	12号ビットに切られる
6	2	28572 ~ 28574	-81248 ~ -81249	隅丸長方形	C	N-15°-E	(0.40)	0.32	0.28	22号ビットに切られる
7	2	28570 ~ 28573	-81253 ~ -81254	溝状	C	N-8°-E	(2.00)	(0.48)	0.12	8、18号土坑に切られる、2号溝を切る
8	2	28570 ~ 28572	-81252 ~ -81254	不整形円形	A	N-85°-W	0.60	(0.52)	0.23	7号土坑、2号溝を切る
9	2	28576 ~ 28577	-81251 ~ -81253	不整形円形	A	N-7°-E	0.74	0.62	0.40	
10	2	28572 ~ 28574	-81246 ~ -81248	隅丸長方形か	D	N-90°	(1.00)	0.62	0.11	
11	2	28566 ~ 28568	-81251 ~ -81254	隅丸長方形	D	N-73°-W	1.92	0.68	0.16	
12	2	28566 ~ 28568	-81249 ~ -81251	円形	A	N-79°-W	1.54	1.36	0.28	
13	2	28566 ~ 28567	-81244 ~ -81247	隅丸長方形	D	N-78°-E	1.46	0.48	0.29	
14	2	28562 ~ 28565	-81245 ~ -81247	隅丸長方形	B	N-5°-E	1.58	0.96	0.20	15号土坑を切る
15	2	28563 ~ 28565	-81244 ~ -81246	不整形円形	A	N-15°-E	1.20	(1.04)	0.42	14号土坑に切られる
16	2	28562 ~ 28564	-81246 ~ -81248	長円形か	A	-	-	-	(0.26)	17号土坑を切る
17	2	28561 ~ 28563	-81246 ~ -81248	長円形か	B	N-10°-E	(0.70)	0.58	0.26	16号土坑に切られる
18	2	28572 ~ 28574	-81253 ~ -81254	不整形円形	A	N-65°-W	(0.84)	(0.72)	0.19	7号土坑を切る 24号ビットに切られる
19	2	28571 ~ 28573	-81242 ~ -81244	長円形	B	N-89°-E	1.12	0.72	0.57	2号溝を切る
20	2	28569 ~ 28571	-81254 ~ -81256	隅丸長方形	D	N-65°-W	(1.28)	0.60	0.22	
21	2	28571 ~ 28573	-81254 ~ -81256	不整形円形	C	N-11°-E	(1.36)	(0.48)	0.28	
22	2	28571 ~ 28573	-81249 ~ -81251	隅丸長方形	C	N-14°-E	1.34	0.54	0.10	
23	2	28573 ~ 28576	-81251 ~ -81253	隅丸長方形	C	N-14°-E	1.60	(0.92)	0.32	
24	2	28571 ~ 28574	-81252 ~ -81253	隅丸長方形	C	N-12°-E	1.84	(0.40)	0.27	29号土坑に切られる
25	2	28569 ~ 28572	-81249 ~ -81251	隅丸長方形	C	N-5°-E	1.64	0.86	0.34	2号溝を切る
26	2	28569 ~ 28571	-81250 ~ -81251	隅丸長方形	D	N-80°-W	1.50	0.84	0.30	27号土坑、2号溝を切る
27	2	28568 ~ 28570	-81250 ~ -81252	隅丸長方形か	D	N-77°-W	(0.80)	0.52	0.16	26、28号土坑に切られる
28	2	28568 ~ 28570	-81249 ~ -81251	長円形	B	N-8°-W	(1.12)	(0.52)	0.27	27号土坑を切る
29	2	28571 ~ 28574	-81251 ~ -81253	隅丸長方形	C	N-10°-E	1.88	0.52	0.37	24号土坑、2号溝を切る
30	2	28569 ~ 28570	-81250 ~ -81253	隅丸長方形	D	N-89°-W	(1.26)	(0.48)	0.13	2号溝を切る
31	2	28574 ~ 28576	-81246 ~ -81248	隅丸長方形	C	N-8°-W	(1.28)	(1.12)	0.28	
32	3	28600 ~ 28603	-81236 ~ -81238	不整形円形か	A	N-9°-E	(1.70)	(1.00)	0.50	33号土坑に切られる
33	3	28600 ~ 28602	-81236 ~ -81238	隅丸長方形か	C	N-79°-W	(1.42)	(0.60)	0.22	32、34号土坑を切る
34	3	28600 ~ 28602	-81236 ~ -81239	不整形円形	C	N-36°-E	(1.16)	0.98	0.17	33号土坑に切られる 35号土坑を切る
35	3	28599 ~ 28601	-81237 ~ -81239	隅丸長方形か	C	N-10°-E	(0.92)	0.56	0.20	34号土坑に切られる
36	3	28601 ~ 28603	-81237 ~ -81239	長円形	D	N-77°-W	1.40	0.40	0.19	

遺構一覧表

No	区	位置X	位置Y	平面形状	類型	主軸方向	長軸m	短軸m	深さm	重複関係
37	3	28600 ~ 28602	-81239 ~ -81240	円形か	A	N-18°-E	0.58	(0.52)	0.11	
38	3	28599 ~ 28600	-81238 ~ -81240	長円形	A	N-54°-W	0.70	0.56	0.11	
39	3	28595 ~ 28597	-81247 ~ -81248	長円形	A	N-6°-E	0.64	0.46	0.09	
40	3	28596 ~ 28598	-81250 ~ -81251	不整形円形	A	N-6°-E	0.52	0.50	0.39	
41	3	28598 ~ 28599	-81253 ~ -81254	長円形	A	N-3°-W	0.84	0.58	0.22	
42	3	28599 ~ 28601	-81253 ~ -81255	不整形円形	A	N-17°-W	(0.98)	(0.98)	0.36	
43	3	28595 ~ 28598	-81245 ~ -81247	不整形円形	B	N-14°-E	(2.26)	(1.84)	0.15	
44	3	28606 ~ 28609	-81239 ~ -81241	長円形	A	N-4°-E	1.16	1.02	0.20	2号壁穴建築物を切る
45	3	28616 ~ 28620	-81234 ~ -81236	隅丸長方形	C	N-14°-E	2.22	0.88	0.16	
46	3	28617 ~ 28619	-81233 ~ -81235	隅丸長方形	D	N-82°-W	(1.48)	(0.60)	0.12	47号土坑に切られる
47	3	28616 ~ 28620	-81233 ~ -81235	隅丸長方形	C	N-12°-E	2.76	0.76	0.18	46号土坑を切る
48	3	28618 ~ 28620	-81236 ~ -81238	不整形円形	A	N-21°-E	1.06	(0.84)	0.20	49号土坑に切られる
49	3	28617 ~ 28619	-81236 ~ -81238	不整形円形	A	N-26°-E	1.44	1.08	0.17	48号土坑を切る
50	3	28619 ~ 28621	-81236 ~ -81238	不整形円形	A	N-6°-W	0.88	(0.76)	0.10	51号土坑に切られる
51	3	28619 ~ 28621	-81235 ~ -81237	長円形	C	N-17°-E	1.52	0.60	0.12	50号土坑を切る
52	3	28623 ~ 28626	-81232 ~ -81233	隅丸長方形	C	N-10°-E	1.88	0.58	0.27	
53	2	28554 ~ 28557	-81248 ~ -81250	隅丸長方形	C	N-18°-E	1.34	0.60	0.06	
54	2	28561 ~ 28563	-81253 ~ -81255	円形	A	N-71°-W	0.90	0.80	0.12	
56	2	28557 ~ 28559	-81252 ~ -81254	円形か	A	N-75°-W	1.00	(0.72)	0.19	
57	2	28556 ~ 28558	-81250 ~ -81252	円形	A	N-73°-W	1.10	0.92	0.19	
58	2	28556 ~ 28561	-81247 ~ -81249	溝状	C	N-13°-E	3.58	0.90	0.31	
59	2	28551 ~ 28554	-81257 ~ -81260	不整形円形	D	N-76°-W	(1.62)	1.36	0.55	
60	2	28543 ~ 28546	-81250 ~ -81252	長円形	B	N-8°-E	2.12	1.08	0.74	
61	2	28553 ~ 28557	-81245 ~ -81249	隅丸長方形	C	N-12°-E	3.38	1.80	0.80	
63	2	28552 ~ 28556	-81251 ~ -81255	不整形円形	A	N-77°-W	3.50	(3.08)	0.36	
64	4	28664 ~ 28666	-81228 ~ -81229	不整形円形	A	N-13°-W	0.70	0.52	0.16	
65	4	28650 ~ 28653	-81227 ~ -81229	隅丸長方形か	C	N-12°-W	(2.26)	(0.92)	0.20	
66	5-2	28613 ~ 28615	-81321 ~ -81323	円形	A	-	0.70	0.70	0.20	
67	5-2・3	28611 ~ 28613	-81317 ~ -81319	長楕円形	A	N-20°-W	1.14	0.86	0.50	
68	5-3	28610 ~ 28612	-81316 ~ -81318	不整形円形	A	N-20°-W	0.90	0.72	0.60	
69	5-3	28612 ~ 28614	-81316 ~ -81317	長楕円形	B	N-10°-E	(1.20)	0.82	0.80	
70	5-6	28600 ~ 28602	-81271 ~ -81272	長円形	A	N-16°-W	0.66	0.56	0.16	
71	5-6	28599 ~ 28601	-81268 ~ -81270	長円形	A	N-34°-W	0.70	0.58	0.13	
72	5-5	28603 ~ 28606	-81283 ~ -81288	隅丸長方形	D	N-82°-W	4.30	2.30	0.80	75、77、78号土坑を切る
73	5-5	28604 ~ 28605	-81277 ~ -81279	円形か	A	-	0.95	(0.56)	0.65	
74	5-5	28604 ~ 28605	-81278 ~ -81280	円形か	A	-	0.60	(0.38)	0.48	
75	5-5	28605 ~ 28607	-81284 ~ -81286	円形か	A	-	1.15	(0.85)	0.25	6号壁穴建築物を切る 72号土坑に切られる
76	5-5	28601 ~ 28603	-81281 ~ -81283	長円形か	B	N-90°	(0.60)	0.56	0.32	59号ビットに切られる
77	5-5	28603 ~ 28605	-81283 ~ -81285	円形か	A	-	1.00	(0.70)	0.28	72号土坑に切られる
78	5-5	28603 ~ 28605	-81286 ~ -81288	不整形円形	B	N-12°-E	1.00	0.67	0.65	72号土坑に切られる
80	6-1	28587 ~ 28589	-81204 ~ -81206	不整形円形	A	N-50°-E	0.68	0.50	0.22	
81	6-1	28586 ~ 28587	-81194 ~ -81196	-	A	-	(0.56)	0.52	0.14	
82	6-2	28581 ~ 28582	-81182 ~ -81184	不整形円形	B	N-80°-W	1.06	0.78	0.15	
83	6-1	28585 ~ 28588	-81196 ~ -81198	隅丸長方形	B	N-9°-E	1.22	0.80	0.05	1号柱穴内4を切る
84	5-4	28608 ~ 28610	-81297 ~ -81299	長円形	C	N-9°-W	(1.40)	1.20	0.50	
85	6-1	28584 ~ 28587	-81194 ~ -81195	-	C	-	-	-	-	8号溝を切る
87	6-2	28581 ~ 28582	-81184 ~ -81185	円形	A	N-45°-W	0.58	0.50	0.24	
88	6-4	28582 ~ 28583	-81140 ~ -81142	長円形	B	N-90°	0.63	0.46	0.48	
89	6-3	28582 ~ 28585	-81174 ~ -81176	-	A	-	1.94	(0.60)	0.52	9号壁穴建築物を切る
90	6-4	28582 ~ 28583	-81144 ~ -81146	-	A	-	(0.38)	0.56	0.53	

ビット

No	区	位置X	位置Y	平面形状	主軸方向	長軸m	短軸m	深さm	重複関係
1	2	28578 ~ 28580	-81242 ~ -81244	不整形円形	N-3°-E	0.80	0.46	0.30	2号ビットに切られる
2	2	28578 ~ 28580	-81242 ~ -81244	長円形	N-7°-E	0.46	0.38	0.17	1号ビットを切る
3	2	28578 ~ 28579	-81241 ~ -81243	隅丸長方形	N-14°-E	0.46	0.36	0.10	
4	2	28575 ~ 28576	-81240 ~ -81242	不整形円形	N-57°-E	0.28	0.20	0.34	
5	2	28575 ~ 28577	-81240 ~ -81241	不整形円形	N-10°-W	0.30	0.26	0.10	
6	2	28577 ~ 28578	-81243 ~ -81245	不整形円形	N-8°-E	0.30	0.22	0.33	2号土坑を切る
7	2	28575 ~ 28576	-81241 ~ -81242	不整形円形	N-87°-E	0.36	0.28	0.22	
8	2	28576 ~ 28577	-81239 ~ -81241	不整形円形	N-45°-E	0.54	0.52	0.22	
9	2	28576 ~ 28578	-81237 ~ -81239	不整形円形	N-67°-W	0.52	0.40	0.38	
10	2	28577 ~ 28578	-81252 ~ -81253	不整形円形	N-69°-W	0.48	0.44	0.44	
11	2	28575 ~ 28577	-81249 ~ -81251	円形	N-0°	0.38	0.38	0.42	
12	2	28573 ~ 28574	-81250 ~ -81251	不整形円形	N-90°	0.48	0.44	0.44	5号土坑を切る
13	2	28572 ~ 28573	-81250 ~ -81251	円形	N-75°-W	0.50	0.44	0.16	
14	2	28571 ~ 28572	-81250 ~ -81252	不整形円形	N-0°	0.36	0.32	0.38	
15	2	28571 ~ 28572	-81251 ~ -81252	円形	N-0°	0.36	0.32	0.37	2号溝を切る
16	2	28568 ~ 28569	-81250 ~ -81251	不整形円形	N-80°-W	0.48	0.44	0.39	

No	区	位置X	位置Y	平面形状	主軸方向	長軸m	短軸m	深さm	重複関係
17	2	28569 ~ 28570	-81255 ~ -81256	不整形	N-3°	0.32	0.26	0.40	
18	2	28569 ~ 28570	-81253 ~ -81255	円形	N-0°	0.38	0.38	0.46	
19	2	28575 ~ 28576	-81252 ~ -81253	円形	N-32°	0.44	0.36	0.34	20号ビットを切る
20	2	28575 ~ 28576	-81251 ~ -81253	不整形	-	-	0.56	0.22	19号ビットに切られる
21	2	28572 ~ 28574	-81245 ~ -81247	不整形	N-76°	0.48	0.44	0.64	2号溝を切る
22	2	28573 ~ 28574	-81248 ~ -81249	不整形	N-81°	0.46	0.40	0.49	6号上坑を切る
23	2	28567 ~ 28569	-81255 ~ -81257	不整形	N-5°	0.44	(0.40)	0.24	
24	2	28572 ~ 28574	-81253 ~ -81255	不整形	N-11°	0.32	0.28	0.40	18号上坑を切る
25	2	28574 ~ 28575	-81248 ~ -81249	不整形	N-42°	0.32	0.26	0.14	
26	3	28596 ~ 28597	-81248 ~ -81249	長円形	N-83°	0.44	0.40	0.40	
27	3	28597 ~ 28599	-81238 ~ -81240	長円形	N-10°	0.40	0.28	0.06	
28	3	28596 ~ 28597	-81238 ~ -81239	不整形	N-20°	0.48	0.26	0.16	
30	3	28597 ~ 28599	-81253 ~ -81255	円形	N-0°	0.48	0.46	0.32	
31	3	28610 ~ 28611	-81235 ~ -81236	隅丸方形	N-80°	0.50	0.40	0.12	
33	3	28607 ~ 28609	-81235 ~ -81236	不整形	N-0°	0.38	0.38	0.18	
34	3	28610 ~ 28612	-81243 ~ -81245	円形	N-0°	0.32	0.32	0.16	
40	5-2	28612 ~ 28613	-81319 ~ -81320	円形	N-62°	0.45	0.40	0.10	
42	5-6	28600 ~ 28602	-81275 ~ -81277	円形	N-38°	0.45	0.40	0.28	
43	5-6	28599 ~ 28600	-81264 ~ -81265	円形	N-76°	0.26	0.23	0.07	
44	5-6	28600 ~ 28602	-81266 ~ -81267	-	-	0.30	(0.17)	0.24	
45	5-6	28599 ~ 28600	-81264 ~ -81265	円形	N-42°	0.46	0.43	0.05	
46	5-6	28600 ~ 28601	-81273 ~ -81274	円形か	-	(0.30)	0.30	0.22	49号ビットに切られる
47	5-6	28600 ~ 28601	-81273 ~ -81274	長円形	N-12°	0.46	0.34	0.12	48号ビットに切られる
48	5-6	28600 ~ 28601	-81274 ~ -81275	円形	N-0°	0.46	0.46	0.30	47号ビットを切る
49	5-6	28599 ~ 28601	-81273 ~ -81274	不整形	N-41°	0.66	0.50	0.80	46号ビットを切る
50	5-6	28599 ~ 28601	-81271 ~ -81273	円形	N-5°	0.40	0.37	0.12	51号ビットに切られる
51	5-6	28599 ~ 28601	-81272 ~ -81273	長円形	N-71°	0.44	0.32	0.22	50号ビットを切る
52	5-5	28603 ~ 28604	-81280 ~ -81282	円形	N-0°	0.40	0.38	0.32	
53	5-5	28602 ~ 28604	-81283 ~ -81285	長円形	N-15°	0.80	0.66	0.71	
54	5-5	28601 ~ 28603	-81280 ~ -81281	不整形	N-35°	0.48	0.36	0.38	
55	5-5	28603 ~ 28604	-81280 ~ -81281	円形か	-	0.36	(0.25)	0.23	56号ビットに切られる
56	5-5	28603 ~ 28605	-81280 ~ -81281	円形か	-	0.40	(0.36)	0.50	55、57号ビットを切る 58号ビットに切られる
57	5-5	28603 ~ 28605	-81280 ~ -81281	円形か	-	0.30	(0.25)	0.22	56、58号ビットに切られる
58	5-5	28603 ~ 28604	-81280 ~ -81281	円形	N-15°	0.28	0.24	0.20	56、57号ビットを切る
59	5-5	28601 ~ 28603	-81281 ~ -81282	長円形	N-2°	0.90	0.46	0.72	76号上坑を切る
60	5-4	28608 ~ 28610	-81301 ~ -81302	円形	N-17°	0.40	0.35	0.22	
61	5-4	28608 ~ 28609	-81298 ~ -81300	不整形	N-46°	0.42	0.40	0.21	
62	6-1	28589 ~ 28590	-81216 ~ -81217	円形	N-12°	0.47	0.43	0.24	
63	6-1	28589 ~ 28590	-81216 ~ -81217	円形	N-52°	0.32	0.30	0.22	
64	6-1	28589 ~ 28591	-81214 ~ -81215	円形	N-17°	0.45	0.42	0.40	
65	6-1	28589 ~ 28590	-81214 ~ -81216	円形	N-0°	0.42	0.40	0.66	
66	6-1	28590 ~ 28591	-81215 ~ -81216	円形か	-	0.40	(0.32)	0.18	
67	6-1	28589 ~ 28590	-81210 ~ -81211	長円形	N-42°	0.52	0.34	0.22	
69	6-1	28586 ~ 28588	-81210 ~ -81211	長円形	N-61°	0.46	0.36	0.18	
70	6-1	28586 ~ 28587	-81207 ~ -81209	不整形	N-71°	0.56	0.40	0.17	
71	6-1	28588 ~ 28589	-81207 ~ -81208	円形	N-19°	0.42	0.39	0.28	
73	6-2	28584 ~ 28586	-81185 ~ -81186	不整形	N-20°	0.32	0.30	0.10	
75	6-4	28582 ~ 28583	-81140 ~ -81141	円形	N-0°	0.22	0.20	0.04	
76	6-4	28582 ~ 28583	-81141 ~ -81142	不整形	N-43°	0.34	0.26	0.14	
77	6-3	28583 ~ 28584	-81164 ~ -81166	長円形	N-55°	0.45	0.35	0.28	0.32
78	6-3	28583 ~ 28584	-81169 ~ -81170	円形	N-0°	0.26	0.26	0.20	

## 非掲載遺物一覧表

第7表 非掲載遺物一覧表

区	遺構	点数	重量 (g)
1	1号竪穴遺構	1	18.0
1	表上	60	1583.0
2	2号溝	910	10210.0
2	5号溝	26	398.0
2	3号土坑	6	62.0
2	5号土坑	4	29.0
2	9号土坑	3	14.0
2	10号土坑	1	14.0
2	11号土坑	3	16.0
2	19号土坑	5	46.0
2	20号土坑	5	95.0
2	21号土坑	2	10.0
2	22号土坑	1	12.0
2	25号土坑	25	341.0
2	28号土坑	9	96.0
2	31号土坑	1	7.0
2	54号土坑	2	29.0
2	56号土坑	2	16.0
2	57号土坑	3	55.0
2	58号土坑	4	30.0
2	63号土坑	3	24.0
2	17号ビット	3	33.0
2	18号ビット	4	38.0
2	20号ビット	2	5.0
2	21号ビット	2	6.0
2	25号ビット	1	16.0
2	試掘トレンチ	32	1138.0
2	トレンチ	14	376.0
2	カクラン	11	687.0
2	表上	486	6037.0
3	1号竪穴建物	1631	21985.0
3	2号竪穴建物P5	28	112.0
3	2号竪穴建物	749	13025.0
3	10号竪穴建物	77	2016.0
3・4	4号溝	267	3602.0
3	32号土坑	13	92.0
3	35号土坑	1	21.0
3	40号土坑	5	17.0
3	41号土坑	10	106.0
3	42号土坑	19	188.0
3	45号土坑	9	71.0
3	46号土坑	1	6.0
3	47号土坑	3	21.0
3	48号土坑	1	36.0
3	49号土坑	5	28.0
3	50号土坑	1	7.0
3	51号土坑	2	10.0
3	52号土坑	10	96.0
3	26号ビット	1	6.0
3	30号ビット	4	26.0
3	31号ビット	2	25.0
3	弥生包舎層	668	4863.0
3	カクラン	250	2865.0
3	表上	214	2063.0
4	3号竪穴建物	276	3040.0
4	4号竪穴建物	54	890.0
4	5号竪穴建物	164	2712.0
4	6号溝	11	207.0
4	1号トレンチ	11	176.0
4	2号トレンチ (粘土中)	6	225.0
4	トレンチ	8	145.0
4	表上	71	1196.0
5-2	表上	5	176.0
5-3	表上	3	25.0
5-4	84号土坑	2	25.0
5-4	表上	3	12.8

区	遺構	点数	重量 (g)
5-5	6号竪穴建物1号貯蔵穴	34	116.0
5-5	6号竪穴建物P1	2	10.2
5-5	6号竪穴建物P2	1	4.7
5-5	6号竪穴建物	277	2075.0
5-5	72号土坑	6	34.0
5-5	53号ビット	1	46.0
5-5	表上	8	73.1
5-6	71号土坑	2	9.6
5-6	50号ビット	2	11.2
5-6	51号ビット	2	4.3
5-6	II層	3	92.0
5-6	基本土層	1	3.0
5-6	表上	2	11.0
6-1	8号竪穴建物P2	2	54.5
6-1	8号竪穴建物	30	293.0
6-1	83号土坑	3	9.0
6-1	69号ビット	1	6.9
6-1	X-28585 Y-81200	10	243.6
6-1	表上	5	49.7
6-2	73号ビット	1	4.5
6-3	9号竪穴建物	34	315.0
6-3	89号土坑	3	19.0
6-3	77号ビット	1	21.0
6-3	カクラン	1	11.0
6-3	表上	3	6.8
6-5	7号竪穴建物	144	1120.0
6-5	表上	6	64.0
不明	Aトレンチ	6	86.0
不明	Bトレンチ	3	40.0
不明	Cトレンチ	4	23.0

## 土師器

区	遺構	点数	重量 (g)
3	10号竪穴建物	2	10.0
2	35号ビット	2	44.0
5-5	56号ビット	4	46.0

## 在地系土器 (近世)

区	遺構	点数	重量 (g)
2	5号溝	1	43.0
2	3号土坑	2	31.0
2	12号土坑	11	19.0
2	23号土坑	5	52.0
2	25号土坑	1	7.0
2	28号土坑	7	66.0
2	29号土坑	3	25.0
2	30号土坑	1	4.0
2	59号土坑	15	203.0
2	60号土坑	1	4.0
2	61号土坑	7	131.0
2	63号土坑	6	164.0
2	表上	44	1485.0
3	2号竪穴建物	27	675.0
3	10号竪穴建物P1	2	11.0
3	3号溝	1	5.5
3・4	4号溝	183	2752.0
3	32号土坑	1	267.0
3	34号土坑	4	31.0
3	44号土坑	12	155.0
3	カクラン	89	3320.0
3	表上	270	3228.0
4	トレンチ	2	70.0
4	表上	10	353.0
5-2	表上	47	2548.0
5-3	表上	6	519.0
5-5	72号土坑	1	122.0
5-5	73号土坑	2	16.0

区	遺構	点数	重量 (g)
5-5	表土	7	0.0
5-6	49号ピット	2	43.0
5-6	カクラン	8	469.0
5-6	表土	12	760.0
6-1	8号竪穴建物	2	34.0
6-1	X=28585 Y=81200	1	10.0
6-1	表土	1	48.0
6-3	89号土坑	12	850.0
6-3	表土	1	158.0
6-4	表土	8	344.0
6-5	表土	2	93.0

## 陶磁器

区	遺構	点数	重量 (g)
2	2号溝	8	138.0
2	59号土坑	19	84.0
2	60号土坑	1	30.0
2	61号土坑	1	103.0
2	63号土坑	1	7.0
2	試掘トレンチ	29	455.0
2	表土	15	329.0
3	1号竪穴建物	1	16.0
3	2号竪穴建物	4	65.0
3	10号竪穴建物P1	2	12.0
3・4	4号溝	46	721.0
3	32号土坑	2	10.0
3	44号土坑	3	15.0
3	弥生包含層	1	0.6
3	カクラン	34	675.0
3	表土	9	153.0
4	表土	6	56.0
5-1	表土	8	208.0
5-2	66号土坑	1	40.0
5-2	40号ピット	1	24.0
5-2	2層	1	9.0
5-2	表土	18	575.0
5-3	表土	16	198.0
5-4	84号土坑	1	22.0
5-5	72号土坑	5	41.0
5-5	73号土坑	2	32.0
5-5	表土	5	30.0
5-6	基本土層	1	3.0
5-6	カクラン	15	126.0
5-6	表土	13	220.0
6-1	8号溝	1	85.0
6-1	表土	4	472.0
6-3	9号竪穴建物	4	60.0
6-3	89号土坑	29	296.0
6-4	表土	7	151.0

## 石

区	遺構	点数	重量 (g)
1	表土	8	120.0
2	2号溝	17	125.3
2	3号土坑	1	11.1
2	15号土坑	4	43.0
2	19号土坑	1	4.0
2	28号土坑	2	13.3
2	58号土坑	5	50.0
2	59号土坑	2	47.7
2	63号土坑	3	291.2
2	トレンチ	2	20.0
2	表土	50	900.0
3	1号竪穴建物	20	440.0
3	2号竪穴建物	19	639.1
3・4	4号溝	40	494.9
3	32号土坑	2	145.0
3	44号土坑	5	71.6
3	47号土坑	1	14.0

区	遺構	点数	重量 (g)
3	弥生包含層	5	56.0
3	カクラン	11	535.0
3	表土	12	241.8
4	4号竪穴建物	4	41.0
4	5号竪穴建物P4	1	6.0
4	5号竪穴建物	6	29.0
4	6号溝	1	9.0
4	1号トレンチ	1	26.0
5-2	表土	5	89.0
5-3	表土	4	50.0
5-5	6号竪穴建物P3	4	38.0
5-5	56号ピット	1	3.0
6-1	8号竪穴建物	1	18.4
6-1	X=28585 Y=81200	1	4.0
6-3	9号竪穴建物	1	2.1
6-5	7号竪穴建物	1	50.0
6-5	表土	1	36.0

遺物観察表

第8表 遺物観察表

縄文時代

遺物表

採 取 No.	種 類 No.	種 類 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第12図 PL.69	1	縄文土器 深鉢	胴部			粗砂、石英、角四石/良好/にぶい褐色	キョウバラ文を施文。	樽取2式
第12図 PL.69	2	縄文土器 深鉢	口縁部			粗砂、白色粒子、石英/良好/褐色	区画文内に18織文を施文。	加曾利4式
第12図 PL.69	3	縄文土器 深鉢	胴部			粗砂、石英/良好/にぶい褐色	縦位沈凹区画内18織文を施文。内面整形不明。	加曾利2～E3式
第12図 PL.69	4	割片	完形	長幅 6.2 厚 4.9 重 1.1 38.2		硬質泥岩	表面側に広い分割面を取り込んだ幅広割片。右側縁にも分割面が広く残り、割片が角柱状を呈する石枕から割離されたことが分かる。割片形状は略三角形状を呈す。	
第12図 PL.69	5	使用痕ある割片	完形	長幅 3.2 厚 1.5 重 1.0 3.9		黒曜石	平坦な縦位向端面を打面に割離した小形割片で、弧状に内湾した右辺側に連続した刃こぼれがある。左側縁は風化角礫面と風化割離面に覆われる。割片形状は「J」字状を呈す。	

弥生時代

1号壜穴建物

採 取 No.	種 類 No.	種 類 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第17図 PL.69	1	弥生土器 壺	口縁部～胴部	口高 24.0 (16.2)		粗砂、石英、角四石/良好/にぶい黄褐色	口縁部は外側へ大きく外反し、口唇部は粘土を折り返し、有段状に形成されている。有段部上面に10mm幅の縞波状文を施文。口縁部下位に縦位3本線の絵文を施文。胴部に縞波状文を15mm幅12歯で施文し、縦位に縞波状文を14mm幅12歯で施文。内面縦位ナデ整形。	樽式
第17図 PL.69	2	弥生土器 壺	口縁部～胴部	口高 19.2 (25.0)		粗砂、石英、角四石/良好/褐色	口縁部は外反し、頸部は窄まる。胴部最大径が張り、球脚状を呈する。8mm幅9歯の縞波状文を口縁部に5段、胴部下半に3段施文。頸部に8mm幅6歯の縞波状文を45mm幅2連止め施文。外面口縁部から胴部上半を横位ナデ、胴部下半を縦位ナデ整形。内面を横位ナデ整形。	樽式
第17図 PL.69	3	弥生土器 壺	口縁部～底部	口高 18.0 底 27.6	9.0	粗砂、石英、角四石/良好/赤褐色	口縁部は外側へ大きく外反し、口唇部は鋭角に整形される。胴部は球脚状を呈する。口縁部に10mm幅7歯の縞波状文を施文。頸部に10mm幅8歯の縞波状文を2連止め35mm間隔を2帯施文。下位に10mm幅7歯の縞波状文を施文。胴部に帯状のコゲが付着。内外面11線部横位ナデ、胴部縦位ナデ整形を施す。	樽式
第17図 PL.69	4	弥生土器 壺	口縁部～胴部	口高 18.6 (16.8)		粗砂、石英、角四石/良好/黒褐色	口縁部は外側へ大きく外反し、口唇部上面に刻み文を施す。口縁部に12mm幅9歯の縞波状文を5段上から下へ施文する。上半に10mm幅8歯の縞波状文を2段上から下へ3.5mm間隔の2連止めで施文。下半に12mm幅9歯の縞波状文を9段施文。底ナデ整形を施す。	樽式
第17図 PL.69	5	弥生土器 壺	口縁部～胴部	口高 20.0 (12.4)		粗砂、石英、角四石/良好/にぶい褐色	口縁部は外反し、頸部は若干窄まる。口唇部端部に刻み文を施し、施文により、粘土が内側へはみ出る。口縁部に12mm幅9歯の縞波状文を施文し、胴部上半に12mm幅8歯の縞波状文を施文。下位に2mm幅6歯の縞波状文を施文。外面に口縁部横位ナデ、胴部に縦位ナデ整形を施す。内面に横位ナデ整形を施す。	樽式
第17図 PL.69	6	弥生土器 壺	口縁部～胴部	口高 21.0 (24.0)		粗砂、石英、角四石/良好/褐色	口縁部は外側へ外反し、頸部は窄まる。頸部に8mm幅6歯の縞波状文を3mm間隔2連止めで1帯施文。胴部に縞波状文を2mm幅10歯で施文。口縁部、胴部下外面を縦位ナデ整形、胴部上半を横位ナデ整形。内面を横位ナデ整形。	樽式
第17図 PL.69	7	弥生土器 壺	口縁部～胴部	口高 21.0 (30.2)		粗砂、石英、片岩、角四石/良好/にぶい褐色	口縁部は大きく外反し、口唇部は鋭角に整形される。胴部はくの字状に窄まっている。頸部に10mm幅9歯の縞波状文を2連止め2帯施文し、10mm幅9歯の縞波状文を6段施文。外面縦位ナデ、内面縦位ナデ整形。	樽式
第17図 PL.69	8	弥生土器 壺	口縁部～底部	口高 16.6 底 27.3	8.0	粗砂、石英、角四石/良好/褐色	口唇部端部が若干くの字状に形成される。口縁部は外反し、頸部は窄まる。胴部最大径が張り、球脚状を呈する。8mm幅9歯の縞波状文を口縁部に4段、胴部下半に3段施文。頸部に8mm幅8歯の縞波状文を5mm間隔2連止めで施文。外面口縁部横位ナデ、胴部縦位の寛ナデ整形。内面に横位ナデ整形を施す。	樽式
第17図 PL.69	9	弥生土器 壺	ほぼ完形	口高 16.6 底 33.8	9.0	粗砂、白色粒子、石英、角四石/良好/褐色	口縁部はやや外反し、頸部が窄まる。頸部に10mm幅9歯の縞波状文を35mm間隔2連止めで1帯施文し、下位に10mm幅6歯4段を上から下へ施文。外面を縦位ナデ、口縁部に横位ナデ、胴部に縦位ナデ整形を施す。胴部最大径部分にコゲが付着。底面平滑。	樽式

採 掘 Pt.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第18期 PL-69	10	赤生土器 甕	口縁部～底部	口 19.0 高 37.0	底 9.5	粗砂。白色粒子、 石英、角四石/良 好/褐色	口縁部はやや外反し、頸部が窄まる。頸部に6mm幅5箇の 櫛歯状文を40mm間隔2連止めで2段施文し、下に 13mm幅8面4段を上から下へ施文。口縁部外面横溝ナデ 整形。胴部外面縦溝ナデ整形。底面に整形痕跡。 口縁部に研痕。	樽式
第18期 PL-70	11	赤生土器 甕	口縁部～胴部	口 (17.4) 高 (26.5)		細砂。石英、白色 粒子、角四石/良 好/にぶい・褐色	口縁部は大きく外反し、口唇部はくの字状に内側へ屈 曲する。頸部に8mm幅6箇の櫛歯状文を30mm間隔の2 連止めで2段、上から下へ施文する。下位には10mm幅8 箇の櫛歯状文を施文。外面上半は横溝ナデ整形。下 半は縦溝ナデ整形を行い、内面は横溝ナデ整形を施す。	樽式
第18期 PL-70	12	赤生土器 甕	口縁部～胴部	口 13.0 高 (11.9)		粗砂。石英、角四 石/良好/黒褐色	口縁部はやや外反し、頸部は若干窄まる。口唇部胴部 は丸みを帯びる。頸部に櫛歯状文を9mm幅9箇で2帯 施文。胴部上半に10mm幅6箇の櫛歯状文を2段施文。 口縁部外面横溝ナデ、胴部下半を縦溝ナデ整形する。 内面は横溝ナデ整形を施す。	樽式
第18期 PL-70	13	赤生土器 甕	口縁部～胴部	口 17.0 高 (18.3)		細砂。石英、角四 石/良好/にぶい・黄 褐色	口縁部は外側へ大きく外反し、口唇部は鋭角に整形さ れる。口縁部に10mm幅7箇の櫛歯状文を36mm間隔の2 連止めで施文。頸部に10mm幅8箇の櫛歯状文を施文。 下位に10mm幅7箇の櫛歯状文を施文。胴部に帯状の コゲが付着。内面全体と外面口縁部縦溝ナデ、外面胴 部縦溝ナデ整形を施す。	樽式
第18期 PL-70	14	赤生土器 甕	胴部～底部	高 (26.2)	底 9.6	細砂。石英、角四 石/良好/にぶい・黄 褐色	胴部は球製状を呈する。頸部に10mm幅8箇の櫛歯状 文を2連止めで35mm間隔を2帯施文、下に10mm幅7箇の 櫛歯状文を施文。胴部に帯状のコゲが付着。内外面 口縁部横溝ナデ、胴部縦溝ナデ整形を施す。	樽式
第18期 PL-70	15	赤生土器 甕	頸部～底部	高 (43.5)	底 (11.0)	粗砂。石英、角四 石/良好/褐色	頸部は窄まり、頸部外面に10mm幅9箇の櫛歯状文を2 段上から下へ施文。下位に11mm幅9箇の櫛歯状文を3 段上から下へ施文。外面縦溝ナデ整形。内面縦 溝ナデ整形を施す。	樽式
第19期 PL-70	16	赤生土器 甕	口縁部～胴部	口 (17.0) 高 (23.8)		細砂。白色粒子、 石英、角四石/良 好/にぶい・褐色	口縁部は直立気味で、頸部は若干窄まる。胴部は大き く外側へ張り出す。口縁部から胴部上半は横溝ナデ整 形。胴部下半は縦溝ナデ整形を施す。胴部下半にコ ゲを帯状に付着する。	樽式
第19期 PL-70	17	赤生土器 甕	口縁部～胴部	口 19.0 高 (24.0)		細砂。白色粒子、 石英、角四石/良 好/にぶい・褐色	口縁部はやや外反し、頸部が窄まる。口縁部外面横溝 ナデ整形。胴部縦溝ナデ整形。内面横溝ナデ整形を施 す。	樽式
第19期 PL-70	18	赤生土器 甕	口縁部～胴部	口 16.4 高 (21.4)		粗砂。白色粒子、 石英、角四石/良 好/褐色	口縁部はやや外反し、頸部が窄まる。外面縦溝ナデ整 形。内面横溝ナデ整形。	樽式
第19期 PL-70	19	赤生土器 高環	口縁部～胴部	口 (27.4) 高 (12.0)		粗砂。角四石、石 英/良好/にぶい・褐 色	口縁部は大きく外へ反り返る。外面縦溝ナデ、内面 横溝ナデ整形。胴部縦溝ナデ整形。内面赤彩。	赤生時代後期
第19期 PL-70	20	赤生土器 甕	胴部～底部	高 (27.5)	底 11.0	粗砂。角四石、石 英/良好/にぶい・褐 色	胴部最大径が大きく張り出す。外面縦溝ナデ整形。摩 滅している。内面剥落顕著による調整不明瞭。外面赤 彩。	赤生時代後期
第19期 PL-70	21	赤生土器 甕	胴部～底部	高 (14.8)	底 9.6	粗砂。白色粒子、 石英、角四石/良 好/褐色	胴部最大径は外側へ大きく張り出す。外面縦溝ナデ整 形。内面は剥落が顕著で整形は不明瞭。	赤生時代後期
第19期 PL-71	22	赤生土器 甕	底部	高 (8.9)	底 13.8	粗砂。白色粒子、 石英、角四石/良 好/褐色	外面縦溝ナデ整形。底面磨り面跡。内面剥落顕著。 底面厚減顕著。	赤生時代後期
第19期 PL-71	23	赤生土器 甕	胴部下半～底 部	高 (9.8)	底 9.0	粗砂。白色粒子、 角四石、石英/良 好/にぶい・褐色	外面縦溝ナデ、内面横溝ナデ整形。胴部内面にスガ が付着。	赤生時代後期
第19期 PL-71	24	赤生土器 甕	胴部下半～底 部	高 (13.5)	底 9.6	粗砂。角四石、石 英/良好/にぶい・褐 色	外面縦溝ナデ、内面横溝ナデ整形。	赤生時代後期
第20期 PL-71	25	赤生土器 甕	胴部下半～底 部	高 (17.5)	底 (15.0)	粗砂。角四石、石 英/良好/にぶい・褐 色	外面縦溝ナデ整形、内面剥落顕著。	赤生時代後期
第20期 PL-71	26	赤生土器 甕	胴部下半～底 部	高 (6.2)	底 (8.8)	粗砂。石英、片岩 /良好/褐色	外面縦溝ナデ整形、内面横溝ナデ整形。	赤生時代後期
第20期 PL-71	27	赤生土器 甕	底部	高 (2.2)	底 7.0	細砂。石英、片岩 /良好/黒褐色	内外面縦溝ナデ整形。外面縦溝ナデ整形。	赤生時代後期
第20期 PL-71	28	赤生土器 甕	胴部下半～底 部	高 (6.2)	底 6.4	細砂。石英、角四 石/良好/褐色	内外面縦溝ナデ整形。底面赤彩。	赤生時代後期
第20期 PL-71	29	赤生土器 甕	底部	高 (3.5)	底 9.0	粗砂。白色粒子、 赤色粒子、石英、 角四石/良好/褐色	内外面縦溝ナデ整形。底面厚減。	赤生時代後期
第20期 PL-71	30	赤生土器 甕	底部	高 (2.3)	底 7.0	粗砂。石英、角四 石/良好/褐色	内外面縦溝ナデ整形。	赤生時代後期
第20期 PL-71	31	赤生土器 甕	底部	高 (2.9)	底 6.4	粗砂。石英、片岩 /良好/褐色	内外面縦溝ナデ整形。底面木炭痕。	赤生時代後期

遺物観察表

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第208 PL.71	32	赤生土器 高坏	脚部					細砂。白色粘子、 石英、角四石/良 好/にぶい 褐色	外面に縦位の淺ミガキ整形を施し、内面に横溝ナデ整形を施す。外面赤彩を施す。	赤生時代後期
第208 PL.71	33	赤生土器 蓋	天井部～体部					細砂。白色粘子、 石英、角四石/良 好/褐色	つまみ部は上平が欠損するが、大きく外側へ開く。外面には放射状の淺ミガキを施し、内面に横溝ナデ整形を施す。	赤生時代後期
第208 PL.71	34	赤生土器 高坏	脚部					細砂。石英、角四 石、片岩/良好/褐色	外面縦位淺ミガキ整形。	赤生時代後期
第208 PL.71	35	赤生土器 高坏	脚部					細砂。石英、角四 石/良好/褐色	外面淺ミガキ整形。器面赤彩。	赤生時代後期
第208 PL.71	36	赤生土器 高坏	胴部下半					細砂。石英、片岩 /良好/褐色	内外面淺ミガキ整形。器面赤彩。	赤生時代後期
第208 PL.71	37	赤生土器 高坏	脚部					粗砂。石英、角四 石/良好/褐色	淺ナデ整形。	赤生時代後期
第208 PL.71	38	赤生土器 高坏	脚部					細砂。石英、角四 石/良好/褐色	外面淺ミガキ整形。器面赤彩。	赤生時代後期
第208 PL.71	39	削器	完形	長 幅	5.9 10.3	厚 重	2.8 185.1	珪質頁岩	幅広い刃部を粗く加工して刃部を作出する。刃部角は厚く、加工は粗い。剥片の表面側は同心円状のリングがあり、熱処理の可能性。	
第208 PL.71	40	削器	完形	長 幅	6.5 11.6	厚 重	2.8 234.4	硬質泥岩	表面側に産面を残す幅広い剥片を用い、剥片部を加工することなく刃部とする。刃部には部分的に摩耗痕があり、これを新しい剥離面が切れる。摩耗した刃部と新しい剥離面には風化差があり、相当な時間差が想定される。	
第218 PL.71	41	磨石	完形	長 幅	16.2 12.4	厚 重	6.6 1490.0	デイスイト	形状は不整形を呈する。器面は剥落による欠損がみられ、それ以外の面は磨り痕が認められる。剥落は部分的に人為的な剥離が認められるが風化が顕著である。	
第218 PL.72	42	敲き石	1/2	長 幅	(7.2) (4.9)	厚 重	(3.5) 178.4	牛伏砂岩	半分ほど欠損し、形状は長方形状で、横断面は三角形を呈する。端部と左側面には打撃による摩滅痕及び剥離が認められる。正面には凹溝形状の打撃痕が認められる。器面は磨り面を呈しており、正面には縁切状の磨り痕が認められる。磨り石として利用後明石として利用したとみられる。	
第218 PL.72	43	磨石	1/2	長 幅	(3.7) (3.0)	厚 重	(2.5) 14.1	牛伏砂岩	円形状を呈し、半分欠損する。断面は比較的扁平状を呈する。折損部以外は磨面として摩滅が顕著である。	
第218 PL.72	44	磨石	1/2	長 幅	(2.3) (2.3)	厚 重	(1.0) 6.7	牛伏砂岩	円形状を呈し、半分欠損する。断面は比較的扁平状を呈する。折損部以外は磨面として摩滅が顕著である。	
第218 PL.72	45	赤生土器 甕	口縁部～胴部					粗砂。角四石、石 英/良好/にぶい 褐色	胴部に20mm幅10箇の櫛形波状文を1段施文。横位に淺ナデ整形。	樽式
第218 PL.72	46	赤生土器 甕	口縁部～胴部					細砂。石英、片岩 /良好/にぶい 褐色	口縁部が内側に屈曲し、口縁部に8mm幅4箇の櫛形波状文を施文。摩滅によって整形は不明瞭。	樽式
第218 PL.72	47	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、片岩 /良好/にぶい 褐色	口縁部に櫛形波状文を8mm幅4箇で施文。縦位に淺ナデ整形。	樽式
第218 PL.72	48	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、片岩 /良好/にぶい 褐色	口唇部は鋭角に整形され、12mm幅10箇の櫛形波状文を3段施文。	樽式
第218 PL.72	49	赤生土器 甕	口縁部					粗砂。石英、片岩 /良好/にぶい 褐色	12mm幅8箇の櫛形波状文を1段施文。	樽式
第218 PL.72	50	赤生土器 甕	口縁部					口唇部端部を鋭角に形成される。くの字状に内側へ屈曲。12mm幅8箇の櫛形波状文を1段施文。	樽式	
第218 PL.72	51	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、片岩 /良好/黒褐色	口唇部がくの字状に屈曲し、口縁部に櫛形波状文を12mm幅10箇で施文。外面縦溝ナデ整形。内面横溝ナデ整形。	樽式
第228 PL.72	52	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、片岩 /良好/黒褐色	口唇部がくの字状に屈曲し、口縁部に櫛形波状文を12mm幅10箇で施文。外面縦溝ナデ整形。内面横溝ナデ整形。	樽式
第228 PL.72	53	赤生土器 甕	口縁部～胴部					細砂。白色粘子、 石英/良好/にぶい 褐色	内外面縦溝ナデ整形。口唇部内面に凹線状のへこみ。	
第228 PL.72	54	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、片岩 /良好/黒褐色	口縁部に櫛形波状文を12mm幅10箇で施文。胴部に櫛形波状文を施文。外面縦溝ナデ整形。内面横溝ナデ整形。	樽式
第228 PL.72	55	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、片岩、 角四石/良好/にぶい 褐色	口唇部は鋭角に整形され、上端に刻み文を施文。口縁部に1帯の櫛形波状文を12mm幅6箇で施文。	樽式
第228 PL.72	56	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、片岩、 角四石/良好/にぶい 褐色	口唇部は鋭角に整形され、上端に刻み文を施文。口縁部に1帯の櫛形波状文を12mm幅6箇で施文。	樽式
第228 PL.72	57	赤生土器 台付甕	口縁部					細砂。石英、片岩、 角四石/良好/にぶい 褐色	胴部が広く浅くなる。口縁部に櫛形波状文を8mm幅4箇で施文。胴部に櫛形波状文を14mm幅12箇で施文。下に櫛形波状文を施文。内外面横溝ナデ整形。	樽式
第228 PL.72	58	赤生土器 甕	口縁部～胴部					粗砂。白色粘子、 石英、片岩/良好/ にぶい 褐色	口縁部に櫛形波状文を12mm幅10箇で施文し、胴部に櫛形波状文を施文。外面に縦溝ナデ整形。内面に横溝ナデ整形。	樽式

採 掘 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第228 Pl.72	59	赤生土器 甕	口縁部		粗砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	口唇部端部を鋭角に整形。胴部に縞描簾状文を施文。横篋ナデ整形。	樽式
第228 Pl.72	60	赤生土器 甕	口縁部～胴部		粗砂。石英、片岩/良好/にぶい褐色	13mm幅10面の縞描簾状文を1連止め15mmで不規則な施文で、2段上から下へ施文し、下位に8mm幅6面の縞描波状文を施文。外面縦位に篋ケズリ。内面を横位に篋ナデ整形。	樽式
第228 Pl.72	61	赤生土器 甕	口縁部		粗砂。石英/良好/黒褐色	器面を丁寧に篋ナデ整形。口縁部に10面の縞描簾状文を施文後、ボタンスの粘土を貼り付け、上端に剣突を施す。	樽式
第228 Pl.72	62	赤生土器 甕	口縁部		粗砂。石英/良好/褐色	折り返す低平な複合口縁を伴う。	樽式
第228 Pl.72	63	赤生土器 高杯	口縁部		粗砂。石英、片岩/角四石/良好/にぶい褐色	内外面篋ミガキ整形。口唇部を折り返し、外側へ肥厚させる。赤彩。	樽式
第228 Pl.72	64	赤生土器 高杯	口縁部		粗砂。角四石、石英/良好/にぶい褐色	口唇部端部を鋭角に整形。内外面篋ミガキ整形。赤彩。	樽式
第228 Pl.72	65	赤生土器 甕	口縁部		粗砂。石英、片岩/良好/にぶい褐色	外面篋ナデ。内面横ナデ整形。	樽式
第228 Pl.72	66	赤生土器 甕	口縁部		粗砂。角四石、石英/良好/にぶい褐色	口唇部上端に刻み文。外面に縦位に篋ケズリ、内面に横位の篋ナデ整形。	樽式
第228 Pl.72	67	赤生土器 甕	口縁部		粗砂。石英、片岩/良好/にぶい褐色	口唇部は鋭角に整形され、12mm幅10面の縞描波状文を1段施文。内面赤彩。	樽式
第228 Pl.72	68	赤生土器 甕	胴部		粗砂。角四石、石英/良好/褐色	胴部に8mm幅6面の縞描波状文を2段施文。横篋ナデ整形。	樽式
第228 Pl.73	69	赤生土器 甕	胴部		粗砂。角四石、石英/良好/褐色	胴部に12mm幅10面の縞描波状文を3段施文。横篋ナデ整形。	樽式
第228 Pl.73	70	赤生土器 甕	胴部		粗砂。白色砂子、赤色砂子、石英、角四石/良好/褐色	縞描簾状文を1帯施文。下位に8mm幅6面の縞描波状文を施文。内外面篋ナデ整形。	樽式
第228 Pl.73	71	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英/良好/黒褐色	13mm幅9面の縞描波状文を、上から下へ3段施文。外面篋ナデ。内面横篋ナデ整形。	樽式
第228 Pl.73	72	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、片岩/良好/黒褐色	13mm幅9面の縞描波状文を、3段施文。内外面横篋ナデ整形。	樽式
第228 Pl.73	73	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英/良好/にぶい褐色	13mm幅9面の縞描波状文を3段施文。外面篋ナデ整形。	樽式
第228 Pl.73	74	赤生土器 甕	胴部		粗砂。白色砂子、石英/良好/赤褐色	10mm幅5面の縞描波状文を4段施文。内外面篋ナデ整形。内面剥落。	樽式
第228 Pl.73	75	赤生土器 甕	胴部		粗砂。白色砂子、石英/良好/黄褐色	10mm幅5面の縞描波状文を4段施文。内外面横篋ナデ整形。	樽式
第228 Pl.73	76	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、片岩/良好/褐色	8mm幅6面の縞描波状文を5段施文。内外面篋ナデ整形。	樽式
第228 Pl.73	77	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英/良好/にぶい褐色	13mm幅9面の縞描波状文を3段施文。外面篋ケズリ整形。内面篋ナデ整形。	樽式
第228 Pl.73	78	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英/良好/にぶい褐色	13mm幅9面の縞描波状文を4段施文。外面篋ケズリ、内面横篋ミガキ整形。	樽式
第228 Pl.73	79	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、片岩/良好/黒褐色	10mm幅8面の縞描波状文を3段施文。外面縦位に篋ナデ整形。	樽式
第228 Pl.73	80	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英/良好/黒褐色	13mm幅9面の縞描波状文を1段、口縁部に施文。内外面篋ナデ整形。	樽式
第238 Pl.73	81	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、片岩/良好/褐色	8mm幅5面の縞描波状文を10段施文。外面篋ミガキ整形。	樽式
第238 Pl.73	82	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	縞描簾状文、下位に20mm幅7面の縞描波状文を5段施文。外面篋ケズリ整形。内面剥落。	樽式
第238 Pl.73	83	赤生土器 付冴	胴部		粗砂。石英、角四石/良好/褐色	胴部に12mm幅7面の縞描波状文を施文。外面横ナデ。内面ミガキ整形。	樽式
第238 Pl.73	84	赤生土器 甕	頸部		粗砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	縞描簾状文を1帯施文。ナデ整形。	樽式
第238 Pl.73	85	赤生土器 甕	頸部		粗砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	縞描簾状文を1帯施文。縦位にケズリ整形を施す。	樽式
第238 Pl.73	86	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	縞描簾状文を1帯施文。外面横篋ミガキ整形。内面横篋ケズリ。外面赤彩。	樽式
第238 Pl.73	87	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、片岩/良好/黒褐色	縞描簾状文1帯(8mm幅4面)で2段25mm間隔2連止めで施文。下位に縞描波状文を2面で2段を施文する。外面篋ナデ。内面横篋ナデ整形。	樽式
第238 Pl.73	88	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	胴部に13mm幅8面の縞描簾状文を1帯施文し、下位に8mm幅6面の縞描波状文を3段施文。外面にコケが付着。内面に横篋ナデ整形。	樽式

遺物観察表

挿入 No.	種 器 種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第238号 PL.73	赤生土器 甕	胴部			細砂。石英、角四石、片岩/良好/にぶい黄褐色	縞縞縞状文を13mm幅6箇で施文し、下位に8mm幅6箇の縞縞波状文を施文。内面に横篋ケズリ整形を施す。	樽式
第238号 PL.73	赤生土器 甕	胴部			細砂。石英、片岩/良好/褐色	縞縞縞状文を13mm幅6箇で施文し、下位に8mm幅6箇の縞縞波状文を施文。内面にケズリ整形を施す。	樽式
第238号 PL.73	赤生土器 甕	胴部			粗砂。角四石、石英/良好/褐色	胴部に9mm幅7箇の縞縞縞状文を2段、下位に縞縞波状文を施文。横篋ナデ整形。	樽式
第238号 PL.73	赤生土器 甕	胴部			細砂。石英、角四石/良好/褐色	縞縞縞状文を13mm幅6箇で施文し、下位に8mm幅6箇の縞縞波状文を施文。外面に縦に篋ケズリ整形を施す。内面篋ナデ整形を施すが、輪積み痕を伴う。	樽式
第238号 PL.73	赤生土器 甕	頸部			細砂。石英、角四石/良好/褐色	縞縞縞状文を施文し、下位に縞縞波状文を施文。外面に縦にケズリ整形を施す。内面篋ナデ整形を施す。	樽式
第238号 PL.73	赤生土器 甕	胴部			細砂。石英、角四石/良好/褐色	縞縞縞状文を施文し、下位に8mm幅6箇の縞縞波状文を2段施文。外面篋ナデ整形を施す。内面調整痕なし。	樽式
第238号 PL.73	赤生土器 白付鉢	胴部			粗砂。白色粒子、石英/良好/赤褐色	13mm幅9箇の縞縞縞状文を施文。外面篋ナデ整形。内面横篋ミガキ整形。	樽式
第238号 PL.73	赤生土器 甕	胴部			細砂。白色粒子/良好/黒褐色	縞縞縞状文、下位に縞縞波状文を10mm幅6箇で施文。内外面篋ナデ整形。	樽式
第238号 PL.73	赤生土器 甕	胴部			細砂。白色粒子、石英/良好/黄褐色	10mm幅5箇の縞縞縞状文を施文し、縞縞文を懸垂させる。	樽式
第238号 PL.74	赤生土器 甕	胴部			粗砂。石英/良好/にぶい褐色	縞縞縞状文、下位に15mm幅6箇の縞縞文を施文。横篋ナデ整形。	樽式
第238号 PL.74	赤生土器 甕	胴部			細砂。石英、角四石/良好/黄褐色	8mm幅6箇の縞縞縞状文を上から下へ2段施文し、下位に山状に縞縞文を施文。横篋ナデ整形。	樽式
第238号 PL.74	赤生土器 甕	胴部			細砂。石英、角四石/良好/褐色	縞縞縞状文を20mm間隔の2箇止めで施文し、下位に縞縞文を矢羽根状に施文。横篋ナデ整形。	樽式
第238号 PL.74	赤生土器 甕	胴部			細砂。石英、角四石/良好/褐色	縞縞文を施文し、外面横篋ナデ、内面に横篋ナデ整形。	樽式
第238号 PL.74	赤生土器 甕	胴部			細砂。石英、角四石/良好/褐色	縞縞文を矢羽根状に施文し、外面横篋ナデ、内面に横篋ナデ整形。	樽式
第238号 PL.74	赤生土器 甕	胴部			細砂。石英、片岩/良好/黒褐色	外面横篋ナデ、内面横篋ナデ整形。	樽式
第248号 PL.74	赤生土器 甕	胴部			細砂。石英、片岩/良好/黒褐色	外面横篋ナデ、内面横篋ナデ整形。	樽式
第248号 PL.74	赤生土器 高坏	胴部			細砂。石英、角四石/良好/褐色	口唇部外側へ折曲する。外面横篋ナデ、内面に横篋ミガキ整形。内面に赤影。	樽式
第248号 PL.74	赤生土器 甕	胴部			細砂。石英、片岩/良好/褐色	内外面篋ナデ整形。内面整形痕明顯。	樽式

2号竪穴遺物

挿入 No.	種 器 種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第288号 PL.74	赤生土器 甕	口縁部～胴部	口高 18.0 (25.3)		粗砂。石英、白色粒子、角四石/良好/にぶい黄褐色	口縁部は外反し、口唇部端部は鋭角に整形されている。胴部は外側へ張り出し、球胴状を呈する。口縁部と胴部下半に10mm幅8箇の縞縞縞状文を帯施文し、頸部に10mm幅8箇の縞縞縞状文を2連止め2帯施文。外面横篋ナデ整形。内面横篋ナデ整形を施す。	樽式
第288号 PL.74	赤生土器 甕	口縁部～底部	口高 12.0 15.6	底 6.0	粗砂。白色粒子、石英、角四石/良好/褐色	口縁部は外側へ外反し、頸部は窄まる。頸部に8mm幅6箇の縞縞縞状文を2帯施文。胴部に縞縞波状文を9mm幅10箇で3帯上から下へ施文。胴部下外面を縦篋ナデ整形。口縁部、胴部上半を横篋ナデ整形。内面を横篋ナデ整形。	樽式
第288号 PL.74	赤生土器 甕	口縁部～胴部	口高 18.0 (15.5)		粗砂。赤色粒子、白色粒子、石英、角四石/良好/褐色	口縁部は外側へ外反し、頸部は窄まる。口唇部端部は鋭角に形成される。頸部に8mm幅6箇の縞縞縞状文を2帯施文。胴部に縞縞波状文を9mm幅10箇で施文。口縁部、胴部下外面を縦篋ケズリ整形。内面を横篋ナデ整形。	樽式
第288号 PL.74	赤生土器 甕	胴部	高 (18.0)		粗砂。石英、白色粒子/良好/にぶい黄褐色	胴部上半に15mm幅13箇の縞縞縞状文を上から下へ3段35mm連止めで施文。下位12mm幅10箇の縞縞波状文を2段施文する。内外面に横篋ナデ整形。外面下半を縦篋ナデ整形。	樽式
第288号 PL.74	赤生土器 白付鉢	口縁部～胴部	口高 (14.2) (8.3)		細砂。白色粒子、石英、角四石/良好/褐色	胴部が外へ折曲する。口縁部に6mm幅5箇の縞縞縞状文を2段施文。外面に縦篋ナデ、内面に横篋ナデ整形を施す。	樽式
第288号 PL.74	土師器 高坏	脚部	高 (9.0)	底 (9.2)	粗砂。礫、石英、角四石/良好/にぶい黄褐色	横篋ナデ整形。脚部端部を内側へ折り返す。	4世紀
第288号 PL.74	土師器 高坏	脚部	高 (7.0)	底 (9.0)	粗砂。礫、石英、角四石/良好/にぶい黄褐色	篋ナデ整形。	4世紀
第288号 PL.74	土師器 高坏	脚部	高 (7.7)		細砂。石英/良好/褐色	放射状の篋ミガキ整形。	4世紀
第288号 PL.74	赤生土器 白付鉢	脚部	高 (3.5)		粗砂。石英、角四石/良好/褐色	内外面篋ナデ整形。	赤生時代後期

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第28図 PL.74	10	弥生土器 高坏	脚部	高	(7.5)	細砂。石英、角四石/良好/にぶい黄褐色	横溝ナデ整形。	弥生時代後期	
第29図 PL.74	11	土師器 高坏	口縁部～胴部	口高	19.0 (4.5)	細砂。石英、角四石/良好/にぶい黄褐色	器面は滑く、口唇部端部は鋭角に整形される。内外面に縦位の放射状の縄ミガキを施す。	4世紀	
第29図 PL.74	12	弥生土器 甕	底部	高	(2.7)	底 8.6	粗砂。石英、角四石/良好/にぶい黄褐色	内外面横溝ナデ整形。	弥生時代後期
第29図 PL.74	13	弥生土器 甕	底部	高	(3.1)	底 7.0	粗砂。礫、石英、片岩、角四石/良好/にぶい黄褐色	内外面横溝ナデ整形。	弥生時代後期
第29図 PL.75	14	弥生土器 壺	底部	高	(2.6)	底 4.0	粗砂。石英、片岩、角四石/良好/褐色	内外面横溝ミガキ整形。赤彩。	弥生時代後期
第29図 PL.75	15	弥生土器 甕	底部	高	(4.0)	底 5.8	粗砂。石英、角四石/良好/にぶい黄褐色	内外面横溝ナデ整形。底面に木葉痕。	弥生時代後期
第29図 PL.75	16	弥生土器 甕	底部	高	(3.5)	底 7.6	細砂。石英、赤色粘土、角四石/良好/にぶい黄褐色	内外面横溝ナデ整形。底面に靉瓦痕。	弥生時代後期
第29図 PL.75	17	弥生土器 甕	底部	高	(3.6)	底孔 1.9	粗砂。白色粘土、石英/良好/にぶい黄褐色	内外面横溝ナデ整形。底部中央孔。	弥生時代後期
第29図 PL.75	18	弥生土器 甕	底部	高	(2.9)	底 10.0	粗砂。石英、角四石/良好/にぶい黄褐色	内外面横溝ナデ整形。	弥生時代後期
第29図 PL.75	19	弥生土器 甕	底部	高	(2.6)	底 10.4	粗砂。石英、赤色粘土、角四石/良好/にぶい黄褐色	内外面横溝ナデ整形。底面に靉瓦痕。	弥生時代後期
第29図 PL.75	20	弥生土器 異形土器	口縁部				細砂。石英、角四石/良好/にぶい黄褐色	中央部貫孔。外面に横ナデ整形。	弥生時代後期
第29図 PL.75	21	弥生土器 ミニチュア土器	完形	口高	4.0 4.0	底 3.3	細砂。石英、角四石/良好/褐色	指環痕明瞭。	弥生時代後期
第29図 PL.75	22	弥生土器 土製紡錘車	ほぼ完形	直径 孔	4.3 0.6	厚 0.6	細砂。石英、角四石/良好/淡黄褐色	中央部貫孔。側面に刻み文を施す。	弥生時代後期
第29図 PL.75	23	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。角四石、石英/良好/にぶい黄褐色	口唇部端部を鋭角に整形する。縹波状文を頸部に施す。外面横溝ナデ整形。横溝ナデ整形。	樽式
第29図 PL.75	24	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。石英/良好/にぶい黄褐色	口縁部文様帯に12mm幅7面の縹波状文を2帯施す。	樽式
第29図 PL.75	25	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。石英、輝石/良好/にぶい黄褐色	口唇部に10mm幅8面の縹波状文を施す。外面に縦溝ナデ整形。内面に横溝ナデ整形。	樽式
第29図 PL.75	26	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。石英、輝石/良好/にぶい黄褐色	口唇部端部を鋭角に整形し、口縁部に10mm幅8面の縹波状文を施す。外面横溝ナデ、内面横溝ナデ整形を施す。	樽式
第29図 PL.75	27	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。石英/良好/にぶい黄褐色	10mm幅8面の縹波状文を4帯施す。内外面横溝ナデ整形。	樽式
第29図 PL.75	28	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。角四石、石英/良好/褐色	口唇部がくの字状に内側へ屈曲する。口縁部文様帯に10mm幅8面の縹波状文を施す。	樽式
第29図 PL.75	29	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。石英/良好/褐色	胴部に12mm幅8面の縹波状文を2連し1帯施す。下位に縹波状文を施す。風化により整形不明瞭。	樽式
第29図 PL.75	30	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。白色粘土、石英/良好/褐色	口唇部刻み文。内外面横溝ナデ整形。	樽式
第29図 PL.75	31	弥生土器 高坏	口縁部				粗砂。石英/良好/にぶい黄褐色	口唇部が外側へ肥厚。赤彩。縄ミガキ整形。	樽式
第29図 PL.75	32	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。石英、輝石/良好/にぶい黄褐色	口唇部端部を鋭角に形成し、内面に凹みを伴う。横溝ナデ整形。	樽式
第29図 PL.75	33	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。石英/良好/にぶい黄褐色	口唇部端部を鋭角に整形する。胴部に縹波状文、口縁部縦溝ナデ整形。内面横溝ナデ整形。	樽式
第29図 PL.75	34	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。石英、片岩/良好/褐色	口唇部端部を鋭角に整形する。横溝ナデ整形。	樽式
第29図 PL.75	35	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。石英/良好/褐色	口縁部内外面横溝ナデ整形。下位に整形痕。内面に指面痕を有する。	樽式
第30図 PL.75	36	弥生土器 甕	胴部				粗砂。石英、輝石/良好/にぶい黄褐色	10mm幅6面の縹波状文を4段施す。内外面ナデ整形。	樽式
第30図 PL.75	37	弥生土器 甕	胴部				粗砂。石英、輝石/良好/にぶい黄褐色	12mm幅9面の縹波状文を4段施す。内外面横溝ナデ整形。	樽式

遺物観察表

挿入 No.	種 類 No.	種 器 種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第309 PL.75	38	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英/良好/ にぶい黄褐色	縹緋帯状文、下位に縹緋波状文を4段施文、縹緋帯状文の段数は厚減により不明瞭。縹緋帯状文は10mm幅9歯。縄ナデ整形を施す。	樽式
第309 PL.75	39	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、白色 粒子/良好/黒褐色	10mm幅6歯の縹緋波状文を6段施文。縹緋帯状文は10～12mm幅9歯。内外面横縄ナデ整形を施す。内面に調整痕、明瞭に残す。	樽式
第309 PL.75	40	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、白色 粒子/良好/褐色	10mm幅8歯の縹緋波状文を6段施文。縹緋帯状文は10～12mm幅9歯。縄ナデ整形を施す。内面に調整痕、明瞭に残す。	樽式
第309 PL.75	41	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英/良好/ 褐色	8mm幅5歯の縹緋帯状文、下位に縹緋波状文を4段施文、縹緋帯状文は7歯1帯。縹緋波状文は10mm幅9歯。横縄ナデ整形を施す。	樽式
第309 PL.75	42	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、角四 石/良好/褐色	縹緋帯状文1帯16mm幅12歯で施文、下位に縹緋波状文、内外面横縄ナデ整形。	樽式
第309 PL.75	43	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、角四 石/良好/にぶい褐色	縹緋帯状文8歯を13mm幅で、4段施文。内外面横縄ナデ整形。	樽式
第309 PL.75	44	赤生土器 甕	頸部～胴部上 半		粗砂。白色粒子、 石英、角四石/良 好/にぶい、褐色	縹緋波状文を16mm幅12歯で4段施文。下位に縹緋帯文を最高状に16mm幅12歯で施文。内面横縄ナデ整形。外面に縦縄ナデ整形。	樽式
第309 PL.75	45	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、角四 石/良好/にぶい褐色	10mm幅8歯の縹緋波状文を4段施文。縄ナデ整形。	樽式
第309 PL.76	46	赤生土器 甕	頸部		粗砂。石英、角四 石/良好/にぶい褐色	10mm幅8歯の縹緋波状文を4段施文。縄ナデ整形。内面横縄に縄ミガキ整形。	樽式
第309 PL.76	47	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、角四 石/良好/赤褐色	8mm幅7歯の縹緋波状文を上から下へ5段施文。横縄ナデ整形。	樽式
第309 PL.76	48	赤生土器 甕	頸部		粗砂。石英、角四 石/良好/にぶい褐色	縹緋帯状文を施文する。外面に縄ケズリを縦位に施す。内面に横縄ミガキ整形を施す。	樽式
第309 PL.76	49	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、輝石 /良好/褐色	縹緋帯状文1帯12mm幅4歯で施文。下位に縹緋波状文を施文するが、風化のため不明瞭。内外面横縄ナデ整形。	樽式
第309 PL.76	50	赤生土器 甕	頸部		粗砂。石英、角四 石/良好/にぶい褐色	10mm幅8歯の縹緋波状文2連止1帯施文し、下位に縹緋波状文を施文。内面横縄ナデ整形。	樽式
第309 PL.76	51	赤生土器 甕	頸部		粗砂。石英、角四 石/良好/にぶい褐色	15mm幅19歯の縹緋帯状文、下位に縹緋波状文を施文。整形は厚減により不明瞭。	樽式
第309 PL.76	52	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、角四 石/良好/褐色	12mm幅9歯の縹緋帯状文6～8段を2連止1帯施文し、8mm幅5歯の縹緋波状文を下位に6段施文する。外面に縦縄ナデ整形。内面に整形なし。	樽式
第309 PL.76	53	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英/良好/ 褐色	10mm幅8歯の縹緋帯状文を4段施文。縹緋波状文は10mm幅7歯。外面に縄ナデ整形を施す。内面には整形痕は認められない。	樽式
第309 PL.76	54	赤生土器 甕	胴部		粗砂。白色粒子、 石英/良好/にぶい 褐色	縹緋文を9段、12mm幅で斜位に施文。縄ナデ整形。	樽式
第309 PL.76	55	赤生土器 高坏	口縁部下半～ 胴部		粗砂。石英、角四 石、片岩/良好/赤 褐色	口縁部が外反。外面に横、縦縄ナデ整形。内面横縄ナデ整形。器面赤彩。	樽式
第309 PL.76	56	赤生土器 甕	口縁部		粗砂。白色粒子、 片岩/良好/にぶい 褐色	横縄ナデ整形。内面赤彩。	樽式

3号竪穴建物

挿入 No.	種 類 No.	種 器 種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第339 PL.76	1	赤生土器 甕	頸部～胴部		粗砂。石英、角四 石/良好/黒褐色	内面頸部から胴部上半にかけて横縄ケズリ、胴部下半に縦縄ナデ整形、外面頸部から胴部上半に横縄ナデ、胴部下半に縦縄ナデ整形を施す。頸部に10mm幅8歯の縹緋帯状文を25mm間隔で2条施文し、下位に8mm幅5歯の縹緋波状文を4段施文する。胴部上半に帯状にススが付着する。	樽式
第339 PL.76	2	赤生土器 甕	口縁部		粗砂。白色粒子、 石英、角四石/良 好/褐色	口縁部端部を裏面に整形する。外面縦縄ナデ整形。内面横縄ナデ整形を施す。	赤生時代後期
第339 PL.76	3	赤生土器 甕	口縁部		粗砂。石英、片岩 /良好/褐色	口縁部は外反し、口唇部に切み文を施す。胴部に縹緋帯状文を施文。	樽式
第339 PL.76	4	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、角四 石/良好/にぶい褐色	10mm幅9歯の縹緋波状文を4段、上から下へ施文する。内外面横縄ナデ整形。	樽式
第339 PL.76	5	赤生土器 甕	胴部		粗砂。石英、角四 石/良好/にぶい褐色	8mm幅4歯の縹緋波状文を4段、上から下へ施文する。内外面横縄ナデ整形。外面コゲ付着。	樽式

挿入 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	底				
第338 PL.76	6	赤生土器 甕	胴部				細砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	15㎝幅9面の縹緞状文を4段、上から下へ施文する。内外面鏡ナデ整形。	樽式	
第338 PL.76	7	赤生土器 甕	胴部				細砂。石英/良好/乳白色	15㎝幅9面の縹緞状文を上から下にかけて3段施文する。外面に鏡ナデ整形を施す。	樽式	
第338 PL.76	8	赤生土器 甕	胴部				粗砂。石英/良好/黒褐色	縹緞状文を施文するが、厚減のため、単位など不明瞭。	樽式	
第338 PL.76	9	赤生土器 甕	胴部				細砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	内外面横鏡ナデ整形。頸部を欠損して段数は不明だが、10㎝幅8面の縹緞状文を施文し、下に10㎝幅8面の縹緞状文を2段上から下へ施文。10と同一個体か。	樽式	
第338 PL.76	10	赤生土器 甕	胴部				細砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	胴部に最大10面の縹緞状文、下に10㎝幅8面の縹緞状文を2段上から下へ施文。内外面横鏡ナデ整形。9と同一個体か。	樽式	
第338 PL.76	11	赤生土器 甕	胴部				細砂。白色粒子/良好/褐色	8㎝幅4面の縹緞状文を4段、上から下へ施文する。内外面横鏡ナデ整形。外面コゲ付着。	樽式	
第338 PL.76	12	赤生土器 甕	口縁部				細砂。石英、角四石/良好/黒褐色	胴部に最大10面の縹緞状文を施文し、下に縹緞状文を施文。内外面横鏡ナデ整形。	樽式	
第338 PL.76	13	赤生土器 甕	口縁部				細砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	胴部に最大10面の縹緞状文、下に12㎝幅13面の縹緞状文を施文。内面横鏡ミガキ整形。	樽式	
第338 PL.76	14	赤生土器 甕	胴部				細砂。片岩/良好/褐色	内外面鏡ケズリ整形。	赤生時代後期	
第338 PL.76	15	赤生土器 高坏	胴部				細砂。白色粒子、石英、片岩/良好/にぶい褐色	外面鏡ミガキ整形。赤彩。	赤生時代後期	
第338 PL.76	16	赤生土器 甕	胴部				細砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	内外面鏡ミガキ整形。赤彩。胴部に縹緞状文を施文。	樽式	
第338 PL.76	17	赤生土器 甕	底部	高	(2.0)	底	7.0	細砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	内外面鏡ナデ整形。底面厚減。	赤生時代後期

## 4号器6建物

挿入 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	底				
第368 PL.76	1	赤生土器 甕	口縁部～胴部	口	19.4 (17.1)			粗砂。石英、片岩/良好/黒褐色	口縁部は外反し、口唇部は鋭角に整形されている。頸部に12㎝幅10面の縹緞状文を20㎝間隔で施文し、10㎝幅8面の縹緞状文を3段上から下へ施文。外面を縦鏡ケズリ、口縁部横鏡ナデ、胴部縦鏡ナデ整形を施す。胴部にはコゲが付着する。	樽式
第368 PL.76	2	赤生土器 甕	口縁部					粗砂。石英、片岩/良好/黒褐色	口唇部は鋭角に形成される。縹緞状文を20㎝間隔で施文。内外面横鏡ナデ整形を施す。	樽式
第368 PL.76	3	赤生土器 甕	胴部					粗砂。白色粒子、石英/良好/にぶい褐色	7㎝幅4面の縹緞状文を上から下にかけて2段施文する。外面に鏡ナデ整形を施す。内面整形なし。	樽式
第368 PL.76	4	赤生土器 甕	胴部					粗砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	縹緞状文を施文。外面横鏡ナデ、内面鏡ミガキ整形を施す。	樽式
第368 PL.76	5	赤生土器 甕	胴部					粗砂。白色粒子、石英/良好/黒褐色	外面横鏡ケズリ、内面横鏡ケズリ整形を施す。	樽式
第368 PL.76	6	赤生土器 甕	底部					粗砂。白色粒子、石英/良好/黒褐色	内外面横鏡ナデ整形を施す。	赤生時代後期

## 5号器6建物

挿入 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	底				
第398 PL.77	1	赤生土器 高坏	ほぼ完形	口	21.0 18.5	底	14.9	粗砂。石英、白色粒子、角四石/良好/にぶい褐色	口唇部は外反し、口唇部は鋭角に整形されている。外面横鏡ミガキ整形。内面横鏡ミガキ整形。器面赤彩。	赤生時代後期
第398 PL.77	2	赤生土器 甕	胴部	口	18.0 (13.0)			粗砂。石英、片岩/良好/にぶい褐色	口唇部は外反気味に整形される。胴部上半に10㎝幅8面の縹緞状文を2.5㎝間隔の2連止めで施文する。下に10㎝幅8面の縹緞状文2段を施文。外面横鏡ケズリ整形。内面は口縁部のみ横鏡ナデ整形。	樽式
第398 PL.77	3	赤生土器 台付甕	口縁部～胴部	口	11.0 (8.7)			粗砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	口縁部に10㎝幅6面の縹緞状文を2連止め、20㎝間隔で施文し、下に10㎝幅4面の縹緞状文2段を施文。外面口縁部、胴部縦鏡ナデ整形。内面鏡ミガキ整形。	樽式
第398 PL.77	4	赤生土器 台付甕	口縁部～胴部	口	(12.0) 5.1			粗砂。石英、角四石/良好/赤褐色	口縁部は外へ外反し。胴部は外側へ張り出し、縹緞状文を施す。胴部最大径部分に12㎝幅6面の縹緞状文を2段上から下へ施文。内外面横鏡ナデ整形を施す。	樽式
第398 PL.77	5	赤生土器 甕	胴部	高	(7.0)			粗砂。石英、角四石/良好/褐色	胴部に12㎝幅10面の縹緞状文を1連止め25㎝幅で5段施文する。内外面横鏡ナデ整形。	樽式
第408 PL.77	6	赤生土器 甕	頸部～胴部	高	(6.3)			粗砂。石英、片岩/良好/褐色	頸部から胴部上半にかけて、10㎝幅8面の縹緞状文を4段施文する。内面に横、外面に縦鏡ナデ整形を施す。	樽式

遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石 材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第40図 PL.77	7	赤生土器 甕	胴部			細砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	胴部上半に縞縞波状文を10mm幅間で2段を上から下へ施文。外面縦提ナデ、内面横提ナデ整形する。	樽式	
第40図 PL.77	8	赤生土器 甕	胴部			細砂。白色粒石、石英、角四石/良好/褐色	10mm幅8面の縞縞波状文を4段施文。外面縦提ナデ整形。内面横提ナデ整形。内面に輪積み直を施す。	樽式	
第40図 PL.77	9	赤生土器 甕	胴部			細砂。石英、角四石/良好/褐色	胴部に帯状のコゴが付着する。外面に縦提ナデ、内面に横提ナデ整形を施す。内面に輪積み直を施す。	赤生時代後期	
第40図 PL.77	10	赤生土器 高坏	脚部	高	(4.5)		内外面縦提ミガキ整形。赤彩。	赤生時代後期	
第40図 PL.77	11	赤生土器 ミニチュア土器(高坏)	脚部			細砂。石英、角四石/良好/赤褐色	外面縦提ナデ整形。内外面赤彩。	赤生時代後期	
第40図 PL.77	12	赤生土器 高坏	脚部	高	(4.1)	底 (10.0)	細砂。石英、角四石/良好/赤褐色	外面縦提ナデ整形。外面赤彩。	赤生時代後期
第40図 PL.77	13	赤生土器 甕	底部	高	(2.4)	底 4.6	細砂。石英、角四石/良好/褐色	内外面縦提ナデ整形。底面磨り直。	赤生時代後期
第40図 PL.77	14	赤生土器 甕	底部	高	(9.3)	底 7.2	細砂。石英、角四石/良好/褐色	外面縦提ナデ整形。内面割溝、整形なし。底面磨り直。	赤生時代後期
第40図 PL.77	15	赤生土器 甕	口縁部			細砂。石英、角四石/良好/黄褐色	縞縞文に押捺を施す。内外面縦提ナデ整形。	樽式	
第40図 PL.77	16	赤生土器 甕	口縁部			細砂。石英、角四石/良好/褐色	口唇部端部は鋭角に整形され、くの字状に屈曲する。内外面に横提ナデ整形を施す。口唇部から胴部にかけて10mm幅9面での縞縞波状文を上から下へ2段施文。	樽式	
第40図 PL.77	17	赤生土器 甕	口縁部			細砂。石英、角四石/良好/褐色	口唇部端部は鋭角に整形され、くの字状に屈曲する。口唇部端部に斜文を施文する。胴部に縞縞波状文を施文する。外面縦提ナデ、内面横提ナデ整形を施す。	樽式	
第40図 PL.77	18	赤生土器 台付甕	口縁部～胴部			細砂。石英、角四石/良好/褐色	10mm幅9面の縞縞波状文を上から下へ20mm間隔で2段施文し、下位に斜文を施文。ボタン状の貼り付けを施し、刺突を施す。内外面縦提ナデ整形を施す。	樽式	
第40図 PL.77	19	赤生土器 台付甕	口縁部			細砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	胴部最大径で多く屈曲し、球形状を呈する。10mm幅9面の縞縞波状文を上から下へ2段施文。内外面縦提ナデ整形。	樽式	
第40図 PL.77	20	赤生土器 甕	口縁部			細砂。石英、角四石/良好/褐色	口唇部端部が若干内面に凹みを有する。内外面縦提ナデ整形を施す。	樽式	
第40図 PL.77	21	赤生土器 ミニチュア土器	口縁部			細砂。石英、角四石/良好/褐色	口唇部端部を鋭角に整形する。内外面縦提ナデ整形。	赤生時代後期	
第40図 PL.77	22	赤生土器 甕	胴部			細砂。石英、角四石/良好/褐色	縞縞波状文、下位に網目状に15mm幅の縞縞文を施文する。	樽式	
第40図 PL.78	23	赤生土器 甕	胴部			粗砂。石英/良好/褐色	胴部上半に10mm幅8面の縞縞波状文を4段施文。内面に整形は無く、外面横提ナデ整形を施す。	樽式	
第40図 PL.78	24	赤生土器 甕	胴部			粗砂。石英/良好/にぶい褐色	縞縞波状文、下位に10mm幅8面の縞縞波状文を施文する。内外面横提ナデ整形を施す。	樽式	
第40図 PL.78	25	赤生土器 甕	胴部			粗砂。石英、角四石/良好/褐色	胴部上半に形状不明の縞縞波状文を施文する。外面縦提ナデ、内面横提ナデ整形を施す。	樽式	
第40図 PL.78	26	赤生土器 甕	胴部			粗砂。石英/良好/にぶい褐色	楕円形状の沈痼区画内に無節縞文を施文した絵文を施す。	樽式	
第40図 PL.78	27	赤生土器 甕	口縁部			粗砂。石英、角四石/良好/褐色	外面縦提ナデ、内面横提ナデ整形を施す。コゴ付着。	赤生時代後期	

6号貯穴建物

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石 材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第42図 PL.78	1	赤生土器 甕	口縁部～胴部	口 高	(21.0) (14.9)		粗砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	口唇部端部を鋭角に整形する。内外面に横提ナデ整形を施す。口唇部に5mm幅4面の縞縞波状文を15mm間隔で施文。頸部に12mm幅12面の縞縞波状文を施文する。胴部に13mm幅8面の縞縞波状文を2帯施文する。	樽式
第42図 PL.78	2	赤生土器 甕	一部欠損	口 高	(17.6) 19.6	底 6.5	粗砂。石英、結晶片石/良好/褐色	口唇部がくの字状に内側へ屈曲する。外面縦提ナデ整形。内面横提ナデ整形。	赤生時代後期
第42図 PL.78	3	赤生土器 甕	口縁部				粗砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	口唇部に1.5mm幅8面の縞縞波状文を施文。内外面横提ナデ整形。	赤生時代後期
第42図 PL.78	4	赤生土器 甕	口縁部～胴部				粗砂。石英、角四石/良好/にぶい黄褐色	外面縦提ナデ、内面横提ナデ整形。口唇部が若干くの字状に内側へ屈曲する。頸部に縞縞波状文を施文する。	赤生時代後期
第42図 PL.78	5	赤生土器 甕	口縁部				粗砂。石英、角四石/良好/にぶい黄褐色	内外面縦提ナデ整形。内面赤彩。	赤生時代後期
第42図 PL.78	6	赤生土器 甕	口縁部				粗砂。石英、角四石/良好/黒褐色	外面縦提ナデ、内面横提ナデ整形。口唇部を鋭角に整形する。	赤生時代後期

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第42図 PL.78	7	赤生土器 高坏	口縁部				粗砂。石英、角四石、赤色粒子/良好/褐色	外面口唇部を横篋ナデ、口縁部を縦篋ナデ整形する。内面に横ナデ整形を施す。口唇部をくの字状に整形する。	赤生時代後期	
第42図 PL.78	8	赤生土器 甕	口縁部				粗砂。石英/良好/黒褐色	外面縦篋ナデ、内面横篋ナデ整形。口唇部が若干くの字状に内側へ屈曲する。	赤生時代後期	
第42図 PL.78	9	赤生土器 甕	口縁部				粗砂。石英/良好/にぶい黄褐色	内外面縦篋ナデ整形。	樽式	
第42図 PL.78	10	赤生土器 高坏	口縁部～胴部 上半				粗砂。石英/良好/赤褐色	内外面赤彩。篋ミガキ整形。	赤生時代後期	
第42図 PL.78	11	赤生土器 甕	頸部～胴部				粗砂。石英、チャート、輝石、角四石/良好/にぶい黄褐色	内外面横篋ナデ整形。12mm幅6面の縞縞状文を2帯施文し、下に縦縞不明の縞縞状文を2帯施文する。	赤生時代後期	
第42図 PL.78	12	赤生土器 甕	胴部				粗砂。石英、輝石/良好/にぶい褐色	内外面横篋ナデ整形。縞縞状文の下位に1.5mm幅8面の縞縞状文を施文。	赤生時代後期	
第42図 PL.78	13	赤生土器 甕	胴部				細砂。白色粒子、片岩/良好/にぶい褐色	縞縞状文を時計回りに施文。横篋ナデ整形。	樽式	
第42図 PL.78	14	赤生土器 甕	胴部				粗砂。石英、輝石/良好/にぶい黄褐色	内外面横篋ナデ整形。縞縞状文を4段施文。	樽式	
第42図 PL.78	15	赤生土器 甕	胴部				粗砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	内外面横篋ナデ整形。12mm幅6面の縞縞状文を3帯施文。	赤生時代後期	
第42図 PL.78	16	赤生土器 甕	胴部				粗砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	口唇部に1.5mm幅8面の縞縞状文を2帯、下に縞縞状文を施文。内外面横篋ナデ整形。	赤生時代後期	
第42図 PL.78	17	赤生土器 甕	胴部				粗砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	口唇部に1.5mm幅6面の縞縞状文を3帯施文。内外面横篋ナデ整形。	赤生時代後期	
第42図 PL.78	18	赤生土器 甕	頸部				粗砂。石英、輝石/良好/にぶい黄褐色	内外面横篋ナデ整形。縦縞は不明だが、緻密で等間隔な縞縞状文を施文する。	赤生時代後期	
第42図 PL.78	19	赤生土器 台付甕	胴部上半				粗砂。石英、白色粒子、角四石/良好/にぶい黄褐色	内外面横篋ナデ整形。10mm幅8面の縞縞状文を1帯施文し、下に縞縞状文を施文する。	赤生時代後期	
第42図 PL.78	20	赤生土器 甕	胴部				細砂。白色粒子、結晶片岩/良好/褐色	外面縦篋ナデ、内面横篋ナデ整形。外面赤彩。	樽式	
第42図 PL.78	21	赤生土器 甕	底部	高	(1.4)	底	4.2	粗砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	篋ナデ整形。	赤生時代後期

## 7号宮内建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第44図 PL.78	1	土師器 高坏	脚部					粗砂。石英、輝石、結晶片岩/良好/褐色	内外面横篋ナデ整形。中央部に縦位に孔を穿う。	6世紀
第44図 PL.78	2	土師器 高坏	脚部	高	(3.2)	底	(11.0)	細砂。石英/良好/赤褐色	内外面ミガキ整形。内外面赤彩。	6世紀
第44図 PL.78	3	赤生土器 甕	口縁部					粗砂。石英、結晶片岩/良好/にぶい褐色	口縁部横篋ナデ整形。下位縦篋ナデ整形を施す。	赤生時代後期
第44図 PL.78	4	赤生土器 甕	口縁部～頸部					細砂。石英、角四石/良好/にぶい褐色	内外面に横篋ナデ整形。赤彩を施す。口唇部に刻み文、頸部に8mm幅6面の縞縞状文を2帯施文する。	樽式
第44図 PL.78	5	赤生土器 甕	頸部～胴部上 半					粗砂。石英、結晶片岩/良好/褐色	外面横篋ナデ整形。頸部に12mm幅8面の縞縞状文を2帯、等間隔に施文する。胴部上半にコゲ付着。	樽式
第44図 PL.78	6	赤生土器 甕	胴部					粗砂。石英、結晶片岩/良好/にぶい褐色	内外面横篋ナデ整形。縞縞状文を施文する。	樽式
第44図 PL.78	7	赤生土器 甕	胴部下半					粗砂。石英、白色粒子、結晶片岩/良好/にぶい褐色	内外面横篋ナデ整形。	赤生時代後期
第44図 PL.78	8	赤生土器 甕	胴部					粗砂。石英、輝石、結晶片岩/良好/褐色	内外面横篋ナデ整形。	赤生時代後期
第44図 PL.78	9	須恵器 甕	胴部					細砂。石英/良好/灰色	外面タタキ痕、内面同心円状の当て具痕。	6世紀

遺物観察表

採 取 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考		
第44回 PL.78	10	赤生土器 甕	底部	高	(3.2)	底	7.6	粗砂。石英、角閃石/良好/にぶい褐色	外面縦篋ナデ整形。内面横篋ナデ整形。底面に刺圧痕。	弥生時代後期
第44回 PL.78	11	赤生土器 甕	胴部下半～底部	高	(5.8)	底	8.0	粗砂。石英、赤色粒子、結晶片岩/良好/にぶい褐色	外面縦篋ナデ整形。内面横篋ナデ整形。	弥生時代後期
第44回 PL.78	12	赤生土器 甕	底部	高	(5.2)	底	8.8	粗砂。石英、角閃石/良好/にぶい褐色	内外面縦篋ナデ整形。	弥生時代後期

8号竪穴建物

採 取 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考		
第46回 PL.79	1	赤生土器 甕	口縁部～胴部 上半	口 高	13.2 (13.0)			粗砂。石英、結晶片岩/良好/黒褐色	口唇部を鋭角に形成。外面を縦篋ナデ整形。内面を口縁部横篋ナデ、胴部縦篋ナデ整形。輪積み痕を若干残す。	弥生時代後期
第46回 PL.79	2	赤生土器 甕	口縁部～胴部					粗砂。石英、結晶片岩/良好/黒褐色	外面横篋ナデ整形。内面横篋ミガキ整形。口唇部に10mm幅4面の帯描波状文を施文する。頸部に8mm幅4面の帯描波状文、胴部下半に10mm幅8面の帯描波状文を施文する。	樽式
第46回 PL.79	3	赤生土器 甕	口縁部					粗砂。石英、結晶片岩/良好/黒褐色	内外面横篋ナデ整形を施す。	弥生時代後期
第46回 PL.79	4	赤生土器 甕	口縁部					粗砂。石英、結晶片岩/良好/黒褐色	内外面横篋ナデ整形。	弥生時代後期
第46回 PL.79	5	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英/良好/にぶい褐色	内外面横篋ナデ整形。口唇部が外側へくの字状に屈曲する。	弥生時代後期
第46回 PL.79	6	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英/良好/にぶい褐色	外面口唇部横篋ナデ整形。口縁部に外側ナデ整形を施す。内面横篋ナデ整形。口唇部が鋭角に形成される。	弥生時代後期
第46回 PL.79	7	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英/良好/にぶい褐色	外面横篋ナデ、内面縦ミガキ整形。口唇部を鋭角に形成する。	弥生時代後期
第46回 PL.79	8	赤生土器 甕	頸部					粗砂。石英、赤色粒子/良好/にぶい褐色	内面縦ミガキ整形。外面に三日月状の貼り付け。	弥生時代後期
第46回 PL.79	9	赤生土器 高坏	頸部					細砂。石英/良好/褐色	内外面縦ミガキ整形を施す。内面に若干の輪積み痕を残す。	弥生時代後期
第46回 PL.79	10	赤生土器 甕	頸部					細砂。石英、輝石/良好/褐色	外面縦篋ナデ整形。内面横篋ナデ整形を施す。	弥生時代後期
第46回 PL.79	11	赤生土器 甕	胴部					粗砂。石英、結晶片岩/良好/褐色	内外面横篋ナデ整形。外面にコゲ付着。	弥生時代後期
第46回 PL.79	12	赤生土器 甕	胴部～底部	高	(5.8)	底	6.0	粗砂。石英、結晶片岩/良好/にぶい褐色	内外面縦篋ナデ整形。	弥生時代後期
第46回 PL.79	13	赤生土器 甕	底部	高	(2.2)	底	5.4	粗砂。石英/良好/にぶい褐色	外面縦篋ナデ整形。内面横篋ナデ整形。	弥生時代後期

遺物包含層

採 取 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考		
第49回 PL.79	1	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、角閃石/良好/にぶい黒褐色	口縁部がくの字状に屈曲し、12mm幅10面の帯描波状文を1段、胴部に帯描波状文を施文。内外面縦ナデ整形。	樽式
第49回 PL.79	2	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、角閃石/良好/にぶい褐色	口唇部は外面が丸みを帯び、底部は鋭角に形成される。口縁部に8mm幅6面の帯描波状文を施文する。赤彩。	樽式
第49回 PL.79	3	赤生土器 甕	口縁部					粗砂。白色粒子、石英/良好/にぶい褐色	口縁部は外反し、口唇部に刻み文を施す。横篋ナデ整形。	樽式
第49回 PL.79	4	赤生土器 高坏	口縁部					細砂。石英/良好/黒褐色	口唇部がくの字状に外反する。内外面横ナデ整形。	樽式
第49回 PL.79	5	土師器 甕	口縁部～胴部					細砂。白色粒子、石英、角閃石/良好/褐色	口縁部が外へ屈曲し、口唇部は鋭角に形成され、内外面縦ナデ整形。	4世紀
第49回 PL.79	6	赤生土器 甕	胴部					細砂。石英、角閃石/良好/褐色	10mm幅6面の帯描波状文を上から下へ6段施文する。内外面縦ナデ整形。	樽式
第49回 PL.79	7	赤生土器 甕	胴部					細砂。石英、角閃石/良好/にぶい褐色	帯描波状文を施文し、外面にミガキ、赤彩を施す。	樽式
第49回 PL.79	8	赤生土器 甕	胴部					細砂。石英、角閃石/良好/にぶい褐色	帯描波状文を施文し、内外面横篋ナデ整形。	樽式
第49回 PL.79	9	赤生土器 甕	胴部					細砂。石英、角閃石/良好/にぶい褐色	帯描波状文、下に帯描波状文を施文。縦ナデ整形。	樽式

種 別 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石 材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第49区 PL.79	10	弥生土器 甕	胴部				粗砂。石英、片岩/ 良好/にぶい褐色	17mm幅9面の櫛描波状文を2段施文。外面コゲ付着。内 外面横篋ナデ整形。	樽式	
第49区 PL.79	11	弥生土器 甕	胴部				細砂。石英、角四 石/良好/にぶい褐色	10mm幅9面の櫛描波状文を3段、上から下へ施文。ボタ ン状の粘土を貼り付ける。内外面横篋ナデ整形、外面コ ゲが付着。	樽式	
第49区 PL.79	12	弥生土器 甕	胴部				粗砂。石英、片岩、 角四石/良好/にぶい 褐色	櫛描波状文を施文。内外面横篋ナデ整形。	樽式	
第49区 PL.79	13	弥生土器 甕	胴部				細砂。赤色粒子、 白色粒子、片岩/ 良好/にぶい褐色	10mm幅8面の櫛描波状文2連止め2段施文、下に櫛描 波状文を施文。横篋ナデ整形。	樽式	
第49区 PL.79	14	弥生土器 甕	胴部				粗砂。石英、片岩/ 良好/にぶい褐色	10mm幅7面の櫛描波状文、下に櫛描波状文を施文。	樽式	
第49区 PL.79	15	弥生土器 甕	胴部				細砂。石英、角四 石/良好/にぶい褐色	12mm幅6面の櫛描文をX状に施文。内外面横篋ナデ整形。	樽式	
第49区 PL.79	16	弥生土器 甕	胴部				細砂。白色粒子、 石英、片岩/良好/ にぶい褐色	櫛描波状文、下に10mm幅9面の櫛描文を山状に施文。 内外面横篋ナデ整形、外面コゲが付着。	樽式	
第49区 PL.79	17	弥生土器 甕	胴部				細砂。赤色粒子、 白色粒子、片岩/ 良好/にぶい褐色	外面横篋ケズリ整形。内面横篋ナデ整形。	樽式	
第49区 PL.79	18	弥生土器 高坏	胴部				細砂。石英、片岩、 角四石/良好/褐色	ナデ整形。	弥生時代後期	
第49区 PL.79	19	弥生土器 甕または壺	底部	高	(3.2)	底	5.0	粗砂。石英、角四 石/良好/にぶい褐色	内外面横篋ナデ整形。内面に赤色顔料が付着する。	樽式
第49区 PL.80	20	弥生土器 甕	胴部～底部	高	(17.0)	底	11.6	粗砂。白色粒子、 石英、角四石/良 好/褐色	外面横篋ナデ整形。内面は剥落顕著。	弥生時代後期
第49区 PL.79	21	使用痕ある剥 片	完形	長 幅	4.0 5.6	厚 重	1.0 29.7	硬質泥岩	幅広の小形剥片を用いる。刃部は剥片端部にあり、浅 く刈こぼれる。裏面側には窪面が大きく残る。	

## 遺物外

種 別 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石 材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第50区 PL.80	1区	弥生土器 甕	口縁部～胴部				粗砂。石英/良好/ 褐色	櫛描波状文施文。横篋ナデ整形。	樽式	
第50区 PL.80	2区	弥生土器 甕	口縁部～胴部				粗砂。石英、輝石/ 良好/褐色	横篋ナデ整形。	樽式	
第50区 PL.80	1区	弥生土器 台付甕	胴部				粗砂。石英、輝石/ 良好/褐色	2～3帯の櫛描波状文を12mm幅9面で施文する。篋 ナデ整形。	樽式	
第50区 PL.80	1区	弥生土器 甕	胴部				細砂。石英/良好/ 褐色	櫛描波状文、下に櫛描波状文を4段施文、櫛描 波状文は7mm幅。櫛描波状文は10mm幅9面。篋ナ デ整形を施す。	樽式	
第50区 PL.80	1区	弥生土器 甕	底部	高	(2.2)	底	9.0	粗砂。石英、輝石/ 良好/褐色	篋ナデ整形。	樽式
第50区 PL.80	2区	弥生土器 甕	口縁部				細砂。白色粒子、 石英/良好/褐色	櫛描波状文を時計回りに施文。施文幅は厚減によ り不明。横篋ナデ整形。	樽式	
第50区 PL.80	2区	弥生土器 甕	口縁部				細砂。白色粒子、 石英/良好/にぶい 褐色	櫛描波状文施文。施文幅は厚減により不明。横篋 ナデ整形。	樽式	
第50区 PL.80	2区	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。白色粒子、 石英/良好/褐色	櫛描波状文下位に8mm幅6面の櫛描波状文を施文。 内外面横篋ナデ整形。	樽式	
第50区 PL.80	2区	弥生土器 甕	口縁部				細砂。石英、輝石/ 良好/赤褐色	赤彩。内外面横篋ミガキ整形。	樽式	
第50区 PL.80	2区	弥生土器 高坏	口縁部				粗砂。石英、輝石 少/良好/にぶい褐色	横篋ナデ整形。口縁部指頭痕。	樽式	
第50区 PL.80	2区	土師器 甕	口縁部～胴部				細砂。石英/良好/ にぶい褐色	放射状の篋ミガキ整形。	4世紀	
第50区 PL.80	2区	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。白色粒子、 石英、輝石/良好/ にぶい褐色	赤彩。内外面横篋ミガキ整形。	樽式	
第50区 PL.80	2区	弥生土器 甕	口縁部				細砂。石英、輝石/ 良好/にぶい褐色	赤彩。内外面横篋ミガキ整形。	樽式	
第50区 PL.80	2区	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。石英、角四 石少/良好/にぶい 褐色	横篋ナデ整形。	弥生時代後期	
第50区 PL.80	2区	弥生土器 甕	口縁部				粗砂。石英、角四 石少/良好/にぶい 褐色	口唇部端部を鋭角に整形。横篋ナデ整形。	弥生時代後期	

遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第50区 PL.80	2区 11	赤生土器 甕	胴部				細砂。白色粒子、 石英/良好/黒褐色	柳摺波状文下位に8mm幅6歯の柳摺波状文を2段施 文。横溝ナデ整形。	樽式	
第50区 PL.80	2区 12	赤生土器 甕	胴部				細砂。石英、片岩 /良好/にぶい/黄褐色	10mm幅8歯柳摺波状文下位に10mm幅8歯の柳摺波状 文を4段施文。外面横溝ナデ整形。内面横溝ミガ キ整形。	樽式	
第50区 PL.80	2区 13	赤生土器 甕	胴部				細砂。石英、片岩 /良好/黄褐色	10mm幅8歯柳摺波状文を2段施文し、下位に12mm幅 9歯の柳摺波状文を施文。	樽式	
第50区 PL.80	2区 14	赤生土器 甕	頸部				細砂。石英、片岩 /良好/褐色	15mm幅7歯の柳摺波状文施文後、懸垂文施文。	樽式	
第50区 PL.80	2区 15	赤生土器 甕	胴部				細砂。白色粒子、 石英/良好/にぶい 褐色	柳摺波状文施文。風化により規模不明。横溝ナデ 整形。	樽式	
第50区 PL.80	2区 16	赤生土器 高坏	胴部				細砂。石英、角閃 石/良好/褐色	調整は風化しており、不明瞭。粗雑な作り。	赤生時代後期	
第50区 PL.80	2区 17	赤生土器 甕	底部	高	(3.7)	底	8.1	粗砂。石英、輝石 /良好/褐色	内面コゲ付着。	樽式
第50区 PL.80	2区 18	赤生土器 甕	底部					細砂。石英、角閃 石少/良好/にぶい 褐色	寛ナデ整形。	赤生時代後期
第51区 PL.80	3区 1	赤生土器 甕	口縁部					粗砂。石英、角閃 石/良好/にぶい 褐色	口縁部に柳摺波状文を15mm幅6歯で施文。内外面 横溝ナデ整形。	樽式
第51区 PL.80	3区 2	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、角閃 石/良好/褐色	口縁部を鋭角に整形。横溝ナデ整形。	赤生時代後期
第51区 PL.80	3区 3	赤生土器 甕	口縁部					粗砂。石英、白色 粒子、赤色粒子/ 良好/にぶい/褐色	口縁部に有段口縁を形成。	樽式
第51区 PL.80	3区 4	赤生土器 甕	胴部					粗砂。石英、角閃 石/良好/にぶい 褐色	2～3帯の柳摺波状文を12mm幅6歯で施文する。寛 ナデ整形。	樽式
第51区 PL.80	3区 5	赤生土器 甕	胴部					細砂。石英、角閃 石/良好/にぶい 褐色	半穴線状の柳摺波状文を施文、内外面寛ナデ整形。	樽式
第51区 PL.80	3区 6	赤生土器 甕	胴部					粗砂。石英/良好/ にぶい/褐色	柳摺波状文、下位に柳摺波状文を4段10mm幅8歯で 施文。寛ナデ整形。内面削落。	樽式
第51区 PL.80	3区 7	赤生土器 甕	胴部					粗砂。石英、角閃 石/良好/にぶい 褐色	柳摺波状文、下位に8mm幅6歯の柳摺波状文を施文。 寛ナデ整形。	樽式
第51区 PL.80	3区 8	赤生土器 甕	頸部					細砂。石英、角閃 石/良好/赤褐色	6mm幅4歯の柳摺波状文を上から下へ4段施文。内 面寛ミガキ整形。	樽式
第51区 PL.80	3区 9	赤生土器 甕	胴部					細砂。石英、角閃 石/良好/にぶい 褐色	口縁部に柳摺波状文を8mm幅6歯で施文。外面縦ケ ズリ。内面横ナデ整形。	樽式
第51区 PL.80	3区 10	赤生土器 甕	頸部					細砂。石英、角閃 石/良好/褐色	柳摺波状文を施文1連止め。内外面寛ナデ整形。	樽式
第51区 PL.80	3区 11	赤生土器 甕	胴部					細砂。石英、角閃 石/良好/にぶい 褐色	山状の柳摺波文を施文。寛ナデ整形。	樽式
第51区 PL.80	3区 12	赤生土器 甕	胴部					細砂。輝、石英/ 良好/にぶい/褐色	内外面横ナデ整形を施し、外面に工具痕を残す。	樽式
第51区 PL.80	3区 13	赤生土器 甕	胴部					細砂。石英、角閃 石/良好/褐色	内外面寛ナデ整形。	樽式
第51区 PL.80	3区 14	赤生土器 甕	底部	高	(1.8)	底	2.6	粗砂。石英、角閃 石/良好/にぶい 褐色	底面に貫孔。内外面寛ナデ整形。	赤生時代後期
第51区 PL.80	3区 15	赤生土器 甕	底部	高	(2.3)	底	4.0	細砂。石英、角閃 石/良好/にぶい 褐色	内外面寛ナデ整形。	樽式
第51区 PL.80	3区 16	赤生土器 甕	底部	高	(4.4)	底	7.0	細砂。石英、角閃 石/良好/にぶい 褐色	内外面寛ナデ整形。	樽式
第51区 PL.81	5-3区 1	赤生土器 甕	口縁部					粗砂。石英中/良 好/褐色	内外面横ナデ整形。	赤生時代後期
第51区 PL.81	5-3区 2	赤生土器 甕	胴部					細砂。石英、結晶 片/良好/褐色	外面に縦ミガキ整形、内面に横ミガキ整形を施す。	赤生時代後期
第51区 PL.81	5-4区 1	赤生土器 甕	頸部～胴部					細砂。石英、結晶 片/良好/黒褐色	外面縦ナデ、内面横ナデ整形。頸部に8mm幅6歯の 柳摺波状文を等間隔に施文する。	樽式2期新段 階
第51区 PL.81	5-5区 1	赤生土器 台付甕	頸部					粗砂。石英、結晶 片/良好/にぶい 褐色	外面縦ナデ整形。内面横ナデ整形。	赤生時代後期
第51区 PL.81	5-5区 2	土師器 甕	胴部					細砂。石英、結晶 片/良好/にぶい 褐色	内外面ミガキ整形。胴部を縦位に寛ナデ整形。全 体的に摩滅明瞭。	7世紀

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第51図 PL.81	5-5区 3	赤生土器 甕	頸部				粗砂、石英、結晶 片岩/良好/褐色	10mm幅8面の縞描波状文を3帯施文する。内外面横 溝ナデ整形。	樽式	
第51図 PL.81	6-1区 1	赤生土器 甕	口縁部～頸部				粗砂、石英/良好/ 褐色	口唇部は鋭角に整形。内外面横溝ナデ整形を施す。 頸部に縞描波状文を施文。	赤生時代後期	
第51図 PL.81	6-1区 2	赤生土器 甕	口縁部				粗砂、石英、結晶 片岩、角閃石/良 好/にぶい褐色	口唇部上端に沈線を施文する。外面を縦溝ナデ整 形、内面を横溝ナデ整形する。	赤生時代後期	
第51図 PL.81	6-1区 3	赤生土器 甕	胴部上半				粗砂、石英、赤色 粘土、角閃石、結 晶片岩/良好/橙 色	10mm幅の縞描波状文を3帯施文する。外面やや風 化する。内面に縦溝ナデ整形を施す。	赤生時代後期	
第51図 PL.81	6-1区 4	赤生土器 甕	胴部				粗砂、石英/良好/ にぶい黄褐色	内外面に横溝ナデ整形を施す。胴部外面に吹きこ ぼれたようなコゲ付着が付着する。内面に輪積み 痕を残す。	赤生時代後期	
第51図 PL.81	6-1区 5	赤生土器 甕	胴部下半～底 部	高	(13.8)	底	8.0	粗砂、石英、結晶 片岩/良好/にぶい 褐色	外面縦溝ナデ整形。内面横溝ナデ整形。内外面に 帯状のスス付着。	赤生時代後期
第51図 PL.81	6-5区 1	赤生土器 甕	口縁部				粗砂、石英/良好/ にぶい褐色	内外面横ナデ整形。口縁部が内側へ折り返されて いる。	赤生時代後期	

遺物観察表

古墳時代～平安時代

9号整穴建物

種別 PL.No.	No.	種類 種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第54回 PL.81	1	土師器 環	1/2欠損	口 高	(12.0) (4.7)	細砂。石英、結晶 片岩/良好/にぶい、 淡黄褐色	外面口縁部に横ナデ、胴部に手持ち縄ケズリ整形、内 面に横縄ナデ整形を行う。	7世紀
第54回 PL.81	2	土師器 環	一部欠損	口 高	(12.0) 4.9	細砂。石英、結晶 片岩/良好/にぶい、 淡黄褐色	外面口縁部に横ナデ、胴部に手持ち縄ケズリ整形、内 面に横縄ナデ整形を行う。	7世紀
第54回 PL.81	3	土師器 鉢	口縁部～胴部	口	(11.0)	細砂。石英、結晶 片岩/良好/にぶい、 褐色	口唇部内面が若干外側に肥厚する。口縁部横ナデ整形、 胴部手持ち縄ケズリ整形。内面横ナデ整形。	7世紀
第54回 PL.81	4	土師器 鉢	口縁部～胴部	口	(13.8)	細砂。石英/良好/ 褐色	口縁部横ナデ整形を施す。口縁部と胴部の境に段を形 成し、胴部上半に縦縄ケズリ整形を施す。内面に横ナ デ整形を施す。	7世紀
第54回 PL.81	5	土師器 鉢	一部欠損	口 高	(11.8) (9.0)	5.0 粗砂。結晶片岩、 石英/良好/褐色	胎土は茶く、やや雑な作り。口縁部外面を横縄ナデ整 形。外面をナデ整形を施すが、整形が荒く、起伏がみ られる。胴部には指痕が明確に残る。底面に靴物状 の圧痕がみられる。	7世紀
第54回 PL.81	6	土師器 鉢	口縁部～胴部	口 高	(14.4) 10.0	(8.8) 細砂。石英/良好/ 褐色	口縁部横ナデ整形。口縁部と胴部の境を有段状に形 成する。胴部に縦縄ケズリ整形を施す。内面に横縄ケ ズリ整形を施す。	7世紀
第54回 PL.81	7	土師器 甗	口縁部～胴部 上半	口	(15.8)	細砂。石英/良好/ 褐色	口縁部横ナデ整形を施す。口縁部と胴部の境に段を形 成し、胴部上半に縦縄ケズリ整形を施す。内面に横ナ デ整形を施す。	7世紀
第54回 PL.81	8	土師器 甗	一部欠損	口 高	(15.6) 20.7	6.3 粗砂。石英、結晶 片岩/良好/にぶい、 褐色	口縁部内外面横縄ナデ整形。胴部外面に縦縄ケズリ 整形。内面胴部上半横縄ケズリ整形。下半に縦縄ナ デ整形を施す。外面胴部下半は火熱により摩滅。白色粘 土が付着する。	7世紀
第54回 PL.81	9	土師器 甗	口縁部～胴部	口 高	(24.0) (15.3)	粗砂。石英、結晶 片岩/良好/褐色	口縁部内外面横縄ナデ整形。胴部内外面に縦縄ケズリ 整形。	7世紀
第54回 PL.81	10	土師器 甗	底部	底	(10.0)	細砂。石英、赤色 粒子/良好/にぶい、 褐色	内外面横縄ケズリ整形を施す。底部端部は扁平に整形 される。	7世紀

10号整穴建物

種別 PL.No.	No.	種類 種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第56回 PL.81	1	土師器 甗	口縁部～胴部	口 高	(16.0) (16.4)	粗砂。石英、角閃 石/良好/にぶい、 褐色	口縁部S字口縁。口縁部横縄ナデ整形。胴部上半横 縄ナデ整形。下半縦縄ナデ整形。	4世紀
第56回 PL.81	2	土師器 高環	脚部	高	(8.6)	11.0 粗砂。白色粘土、 石英、角閃石/良 好/にぶい、褐色	脚部端部は外反し、大きく開く。外面には縦位の縄ミ ガ半整形を伴うが、剥落により全体的な様相は不明瞭。 外面赤形を施す。	4世紀
第56回 PL.81	3	弥生土 深鉢	底部	高	(3.5)	(10.0) 粗砂。石英、角閃 石/良好/褐色	内外面横縄ナデ整形。	4世紀

遺構外

種別 PL.No.	No.	種類 種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第58回 PL.81	1 (2区)	土師器 甗	口縁部				細砂。角閃石/良 好/にぶい、褐色	S字口縁。胴部縦縄ケズリ整形。	4世紀
第58回 PL.81	2 (2区)	土師器 環	口縁部～底部	口 高	12.0 (3.3)		細砂。角閃石/良 好/褐色	口縁部が直立し、底部は丸みを帯びる。口縁部は 縄ナデ整形。底部は縄ケズリ整形。	5世紀
第58回 PL.81	3 (4区)	土師器 高環	脚部	高	(3.3)	6.9 粗砂。石英、角閃 石/良好/褐色	脚部は大きく外反し、外面に縦縄ナデ整形、外面 端部と内面に横縄ナデ整形を施す。	4世紀	
第58回 PL.81	4 (2区)	土師器 甗	口縁部				細砂。角閃石、石 英/良好/褐色	縄ナデ整形。口縁部がやや外反気味。	古代
第58回 PL.81	5 (2区)	土師器 甗	口縁部				細砂。角閃石/良 好/にぶい、褐色	口縁部を短く整形。内外面横縄ナデ整形。	4世紀
第58回 PL.81	6 (3区)	土師器 甗	口縁部				細砂。石英/良好/ 褐色	横縄ナデ整形。内面に段を有する。	10世紀
第58回 PL.81	7 (3区)	土師器 環	口縁部				粗砂。石英、輝石 /良好/にぶい、褐色	ナデ整形。	古代

## 中世以降

## 導水管

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm kg)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
PL-82	1	石樋	完形	長幅	92.0 28.8	高重	17.5 50.0	牛伏砂岩	外面：内側面を直線的に、底部は屋根型に加工、ノミ状工具で全面を粗く研っている。 内面：縁から9.5cm程を箱状に括る。内面加工は直線的に斜向、先端の細いノミで綺麗に整形されている。 上面の縁（幅24.5cm）は板石が巧く載る様に平坦に仕上げられている。
PL-82	2	石樋	完形	長幅	65.0 28.5	高重	20.8 38.3	牛伏砂岩	外面：外側面は平ノミで研り加工。底部は磨りみ、全体として方卓コ状を呈する。 内面：縁から8.3cm程を箱状に括る。内面加工は先端的に斜向、先端の細いノミで綺麗に整形する。上面の縁（幅24.8cm）は板石が巧く載る様に平坦に作られる。
PL-82	3	石樋蓋石	完形	長幅	40.5 28.0	高重	7.8 9.7	牛伏砂岩	蓋石の外面は分割しただけで未加工、蓋石内面は平ノミで平坦になるよう丁寧に研っている。

## 1号溝

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第60号 PL-83	1	肥前陶器 刷毛白磁	口縁部1/2欠	口高	9.8 6.5	底	4.6	にぶい赤褐色	内面と口縁部から体部外面に白土による刷毛目。高台底部を除き透明釉。	江戸時代

## 6号溝

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第60号 PL-85	1	磨石	1/4	長幅	(4.8) (4.75)	厚	(1.2) 26.3	牛伏砂岩	屈状を呈し、3/4欠損する。断面は比較的扁平状を呈する。折損部以外は磨面として摩滅が顕著である。

## 2号溝

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第62号 PL-83	1	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英中/良好/にぶい褐色	口縁部は外反し、口唇部はくの字に屈曲。内外面鏡ミガキ。口唇部上端刻みを施す。	樽式
第62号 PL-83	2	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、輝石中/良好/にぶい褐色	口唇部端部を鋭角に形成し、口縁部は外反。内外面鏡ミガキ。口縁部に8mm幅6面の磨描波状文を2列施し、下位磨描波状文は摩滅により不明。	樽式
第62号 PL-83	3	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、角閃石少/良好/褐色	口縁部は外反。内外面鏡ミガキ。口唇部に8mm幅6面の磨描波状文を1列施す。	樽式
第62号 PL-83	4	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、角閃石少/良好/褐色	口縁部は外反。内外面鏡ミガキ。口唇部に8mm幅6面の磨描波状文を1列施す。	樽式
第62号 PL-83	5	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、角閃石少/良好/褐色	口唇部端部を鋭角に形成し、口縁部は外反。内外面鏡ミガキ。	樽式
第62号 PL-83	6	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英、角閃石少/良好/にぶい褐色	口唇部は比較的鋭角で、内面にへこみを認められる。口縁部は外反。内外面鏡ミガキ。口唇部内面に凹線状のへこみを有する。	樽式
第62号 PL-83	7	赤生土器 甕	口縁部					細砂。石英/良好/にぶい褐色	口唇部に刻みを施す。内外面鏡ナデ整形。	樽式
第62号 PL-83	8	赤生土器 壺	口縁部					細砂。石英少/良好/赤色	内外面赤彩。鏡ミガキ整形。	樽式
第62号 PL-83	9	赤生土器 甕	頸部					細砂。石英少/良好/にぶい褐色	10mm幅8面の磨描波状文を2段施文。内面横鏡ナデ整形。	樽式
第62号 PL-83	10	赤生土器 甕	胴部					粗砂。石英、輝石少/良好/にぶい褐色	磨描波状文下位に8mm幅6面の磨描波状文を4段施文。内面横鏡ナデ整形。	樽式
第62号 PL-83	11	赤生土器 甕	胴部					細砂。石英少/良好/褐色	10mm幅8面の磨描波状文を施し、下位に10mm幅8面の磨描波状文を2段施文。	樽式
第62号 PL-83	12	赤生土器 甕	胴部					細砂。石英、角閃石少/良好/にぶい褐色	磨描波状文10mm幅9面で施文、下位に8mm幅6面の磨描波状文を施文。	樽式
第62号 PL-83	13	赤生土器 付台甕	頸部~胴部					細砂。石英、片岩少/良好/にぶい褐色	15mm幅9面の磨描波状文を施文、下位に10mm幅8面の磨描波状文を施文。	樽式
第62号 PL-83	14	赤生土器 甕	胴部					細砂。石英/良好/にぶい褐色	10mm幅8面の磨描波状文を施し、下位に18縄文を施文する。	樽式
第62号 PL-83	15	赤生土器 甕	胴部					細砂。石英中/良好/にぶい褐色	8mm幅6面の磨描波状文を30mm間隔の2連止めで施文し、下位に10mm幅8面の磨描波状文を2段施文。内外面横鏡ナデ整形。	樽式
第62号 PL-83	16	赤生土器 甕	胴部					粗砂。石英、輝石少/良好/にぶい褐色	磨描波状文、下位に8mm幅6面の磨描波状文を施文。横鏡ナデ整形。	樽式
第62号 PL-83	17	赤生土器 甕	頸部					粗砂。石英、輝石少/良好/にぶい褐色	10mm幅8面の磨描波状文を施し、下位に10mm幅8面の磨描波状文を2段施文。内外面横鏡ナデ整形。	樽式

遺物観察表

種別 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第62回 PL.83	18	赤生土器 甕	胴部				細砂。石英、輝石 中/良好/にぶい 褐色	内外面横筒ナデ整形。楕圓状文を施文。下半部に火 熱による剥落。	樽式	
第62回 PL.83	19	赤生土器 甕	頸部				粗砂。石英、輝石 少/良好/にぶい 褐色	10cm幅8mmの楕圓波状文を2段施文し、ボタン状の貼り 付けを施す。内外面横筒ナデ整形。	樽式	
第62回 PL.83	20	赤生土器 壺	胴部				細砂。石英、輝石 中/良好/褐色	内外面横筒ミガキ整形。赤彩。	樽式	
第62回 PL.83	21	赤生土器 壺	胴部				細砂。石英、角閃 石少/良好/にぶい 褐色	外面横筒ミガキ。赤彩。	樽式	
第62回 PL.83	22	赤生土器 甕	底部				粗砂。石英、輝石 /良好/褐色	筒ナデ整形。	樽式	
第62回 PL.83	23	赤生土器 高坏	脚部	高	(4.5)	底	4.8	細砂。石英、角閃 石/良好/黄褐色	摩滅により調整不明瞭。	赤生時代後期
第62回 PL.83	24	赤生土器 高坏	脚部					細砂。石英、角閃 石/良好/褐色	外面に横ナデ整形。	赤生時代後期
第62回 PL.83	25	在地系土器 彫形土器	口縁部片					灰黄色	口縁部部厚内面は小さく折り返す。	近現代
第62回 PL.83	26	砥石	欠損	長 幅	(6.3) 3.6	厚 重	1.65 56.1	砥沢石	平面形と横断面は、長方形を呈する。縦断面は磨り 面が細く、ロート状を呈する。全面に磨り面が認 められ、表面と側面に被覆状の磨り面が認められる。	

4号溝

種別 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第65回 PL.83	1	瀬戸・美濃陶器 丸甕	No19 1/3					灰黄褐色	内面から体部外面下位に灰釉。口縁部歪に著しい。	17世紀～18 世紀前半	
第65回 PL.83	2	瀬戸・美濃陶器 染付壇反碗	一括 1/4			底	(3.6)	白色	外面や口縁略化した染付。底部内面1重圈線内に花卉 文か。	19世紀前半 中葉	
第65回 PL.83	3	瀬戸・美濃陶器 染付壇反碗	一括 1/4	口 高	(9.6) 5.2	底	(3.2)	白色	外面に簡略化した染付。口縁部内面に2重圈線。底部 内面周縁に不明瞭な1重圈線。	19世紀前半 中葉	
第65回 PL.83	4	肥前磁器 染付碗	No4 口縁部～底部	口 高	(10.8) 5.5	底	4.3	白色	外面に山水文。高台内「富明年製」	17世紀中葉～ 後葉	
第65回 PL.83	5	肥前陶器 器手碗	No44 底部1/3					(4.4)	浅黄色	高台内の扱りは浅い。高台端部を除き細かい貫入の入 る透明釉。	17世紀後半～ 18世紀前半
第65回 PL.83	6	肥前陶器 陶胎染付碗	No41 底部					5.2	灰白色	外面に3条の圈線。高台端部を磨って平坦に加工。	18世紀前半
第65回 PL.83	7	肥前磁器 染付碗	No29 底部					4.0	白色	器壁は薄い。外面下位に波濤文。内面は無文。	18世紀前半 中葉
第65回 PL.83	8	肥前磁器 染付小丸甕	口縁部1/2、 底部完	口 高	(8.8) 5.2	底	3.5	灰白色	外面に若松文。口縁部内面に2重圈線。底部内面1重圈 線内に簡略化した五弁花。	18世紀中葉～ 後葉	
第65回 PL.83	9	肥前磁器 染付小丸甕	一括 3/5	口 高	(8.6) 5.3	底	3.4	白色	底部2ヶ所に稲穂、1ヶ所に鳥を描く。底部内面に鬘を 描く。	18世紀後半～ 19世紀前半	
第65回 PL.83	10	肥前磁器 染付壇反碗	一括 1/3	口 高	(9.4) 4.5	底	(4.2)	白色	外面に海浜風景を描く。口縁部外面と底部内面周縁に 2重圈線。見込みに不明文様。	19世紀前半 中葉	
第65回 PL.83	11	肥前磁器 染付小碗	No36 口縁部1/2					(8.0)	灰白色	焼成不良。外面の染付不鮮明。内面無文。	江戸時代
第65回 PL.83	12	肥前磁器 染付筒形碗	一括 口縁部1/3					(8.2)	白色	外面植物文。口縁部内面2重圈線。	18世紀中葉～ 後葉
第65回 PL.83	13	製作地不詳磁 器 染付碗	一括 1/2	口 高	(10.2) 4.7	底	(3.4)	灰白色	底部内面周縁の圈線を除き型摺り。	近現代	
第65回 PL.84	14	製作地不詳磁 器 染付碗	揃瓦 口縁部1/3欠	口 高	11.0 5.0	底	3.4	灰白色	底部内面周縁の圈線を除き型摺り。	近現代	
第65回 PL.84	15	瀬戸・美濃陶器 志野丸皿	No5 口縁部1/3、 底部3/4	口 高	(11.8) 2.0	底	(7.0)	灰白色	内面から高台内側に長石釉。底部内面と底部外面に3ヶ 所の目跡。	17世紀中葉～ 後葉	
第65回 PL.84	16	瀬戸・美濃陶器 輪壳皿	No16 口縁部1/3欠	口 高	13.2 3.4	底	6.2	灰白色	口縁部は外反。内面から体部外面中に灰釉。底部周 縁に明瞭な段差を有し、段差部分の輪を輪状に掻き取 る。	17世紀中葉	
第65回 PL.84	17	瀬戸・美濃陶器 輪壳皿	No46 底部					6.5	灰白色	底部内面周縁に低い段差。内面から体部外面下位に透 明釉に近い灰釉。段差外方輪を輪状に掻き取る。	17世紀～18 世紀前半
第65回 PL.84	18	瀬戸・美濃陶器 皿	一括 1/2	口 高	(14.6) 3.7	底	(7.8)	灰白色	内面から高台部に灰釉。底部内面に重ねぬき痕。	17世紀	
第65回 PL.84	19	肥前磁器 染付皿	No23 底部					8.8	白色	内面に海浜風景を描く。残存部割れ口に漆状付着物が 認められ、接離の可能性が高い。	17世紀～18 世紀
第65回 PL.84	20	瀬戸・美濃陶器 小鉢	一括 口縁部一部欠	口 高	11.3 4.6	底	5.0	白色	高台部の圈線を除き、内外面は型摺り。	近現代	
第65回 PL.84	21	肥前磁器 染付灰吹か	一括 口縁部欠					4.3	白色	外面花と唐草文。	18世紀～19 世紀前半

挿入 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第66図 PL.84	22	瀬戸・美濃陶器 徳利	No32 体部下位以下 1/2		底	5.3	黄褐色	体部外面胎釉。内面と底部外面無釉。底部外面回転段ケズリ。	江戸時代	
第66図 PL.84	23	瀬戸・美濃陶器 徳利	No47 胴部～底部 1/2		底	(12.0)	暗褐色	底部外面右回転糸切痕、周縁を回転段ケズリ。体部外面胎釉。	江戸時代	
第66図 PL.84	24	在地系土器か 火消志か	No49 1/4欠	口 高	22.4 16.4 17.3	底	19.4	褐色	底部外面板状狂痕。左回転軸整形。内面上部器表は部分的に黒変。	近現代
第66図 PL.85	25	瀬戸・美濃陶器 平胴瓶	一括 口縁部～体部 1/4					黄褐色	口縁部内面下位縁は水平に突き出る。外面に2条の凹線。	18世紀中葉～ 後葉
第66図 PL.85	26	在地系土器 鉢形鍋	No1 口縁部～底部 1/6	口 高	(29.8) 13.2	底	15.8	黒褐色	口縁部内面下位縁は段。平底。体部外面粗作り痕残る。外面煤付着。	江戸時代
第66図 PL.84	27	堺陶器 すり鉢	No25,26,42 1/2	口 高	(28.0) 9.5	底	(13.0)	にぶい赤褐色	口縁部厚く、口縁部内面の突起は低く丸い。底部内面のすり目はワールマーク状。	18世紀後葉～ 19世紀初葉
第66図 PL.84	28	丹波陶器 すり鉢	No14 口縁部～体部	口 高	(33.8)			暗褐色	口縁部端部細く立ち上がる。口縁部内面に段差。体部外面粗作り痕状の凹凸。	17世紀末～ 18世紀前葉
第66図 PL.85	29	在地系土器 焙烙	一括 口縁部1/5	口 高	(32.5)	底	(33.6)	褐色	口縁部内面に屈曲する。丸底。内耳は1ヶ所残存。底部外面周縁段ナデ。	近現代
第66図 PL.85	30	在地系土器 焙烙	No1 口縁部～底部 片	口 高	(38.0) 5.6	底	(33.4)	にぶい黄褐色	断面は黒色。器表付近は灰白色。器表は黒色。体部外面下端から底部外面器表は灰白色。外面中位に粗作り痕。内耳は口縁部内面から底部内面に貼り付ける。器壁やや厚い。	江戸時代
第66図 PL.85	31	在地系土器 焙烙	一括 口縁部～体部 片					にぶい黄褐色	体部内湾。口縁部平坦。外面下位は輪縁状を呈する。	江戸時代
第67図 PL.85	32	在地系土器 十能	No50 身			幅	13.7	にぶい黄褐色	器表黄灰色。外型成型のようで、外面に輪縁状痕が残る。内外面はナデ。屈曲部と端部は段状工具による丁寧なナデ。	江戸時代以降
第67図 PL.85	33	土製品 泥メンコ (鯛)	一括 完形	長 径 厚	3.3 0.7	短 径	3.1	褐色	片面の型で背を丸めた鯛を抜き、素焼きを行う。	江戸時代以降

挿入 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第67図 PL.85	34	鉄貨 寛永通寶	完形	外 径 内 径	2.315 1.873	厚 重	0.130 1.7	無/0	文字が錆詰まりをしており、見えづらい。背の彫は浅いが輪、郭は明瞭。
第67図 PL.85	35	鉄製品 鎌	一部欠損	長 幅	(11.7) 3.3	厚 重	0.4 52.0	有/20	刃部の先端と柄の接続部が欠損する。江戸時代等で見られる柄の接続部を釘で留める形の鎌とみられる。
第67図 PL.85	36	鉄製品 釘	一部欠損	長 幅	(4.0) 0.6	厚 重	0.5 2.7	無/15	頭部が一部欠損する釘。やや変形が見られる。

挿入 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第67図 PL.85	37	石臼(上)	欠損	径	(39.0)	高 重	7.0 2140	粗粒輝石安山岩	文庫は摩滅により不明。凹み、縁部分は著しくすり込まれており、平坦面になっている。供給は方形状に加工され、縁面は上に開口する形で整形されている。摩滅が著しい。芯棒受けは円形状に直径5cm深さ2.5cmを測る。磨り痕は確認できない。下臼との接地面は文庫は摩滅により不明。やや反り返る。
第67図 PL.85	38	石臼(上)	欠損	長 幅	(16.8) (21.2)	厚 重	(12.0) 5100	牛伏砂岩	火熱による割傷が著しく、また部分的であるため、文庫や供給口は確認できない。芯棒受けは直径は不明であるが、円形状を呈し、深さ3.0cmを測る。下臼との接地面はやや反り返り、摩滅が認められる。
第67図 PL.85	39	砥石	欠損	長 幅	(4.4) (2.8)	厚 重	(2.7) 62.2	砥沢石	平面形と断面は、長方形状を呈する。全面に磨り面が認められ、表面に線刻状の磨り痕が認められる。欠損により本来の規模は不明である。

## 5号溝

挿入 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第68図	1	肥前福屋 染付陶形碗	口縁部片				白色	外面に植物文。口縁部内面に3重凹線。底部内面周縁1条以上の凹線。	18世紀中葉～ 後葉

遺物観察表

土坑・ピット

検出 No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
検出 No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm g)	メタル/磁性 (mm)	成形・整形の特徴	備考	
第750 PL.85	9 1	鉄製品 釘	ほぼ完形	長幅 4.3 厚 0.5 重 0.4 2.4	無/15	頭部が折り返される前の釘。わずかに頭部が欠損している。		
第750 PL.85	9 2	銭貨 治平元寶	一部欠損	外径 2.400 内径 1.844 厚 2.2	有/0	篆書体。全体に劣化が見られる。彫は深い。文字が露出しており、はっきりと見えづらい。背の郭は取れ。		
第750 PL.85	23 1	在地系土器 内耳瀬	No1 口縁部片		にぶい黄褐色	器壁や厚く、器高は低い。口縁部は外傾する。	15世紀末～ 16世紀中葉	
第750 PL.85	59 1	在地系土器 火鉢	No1、一括 下半1/3		底 (20.2)	灰白色	外面黒色で丁寧に磨く。外面施文。	近世～近代
第750 PL.85	59 1	瀬戸・美濃陶器 片口鉢か	一括 口縁部			灰白色	口縁部内面から外面に筋軸。口縁部付近に藁灰軸。片口部は残存しない。	17世紀後葉～ 18世紀前葉か
第750 PL.85	59 3	鉄製品 鎌	一部欠損	長幅 4.5 厚 0.5 重 6.6	無/10	3つに割れており、接合部は見られないが同一個体とみられる。柄がつくが、柄は欠損している。		
第750 PL.85	59 4	鉄製品 鎌か	1/2	重 28.7	無/5	刃と見られる一部が確認されるが、劣化による形状変化が見られはっきりとしない。両端部が欠損する。		
第750 PL.85	60 1	肥前磁器 小丸碗	一括 底部	底 (17.6)		灰白色	体部外面下位と高台境1重圓縁。底部内面2重圓縁内に簡略化した五弁文。	18世紀中葉～ 後葉
第750 PL.85	60 2	鉄製品 不明	1/2	長幅 7.0 厚 1.9 重 0.7 20.6	有/20		両端に切欠があり、持ち手などを装着していたか。月子の刃のように薄くなる構造を持っているが詳細不明。	
第760 PL.85	61 1	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	一括 口縁部1/5	口 (32.8)		にぶい赤褐色	口縁部下位で小さく屈曲する。内外面筋軸。	18世紀後葉
第760 PL.85	61 2	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	一括 底部1/4		底 (11.4)	赤褐色	底部右回転系切無調整。内外面筋軸。	江戸時代
第760 PL.85	63 1	肥前磁器 器手碗	底部片	底 (4.2)		灰黄色	高台内の扱いは深い。高台輪で体部を人為的に打ち欠いている可能性あり。	17世紀中葉～ 後葉
第760 PL.85	63 2	鉄製品 包丁	一部欠損	長幅 12.2 厚 4.9 重 40.2	無/5		刃と葉の一部が残存する。あごが3mmほどの反りが見られる。	
第760 PL.85	P20 1	鉄製品 釘	ほぼ完形	長幅 (3.9) 厚 0.5 重 1.9	無/10		脚部がわずかに欠損する。頭部は折り返しが見られず、叩き伸ばした状態となっている。	
第760 PL.85	P23 1	瀬戸・美濃陶器 皿	No1 3/4	口 7.0 高 3.1 底 4.0	灰白色		内面から高台外面に灰軸。底部内面に重ね焼痕。	17世紀
第800 PL.85	44 1	鉄製品 釘	1/2	長幅 (4.2) 厚 0.6 重 3.3	有/10		本質が付着する脚部のみが確認できる釘。脚部の途中から曲がっている。	
第800 PL.85	44 2	鉄製品 釘	一部欠損	長幅 (7.0) 厚 0.6 重 4.9	無/10		頭部が欠損する。脚部の先端から3cmのところまで曲がる。	
第800 PL.85	49 1	鉄製品 釘	1/2	長幅 (3.4) 厚 0.5 重 1.6	無/10		全体がさびに覆われ、頭部は欠損している。	
第870 PL.85	72 1	瀬戸・美濃陶器 灯火受皿	1/2	口 (9.8) 高 2.2 底 6.0	褐灰色		受け部は高く、口縁部も湾曲して立ち上がる。	18世紀中葉～ 後葉
第870 PL.85	72 2	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	底部1/4	底 (13.0)		淡黄色	底部外面回転ケズリ。内外面に筋軸。	江戸時代
第900 PL.85	83 1	肥前磁器 染付小丸碗	1/2	口 (8.5) 高 5.8 底 (2.8)	白色		外面文様は孟宗源であろう。口縁部内面に1重圓縁。底部内面周縁に2重圓縁。見込みは五弁文であろう。	18世紀後葉～ 19世紀初葉
第900 PL.85	83 2	肥前磁器 染付小丸碗	口縁部1/2欠	口 (8.8) 高 5.6 底 (3.5)	白色		外面に孟宗源を描く。口縁部内面に1重圓縁、底部内面2重圓縁内に五弁文を描く。	18世紀後葉～ 19世紀初葉
第900 PL.85	83 3	肥前磁器 染付筒形碗	口縁部1/4	口 (7.9)		白色	外面格子状文内に見る文。口縁部内面に2重圓縁。底部内面周縁に圓縁1重文。	18世紀後葉～ 19世紀初葉
第900 PL.85	83 4	肥前磁器 染付筒形碗	口縁部1/2欠	口 (7.3) 高 5.8 底 (3.7)	灰白色		外面に華文。口縁部内面に2重圓縁。底部周縁2重圓縁内に簡略化した五弁文。	18世紀後葉～ 19世紀初葉
第900 PL.85	83 5	肥前磁器 徳利	体部から底部 2/3	底 9.0	白色		外面の一方に貝殻で花文を大きく描く。内面無軸。	19世紀前葉～ 中葉
第900 PL.85	83 6	銭貨 鉄銭	ほぼ完形	外径 2.8 内径 - 厚 0.2 重 4.3	無/5		全体が錆に覆われ、銭様は不明だが、大きさから鉄四文銭の可能性が高い。	
第900 PL.85	83 7	銭貨 鉄銭	1/2	外径 (2.6) 内径 - 厚 0.2 重 1.8	無/微量		全体が錆に覆われ、文字は読めないが鉄一文銭とみられる。	
第900 PL.85	83 8	銭貨 新寛永	完形	外径 2.532 内径 2.016 厚 3.0	有/無		背文。背の文字が一部見えづらい。面。背ともに彫は深く明瞭。	
第900 PL.85	83 9	銭貨 新寛永	完形	外径 2.293 内径 1.866 厚 0.089 重 1.8	有/無		やや小ぶりの新寛永。面、背ともに文字、輪、郭は明瞭。穿がわずかに大きい。	

種 別 PL.No.	No.	種 類 種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
種 別 PL.No.	No.	種 類 種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第908PL.86	83.10	瓦貨 新瓦水	完形	外径 内径 2.455 1.974	厚 重 0.128 3.3	有/無	面、背ともに深く彫る文字、輪、郭は明瞭。背側の輪に横方向の研磨痕が見られる。
第908PL.86	83.11	鉄製品 釘	一部欠損	長 幅 3.4 0.9	厚 重 0.3 1.9	有/10	脚部の一部が欠損する。頭部が端部を巻き込むような形で折れる。
第938PL.87	89.1	肥前磁器か 染付小丸碗	1/2	口 高 (6.8) 4.4	底 (2.9)	灰白色	外面に蓋字調を描く。口縁部内面に2重輪線、底部内面1重輪線内に不明文様を描く。焼成不良で器面が白い。
第938PL.87	89.2	瀬戸・美濃磁器 染付碗	口縁部1/2, 底部3/4	口 高 (6.2) 6.0	底 3.5	白色	外面に鶴と山々を描く。内面は無文。
第938PL.87	89.3	瀬戸・美濃陶器 灯火皿	口縁部1/4欠	口 高 8.8 2.0	底 3.7	灰色	底径小さく、体部は内湾する。体部外面は回転設けズリ。踏輪軸後に外面口縁部以下の軸を拭う。
第938PL.87	89.4	瀬戸・美濃磁器 か 白磁小皿	1/2	口 高 (6.2) 2.5	底 (3.4)	白色	口縁部は屈曲して直立気味に立ち上がる。残存部無文。
第938PL.87	89.5	肥前磁器か 染付皿	1/2	口 高 (13.2) 3.5	底 6.9	白色	横線部分で再び折れる。内面不明文様。外面は唐草文、中央の目四角高台。
第938PL.87	89.6	在地系土器 焙烙	口縁部から底 部片			明赤褐色	残存部は平底状である。内耳1ヶ所残存。底部外面は筋線状を呈する。

## 遺構外 陶磁器

種 別 PL.No.	No.	種 類 種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第958PL.87	2区 1	肥前磁器 染付碗	一括 口縁部1/3, 底部欠	口 高 (10.0) 5.0	底 (4.0)	灰白色	外面に雪輪梅樹文。高台内不鮮明な不明跡。
PL.87	2区 2	肥前磁器 染付碗	試験トレンチ 口縁部1/4, 底部欠			灰白色	体部外面にコンヤク印判による樹文。高台内不明跡。
第958PL.87	2区 3	瀬戸・美濃陶器 皿	一括 1/2	口 高 (12.0) 2.5	底 (6.0)	灰黄色	高台脇を小さく削り込む。内面から高台外面に灰焼。
第958PL.87	2区 4	在地系土器 焙烙	一括 口縁部から底 部片	口 高 (38.0) 5.0	底 (36.0)	灰白色	器表灰白色。外面中位に接合痕。外面下位は指圧重後にナデ。
第958PL.87	2区 5	在地系土器 片口鉢	一括 口縁部片			黒褐色	口縁部は薄い玉縁状をなす。
PL.87	3区 1	肥前磁器 染付碗	一括 口縁部一部, 底部1/2			明緑灰色	外面に唐文。口縁部内面と底部内面四縁に2重輪線。底部内面に「道」様の文様。
第958PL.87	3区 2	肥前陶器 刷毛目碗	複製 体部下位以下 1/2		底 (4.8)	濁灰色	内外面に白土による刷毛目。
第958PL.87	3区 3	瀬戸・美濃陶器 鉄絵皿	一括 1/4	口 高 (12.0) 2.3	底 (7.0)	灰白色	底部内面に鉄絵。内面から高台内に灰焼。高台内に目跡1ヶ所残存。
第958PL.87	3区 4	瀬戸・美濃陶器 片口鉢	複製 口縁部～底部	口 高 12.9 6.5	底 6.7	明黄褐色	口縁端部窪む。内面から体部外面下位胎輪。底部内面目跡3ヶ所。
第958PL.87	3区 5	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	複製 口縁部片			淡黄色	内外面筋焼。口縁端部凸のある摺れが顕著。
第958PL.87	3区 6	在地系土器 焙烙	複製 底部中央欠	口 長 幅 34.7 20.5 3.1	底 35.6	外 径 7.5	口縁部短く、内縮する。丸底。内面の取っ手は3ヶ所。
第968PL.87	5-1区 1	在地系土器か 埴口	ほぼ完形	長 幅 20.5 3.1	外 径 7.5	明褐色	外面ナデで器壁厚い。先端部は溶融し、使用されていない。
第968PL.88	5-6区 1	製作地不詳 耐火煉瓦	一部欠	長 厚 19.0 4.0	幅 10.0	浅黄色、器表暗赤褐色	一方の小口欠損。残存する小口面と内側面に受熱痕なし。平面鈍い赤褐色の付着物が認められ、一方の平面に著しい。生産者名や窯番号は認められない。
第968PL.88	6-2区 1	丹波陶器 すり鉢	1/2	口 高 (37.7) 13.3	底 18.0	口 径 13.3	口縁部から体部外面輪軸目。体部下位外面は回転設けズリと指押え状。器表薄く泥漿を塗る。底部内面四縁。使用により窪む。
第968PL.88	6-4区 1	肥前磁器 染付碗	底部2/3		底 (3.9)	白色	外面染付。底部内面1重輪線内に「寿」字文。
第968PL.88	6-4区 2	製作地不詳磁 器 染付碗	底部		底 3.4	白色	植物文。底部内面四縁2重輪線内に不明文様。
第968PL.88	6-5区 1	製作地不詳磁 器 染付蓋	完形	口 高 5.1 2.9	底 2.0	白色	外面の一方に貝須を描く。内面無文。

遺物観察表

採 取 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 高	5.5 5.7	底			
第96回 PL.88	6-5区 2	製作地不詳磁 器 青磁小碗	完形				白色	外面に型で大黒様の顔と稲穂、依、打ち出の小 槌を彫刻し、青磁釉をかける。内面は透明釉。 高台は四角を呈する。外面に「福嶋町 内藤酒店」 の文字を染付。	近現代

遺構外 石製品

採 取 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値 (cm kg)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				径	32.0	高 重			
PL.89	6-4区 1	石臼 (下)	完形				牛伏砂岩	6分調の下臼。摺合わせ面が全面摩耗するなど激 しく使い込んでいるが、片減り等は見られない。 軸穴の径は3cmほど。石材には石英脈が並走、 石材としては良質とはいえない。	

遺構外 金属製品

採 取 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値 (cm g)			メタル/磁性 (mm)	成形・整形の特徴	備 考
				長 幅	2.6 0.2	厚 重			
第97回 PL.89	1区 1	鉄製品 釘	完形	長 幅	2.6 0.2	厚 重	0.2 0.5	無/15	残存状況良好の釘。非常に小型。
第97回 PL.89	1区 2	鉄製品 釘	ほぼ完形	長 幅	(3.5) 0.5	厚 重	0.4 3.0	有/20	頭部が折り返される釘。脚部は欠損している。
第97回 PL.89	2区 1	鉄製品 釘	ほぼ完形	長 幅	(5.8) 0.8	厚 重	0.6 9.1	有/20	脚部が後方へ曲がる釘。やや大型の頭を持ち、2 回折り返しが見られる。
第97回 PL.89	3区 1	銭貨 新貨水	完形	外 径 内 径	2.470 1.953	厚 重	0.143 2.2	有/0	面、背ともに彫は浅いが文字、輪、郭は確認で きる。時期は不明だが圧力がかかりわずかに曲 がる。
第97回 PL.89	3区 2	鉄製品 釘	1/2	長 幅	(4.2) 0.7	厚 重	0.5 3.0	無/10	脚部のみ残存する。頭部の欠損は新しい。
第97回 PL.89	5-1区 1	銭貨 文久元宝	完形	外 径 内 径	2.715 2.085	厚 重	0.141 3.4	有/無	略字の宝。面、背ともに文字、輪、郭が明瞭。
第97回 PL.89	5-3区 1	銅製品 煙管 (煙首)	完形	長 幅	6.4 1.7	厚 重	0.1 11.4	有/無	煙管の煙首。肩を持ち、小口に羅字が残存する。
第97回 PL.80	6-1区 1	鉄製品 釘	ほぼ完形	長 幅	3.75 0.95	厚 重	0.4 2.3	有/10	頭部の一部が欠損する。脚部が頭部から約3.5cm のところまで曲がる。頭部は折り返され、折り返 しが前面までかぶる。
第97回 PL.89	6-2区 1	銭貨 新貨水	完形	外 径 内 径	2.333 1.862	厚 重	0.143 1.8	有/無	面、背ともに文字、輪、郭が明瞭。

# 写真図版





1区調査区北側全景(南から)



1区調査区南側全景(北から)



2区調査区北側全景1(南から)



2区調査区北側全景2(西から)



2区調査区南側全景(北から)



1、2、3区調査区遠影(北から)



1、2区調査区遠影(北から)



1、2区調査区と天王塚古墳、甘菜笹森古墳遠影(北から)



3区調査区全景1(北から)



3区調査区全景2(西から)



4区調査区全景1(北から)



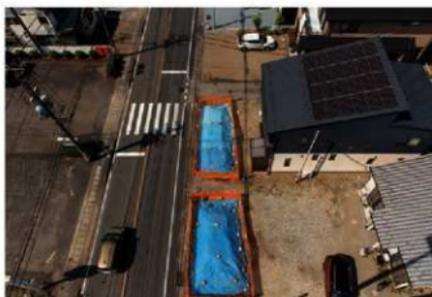
4区調査区全景2(北から)



4区調査区全景3(北東から)



5区調査区西側全景2(東から)



5区調査区西側全景1(東から)



5区調査区西側全景3(東から)



5区調査区「城下町小幡入口」信号部分全景1(西から)



6区調査区西側全景(西から)



5区調査区「城下町小幡入口」信号部分全景2(西から)



5区調査区西側全景5(西から)



5-1区調査区全景(東から)



5-2区調査区全景1(西から)



5-2区調査区全景2(西から)



5-3、4区調査区全景1(西から)



5-3、4区調査区全景2(南から)



5-3、4区調査区全景3(東から)



5-3、4区調査区東側全景(西から)



5-5区調査区全景1(東から)



5-5区調査区全景2(東から)



5-5区調査区全景(西から)



5-6区調査区西側全景1(西から)



5-6区調査区西側全景2(東から)



5-6区調査区西側全景3(西から)



5-6区調査区西側全景4(西から)



5-6区調査区西側全景5(東から)



5-6区調査区東側全景(東から)



6区調査区西側全景2(西から)



6区調査区西側全景1(西から)



6区調査区西側全景3(南から)



6区調査区西側全景4(南から)



6区調査区東側全景1(東から)



6区調査区東側全景2(東から)



6区調査区西側全景(東から)



6区調査区東側全景3(東から)



6-1区調査区西側全景1(東から)



6-1区調査区東側全景1(西から)



6-1区調査区東側全景2(西から)



6-1区調査区東側全景3(西から)



6-1区調査区東側全景4(東から)



6-2区調査区全景1(東から)



6-2区調査区全景2(西から)



6-3区調査区全景1(西から)



6-3区調査区全景2(東から)



6-3区調査区全景3(東から)



6-4区調査区西側全景1(東から)



6-4区調査区西側全景2(東から)



6-4区調査区中央西側全景1(東から)



6-4区調査区中央西側全景2(西から)



6-4区調査区中央東側全景(西から)



6-4区調査区東側全景(西から)



6-5区調査区西側全景(西から)



6-5区調査区東側全景(北から)



2区調査区西壁基本土層(東から)



5-2区調査区基本土層(南から)



5-6区調査区基本土層(南から)



6-5区調査区基本土層(北から)



5-4区旧石器調査坑1(東から)



5-4区旧石器調査坑2(西から)



3区1号竪穴建物土層断面A-A'(西から)



3区1号竪穴建物1回目遺物出土状態1(東から)



3区1号竪穴建物1回目遺物出土状態2(東から)



3区1号竪穴建物1回目遺物出土状態3(東から)



3区1号竪穴建物1回目遺物出土状態4(東から)



3区1号竪穴建物1回目遺物出土状態5(東から)



3区1号竪穴建物1回目遺物出土状態6(東から)



3区1号竪穴建物2回目遺物出土状態1(東から)



3区1号竪穴建物2回目遺物出土状態2(東から)



3区1号竪穴建物2回目遺物出土状態3(東から)



3区1号竪穴建物2回目遺物出土状態4(東から)



3区1号竪穴建物2回目遺物出土状態5(東から)



3区1号竪穴建物2回目遺物出土状態6(北から)



3区1号竪穴建物2回目遺物出土状態7(東から)



3区1号竪穴建物全景(東から)



3区1号竪穴建物全景(西から)



3区1号竪穴建物P1土層断面D-D'(東から)



3区1号竪穴建物P1(北から)



3区1号竪穴建物P3土層断面F-F'(西から)



3区1号竪穴建物P3(南から)



3区1号竪穴建物P2土層断面E-E'(北から)



3区1号竪穴建物P2(東から)



3区1号竪穴建物P2土層断面C-C'(南から)



3区1号竪穴建物P2(西から)



3区1号竪穴建物P2掘方(西から)



3区2号竪穴建物土層断面A-A' (南から)



3区2号竪穴建物土層断面B-B' 1 (東から)



3区2号竪穴建物土層断面B-B' 2 (東から)



3区2号竪穴建物土層断面B-B' 3 (東から)



3区2号竪穴建物土層断面B-B' 4 (東から)



3区2号竪穴建物遺物出土状態1 (南から)



3区2号竪穴建物遺物出土状態2 (南から)



3区2号竪穴建物遺物出土状態3 (南から)



3区2号竪穴建物遺物出土状態4(南から)



3区2号竪穴建物遺物出土状態5(北から)



3区2号竪穴建物遺物出土状態6(南から)



3区2号竪穴建物遺物出土状態7(南から)



3区2号竪穴建物遺物出土状態8(南から)



3区2号竪穴建物P1土層断面F-F'(西から)



3区2号竪穴建物P1(西から)



3区2号竪穴建物P2土層断面A-A'(西から)



3区2号竪穴建物P 2 (西から)



3区2号竪穴建物P 3土層断面H-H' (西から)



3区2号竪穴建物P 3 (東から)



3区2号竪穴建物P 4土層断面I-I' (東から)



3区2号竪穴建物P 4 (東から)



3区2号竪穴建物P 5土層断面J-J' (東から)



3区2号竪穴建物P 5 (東から)



3区2号竪穴建物P 6土層断面K-K' (南から)



3区2号竪穴建物P 6 (南から)



3区2号竪穴建物P 7 土層断面 L-L' (南から)



3区2号竪穴建物P 7 (南から)



3区2号竪穴建物炉上面遺物出土状態(南から)



3区2号竪穴建物炉確認状態(南から)



3区2号竪穴建物炉断面(西から)



3区2号竪穴建物炉使用面(南から)



3区2号竪穴建物炉石下面(南から)



3区2号竪穴建物内部方(南から)



3区2号竪穴建物(南から)



4区3号竪穴建物土層断面A-A'(南東から)



4区3号竪穴建物土層断面B-B'(北東から)



4区3号竪穴建物遺物出土状況1(南から)



4区3号竪穴建物遺物出土状況2(南から)



4区3号竪穴建物P1土層断面C-C'(東から)



4区3号竪穴建物P1(南から)



4区3号竪穴建物P2土層断面C-C'(東から)



4区3号竪穴建物P2(東から)



4区3号竪穴建物P3土層断面F-F'(西から)



4区3号竪穴建物P3(東から)



4区3号竪穴建物P3確認状況(南から)



4区3号竪穴建物P3断面(東から)



4区3号竪穴建物P3使用面(南から)



4区3号竪穴建物(南から)



4区4号竪穴建物土層断面A-A'(南東から)



4区4号竪穴建物土層断面B-B'(北東から)



4区4号竪穴建物遺物出土状態1(南東から)



4区4号竪穴建物遺物出土状態2(南東から)



4区4号竪穴建物遺物出土状態3(南東から)



4区4号竪穴建物P1土層断面C-C'(東から)



4区4号竪穴建物P1(東から)



4区4号竪穴建物P2土層断面C-C'(東から)



4区4号竪穴建物P 2(東から)



4区4号竪穴建物P 3土層断面D-D'(南西から)



4区4号竪穴建物P 3(東から)



4区4号竪穴建物貯蔵穴土層断面E-E'(東から)



4区4号竪穴建物貯蔵穴(南東から)



4区5号竪穴建物土層断面B-B'(南から)



4区5号竪穴建物土層断面C-C'(東から)



4区5号竪穴建物遺物出土状態1(南から)



4区5号竪穴建物遺物出土状態2(南から)



4区5号竪穴建物遺物出土状態3(南から)



4区5号竪穴建物遺物出土状態4(南から)



4区5号竪穴建物(南から)



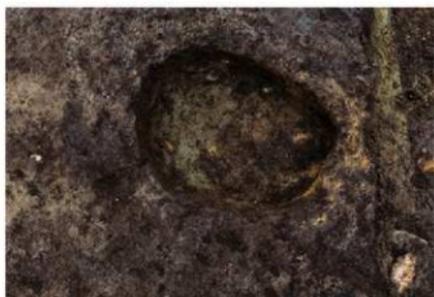
4区5号竪穴建物P1(南から)



4区5号竪穴建物P2(南から)



4区5号竪穴建物P3(南から)



4区5号竪穴建物P4(南から)



4区5号竪穴建物P 5(南から)



4区5号竪穴建物P 7(西から)



4区5号竪穴建物P 6、7 ①(南から)



4区5号竪穴建物P 6、7 ②(南から)



4区5号竪穴建物貯蔵穴(南から)



4区5号竪穴建物掘方土層断面B-B'(南から)



4区5号竪穴建物掘方土層断面C-C'(東から)



4区5号竪穴建物掘方(南から)



5-5区6号竪穴建物土層断面A-A'(南から)



5-5区6号竪穴建物土層断面B-B'(東から)



5-5区6号竪穴建物調査風景(西から)



5-5区6号竪穴建物遺物出土状態1(南から)



5-5区6号竪穴建物遺物出土状態2(南から)



5-5区6号竪穴建物遺物出土状態3(南から)



5-5区6号竪穴建物P1土層断面C-C'(南から)



5-5区6号竪穴建物P1(南から)



5-5区6号竪穴建物P2土層断面D-D'(南から)



5-5区6号竪穴建物P2(南から)



5-5区6号竪穴建物P3土層断面D-D'(南から)



5-5区6号竪穴建物P3(南から)



5-5区6号竪穴建物貯藏穴土層断面D-D'(南から)



5-5区6号竪穴建物貯藏穴遺物出土状態(南から)



5-5区6号竪穴建物貯藏穴(南から)



5-5区6号竪穴建物(南から)



6-5区7号竪穴建物遺物出土状態1(東から)



6-5区7号竪穴建物遺物出土状態2(北から)



6-5区7号竪穴建物遺物出土状態3(北から)



6-5区7号竪穴建物(東から)



6-5区7号竪穴建物P1土層断面B-B'(西から)



6-5区7号竪穴建物P1(西から)



6-5区7号竪穴建物P2土層断面A-A'(南から)



6-5区7号竪穴建物P2(南から)



6-5区7号竖穴建物跡(南から)



6-5区7号竖穴建物跡土層断面C-C'(西から)



6-5区7号竖穴建物跡石下土層断面C-C'(西から)



6-1区8号竖穴建物土層断面A-A'(南西から)



6-1区8号竖穴建物土層断面B-B'(西から)



6-1区8号竖穴建物遺物出土状態1(南から)



6-1区8号竖穴建物遺物出土状態2(南から)



6-1区8号竖穴建物遺物出土状態3(南から)



6-1区8号竪穴建物P1土層断面D-D'1(西から)



6-1区8号竪穴建物P1土層断面D-D'2(西から)



6-1区8号竪穴建物P1(西から)



6-1区8号竪穴建物P2土層断面E-E'(南から)



6-1区8号竪穴建物P2(南から)



6-1区8号竪穴建物P3土層断面F-F'(南から)



6-1区8号竪穴建物P3(南から)



6-1区8号竪穴建物貯蔵穴土層断面G-G'(北から)



6-1区8号竪穴建物貯蔵穴(北から)



6-1区8号竪穴建物(南から)



1区1号竪穴状遺構土層断面A-A'(東から)



1区1号竪穴状遺構土層断面B-B'(南から)



1区1号竪穴状遺構(東から)



6-5区3号竪穴状遺構土層断面A-A'(南から)



6-5区3号竪穴状遺構土層断面B-B'(南から)



6-5区3号竪穴状遺構(南から)



6-5区3号竪穴状遺構(西から)



6-4区86号土坑土層断面A-A'(南から)



6-4区86号土坑(南から)



6-2区1号倒木土層断面A-A'(東から)



6-2区1号倒木(東から)



6-3区2号倒木土層断面A-A'(南から)



6-3区2号倒木(南から)



6-3区9号竪穴建物土層断面A-A'1(南から)



6-3区9号竪穴建物土層断面A-A' 2(南から)



6-3区9号竪穴建物土層断面B-B'(東から)



6-3区9号竪穴建物遺物出土状態1(東から)



6-3区9号竪穴建物遺物出土状態2(東から)



6-3区9号竪穴建物遺物出土状態3(東から)



6-3区9号竪穴建物P1土層断面C-C'(南から)



6-3区9号竪穴建物P1(南から)



6-3区9号竪穴建物P2土層断面C-C'(南から)



6-3区9号竪穴建物P2(南から)



6-3区9号竪穴建物(南から)



6-3区9号竪穴建物掘方(南東から)



3区10号竪穴建物土層断面A-A'(南から)



3区10号竪穴建物土層断面B-B'(西から)



3区10号竪穴建物P1土層断面C-C'(南から)



3区10号竪穴建物P1(南から)



3区10号竪穴建物(南から)



5-3区79号土坑土層断面A-A'(南から)



5-3区79号土坑(南から)



5-2区35号ピット(南から)



5-2区36号ピット(南から)



5-2区36号ピット土層断面A-A'(南から)



5-2区37号ピット土層断面A-A'(南から)



5-2区37号ピット(南から)



5-2区38号ピット土層断面A-A'(南西から)



5-2区38号ピット(南西から)



5-2区39号ピット土層断面A-A'(南西から)



5-2区39号ピット(南西から)



5-2区41号ピット土層断面A-A'(東から)



5-2区41号ピット(東から)



6-1区74号ピット土層断面A-A'(北東から)



6-1区74号ピット(北東から)



5-4区1号導水管1(西から)



5-4区1号導水管2(南から)



5-4区1号導水管3(南から)



5-4区1号導水管4(南から)



5-4区1号導水管5(南から)



5-4区1号導水管土層断面A-A'1(西から)



5-4区1号導水管土層断面A-A'2(南西から)



5-4区1号導水管6(南から)



1区1号溝全景(東から)



1区1号溝土層断面A-A'(東から)



1区1号溝遺物出土状態(東から)



2区2号溝全景1(東から)



2区2号溝全景2(西から)



2区2号溝土層断面A-A'(西から)



2区2号溝土層断面B-B'(東から)



2区2号溝遺物出土状態(南から)



3区3号溝全景(南から)



3区3号溝土層断面A-A'(南から)



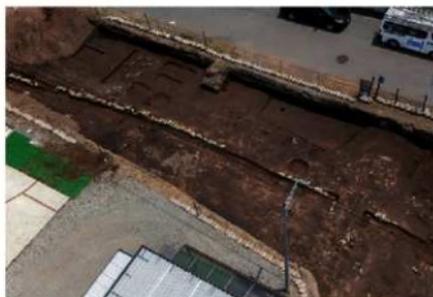
3区4号溝全景1(北から)



3区4号溝全景2(北から)



3区4号溝全景3(北から)



3区4号溝全景4(西から)



3区4号溝全景5(北から)



3区4号溝全景6(西から)



3区4号溝全景7(北から)



3区4号溝石積み状態1(北から)



3区4号溝石積み状態2(北から)



3区4号溝石積み状態3(北から)



3区4号溝石積み状態4(北から)



3区4号溝石積み状態5(北から)



3区4号溝石積み状態6(北から)



3区4号溝石積み状態7(北から)



3区4号溝石積み状態8(北から)



3区4号溝石積み状態9(西から)



3区4号溝石積み状態10(西から)



3区4号溝石積み状態11(西から)



3区4号溝石積み状態12(西から)



3区4号溝石積み状態13(西から)



3区4号溝石積み状態14(西から)



3区4号溝石積み状態15(西から)



3区4号溝石積み状態16(西から)



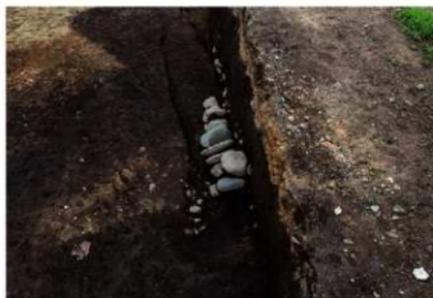
3区4号溝石積み状態17(西から)



4区4号溝全景1(南から)



4区4号溝全景2(北から)



4区4号溝全景3(北から)



4区4号溝全景4(北から)



4区4号溝全景5(西から)



4区4号溝全景6(西から)



4区4号溝全景7(西から)



4区4号溝全景8(西から)



4区4号溝1段目石列の状態1(東から)



4区4号溝1段目石列の状態2(南から)



4区4号溝1段目石列の状態3(東から)



4区4号溝1段目石列の状態4(東から)



3区4号溝遺物出土状態1(南から)



3区4号溝遺物出土状態2(南から)



3区4号溝遺物出土状態3(南から)



3区4号溝遺物出土状態4(南から)



3区4号溝遺物出土状態5(西から)



3区4号溝遺物出土状態6(南から)



3区4号溝遺物出土状態7(南東から)



3区4号溝遺物出土状態8(東から)



3区4号溝遺物出土状態9(北から)



4区4号溝遺物出土状態1(西から)



4区4号溝遺物出土状態2(東から)



3区4号溝土層断面F-F'(南から)



3区4号溝土層断面E-E'(南から)



3区4号溝土層断面D-D'(南から)



3区4号溝土層断面C-C'(南から)



4区4号溝土層断面A-A'(南から)



4区4号溝土層断面B-B'(南から)



3区4号溝石積み部掘方(北から)



4区4号溝石積み部掘方1(南から)



4区4号溝石積み部掘方2(南から)



2区5号溝全景(北東から)



2区5号溝土層断面B-B'(北東から)



2区5号溝土層断面A-A'(北東から)



4区6号溝全景(北東から)



4区6号溝土層断面A-A'(北東から)



6-1区8号溝全景1(北西から)



6-1区8号溝全景2(南東から)



6-1区8号溝土層断面A-A'1(南から)



6-1区8号溝土層断面A-A'2(南から)



6-1区8号溝土層断面B-B'(西から)



6-1区1号柱穴列全景1(東から)



6-1区1号柱穴列全景2(東から)



6-1区1号柱穴列全景3(西から)



6-1区1号柱穴列全景4(北から)



6-1区1号柱穴列全景5(北東から)



6-1区1号柱穴列1号ビット土層断面A-A'(南から)



6-1区1号柱穴列1号ビット全景(南から)



6-1区1号柱穴列2号ビット土層断面A-A'(南から)



6-1区1号柱穴列2号ビット全景(南から)



6-1区1号柱穴列3号ビット  
土層断面A-A'(南から)



6-1区1号柱穴列3号ビット全景(南から)



6-1区1号柱穴列4号ビット  
土層断面A-A'(西から)



6-1区1号柱穴列4号ビット全景(西から)



6-1区1号柱穴列5号ビット  
土層断面A-A'(南から)



6-1区1号柱穴列5号ビット全景(南から)



6-1区1号柱穴列6号ビット  
土層断面A-A'(南東から)



6-1区1号柱穴列6号ビット全景(南東から)



6-1区1号柱穴列7号ビット  
土層断面A-A'(南から)



6-1区1号柱穴列7号ビット全景(南から)



6-1区1号柱穴列8号ビット  
土層断面A-A'(南から)



6-1区1号柱穴列8号ビット全景(南から)



6-1区1号柱穴列9号ビット  
土層断面A-A'(東から)



6-1区1号柱穴列9号ビット全景(東から)



2区1号土坑土層断面A-A'(南から)



2区1号土坑(南から)



2区2号土坑・6号ビット  
土層断面A-A'(南から)



2区2号土坑・6号ビット(南から)



2区3号土坑土層断面A-A'(南から)



2区3号土坑(北から)



2区4号土坑土層断面A-A'(南から)



2区4号土坑(南から)



2区5号土坑・12号ビット  
土層断面A-A'(南から)



2区5号土坑・12号ビット(南から)



2区6号土坑土層断面A-A'(南から)



2区6号土坑(南から)



2区7・8号土坑土層断面A-A'1(南から)



2区7・8号土坑土層断面A-A'2(南から)



2区7・8号土坑(南から)



2区8号土坑(南から)



2区9号土坑土層断面A-A'(南から)



2区9号土坑(南から)



2区10号土坑土層断面A-A'(南から)



2区10号土坑(南から)



2区11号土坑土層断面A-A'(東から)



2区11号土坑(西から)



2区12号土坑土層断面A-A'(南から)



2区12号土坑(南から)



2区13号土坑土層断面A-A'(東から)



2区13号土坑(東から)



2区14号土坑土層断面A-A'(南から)



2区15号土坑土層断面A-A'(南から)



2区14・15号土坑(南から)



2区16号土坑土層断面A-A'(西から)



2区17号土坑土層断面A-A'(西から)



2区16・17号土坑(西から)



2区18号土坑土層断面A-A'(東から)



2区18号土坑(東から)



2区19号土坑土層断面A-A'(南から)



2区19号土坑(南から)



2区20号土坑土層断面A-A'(東から)



2区20号土坑(東から)



2区21号土坑土層断面A-A'(東から)



2区21号土坑(東から)



2区22号土坑土層断面A-A'(南から)



2区22号土坑(南から)



2区23号土坑土層断面A-A'(南から)



2区23号土坑(南から)



2区23号土坑遺物出土状態(南から)



2区24・29号土坑土層断面A-A'(南から)



2区24・29号土坑(南から)



2区25号土坑土層断面A-A'(南から)



2区26号土坑(南から)



2区27号土坑土層断面A-A'(南から)



2区27号土坑(南から)



2区28号土坑土層断面A-A'(南から)



2区28号土坑(南から)



2区30号土坑土層断面A-A'(西から)



2区30号土坑(西から)



2区31号土坑土層断面A-A'(南から)



2区53号土坑土層断面A-A'(南から)



2区53号土坑(南から)



2区54号土坑土層断面A-A'(南西から)



2区54号土坑(南西から)



2区56号土坑土層断面A-A'(南から)



2区57号土坑土層断面A-A'(南から)



2区57号土坑(南から)



2区58号土坑土層断面A-A'(南から)



2区58号土坑(南から)



2区59号土坑土層断面A-A'(東から)



2区59号土坑1(東から)



2区59号土坑2(東から)



2区60号土坑土層断面A-A'(北から)



2区61号土坑土層断面A-A'(南から)



2区61号土坑(南から)



2区63号土坑土層断面A-A'(東から)



2区63号土坑(東から)



2区1号ビット土層断面A-A'(南から)



2区1号ビット(南から)



2区2号ビット土層断面A-A'(南から)



2区2号ビット(南から)



2区3号ビット土層断面A-A'(南から)



2区3号ビット(南から)



2区4・5号ビット土層断面A-A'(南から)



2区4・5号ビット(南から)



2区7号ビット土層断面A-A'(南から)



2区7号ビット(南から)



2区8号ビット土層断面A-A'(南から)



2区8号ビット(南から)



2区9号ビット土層断面A-A'(南から)



2区9号ビット(南から)



2区10号ビット土層断面A-A'(南から)



2区10号ピット(南から)



2区11号ピット土層断面A-A'(南から)



2区11号ピット(南から)



2区12号ピット(南から)



2区13号ピット土層断面A-A'(南から)



2区13号ピット(南から)



2区14号ピット土層断面A-A'(南から)



2区14号ピット(南から)



2区15号ピット土層断面A-A'(南から)



2区15号ピット(南から)



2区16号ピット土層断面A-A'(南から)



2区16号ピット(南から)



2区17号ピット土層断面A-A'(南から)



2区17号ピット(南から)



2区18号ピット土層断面A-A'(南から)



2区18号ピット(南から)



2区19号ピット土層断面A-A'(南から)



2区20号ピット土層断面A-A'(南から)



2区19・20号ピット(南から)



2区21号ピット土層断面A-A'(西から)



2区21号ピット(西から)



2区22号ピット土層断面A-A'(南から)



2区22号ピット(南から)



2区23号ピット土層断面A-A'(南東から)



2区23号ピット(南から)



2区23号ピット遺物出土状態(南から)



2区24号ピット土層断面A-A'(南から)



2区24号ピット(南から)



2区25号ピット土層断面A-A'(東から)



2区25号ピット(東から)



3区32号土坑土層断面 A-A' (西から)



3区33号土坑土層断面 A-A' (西から)



3区34号土坑土層断面 A-A' (西から)



3区35号土坑土層断面 A-A' (西から)



3区32・33号土坑礫出土状態(西から)



3区32・33号土坑1 (西から)



3区32・33号土坑2 (西から)



3区34号土坑(西から)



3区35号土坑(西から)



3区36号土坑土層断面 A-A' (東から)



3区36号土坑(西から)



3区37号土坑土層断面 A-A' (東から)



3区37号土坑(西から)



3区38号土坑土層断面 A-A' (東から)



3区38号土坑(西から)



3区39号土坑土層断面A-A'(南から)



3区39号土坑(南から)



3区40号土坑土層断面A-A'(南から)



3区40号土坑(南から)



3区41号土坑土層断面A-A'(南から)



3区41号土坑(北から)



3区41号土坑遺物出土状態1(北から)



3区41号土坑遺物出土状態2(西から)



3区42号土坑土層断面・1号竪穴建物遺物露呈状況(南から)



3区42号土坑(南から)



3区43号土坑土層断面A-A'(南から)



3区43号土坑(北から)



3区44号土坑土層断面A-A'(南から)



3区44号土坑(南から)



3区45号土坑土層断面A-A'(南から)



3区45号土坑(北から)



3区46号土坑土層断面A-A'(南から)



3区46・47号土坑土層断面A-A'(南から)



3区46・47号土坑(北から)



3区48号土坑土層断面A-A'(南西から)



3区49号土坑土層断面A-A'(南西から)



3区48・49号土坑(南から)



3区50号土坑土層断面A-A'(南東から)



3区51号土坑土層断面A-A'(南から)



3区50・51号土坑(北から)



3区52号土坑土層断面A-A'(南から)



3区52号土坑(北から)



3区26号ビット土層断面A-A'(南から)



3区27号ピット土層断面A-A'(南から)



3区27号ピット(西から)



3区28号ピット土層断面A-A'(南から)



3区28号ピット(西から)



3区30号ピット土層断面A-A'(南から)



3区30号ピット(南から)



3区31号ピット土層断面A-A'(南から)



3区31号ピット(南から)



3区33号ピット土層断面A-A'(南から)



3区33号ピット(南から)



3区34号ピット土層断面A-A'(南から)



4区64号土坑土層断面A-A'(南から)



4区64号土坑(南から)



4区65号土坑土層断面A-A'(西から)



4区65号土坑(西から)



5区66号土坑土層断面A-A'(南から)



5区66号土坑(南から)



5区67号土坑土層断面A-A'(南から)



5区67号土坑(南から)



5区68号土坑土層断面A-A'(北から)



5区68号土坑(北から)



5区69号土坑土層断面A-A'(南から)



5区69号土坑(南から)



5区70号土坑土層断面A-A'(南から)



5区70号土坑(南から)



5区71号土坑土層断面A-A'(南から)



5区71号土坑(南から)



5区72号土坑As-A確認状態(東から)



5区72号土坑土層断面A-A'(西から)



5区72号土坑1(西から)



5区72号土坑2(北から)



5区72号土坑3(東から)



5区72号土坑4(東から)



5区73号土坑土層断面A-A'(南から)



5区75号土坑土層断面A-A'(南から)



5区75号土坑(南から)



5区76号土坑土層断面A-A'(北から)



5区77号土坑土層断面A-A'(西から)



5区77号土坑(西から)



5区78号土坑土層断面A-A'(北から)



5区78号土坑(北から)



5区84号土坑土層断面A-A'(西から)



5区84号土坑遺物出土状態(西から)



5区84号土坑(西から)



5区40号ビット土層断面A-A'(南から)



5区40号ビット(南から)



5区42号ビット土層断面A-A'(北から)



5区42号ビット(北から)



5区43号ビット土層断面A-A'(南から)



5区43号ビット(南から)



5区44号ビット土層断面A-A'(南から)



5区44号ビット(南から)



5区45号ビット土層断面A-A'(南から)



5区45号ビット(南から)



5区46号ビット土層断面A-A'(北から)



5区46号ビット(北から)



5区47号ビット土層断面A-A'(北から)



5区47号ビット(北から)



5区46~48号ビット(北から)



5区48号ビット土層断面A-A'(北から)



5区48号ビット(北から)



5区49号ビット土層断面A-A'(北から)



5区49号ビット(北から)



5区50号ビット土層断面A-A'(北から)



5区50号ビット(北から)



5区50・51号ビット(北から)



5区51号ビット土層断面A-A'(北から)



5区51号ビット(北から)



5区52号ビット土層断面A-A'(南から)



5区52号ビット(南から)



5区53号ビット土層断面A-A' 1(北から)



5区53号ビット土層断面A-A' 2(北から)



5区53号ビット(北から)



5区54号ピット土層断面A-A' (北から)



5区54号ピット (北から)



5区55号ピット土層断面A-A' (南東から)



5区56号ピット土層断面A-A' (南西から)



5区56号ピット (南西から)



5区57号ピット土層断面A-A' (南西から)



5区57号ピット (南西から)



5区58号ピット土層断面A-A' (南西から)



5区58号ピット (南から)



5区59号ピット土層断面A-A' (北から)



5区59号ピット1 (北から)



5区59号ピット2 (北から)



5区60号ピット土層断面A-A' (南から)



5区60号ピット (南から)



5区61号ピット土層断面A-A' (南から)



6区61号ビット(南から)



6区80号土坑土層断面A-A'(南から)



6区80号土坑(南から)



6区81号土坑土層断面A-A'(西から)



6区81号土坑(西から)



6区82号土坑土層断面A-A'(北から)



6区82号土坑(北から)



6区83号土坑土層断面A-A'(南から)



6区83号土坑遺物出土状態1(南から)



6区83号土坑遺物出土状態2(南から)



6区83号土坑遺物出土状態3(南から)



6区83号土坑(南から)



6区85号土坑土層断面A-A'(西から)



6区87号土坑土層断面A-A'(北から)



6区87号土坑(北から)



6区88号土坑土層断面A-A'(南から)



6区88号土坑(南から)



6区89号土坑土層断面A-A'(東から)



6区89号土坑(西から)



6区90号土坑土層断面A-A'(東から)



6区90号土坑(東から)



6区62号ピット土層断面A-A'(南西から)



6区62号ピット(南西から)



6区63号ピット土層断面A-A'(南西から)



6区63号ピット(南西から)



6区62・63号ピット(南西から)



6区64号ピット土層断面A-A'(西から)



6区64号ピット(西から)



6区64・65号ピット(西から)



6区65号ピット土層断面A-A'(西から)



6区65号ピット(西から)



6区66号ピット土層断面A-A'(南から)



6区67号ピット土層断面A-A'(南から)



6区67号ピット(南から)



6区68号ピット土層断面A-A'(南から)



6区68号ピット(南から)



6区69号ピット土層断面A-A'(東から)



6区69号ピット(東から)



6区70号ピット土層断面A-A'(南から)



6区70号ピット(南から)



6区71号ピット土層断面A-A'(南から)



6区71号ピット(南から)



6区72号ピット土層断面A-A'(南から)



6区72号ピット(南から)



6区73号ピット土層断面A-A'(南から)



6区73号ピット(南から)



6区75号ピット土層断面A-A'(南から)



6区75号ピット(南から)



6区76号ピット土層断面A-A'(南から)



6区76号ピット(南から)



6区77号ピット土層断面A-A'(南から)



6区77号ピット(南から)



6区78号ピット土層断面A-A'(南から)



6区78号ピット(南から)



3区弥生時代北東包含層(南から)



3区弥生時代北東包含層遺物出土状態(南から)

縄文時代 遺構外



弥生時代 3区1号竪穴建物

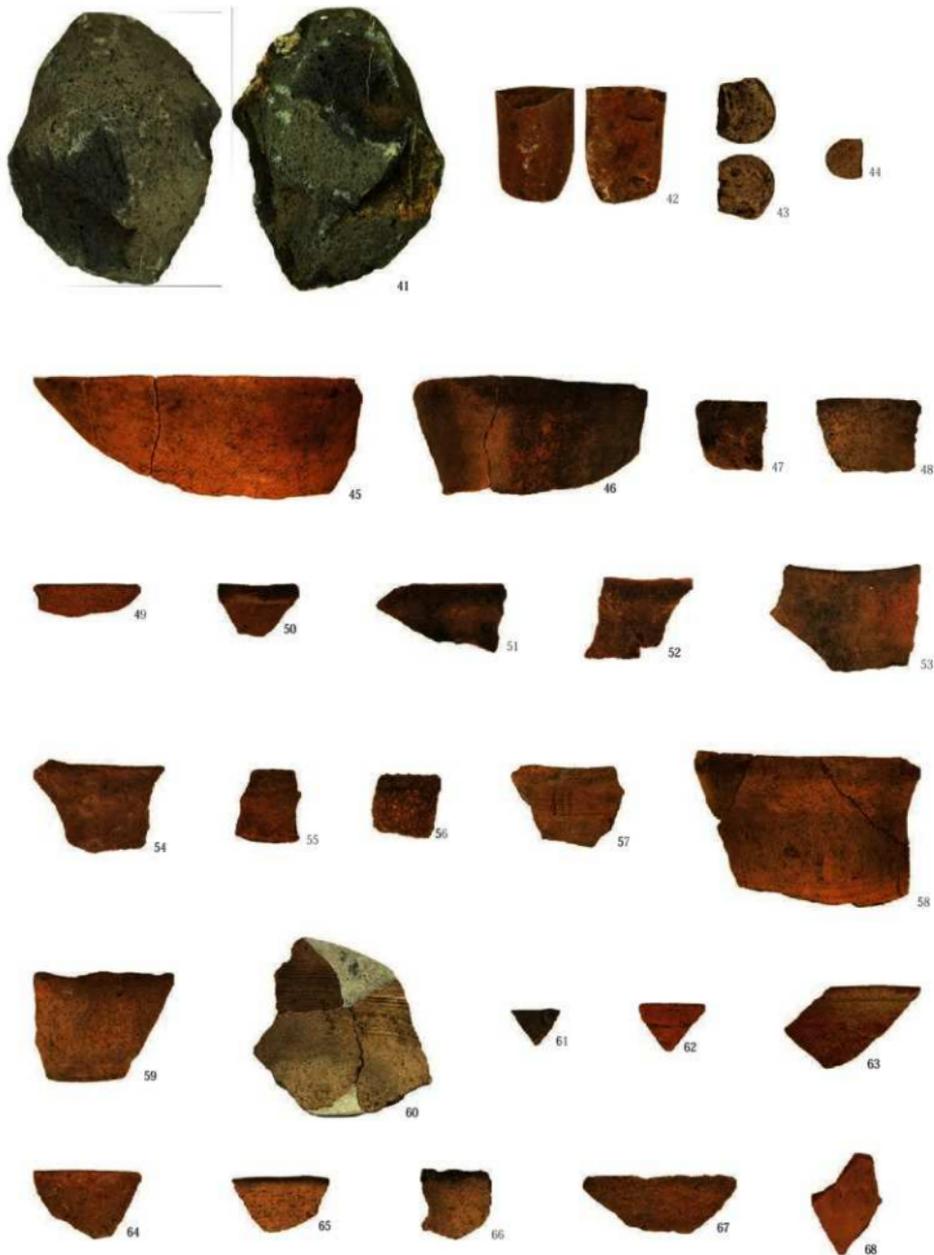


縄文時代遺構外出土遺物 3区1号竪穴建物出土遺物(1)

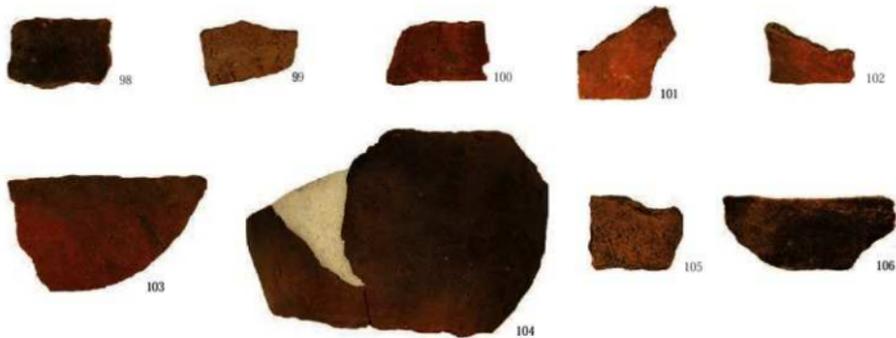




3区1号竖穴建物出土遺物(3)







3区2号竖穴建物





3区2号竖穴建物出土遺物(2)



4区3号竖穴建物



4区4号竖穴建物



4区5号竖穴建物



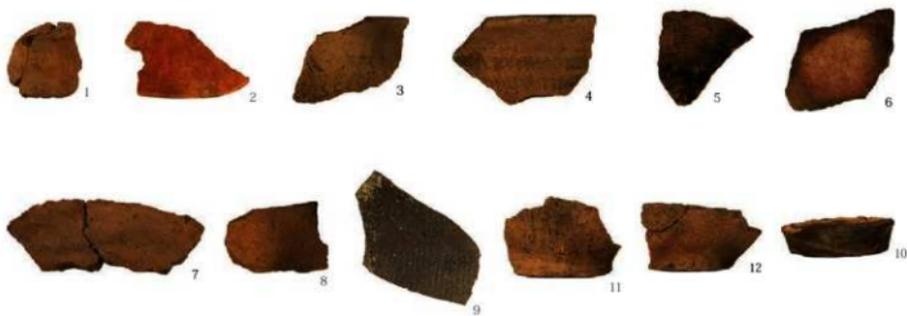
4区5号竖穴建物出土遺物(1)



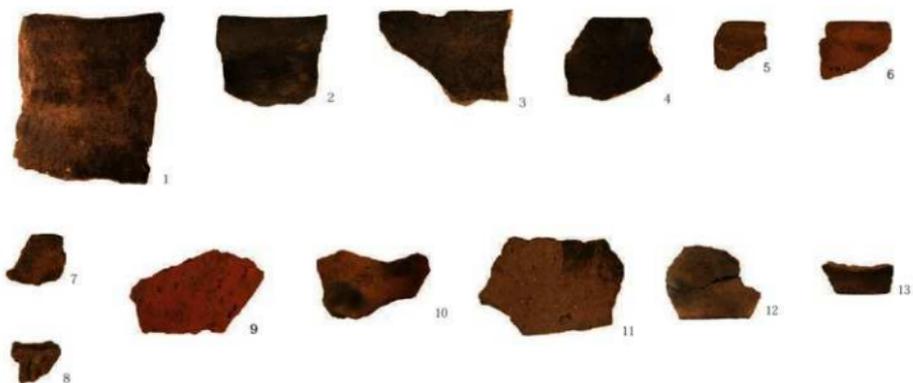
5—5区6号竖穴建物



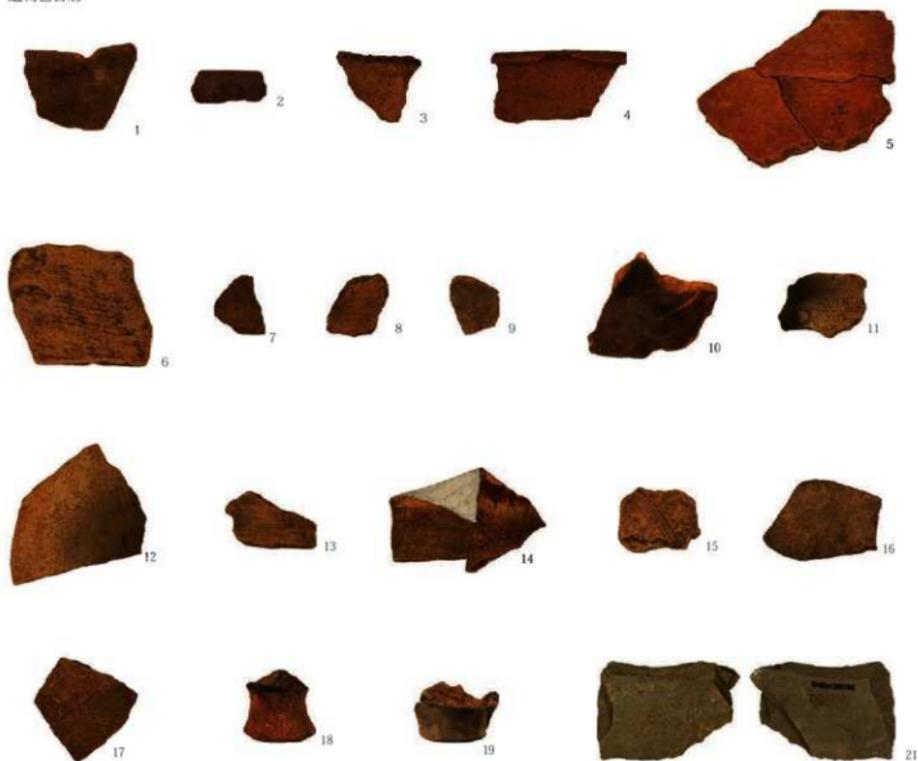
6—5区7号竖穴建物



## 6-1区8号竖穴建物

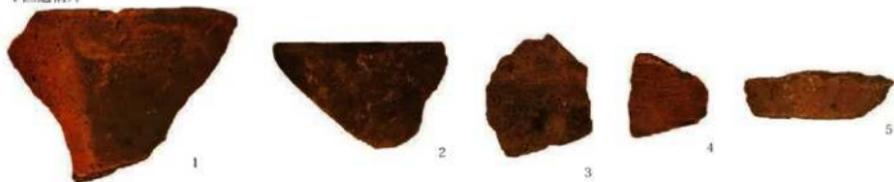


## 遺物包含層

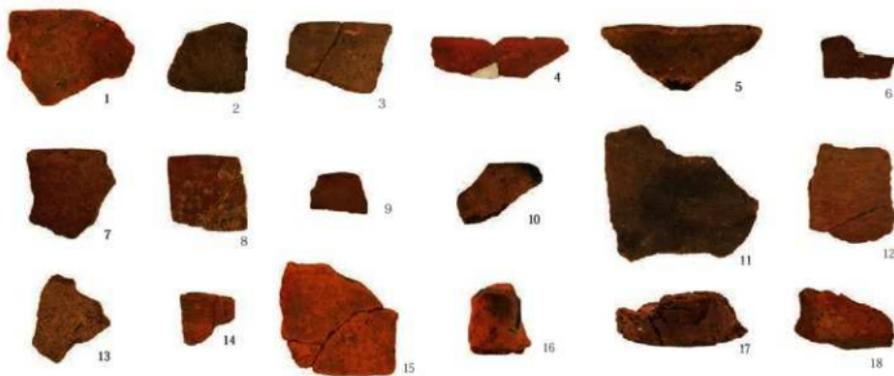




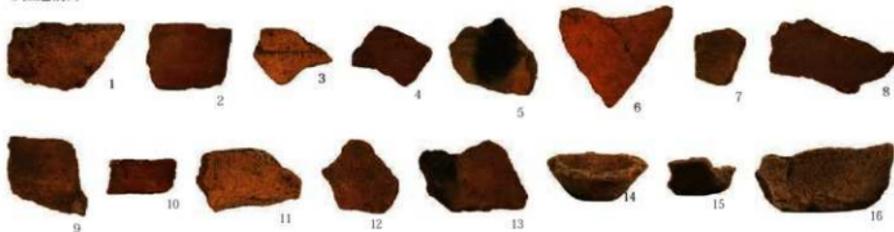
1区道槌外



2区道槌外



3区道槌外



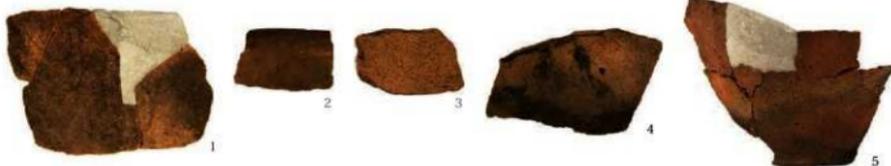
遺物包含層出土遺物(2) 1~3区道槌外出土遺物

5区道構外  
5-3区

5-4区



5-5区

6区道構外  
6-1区

6-5区

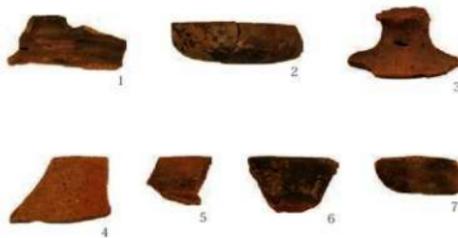
古墳時代～平安時代 6-3区9号竪穴建物



3区10号竪穴建物



道構外





1



2



3

1号溝



1

2号溝



1

2

3



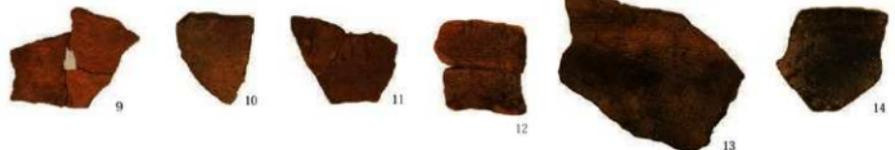
4

5

6

7

8



9

10

11

12

13

14



15

16

17

18

19

20



21

22

23

24

26

4号溝



1

4

5

12

13

8

9





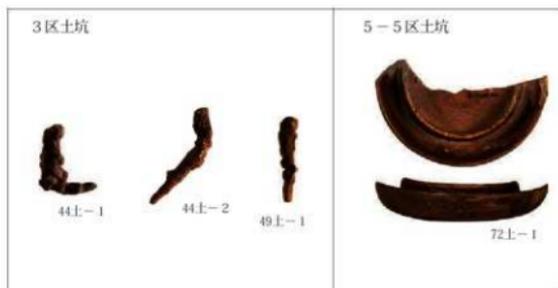
6号溝



2区土坑・ピット



4号溝出土遺物(3) 6号溝出土遺物 2区土坑・ピット出土遺物(1)



6-1区土坑



2区土坑・ピット出土遺物(2) 3・5区土坑出土遺物 6区土坑出土遺物(1)

## 6-3区土坑

遺構外陶磁器類  
2区

## 3区



## 5-1区



5-6区



6-2区



6-4区



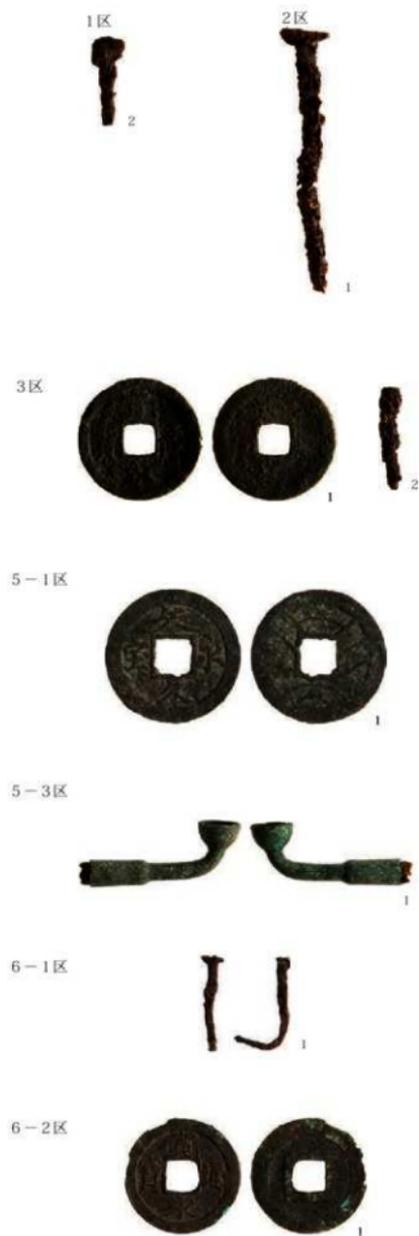
6-5区



遺構外石製品  
6-4区



遺構外金属製品



遺構外出土遺物(石製品)

遺構外出土遺物(金属製品)

# 報 告 書 抄 録

書名ふりがな	ふくしましもまち・やしきしたいせき
書 名	福島下町・屋敷下遺跡
副 書 名	社会資本整備(防災・安全)(交安・重点)(国)254号(福島西工区)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	一
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	713
編 著 者 名	鈴木佑太郎
編 集 機 関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発 行 機 関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20221122
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住 所	群馬県渋川市北碓町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ふくしましもまち・やしきしたいせき
遺 跡 名	福島下町・屋敷下遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんかんらぐんかんらまちふくしまあざしもまち・あざやしきた
遺 跡 所 在 地	群馬県甘楽郡甘楽町福島字下町・字屋敷下
市町村コード	103845
遺 跡 番 号	0079
北緯(世界測地系)	36.254302
東経(世界測地系)	138.929294
調 査 期 間	1次調査:20200501-20200630 2次調査:20210901-20211031
調 査 面 積	2,873,770
調 査 原 因	道路建設
種 別	集落、包蔵地
主 な 時 代	縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世、近世、近代
遺 跡 概 要	縄文時代:遺構外出土遺物(土器、石器)、弥生時代:竪穴建物8棟、竪穴状遺構2基、土坑1基、倒木2基、遺構外、古墳時代~平安時代:竪穴建物2棟、土坑1基、ピット7基、遺構外、中世以降:導水管1条、溝8条、柱穴列1列、土坑86基、ピット67基、遺構外
特 記 事 項	弥生時代後期から古墳時代前期までの竪穴建物と下仁田街道「姫街道」の宿場「福嶋宿」の区割り溝を確認。
要 約	鑓川右岸の中位段丘面に立地する弥生時代後期から古墳時代前期までの竪穴建物群と江戸時代に形成された下仁田街道「姫街道」の宿場町として機能した「福嶋宿」の区割り溝を確認。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第713集

## 福島下町・屋敷下遺跡

社会資本整備事業(防災・安全)(交安・重点)(国)254号(福島西工区)  
事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

---

令和4(2022)年11月12日 印刷

令和4(2022)年11月22日 発行

編集・発行/公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

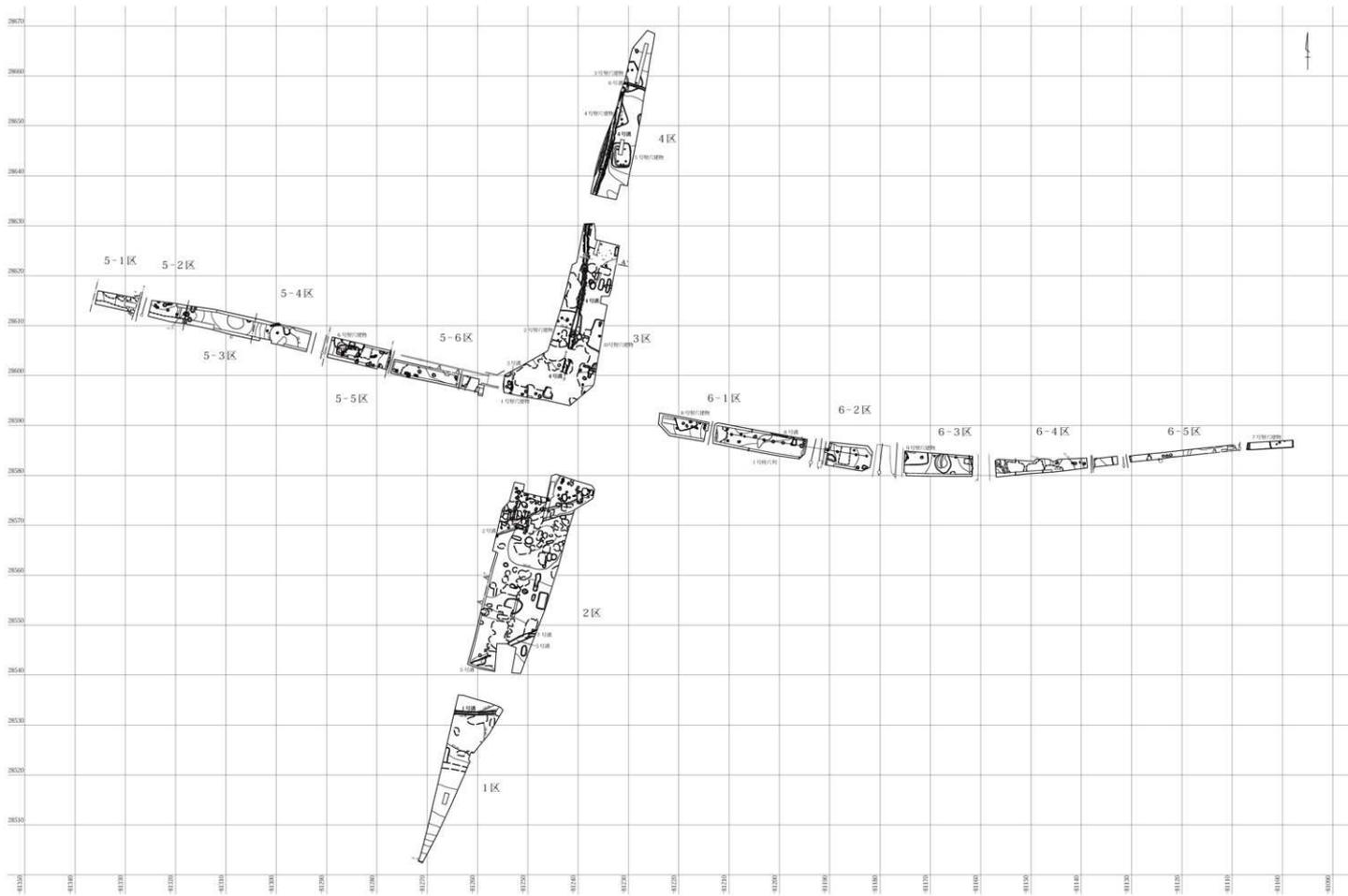
電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/杉浦印刷株式会社

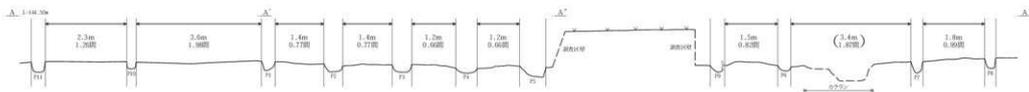
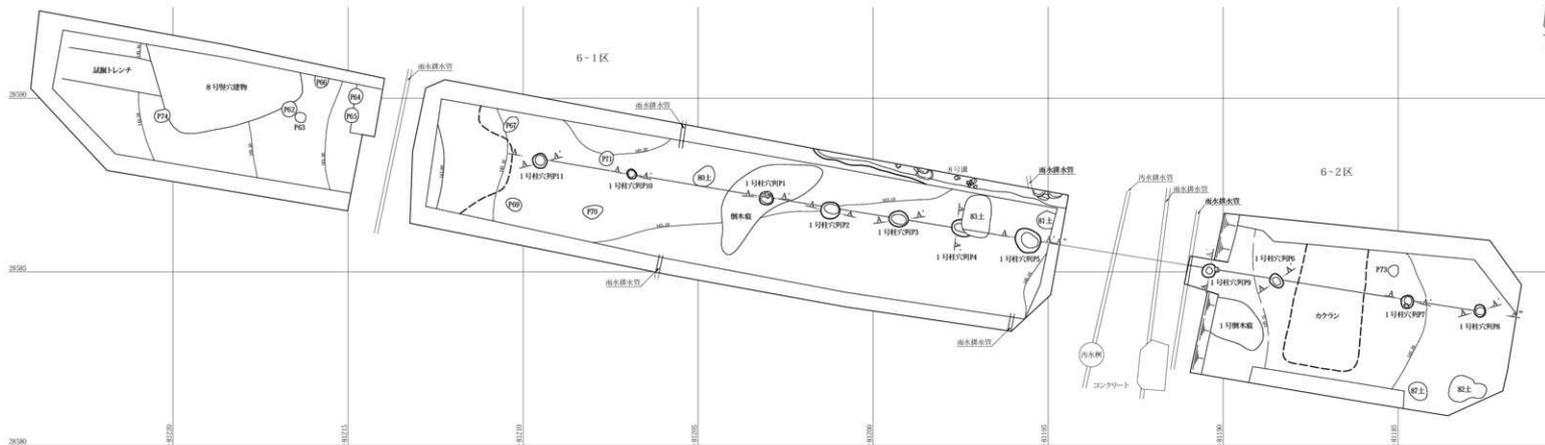
---





付図 全体図





P11  
A. 1+10.3m A.C.



1. 黒褐色土 ローム粒子含む、φ3～6mm 層 10% 下記に付くは黒褐色土の割合が多くなる。

P10  
A. 1+10.3m A.C.



1. 黒褐色土 ローム粒子含む、φ2～3mm  
ローム 5% φ10～30mm 層 10%



1. に近い黒褐色土 ローム土黒褐色土上の最上土。  
2. 黒褐色土 ローム粒子含む、φ10～20mm 層 10% 少し粘性あり。

P2  
A. 1+10.3m A.C.



1. 黒褐色土 ローム粒子含む、φ4～20mm 層 20% 少し粘性あり。

P3  
A. 1+10.3m A.C.



1. 黒褐色土 ローム粒子含む、φ4～20mm 層 30% 少し粘性あり。

P4  
A. 1+10.3m A.C.



1. 黒褐色土 ローム粒子含む、φ4～20mm 層 20% 少し粘性あり。

P5  
A. 1+10.3m A.C.



1. 黒褐色土 ローム粒子含む、φ4～20mm 層 20% 少し粘性あり。

P9  
A. 1+10.3m A.C.



1. 黒褐色土 ローム粒子含む、φ20～30mm 層 10% 半柱穴内側に凹みがあるが、中心から5～10mm 層にずれている。

P6  
A. 1+10.3m A.C.



1. 黒褐色土 ローム粒子含む、φ20～70mm 層 40% 土量あり。

P7  
A. 1+10.3m A.C.



1. 黒褐色土 ローム粒子含む、φ20～70mm 層 40% 土量あり。

P8  
A. 1+10.3m A.C.



1. 黒褐色土 ローム粒子含む、黒褐色土上ロームの最上土。  
2. 黒褐色土 ローム粒子含む、φ10～30mm 層 10% 土量あり。  
※断面の時に1のロームが侵入したと推定される。

付図 1号柱穴列

